

佐久大学信州短期大学部

2023年度
授業科目表・シラバス

学生ガイド2023 正誤表

正誤箇所		誤	正
P. 62	国家資格要件 (子ども福祉専攻 2023年度入学生)	※国家資格要件は 上記科目の他に、 「 <u>健康と生涯スポーツ</u> 」 を含む12単位以上	※国家資格要件は 上記科目の他に、 「 <u>健康と生涯スポーツⅠ</u> 」 「 <u>健康と生涯スポーツⅡ</u> 」 を含む12単位以上
P. 68	上級秘書士 (メディカル秘書) 選択科目単位数	2. 選択科目(必要な単位数を 履修すること) <u>11単位以上</u> (2020年度入学生： <u>12単位以上</u>)	2. 選択科目(必要な単位数を 履修すること) <u>13単位以上</u> (2020年度入学生： <u>14単位以上</u>)
P. 69	社会福祉主事任 用資格対象学生	< <u>2022・2021年度入学生</u> >	< <u>2021年度以降入学生</u> >

2023. 4. 1

〔授業科目表 介護福祉専攻 (2023年度入学生用) 教養科目〕

授業科目	年	授業科目名	単位	期別	ナバ リング	曜日 時限	担当者	卒業要件 単位数	国家試験受験資格 取得要件単位数	
教養科目	基礎教養	修学基礎Ⅰ	1	前期	101	火3	斎藤	●	「修学基礎Ⅰ」、 「修学基礎Ⅱ」、 「英語Ⅰ・英語Ⅱ」又は 「中国語Ⅰ・中国語Ⅱ」 のいずれか、 「コンピュータの基礎技術Ⅰ」、 「コンピュータの基礎技術Ⅱ」、 「ビジネスマナー」を含む 12単位以上	●
		修学基礎Ⅱ	1	後期	102	火3	斎藤	●		●
		英語Ⅰ	1	前期	111	木3	Mark	※●		※●
		英語Ⅱ	1	後期	112	木3	Mark	※●		※●
		英語Ⅲ	1	前期	113					
		英語Ⅳ	1	後期	114					
		中国語Ⅰ	1	前期	121	木3	廣橋	※●		※●
		中国語Ⅱ	1	後期	122	木3	朱	※●		※●
		中国語Ⅲ	1	前期	123					
		中国語Ⅳ	1	後期	124					
	一般教養	コンピュータの基礎技術Ⅰ [介]	1	前期	131	金2	三池	●	●	
		コンピュータの基礎技術Ⅱ [介]	1	後期	132	金2	三池	●	●	
		コンピュータの応用技術	1	前期	133					
		ビジネスマナー	1	前期	141			●	●	
		福祉工学	1	後期	151	水1	堀籠他			
		地域と文化	2	前期	152	水2	田澤			
		アクティビティ・ケア	1	前期	161					
		健康と生涯スポーツⅠ	1	前期	162	木4・5	朴			
		健康と生涯スポーツⅡ	1	後期	163	木4・5	朴			
		心理学	2	後期	164					
資格教養	日本語表現法	2	後期	165						
	福祉情報技術	2	後期	201				卒業要件単位に は加算されない	国家試験受験資格 取得要件単位には 加算されない	
	簿記会計	2	後期	202						
	秘書概論	2	前期	211						
	秘書実務	2	後期	212						
	メディカル秘書概論	2	前期	221						
	メディカル秘書実務	2	後期	222						

日本語 関連科目	1	日本語Ⅰ	1	前期	701				
		日本語Ⅱ	1	後期	702				
	2	日本語Ⅲ	1	前期	703				
		日本語Ⅳ	1	後期	704				
	1	日本事情Ⅰ	1	前期	751				
		日本事情Ⅱ	1	後期	752				

● 卒業要件と国家試験受験資格取得要件

介護 福祉専攻	区 分	必要単位数	
		卒業要件	国家試験受験資格取得要件
	教養科目	12単位以上 (必修7単位)	12単位以上 (必修7単位)
	専門科目	64単位以上 (必修42単位)	82単位以上 (必修76単位)
	計	76単位以上	94単位以上

● 卒業要件および国家試験受験資格要件履修モデル

＜教養科目＞

教養科目は基礎教養・一般教養・資格教養の3つに区分されています。

卒業要件を満たすためには、基礎教養科目のうち「修学基礎Ⅰ」と「修学基礎Ⅱ」、「英語Ⅰ」と「英語Ⅱ」又は「中国語Ⅰ」と「中国語Ⅱ」のいずれかと、「コンピュータの基礎技術Ⅰ」と「コンピュータ基礎技術Ⅱ」、及び「ビジネスマナー」を含む12単位以上を履修しなければなりません。ただし、資格教養科目は卒業要件に含まれないので注意してください。

＜専門科目＞

専門科目は、基幹・展開・発展・資格に区分し、次のとおり専攻課程ごとに規定される単位を修得する必要があります。

必修科目である基幹の8単位、展開の4単位、発展の30単位の計42単位を含む64単位以上を履修する必要があります。ただし、介護福祉士国家試験受験資格取得要件は別(p.62)に示しますので、参考にして下さい。

〔授業科目表 介護福祉専攻 (2023年度入学生用) 専門科目〕

授業科目		年	授業科目名	単位	期別	ナンバリング	曜日 時限	担当者	卒業要件 単位数	国家試験受験資格 取得要件単位数			
専門科目	基幹	1	人間の理解Ⅰ	2	前期	301	金 4	倉田	●	必修42単位 を含む 64単位以上	●		
			人間の理解Ⅱ	2	前期	302	水 3	根本	●		●		
			社会福祉概論	1	前期	311	金 3	内藤	●		●		
			高齢者福祉概論	1	前期	312	金 3	内藤	●		●		
			社会保障概論	1	後期	313	金 3	内藤	●		●		
			障害者福祉概論	1	後期	314	金 3	佐藤 ^調	●		●		
			保育原理	2	前期	321	月 4	平野					
			子ども家庭福祉	2	前期	322	火 4	尾島					
		2	ソーシャルワーク論	2	後期	351							
	展開	2	1 ヒューマンケア概論	2	前期	401	水 1	上西	●		必修42単位 を含む 64単位以上	△	
			2 多職種連携論	2	後期	451			●			△	
			1 福祉経営学	2	後期	402	水 1	廣橋				△	
			福祉ビジネス概論	2	前期	452						△	
			社会学	2	前期	453						△	
			社会保障各論	2	後期	454						△	
			生活文化	2	後期	455						△	
			足と健康	2	後期	456						△	
			国際福祉論	2	後期	457						△	
			インターンシップ	1	前期	461						△	
		福祉ボランティア	1	前期	462								
	発展	1	介護の基本Ⅰ	-1 -2	4	前期	501	木 1 木 2	関口			●	●
			介護の基本Ⅱ	-1 -2	4	後期	502	木 1 木 2	菊池			●	●
		2	介護の基本Ⅲ	2	前期	551			●			●	
			介護の基本Ⅳ	2	後期	552			●			●	
		1	コミュニケーション技術Ⅰ	1	前期	511	月 3	佐藤 ^志	●			●	
			コミュニケーション技術Ⅱ	1	後期	512	金 4	唐澤	●			●	
			発達と老化の理解Ⅰ	2	前期	513	月 4	倉田	●			●	
			発達と老化の理解Ⅱ	2	前期	514	金 1	唐澤	●			●	
			認知症の理解Ⅰ	2	前期	515	火 4	菊池	●			●	
			認知症の理解Ⅱ	2	後期	516	月 3	菊池	●			●	
			こころとからだのしくみⅠ	-1 -2	4	前期	517	火 1 火 2	唐澤 ^他			●	●
			こころとからだのしくみⅡ	-1 -2	4	後期	518	火 1 火 2	唐澤			●	●
			生活支援技術Ⅰ	-1 -2	1	前期	521	月 1 月 2	関口 ^他				●
			生活支援技術Ⅱ	-1 -2	1	後期	522	月 1 月 2	関口 ^他				●
		生活支援技術Ⅲ	1	後期	523	火 4	関口 ^他		●				
		2	生活支援技術Ⅳ	2	前期	571						●	
		1	障害の理解Ⅰ	2	後期	525	金 1	菊池 ^他				●	
		2	障害の理解Ⅱ	2	前期	561						●	
		資格	2	生活支援技術Ⅴ	1	前期	672						●
				生活支援技術Ⅵ	1	前期	673						●
				生活支援技術Ⅶ	1	前期	674						●
	1		介護過程Ⅰ	-1 -2	2	後期	601	水 3 水 4	永野				●
			2	介護過程Ⅱ	1	前期	651						●
	介護過程Ⅲ		1	後期	652							●	
	1		介護総合演習Ⅰ	1	前期	611	水 4	唐澤 ^他				●	
			介護総合演習Ⅱ	1	後期	612	月 4	永野 ^他				●	
	2		介護総合演習Ⅲ	1	前期	661						●	
			介護総合演習Ⅳ	1	後期	662						●	
	1		介護実習Ⅰ	1	前期	613	集中	唐澤 ^他				●	
			介護実習Ⅱ	2	後期	614	集中	永野 ^他				●	
	2		介護実習Ⅲ	3	前期	663						●	
			介護実習Ⅳ	4	後期	664						●	
	1		医療的ケアⅠ	1	後期	621	水 2	宮入				●	
			医療的ケアⅡ	2	前期	675						●	
			医療的ケアⅢ	2	前期	676						●	
			医療的ケア演習	1	後期	677						●	
計									76単位以上	94単位以上			

※ 1年次に指定された専門科目の取得単位が40単位未満の場合は進級できないことがある。

※ ●は必修、△は国試選択必修科目

〔授業科目表 介護福祉専攻 (2022年度入学生用) 教養科目〕

授業科目	年	授業科目名	単位	期別	ナンバリング	曜日 時限	担当者	卒業要件 単位数	国家試験受験資格 取得要件単位数
教養科目	基礎教養	修学基礎Ⅰ	1	前期	101			●	●
		修学基礎Ⅱ	1	後期	102			●	●
		英語Ⅰ	1	前期	111			※●	※●
		英語Ⅱ	1	後期	112			※●	※●
		英語Ⅲ	1	前期	113	木2	Mark		
		英語Ⅳ	1	後期	114	木2	Mark		
		中国語Ⅰ	1	前期	121			※●	※●
		中国語Ⅱ	1	後期	122			※●	※●
		中国語Ⅲ	1	前期	123	木2	朱		
		中国語Ⅳ	1	後期	124	木2	朱		
	一般教養	コンピュータの基礎技術Ⅰ	1	前期	131			●	●
		コンピュータの基礎技術Ⅱ	1	後期	132			●	●
		コンピュータの応用技術	1	前期	133	月2	三池		
		ビジネスマナー	1	前期	141	金1	斎藤	●	●
		福祉工学	1	後期	151				
		地域と文化	2	前期	152				
		アクティビティ・ケア	1	前期	161	月1	齊藤日		
		健康と生涯スポーツ	2	通年	162	木4・5	朴		
		心理学	2	後期	163	木1	倉田		
		日本語表現法	2	後期	164	木1	斎藤		
資格教養	2	福祉情報技術	2	後期	201	木2	三池	卒業要件単位には加算されない	国家試験受験資格取得要件単位には加算されない
		簿記会計	2	後期	202	火2	土屋		
		秘書概論	2	前期	211	月3	斎藤		
		秘書実務	2	後期	212	月2	斎藤		
		メディカル秘書概論	2	前期	221	木2	油井		
		メディカル秘書実務Ⅰ	2	後期	222	火2	厚生連		
		メディカル秘書実務Ⅱ		休講					

日本語 関連科目	1	日本語Ⅰ	1	前期	701			
		日本語Ⅱ	1	後期	702			
	2	日本語Ⅲ	1	前期	703			
		日本語Ⅳ	1	後期	704			
	1	日本事情Ⅰ	1	前期	751			
		日本事情Ⅱ	1	後期	752			

● 卒業要件と国家試験受験資格取得要件

介護 福祉専攻	区 分	必要単位数	
		卒業要件	国家試験受験資格取得要件
	教養科目	12単位以上（必修7単位）	12単位以上（必修7単位）
	専門科目	64単位以上（必修42単位）	82単位以上（必修76単位）
	計	76単位以上	94単位以上

● 卒業要件および国家試験受験資格要件履修モデル

＜教養科目＞

教養科目は基礎教養・一般教養・資格教養の3つに区分されています。

卒業要件を満たすためには、基礎教養科目のうち「修学基礎Ⅰ」と「修学基礎Ⅱ」、「英語Ⅰ」と「英語Ⅱ」又は「中国語Ⅰ」と「中国語Ⅱ」のいずれかと、「コンピュータの基礎技術Ⅰ」と「コンピュータ基礎技術Ⅱ」、及び「ビジネスマナー」を含む12単位以上を履修しなければなりません。ただし、資格教養科目は卒業要件に含まれないので注意してください。

＜専門科目＞

専門科目は、基幹・展開・発展・資格に区分し、次のとおり専攻課程ごとに規定される単位を修得する必要があります。

必修科目である基幹の8単位、展開の4単位、発展の30単位の計42単位を含む64単位以上を履修する必要があります。ただし、介護福祉士国家試験受験資格取得要件は別（p.66）に示しますので、参考にして下さい。

〔授業科目表 介護福祉専攻 (2022年度入学生用) 専門科目〕

授業科目	年	授業科目名	単位	期別	ナンバリング	曜日 時限	担当者	卒業要件 単位数	国家試験受験資格 取得要件単位数
専門科目	基幹	人間の理解Ⅰ	2	前期	301			●	●
		人間の理解Ⅱ	2	前期	302			●	
		社会福祉概論	1	前期	311			●	
		高齢者福祉概論	1	前期	312			●	
		社会保障概論	1	後期	313			●	
		障害者福祉概論	1	後期	314			●	
		保育原理	2	前期	321				
		子ども家庭福祉	2	前期	322				
		ソーシャルワーク論	2	後期	351	火 1	尾島		
	展開	1 ヒューマンケア概論	2	前期	401			●	必修42単位を含む 64単位以上
		2 多職種連携論	2	後期	451	水 3	菊池他	●	
		1 福祉経営学	2	後期	402				
		福祉ビジネス概論	2	前期	452	月 2	廣橋		
		社会学	2	前期	453	金 4	内藤		
		社会保障各論	2	後期	454	金 4	内藤		
		生活文化	2	後期	455	金 2	宮本		
		足と健康	2	後期	456	金 2	坂江		
		国際福祉論	2	後期	457	火 3	廣橋他		
		インターンシップ	1	前期	461	集中	斎藤		
		福祉ボランティア	1	前期	462	集中/木 4	三池他		
	発展	1 介護の基本Ⅰ	4	前期	501			●	必修76単位と 選択必修6単位※を含む 82単位以上
		介護の基本Ⅱ	4	後期	502			●	
		2 介護の基本Ⅲ	2	前期	551	木 3	永野	●	
		介護の基本Ⅳ	2	後期	552	金 3	永野	●	
		コミュニケーション技術Ⅰ	1	前期	511			●	
		コミュニケーション技術Ⅱ	1	後期	512			●	
		発達と老化の理解Ⅰ	2	前期	513			●	
		発達と老化の理解Ⅱ	2	前期	514			●	
		認知症の理解Ⅰ	2	前期	515			●	
		認知症の理解Ⅱ	2	後期	516			●	
	資格	1 こころとからだのしくみⅠ	4	前期	517			●	※選択必修 △から6単位以上 (但し△※は卒業要件)
		こころとからだのしくみⅡ	4	後期	518			●	
		生活支援技術Ⅰ	1	前期	521			●	
		生活支援技術Ⅱ	1	後期	522			●	
		生活支援技術Ⅲ	1	後期	523			●	
		2 生活支援技術Ⅳ	-1 -2	2 前期	571	火 1 火 2	関口他		
		1 障害の理解Ⅰ	2	後期	525			●	
		2 障害の理解Ⅱ	2	前期	561	木 1	依田他	●	
		生活支援技術Ⅴ	1	前期	672	金 3	菊池他	●	
		2 生活支援技術Ⅵ	1	前期	673	水 4	宮本	●	
	資格	生活支援技術Ⅶ	1	前期	674	金 2	菊池他	●	計 76単位以上
		1 介護過程Ⅰ	2	後期	601			●	
		2 介護過程Ⅱ	-1 -2	1 前期	651	水 1 水 2	永野	●	
		介護過程Ⅲ	1	後期	652	水 1	永野	●	
		1 介護総合演習Ⅰ	1	前期	611			●	
		介護総合演習Ⅱ	1	後期	612			●	
		2 介護総合演習Ⅲ	1	前期	661	水 3	菊池他	●	
		介護総合演習Ⅳ	1	後期	662	水 2	関口他	●	
		1 介護実習Ⅰ	1	前期	613			●	
		介護実習Ⅱ	2	後期	614			●	
	資格	2 介護実習Ⅲ	3	前期	663	集中	菊池他	●	計 94単位以上
		介護実習Ⅳ	4	後期	664	集中	関口他	●	
		1 医療的ケアⅠ	1	後期	621			●	
		医療的ケアⅡ	-1 -2	2 前期	675	火 3 火 4	宮入	●	
		医療的ケアⅢ	-1 -2	2 前期	676	火 3 火 4	宮入	●	
		医療的ケア演習	1	後期	677	集中	宮入他	●	

※ 1年次に指定された専門科目の取得単位が40単位未満の場合は進級できないことがある。

※ ●は必修、△は国試選択必修科目

〔授業科目表 子ども福祉専攻 (2023年度入学生用) 教養科目〕

授業科目	年	授業科目名	単位	期別	カンパ リング	曜日 時限	担当者	卒業要件 単位数	国家資格要件 単位数
教養科目	基礎 教養	修学基礎Ⅰ	1	前期	101	火3	斎藤	●	●
		修学基礎Ⅱ	1	後期	102	火3	斎藤	●	●
		英語Ⅰ	1	前期	111	木3	Mark	※●	※●
		英語Ⅱ	1	後期	112	木3	Mark	※●	※●
		英語Ⅲ	1	前期	113				
		英語Ⅳ	1	後期	114				
		中国語Ⅰ	1	前期	121	木3	廣橋	※●	※●
		中国語Ⅱ	1	後期	122	木3	朱	※●	※●
		中国語Ⅲ	1	前期	123				
		中国語Ⅳ	1	後期	124				
	一般 教養	コンピュータの基礎技術Ⅰ [子]	1	前期	131	水4	三池	●	●
		コンピュータの基礎技術Ⅱ [子]	1	後期	132	水3	三池	●	●
		コンピュータの応用技術	1	前期	133				
		ビジネスマナー	1	前期	141			●	●
		福祉工学	1	後期	151	水1	堀籠他	※	
		地域と文化	2	前期	152	水2	田澤		
		アクティビティ・ケア	1	前期	161				
		健康と生涯スポーツⅠ	1	前期	162	木4・5	朴		●
		健康と生涯スポーツⅡ	1	後期	163	木4・5	朴		●
		心理学	2	後期	164				
資格 教養	2	日本語表現法	2	後期	165				
		福祉情報技術	2	後期	201				
		簿記会計	2	後期	202				
		秘書概論	2	前期	211				
		秘書実務	2	後期	212				
		メディカル秘書概論	2	前期	221				
		メディカル秘書実務	2	後期	222				
								卒業要件単位に は加算されない	国家資格要件単位 には加算されない
日本語 関連科目	1	日本語Ⅰ	1	前期	701				
		日本語Ⅱ	1	後期	702				
	2	日本語Ⅲ	1	前期	703				
		日本語Ⅳ	1	後期	704				
	1	日本事情Ⅰ	1	前期	751				
		日本事情Ⅱ	1	後期	752				

● 卒業要件と国家試験受験資格取得要件

子ども 福祉専攻	区 分	必要単位数	
		卒業要件	国家試験受験資格取得要件
	教養科目	12単位以上 (必修7単位)	12単位以上 (必修9単位)
	専門科目	64単位以上 (必修33単位)	71単位以上 (必修53単位)
	計	76単位以上	83単位以上

● 卒業要件および国家試験受験資格要件履修モデル

＜教養科目＞

教養科目は基礎教養・一般教養・資格教養の3つに区分されています。

卒業要件を満たすためには、基礎教養科目のうち「修学基礎Ⅰ」と「修学基礎Ⅱ」、「英語Ⅰ」と「英語Ⅱ」又は「中国語Ⅰ」と「中国語Ⅱ」のいずれかと、「コンピュータの基礎技術Ⅰ」と「コンピュータ基礎技術Ⅱ」、及び「ビジネスマナー」を含む12単位以上を履修しなければなりません。

ただし、資格教養科目は卒業要件に含まれないので注意してください。また、保育士資格取得には「健康と生涯スポーツ」も履修しなければなりません。

＜専門科目＞

専門科目は、基幹・展開・発展・資格に区分し、次のとおり専攻課程ごとに規定される単位を修得する必要があります。

必修科目である基幹の10単位、展開の4単位、発展の19単位の計33単位を含む64単位以上を履修する必要があります。ただし、保育士国家試験取得要件は別(p.67)に示しますので、参考にして下さい。

〔授業科目表 子ども福祉専攻 (2023年度入学生用) 専門科目〕

授業科目		年	授業科目名	単位	期別	ナパ リク*	曜日 時限	担当者	卒業要件 単位数	国家資格要件 単位数			
専門科目	基幹	1	保育原理	2	前期	321	月 4	平野	●	必修33単位 を含む 64単位以上	●		
			子ども家庭福祉	2	前期	322	火 4	尾島	●		●		
			社会福祉概論	1	前期	311	金 3	内藤	●		●		
			高齢者福祉概論	1	前期	312	金 3	内藤	●		●		
			社会保障概論	1	後期	313	金 3	内藤	●		△ ₁		
			障害者福祉概論	1	後期	314	金 3	佐藤 ^調	●		△ ₁		
		2	ソーシャルワーク論	2	後期	351			●		△ ₁		
		1	人間の理解Ⅰ	2	前期	301	金 4	倉田					
			人間の理解Ⅱ	2	前期	302	水 3	根本					
		展開	1	ヒューマンケア概論	2	前期	401	水 1	上西		●	必修33単位 を含む 64単位以上	●
	多職種連携論			2	後期	451			●		△ ₁		
	2		福祉経営学	2	後期	402	水 1	廣橋				△ ₁	
			福祉ビジネス概論	2	前期	452						△ ₁	
			社会学	2	前期	453							
			社会保障各論	2	後期	454						※選択必修 △ ₁ から 15単位以上	
			生活文化	2	後期	455						△ ₁	
			足と健康	2	後期	456						△ ₁	
			国際福祉論	2	後期	457							
			インターンシップ	1	前期	461						△ ₂ から 2単位以上	
	福祉ボランティア	1	前期	462					△ ₃ から 1単位以上				
	発展	1	教育原理	2	後期	541	月 1	平野			必修33単位 を含む 64単位以上	●	
			子どもの保健Ⅰ	2	前期	531	金 2	小林	●			●	
			保育者論	2	前期	532	月 2	鷹野				●	
			保育の心理学	2	前期	533	月 3	倉田	●			●	
			子ども家庭支援の心理学	2	後期	542	水 2	尾島	●			●	
			子どもの理解と援助	1	後期	543	月 2	倉田	●			●	
		2	生活支援技術	1	前期	581			●			△ ₁	
			社会的養護Ⅰ	2	後期	544	月 4	倉田	●			●	
		1	子どもの健康と安全	1	後期	534	金 2	松木 ^他	●			●	
			保育内容総論	1	前期	535	月 1	平野				●	
		2	子ども家庭支援論	2	前期	582			●			●	
			社会的養護Ⅱ	1	後期	591			●			●	
			障害児保育Ⅰ	1	前期	583			●			●	
			障害児保育Ⅱ	1	後期	592			●			●	
			1	子どもの食と栄養Ⅰ	1	後期	545	月 3	宮本			●	●
			2	子どもの食と栄養Ⅱ	1	前期	584					●	●
		資格	1	子育て支援	1	後期	546	水 4	尾島 ^他			●	●
				保育の計画と評価	2	前期	631	火 2	松木				●
	保育内容演習（健康）			1	後期	641	金 1	平野			●		
	2		保育内容演習（人間関係）	1	後期	661					●		
			保育内容演習（環境）	1	前期	651					●		
			保育内容演習（言葉）	1	後期	662					●		
	1		保育内容演習（表現）	1	前期	652					●		
			保育内容の理解と方法 （音楽表現Ⅰ）	A B 1	前期	632	木 1 木 2	原			●		
			保育内容の理解と方法 （音楽表現Ⅱ）	A B 1	後期	642	木 1 木 2	原			●		
			保育内容の理解と方法 （児童文化Ⅰ）	A B 1	前期	633	木 2 木 1	松木			●		
			保育内容の理解と方法 （児童文化Ⅱ）	A B 1	後期	643	木 2 木 1	松木			●		
			乳児保育Ⅰ	2	後期	644	火 2	清水			●		
			乳児保育Ⅱ	1	前期	653					●		
			子どもの保健Ⅱ	2	前期	654					△ ₁		
	2	保育内容の理解と方法（音楽表現Ⅲ）	1	前期	655				△ ₁				
		保育内容の理解と方法（音楽表現Ⅳ）	1	後期	663				△ ₁				
		保育内容の理解と方法（造形表現）	1	後期	664				△ ₁				
	2	保育所実習Ⅰ	2	後期	691	集中	平野 ^他		●				
		福祉施設実習Ⅰ	2	前期	693				●				
		保育所実習指導Ⅰ	1	後期	692	金 4	平野 ^他		●				
		福祉施設実習指導Ⅰ	1	前期	694				●				
		保育実践演習Ⅰ	1	前期	656				●				
		保育実践演習Ⅱ	1	後期	665				●				
		保育所実習Ⅱ	2	前期	695				△ ₂				
		福祉施設実習Ⅱ	2	前期	696				△ ₂				
		保育所実習指導Ⅱ	1	前期	697				△ ₃				
		福祉施設実習指導Ⅱ	1	前期	698				△ ₃				
計									7 6 単位以上	8 3 単位以上			

※ ●は必修、△は国試選択必修科目

〔授業科目表 子ども福祉専攻（2022年度入学生用） 教養科目〕

授業科目	年	授業科目名	単位	期別	ナンバリング	曜日 時限	担当者	卒業要件 単位数	国家資格要件 単位数
教養科目	基礎教養	修学基礎Ⅰ	1	前期	101			●	●
		修学基礎Ⅱ	1	後期	102			●	●
		英語Ⅰ	1	前期	111			※●	※●
		英語Ⅱ	1	後期	112			※●	※●
		英語Ⅲ	1	前期	113	木2	Mark		
		英語Ⅳ	1	後期	114	木2	Mark		
		中国語Ⅰ	1	前期	121			※●	※●
		中国語Ⅱ	1	後期	122			※●	※●
		中国語Ⅲ	1	前期	123	木2	朱		
		中国語Ⅳ	1	後期	124	木2	朱		
	一般教養	コンピュータの基礎技術Ⅰ	1	前期	131			●	●
		コンピュータの基礎技術Ⅱ	1	後期	132			●	●
		コンピュータの応用技術	1	前期	133	月2	三池		
		ビジネスマナー	1	前期	141	金1	斎藤	●	●
		福祉工学	1	後期	151				
		地域と文化	2	前期	152				
		アクティビティ・ケア	1	前期	161	月1	齊藤		
		健康と生涯スポーツ	2	通年	162	木4 木5	朴		●
		心理学	2	後期	163	木1	倉田		
		日本語表現法	2	後期	164	木1	斎藤		
資格教養	2	福祉情報技術	2	後期	201	木2	三池	卒業要件単位には加算されない	国家資格要件単位には加算されない
		簿記会計	2	後期	202	火2	土屋		
		秘書概論	2	前期	211	月3	斎藤		
		秘書実務	2	後期	212	月2	斎藤		
		メディカル秘書概論	2	前期	221	木2	油井		
		メディカル秘書実務Ⅰ	2	後期	222	火2	厚生連		
		メディカル秘書実務Ⅱ		休講					

日本語 関連科目	1	日本語Ⅰ	1	前期	701				
		日本語Ⅱ	1	後期	702				
	2	日本語Ⅲ	1	前期	703				
		日本語Ⅳ	1	後期	704				
	1	日本事情Ⅰ	1	前期	751				
		日本事情Ⅱ	1	後期	752				

● 卒業要件と国家試験受験資格取得要件

子ども 福祉専攻	区 分	必要単位数	
		卒業要件	国家試験受験資格取得要件
	教養科目	12単位以上（必修7単位）	12単位以上（必修9単位）
	専門科目	64単位以上（必修33単位）	71単位以上（必修53単位）
	計	76単位以上	83単位以上

● 卒業要件および国家試験受験資格要件履修モデル

＜教養科目＞

教養科目は基礎教養・一般教養・資格教養の3つに区分されています。

卒業要件を満たすためには、基礎教養科目のうち「修学基礎Ⅰ」と「修学基礎Ⅱ」、「英語Ⅰ」と「英語Ⅱ」又は「中国語Ⅰ」と「中国語Ⅱ」のいずれかと、「コンピュータの基礎技術Ⅰ」と「コンピュータ基礎技術Ⅱ」、及び「ビジネスマナー」を含む12単位以上を履修しなければなりません。

ただし、資格教養科目は卒業要件に含まれないので注意してください。また、保育士資格取得には「健康と生涯スポーツ」も履修しなければなりません。

＜専門科目＞

専門科目は、基幹・展開・発展・資格に区分し、次のとおり専攻課程ごとに規定される単位を修得する必要があります。

必修科目である基幹の10単位、展開の4単位、発展の19単位の計33単位を含む64単位以上を履修する必要があります。ただし、保育士国家資格取得要件は別（p.67）に示しますので、参考にして下さい。

〔授業科目表 子ども福祉専攻 (2022年度入学生用) 専門科目〕

授業科目		年	授業科目名	単位	期別	ナンバリング	曜日 時限	担当者	卒業要件 単位数	国家資格要件 単位数		
専門科目	基幹	1	保育原理	2	前期	321			●	必修33単位を含む 64単位以上	●	
			子ども家庭福祉	2	前期	322			●		●	
			社会福祉概論	1	前期	311			●		●	
			高齢者福祉概論	1	前期	312			●		●	
			社会保障概論	1	後期	313			●		△ ₁	
			障害者福祉概論	1	後期	314			●		△ ₁	
	2	ソーシャルワーク論	2	後期	351	火 1	尾島	●	△ ₁			
		1	人間の理解Ⅰ	2	前期	301						
	人間の理解Ⅱ		2	前期	302							
	展開	1	ヒューマンケア概論	2	前期	401			●		必修53単位と 選択必修18単位*を含む 71単位以上	●
			多職種連携論	2	後期	451	水 3	菊池他	●			△ ₁
			福祉経営学	2	後期	402						△ ₁
		2	福祉ビジネス概論	2	前期	452	月 2	廣橋				△ ₁
			社会学	2	前期	453	金 4	内藤				
			社会保障各論	2	後期	454	金 4	内藤				※選択必修 △ ₁ から 15単位以上
			生活文化	2	後期	455	金 2	宮本				△ ₁
			足と健康	2	後期	456	金 2	坂江				△ ₁
			国際福祉論	2	後期	457	火 3	廣橋他				
			インターンシップ	1	前期	461	集中	斎藤		△ ₂ から 2単位以上		
			福祉ボランティア	1	前期	462	集中/木 4	三池他		△ ₃ から 1単位以上		
	発展	1	教育原理	2	前期	531			●	必修33単位を含む 64単位以上	●	
			子どもの保健Ⅰ	2	前期	532			●		●	
			保育者論	2	前期	533			●		●	
			保育の心理学	2	前期	534			●		●	
			子ども家庭支援の心理学	2	後期	541			●		●	
			子どもの理解と援助	1	後期	542			●		●	
		2	生活支援技術	1	前期	581	水 3	宮本	●		△ ₁	
			社会的養護Ⅰ	2	後期	543			●		●	
		1	子どもの健康と安全	1	後期	544			●		●	
			保育内容総論	1	後期	545			●		●	
		2	子ども家庭支援論	2	前期	582	火 3	尾島他	●		●	
			社会的養護Ⅱ	1	後期	591	水 2	野坂	●		●	
			障害児保育	2	通年	583	火 4	中島	●		●	
			子どもの食と栄養	2	通年	584	月 4	宮本	●		●	
	子育て支援		1	後期	546			●	●			
	資格		1	保育の計画と評価	2	前期	641			●		
	資格	1	保育内容演習（健康）	1	前期	681	木 1	平野		●		
			保育内容演習（人間関係）	1	後期	682	月 3	平野		●		
			2	保育内容演習（環境）	1	前期	683	火 1 土1・2	水野		●	
		1	保育内容演習（言葉）	1	後期	684	金 3	斎藤		●		
			保育内容演習（表現）	1	前期	685	水 4	島崎		●		
			保育内容の理解と方法Ⅰ	2	通年	631				●		
2		保育内容の理解と方法Ⅱ	2	通年	632				●			
		乳児保育Ⅰ	2	後期	642				●			
		乳児保育Ⅱ	1	前期	686	火 2	清水		●			
		子どもの保健Ⅱ	2	前期	687	水 2	鈴木		△ ₁			
		保育内容の理解と方法Ⅲ	2	通年	688	水 1	原		△ ₁			
		保育内容の理解と方法Ⅳ	1	後期	689	水 4	島崎		△ ₁			
2		保育所実習Ⅰ	2	後期	643				●			
		福祉施設実習Ⅰ	2	前期	691	集中	尾島他		●			
		1	保育所実習指導Ⅰ	1	後期	644			●			
		福祉施設実習指導Ⅰ	1	前期	692	火 1	尾島他		●			
		保育実践演習	2	通年	693	木 3	平野他		●			
		保育所実習Ⅱ	2	前期	694	集中	平野他		△ ₂			
	福祉施設実習Ⅱ	2	前期	695	集中	尾島他		△ ₂				
	保育所実習指導Ⅱ	1	前期	696	金 3	平野他		△ ₃				
	福祉施設実習指導Ⅱ	1	前期	697		尾島他		△ ₃				
	計									7 6 単位以上	8 3 単位以上	

※ ●は必修、△は国試選択必修科目

〔介護福祉士学校指定規則の分類による授業科目表〕

領域	教育内容	授業科目名（介護福祉士養成課程）	時間数	単位	必修/選択
人間と社会 (240)	人間の尊厳と自立(30)	人間の理解Ⅰ	30	2	必修
	人間関係とコミュニケーション(60)	人間の理解Ⅱ	30	2	必修
		多職種連携論	30	2	必修
	社会の理解(60)	社会福祉概論	15	1	必修
		高齢者福祉概論	15	1	必修
		社会保障概論	15	1	必修
		障害者福祉概論	15	1	必修
	人間と社会に関する選択科目(90)	ヒューマンケア概論	30	2	選択必修
		福祉経営学	30	2	選択必修
		社会学	30	2	選択必修
		社会保障各論	30	2	選択必修
		生活文化	30	2	選択必修
		足と健康	30	2	選択必修
		国際福祉論	30	2	選択必修
介護 (1260)	介護の基本(180)	介護の基本Ⅰ	60	4	必修
		介護の基本Ⅱ	60	4	必修
		介護の基本Ⅲ	30	2	必修
		介護の基本Ⅳ	30	2	必修
	コミュニケーション技術(60)	コミュニケーション技術Ⅰ	30	1	必修
		コミュニケーション技術Ⅱ	30	1	必修
	生活支援技術(300)	生活支援技術Ⅰ	60	1	必修
		生活支援技術Ⅱ	60	1	必修
		生活支援技術Ⅲ	30	1	必修
		生活支援技術Ⅳ	60	2	必修
		生活支援技術Ⅴ	30	1	必修
		生活支援技術Ⅵ	30	1	必修
		生活支援技術Ⅶ	30	1	必修
	介護過程(150)	介護過程Ⅰ	60	2	必修
		介護過程Ⅱ	60	1	必修
		介護過程Ⅲ	30	1	必修
	介護総合演習(120)	介護総合演習Ⅰ	30	1	必修
		介護総合演習Ⅱ	30	1	必修
		介護総合演習Ⅲ	30	1	必修
		介護総合演習Ⅳ	30	1	必修
	介護実習(450)	介護実習Ⅰ	450	1	必修
		介護実習Ⅱ		2	必修
		介護実習Ⅲ		3	必修
		介護実習Ⅳ		4	必修
こころとからだのしくみ (300)	発達と老化の理解(60)	発達と老化の理解Ⅰ	30	2	必修
		発達と老化の理解Ⅱ	30	2	必修
	認知症の理解(60)	認知症の理解Ⅰ	30	2	必修
		認知症の理解Ⅱ	30	2	必修
	障害の理解(60)	障害の理解Ⅰ	30	2	必修
		障害の理解Ⅱ	30	2	必修
	こころとからだのしくみ(120)	こころとからだのしくみⅠ	60	4	必修
		こころとからだのしくみⅡ	60	4	必修
医療的ケア (50)	医療的ケア	医療的ケアⅠ	10.5	1	必修
		医療的ケアⅡ	22.5	2	必修
		医療的ケアⅢ	22.5	2	必修
		医療的ケア演習	30	1	必修

【介護福祉士国家試験 受験資格取得要件（2021年度以降入学生）】

教養科目	12単位以上	必修7単位を含む
専門科目	82単位以上	必修76単位と選択必修6単位を含む
計	94単位以上	

〔指定保育士養成施設指定基準による授業科目表〕

系列	教科目	授業 形態	単位数	左に対応して開設 されている教科目	授業 形態	単位数			
						必修	選択	計	
告示による教科目				指定保育士養成施設における教科目の開設状況					
教養科目	外国語、体育以外の科目	不問	6以上	修学基礎Ⅰ	演習	1			
				修学基礎Ⅱ	演習	1			
				コンピュータの基礎技術Ⅰ	演習	1			
				コンピュータの基礎技術Ⅱ	演習	1			
				ビジネスマナー	演習	1			
				福祉工学	演習		1		
				地域と文化	講義		2		
				福祉経営学	講義		2		
				心理学	講義		2		
				社会学	講義		2		
	日本語表現法	講義		2					
	外国語	演習	2以上	英語Ⅰ	演習	※1			
				英語Ⅱ	演習	※1			
中国語Ⅰ				演習	※1				
体育	講義 実技	1 1	中国語Ⅱ	演習	※1				
			健康と生涯スポーツ	講義 実技	2				
合計		10単位以上		単位（≧10単位）			9	11	
告示別表1による教科目				指定保育士養成施設における教科目の開設状況					
保育の本質・目的に 関する科目	保育原理	講義	2	保育原理	講義	2		2	
	教育原理	講義	2	教育原理	講義	2		2	
	子ども家庭福祉	講義	2	子ども家庭福祉	講義	2		2	
	社会福祉	講義	2	社会福祉概論	講義	1		2	
	子ども家庭支援論	講義	2	高齢者福祉概論	講義	1			
	子ども家庭支援論	講義	2	子ども家庭支援論	講義	2		2	
	社会的養護Ⅰ	講義	2	社会的養護Ⅰ	講義	2		2	
保育の対象の理解に 関する科目	保育者論	講義	2	保育者論	講義	2		2	
	保育の心理学	講義	2	保育の心理学	講義	2		2	
	子ども家庭支援の心理学	講義	2	子ども家庭支援の心理学	講義	2		2	
	子どもの理解と援助	演習	1	子どもの理解と援助	演習	1		1	
	子どもの保健	講義	2	子どもの保健Ⅰ	講義	2		2	
	子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養	演習	2		2	
保育の内容・方法に 関する科目	保育の計画と評価	講義	2	保育の計画と評価	講義	2		2	
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	演習	1		1	
	保育内容演習	演習	5	保育内容演習（健康）	演習	1		5	
				保育内容演習（人間関係）	演習	1			
				保育内容演習（環境）	演習	1			
				保育内容演習（言葉）	演習	1			
				保育内容演習（表現）	演習	1			
	保育内容の理解と方法	演習	4	保育内容の理解と方法Ⅰ	演習	2		4	
				保育内容の理解と方法Ⅱ	演習	2			
	乳児保育Ⅰ	講義	2	乳児保育Ⅰ	講義	2		2	
	乳児保育Ⅱ	演習	1	乳児保育Ⅱ	演習	1		1	
	子どもの健康と安全	演習	1	子どもの健康と安全	演習	1		1	
	障害児保育	演習	2	障害児保育	演習	2		2	
社会的養護Ⅱ	演習	1	社会的養護Ⅱ	演習	1		1		
子育て支援	演習	1	子育て支援	演習	1		1		
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育所実習Ⅰ	実習	2		4	
				福祉施設実習Ⅰ	実習	2			
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育所実習指導Ⅰ	演習	1		2	
			福祉施設実習指導Ⅰ	演習	1				
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育実践演習	演習	2		2	
合計		51単位		単位（＝51単位）			51		51
告示別表2による教科目				指定保育士養成施設における教科目の開設状況					
保育の本質・目的に関する科目			15 単 位 以 上	福祉ビジネス概論	講義		2		
				ソーシャルワーク論	講義		2		
				国際福祉論	講義		2		
多職種連携論				講義		2			
社会保障概論				講義		1			
障害者福祉概論				講義		1			
子どもの保健Ⅱ				講義		2			
生活文化				講義		2			
保育内容の理解と方法Ⅲ				演習		2			
保育内容の理解と方法Ⅳ				演習		1			
保育の内容・方法に関する科目				生活支援技術	演習		1		
				保育実習Ⅱ又は 保育実習Ⅲ	実習		2		
				保育実習指導Ⅱ又は 保育実習指導Ⅲ	演習		1		
保育実習	実習	2	保育所実習Ⅱ	実習		2			
			福祉施設実習Ⅱ	実習					
保育実習指導Ⅱ又は 保育実習指導Ⅲ	演習	1	保育所実習指導Ⅱ	演習		1			
			福祉施設実習指導Ⅱ	演習					
合計		18単位以上		単位（≧18単位）					
告示別表2による教科目				指定保育士養成施設における教科目の開設状況					
保育士資格取得科目ではないが、 学校独自の科目として開設されている教科目				足と健康	講義		2		
				ヒューマンケア概論	講義	2			
				福祉ボランティア	演習		1		
合計				単位（≧18単位）			2	3	

【保育士国家試験 資格取得要件（2021年度以降入学生）】

教養科目	12単位以上	必修9単位を含む
専門科目	71単位以上	必修53単位と選択必修18単位を含む
計	83単位以上	

科目別シラバス

福祉学科

1年次生科目

介護福祉専攻・子ども福祉専攻

共通科目

教養科目

基礎教養科目

一般教養科目

資格教養科目

専門科目

基幹科目

展開科目

修学基礎Ⅰ

K101a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 教養科目
1 年

1単位 前期

火曜 3限

講義・演習

必修

科目ナンバリング101

斎藤 和幸

〔授業の概要〕

社会人及び職業人として必要な基礎教養を身につけるために、「読み・書き・聞く・話す・調べる」の日本語力と文章表現力、コミュニケーション能力を高める。また、大学での学び方を知ること、自ら課題を見つけ解決していく力をつけていく。

〔到達目標〕

(1)高校までに学んだ漢字の正しい読み、書きができる(2)基本的日本語の学習として、敬語、文法、語彙、表現の方法が理解できる(3)文章表現の基本が理解できる(4)大学での学び方が理解できる(5)コミュニケーションの取り方を養う(6)学びの道筋を理解し、課題と解決の経験を積む

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP1

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業オリエンテーション
シラバス及び授業内容の説明
漢字とことばの小テスト（高校までの学習の確認テスト）
- 第 2 回 テキスト Work1 自己紹介から始めよう
(1) 入学前学習の復習テスト① 漢字の読み-1
(2) テキスト Work1 自己紹介から始めよう
- 第 3 回 テキスト Work2 大学生になるとは
(1) 入学前学習の復習テスト② 漢字の読み-2
(2) テキスト Work2 大学生になるとは
- 第 4 回 テキスト Work3 大学とはどんなところ
(1) 入学前学習の復習テスト③ 漢字の書き-1
(2) テキスト Work3 大学とはどんなところ
- 第 5 回 テキスト Work4 大学・学部・学科とは
入学前学習の復習テスト④ 漢字の書き-2
(1) テキスト Work4 大学・学部・学科について知る
(2) 日本語の基本 敬語①敬語の必要性和敬語の種類
- 第 6 回 図書館利用ガイダンス
図書館の利用の仕方から読みたい本や資料の探し方について説明
- 第 7 回 テキスト Work5 大学の教員と職員
(1) テキスト Work5 大学の教員や職員の仕事について知る
(2) 日本語の基本 敬語②尊敬語・謙譲語
- 第 8 回 テキスト Work6 キャリアをデザインする

- (1) テキスト Work6 キャリアをデザインする
(2) 日本語の基本 小テスト1 / 敬語③状況に合わせた敬語の使い方

- 第 9 回 テキスト Work7 大学生生活をデザインする
(1) Work7 大学生生活をデザインする
(2) 日本語の基本 敬語④誤った敬語の使い方 / 教養学習 県庁所在地
- 第 10 回 テキスト Work8 大学の授業について知る
(1) Work8 大学の授業について知る
(2) 日本語の基本 敬語⑤誤った敬語の使い方、さまざまな敬意表現
- 第 11 回 テキスト Work9 大学生生活のリスク
(1) Work9 大学生生活のリスクやトラブルについて考える
(2) 日本語の基本 小テスト2 / 漢字書き取りグループワーク
- 第 12 回 テキスト Work10 定期試験をのりきる
(1) Work10 定期試験をのりきろう（試験の形式と対策）/ レポートの書き方
(2) 日本語の基本-文法 用言の活用と接続①
- 第 13 回 日本語学習1（高校までの学習の振り返り）
(1) 日本語の基本-文法 用言の活用と接続②
(2) 日本語の基本-文法 可能動詞・受身・使役
- 第 14 回 日本語学習2（高校までの学習の振り返り）
(1) 日本語の基本-文法 小テスト3
(2) 日本語の基本-語彙 類義語・対義語・慣用語・ことわざ・故事成語
- 第 15 回 日本語の基本-文法・語彙の復習
敬語・用言の活用・可能動詞と可能の言い方・使役表現

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「スタディスキルズ・トレーニング」改訂版 実教出版（修学基礎Ⅰ・Ⅱ 共通）
その他、プリント教材を使用

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[50%]，小テスト[30%]，課題提出[20%]

※小テスト、課題は毎回コメントをつけて返却するので要点を復習すること。

〔授業時間外学修〕

事前にテキスト内容を読み、授業後は文法問題などを復習すること。そのために前後1時間程度の自学時間を確保すること。

〔オフィスアワー〕

平日の昼休憩時は原則可能。その他「オフィスアワー」表示のある時は可能。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

授業時間に問題が解決できないときは、オフィスアワーを利用して研究室を訪問すること。

修学基礎Ⅱ

K103a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 教養科目

1 年

1 単位 後期

火曜 3 限

講義・演習

必修

科目ナンバリング102

斎藤 和幸

〔授業の概要〕

社会人及び職業人として必要な基礎教養をさらに高め、コミュニケーションスキルを活用して学業生活に必要な基本的なスキルを身に着ける。口頭表現、文章表現を養い、レポートの書き方を学ぶ。また、個人で考えるだけではなく、グループワークを重ねてチームワークを学ぶ。

〔到達目標〕

(1)個人の学びとグループでの学習の仕方が理解できる (2)口頭表現、文章表現の基礎が理解できる (3)資料の探し方や調べ方が理解できる (4)レジュメやレポートの書き方が理解できる (5)グループ学習の成果発表、プレゼンテーションの方法が理解できる

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 1

〔授業計画〕

第 1 回 授業オリエンテーション

- (1)後期授業の進め方とシラバス解説・学習例
- (2)前期学習振り返り、定期試験問題の解答解説

第 2 回 テキスト Work11 アクティブラーニング

- (1)Work11アクティブラーニングをやってみる
- グループ学習の方法やメリットを理解する

第 3 回 テキスト Work12 トピックを見つける

- (1)Work12テーマからトピックを取り出そう
- (2)グループ学習 新聞記事からトピックを見つけグループ提言する

第 4 回 テキスト Work13 図書館で資料を探す

- 図書館利用ガイダンス2：図書館で資料探そう
- (1)図書館の本の並びを理解し、本や資料・雑誌、論文など参考文献を探す
- (2)著作権と剽窃について理解する

第 5 回 テキスト Work14 インターネット情報

- (1)Work14インターネット情報のメリットとデメリット・著作権
- (2)日本語の基本 文のねじれ：主語・述語を正しくとらえる（グループ学習）

第 6 回 テキスト Work15 本を手にして読む

- Work15本を手にして読む グループ学習：借りてきた本の内容を読み取る

第 7 回 テキスト Work16・17 図解・表・グラフ

- (1)Work16図解のメリット、Work17表・グラフの特徴を理解する
- (2)グループ学習：表を作成する / 小テスト1（日本語の基本等）

第 8 回 前半学習の振り返り

- (1)新聞記事を読んで内容を理解する：グループ学習

- (2)日本語の基本 ①接続語 ②助詞 新聞記事から接続語と助詞をさがす

第 9 回 テキスト Work18 議論の方法を知ろう

- (1)Work18 議論の方法を理解する：ディスカッションの目的と主張の根拠

- (2)日本語の基本 前回文法学習の復習と③助動詞

第 10 回 テキスト Work19 レポート文章の特徴

- (1)Work19 レポート文章の特徴を理解する：レポートとその他の文章の違い

- (2)演習：主張・根拠・論拠を述べる

第 11 回 テキスト Work20 レジュメの作成

- (1)小テスト2（日本語の基本等）

- (2)Work20 レジュメを作成する：基本項目と主要項目を理解する

第 12 回 テキスト Work21 レポートの基本

- (1)Work21 レポートの構成と内容、形を理解する
- (2)グループ学習：グループレポート作成のための題材、分担を決める

第 13 回 テキスト Work22 レポートを完成させる

- (1)グループレポート作成状況の確認と相互の整合性のチェック（グループ）

- (2)発表用（プレゼン）資料の作成-レジュメ又はパワーポイント

第 14 回 グループレポート発表資料作成

- (1)グループレポートの完成と発表資料（レジュメ等）の仕上げ

- (2)発表の分担と準備

第 15 回 グループ発表

- グループレポートの発表（専攻ごとに分けて実施する予定）

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「スタディスキルズ・トレーニング」改訂版 実教出版（修学基礎Ⅰ・Ⅱ 共通）

その他、プリント教材を使用

〔成績評価の方法・基準〕

小テスト[20%]，課題提出[30%]，発表・レポート[50%] ※小テスト、課題は毎回コメントをつけて返却するので復習すること。

〔授業時間外学修〕

事前にテキスト内容を読み、授業後は文章の問題点を整理して課題を提出すること。課題提出には時間外のグループ学習も要する場合がある。そのために前後1時間程度の自学時間を確保すること。

〔オフィスアワー〕

平日の昼休憩時は原則可能。その他「オフィスアワー」表示のある時は可能。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

授業時間に問題が解決できないときは、オフィスアワーを利用して研究室を訪問すること。

英語 I

K105a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 教養科目
1 年
1 単位 前期
木曜 3 限
講義・演習
選択必修
科目ナンバリング111

Mark Cox

〔授業の概要〕

自分から積極的に英語でコミュニケーションを図れるようになることを目指しましょう。もう一度学び直しをしようとしている学生、もっと英語の力を身につけたいと考えている学生にも応えていきます。

〔到達目標〕

1. 英語で簡単な応答から始めて、“How are you, today?” “Fine, thank you and you?” から一歩進めてもっと積極的に英会話に参加できるようになる。 2. 学習したことを活用し自己表現が出来るようにスキルを身につけることができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 1

〔授業計画〕

第 1 回 “Unit 1. Hello!”

第 2 回 ”

第 3 回 ”

第 4 回 “Unit 2. Your world”

第 5 回 ”

第 6 回 ”

第 7 回 “Unit 3. All about you”

第 8 回 ”

第 9 回 ”

第10回 “Unit 4. Family and friends”

第11回 ”

第12回 ”

第13回 “Unit 5. Things I like”

第14回 ”

第15回 ”

- ・発音とか文法を気にすることなく積極的に授業に取り組みましょう。
- ・海外から本学を訪れる人とも臆することなくコミュニケーションが図れるようになることも目標の一つとなります。
- ・わからない箇所があれば担当者に質問しましょう。質問は大歓迎です。
- ・各Unitは 3 回の授業で学習します。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

「New Headway 5th Edition Beginner Student's Book」
Oxford （英語 I ・ II 共通）

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[50%]，授業態度（積極度）[50%]

※評価の詳細は最初の授業で説明します。

※試験等のフィードバックについては別途説明します。

〔授業時間外学修〕

授業で学んだことは授業外で繰り返し、繰り返し練習を 1 時間程度行い、身につけよう。

この練習が自然な英語スキル獲得につながります。

〔オフィスアワー〕

講師控室ドアに「オフィスアワー」の表示の時は、いつでも来て下さい。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

英語Ⅱ

K107a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 教養科目
1 年

1 単位 後期

木曜 3 限

講義・演習

選択必修

科目ナンバリング112

Mark Cox

〔授業の概要〕

英語Ⅰで学んだことの上に、自己表現する力を身につけることを目的にしていっそう深く英語の表現力を楽しく brush upしていきます。

〔到達目標〕

・共に学ぶ仲間とのコミュニケーションを抵抗なく英語でできるようになる。
・英語で自分の思いや、考えを他者に伝えられるようにスキルを向上させる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 1

〔授業計画〕

第1回 “Unit 6. Every day”

第2回 //

第3回 //

第4回 “Unit 7. Favorite things”

第5回 //

第6回 //

第7回 “Unit 8. Home sweet home”

第8回 //

第9回 //

第10回 “Unit 9. Toast times”

第11回 //

第12回 //

第13回 “Unit 10. We had a good time!”

第14回 //

第15回 //

- ・発音とか文法を気にすることなく積極的に授業に取り組みましょう。
- ・海外から本学を訪れる人とも臆することなくコミュニケーションが図れるようになることも目標の1つになります。
- ・わからない箇所があれば担当者に質問しましょう。質問は大歓迎です。
- ・各Unitは3回の授業で学習します。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

「New Headway 5th Edition Beginner Student's Book」
Oxford（英語Ⅰ・Ⅱ 共通）

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[50%]、授業態度（積極度等）[50%]

※評価の詳細は最初の授業で説明します。

※試験等のフィードバックについては別途説明します。

〔授業時間外学修〕

授業で学んだことは授業外で繰り返し、繰り返し練習を1時間程度行い、身につけよう。

この練習が自然な英語スキル獲得につながります。

〔オフィスアワー〕

講師控室ドアに「オフィスアワー」の表示の時は、いつでも来て下さい。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

中国語Ⅰ

K113a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 教養科目
1 年
1 単位 前期
木曜 3限
講義・演習
選択必修
科目ナンバリング121

廣橋 雅子

〔授業の概要〕

中国語の発音の特徴や、聞き取りのコツなどを楽しく学びます。時にはゲーム感覚で学び、時には中国の漢字を書いてみたりして、まずは中国語に慣れることを目的にします。

〔到達目標〕

中国語の発音の基礎知識がわかる。基本的な読み方（中国語発音ローマ字、声調、発音規則）や意味を理解し、簡単な語彙で初級学習者に適した会話（自己紹介、趣味）ができるようにする。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 1

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス(40分)
中国語の特徴及び発音の仕方を紹介。
- 第 2 回 単母音、声調
4つの声調や音に慣れること
- 第 3 回 子音、鼻音
歌うように流れをつかめば音を脳裏に焼き付けることができます
- 第 4 回 発音規則（よく使われる単語・数字）
いよいよ中国語の単語に触れる瞬間！数字ゲームを取り入れて覚えてしまおう。
- 第 5 回 覚えておきたい表現
・発音総復習
・簡単な単語
- 第 6 回 第1課 あいさつする
・新しい単語と文法の学習
・文字を書いてみる
- 第 7 回 第1課 あいさつする（会話演習）応用編
・小テスト（穴埋め、聞き取り、ピンイン）
・会話演習
- 第 8 回 第2課 名前を尋ねる
・新しい単語と文法の学習
・文字を書いてみる
- 第 9 回 第2課 名前を尋ねる（会話演習）応用編
・小テスト（穴埋め、聞き取り、ピンイン）
・会話演習
- 第 10 回 中国語でゲームをする（不能说日语）
・単語当てゲーム
・中国語「じゃんけんぽん、あっちむいてほい！」
- 第 11 回 第3課 食べたいものを尋ねる
・新しい単語と文法の学習
・文字を書いてみる

- 第 12 回 第3課 食べたいものを尋ねる（会話演習）応用編

- ・小テスト（穴埋め、聞き取り、ピンイン）
- ・会話演習：食べ物単語を集めて使ってみよう

- 第 13 回 第4課 近況を尋ねる

- ・新しい単語と文法の学習
- ・文字を書いてみる

- 第 14 回 第4課 近況を尋ねる（会話演習）応用編

- ・小テスト（穴埋め、聞き取り、ピンイン）
- ・会話演習

- 第 15 回 パソコンで中国語を打ってみよう！

- ・シャドーイングテスト（第1課～第4課のどれか）
- ・第1課～第4課までの内容をパソコンで文字起こし体験

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「できる・つたわるコミュニケーション中国語」白水社

〔成績評価の方法・基準〕

小テスト[40%]，宿題提出[40%]，シャドーイングテスト[10%]，自己学習記録[10%]

〔授業時間外学修〕

毎日の積み重ねが語学学習ではとても大事になります。

1日10分課題をこなすことを強く推奨します。

〔オフィスアワー〕

基本は、研究室に「在室」の表示があるとき。長い時間が必要な場合は事前に予約が必要になります。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

日中通訳歴20年以上、通訳講師、台湾華言文教師資格証あり。楽しく面白くがモットーなので、少しくらい発音ができなくても大丈夫です。

〔その他履修上の留意事項等〕

- ・B5サイズのノートを1冊必ず準備してください。
- ・授業内容は必要に応じて変更することがあります。
- ・クラスの規模、学生のレベルによって授業内容を変更することがあります。
- ・授業は楽しく参加してください。

中国語Ⅱ

K115a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 教養科目

1 年

1 単位 後期

木曜 3限

講義・演習

選択必修

科目ナンバリング122

朱 芸虹

〔授業の概要〕

中国語の発音や、四声に慣れ、基礎的な文法や日常的な表現等を学び、中国語の「読む、聴く、書く、話す」をバランスよく学習します。語学の学習とともに、中国文化についても触れるようにする予定。

〔到達目標〕

発音を重視しながら、簡単な日常会話を中心に反復練習することによって、聴力、簡単な話す力を身につける。単語の読み方（ピンイン）を補助なく読むことができ、簡単な会話ができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 1

〔授業計画〕

- 第 1 回 自由会話（自己紹介）
時間外自習指導：復習 1 (テキストP. 28～29)
- 第 2 回 復習 1 （テキストP. 28～29）・友達を紹介
- 第 3 回 第5課（予定を尋ねる）
(テキストP. 30～33)
- 第 4 回 第5課（予定を尋ねる）
(テキストP. 30～33)
- 第 5 回 会話演習
- 第 6 回 第6課（場所を尋ねる）
(テキストP. 34～37)
- 第 7 回 会話演習
- 第 8 回 映画鑑賞（リラックスで中国文化を味わう）
- 第 9 回 第7課（注文する）
(テキストP. 38～41)
- 第 10 回 会話演習
- 第 11 回 第8課（値段の交渉をする）
(テキストP. 42～45)
- 第 12 回 会話演習
時間外自習指導：復習 2 (テキストP. 46～47)
- 第 13 回 復習 2
(テキストP. 46～47)
- 第 14 回 作文
- 第 15 回 総合復習

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「できる・つたわるコミュニケーション中国語」白水社（中国語Ⅱ～Ⅳ 共通）

※テキストは必ず購入すること

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[40%]，課題提出[30%]，小テスト[10%]，授業態度[20%]

・「テキスト」練習A・B、本文の暗記を「小テスト」としてみなす。

・課題は、必要な時に訂正文・コメントをつけて返却する。

〔授業時間外学修〕

毎回の授業内容に合わせた課題に加え、課ごとに記載している単語帳の単語をマスターするためにひたすら読み書き音読を繰り返すこと。そのために毎日5～10分、一週間で合計1時間程は確保すること。

〔オフィスアワー〕

講師控室に「オフィスアワー」の表示をしているとき

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

- ・授業内容は必要に応じて変更することがあります。
- ・クラスの規模、学生のレベルによって授業内容を変更することがあります。
- ・授業中は積極的に参加、発言をしてください。

コンピュータの基礎技術Ⅰ

K121a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 教養科目

1 年

1単位 前期

金曜 2限 水曜 4限

演習

必修

科目ナンバリング131

三池 克明

〔授業の概要〕

大学生や社会人として必要とされる情報収集・活用の基礎能力と倫理観を身につけ、パソコンの基本的な活用方法を学ぶ。また、ビッグデータ時代に求められる課題解決に活用できるデータサイエンスの基礎を学び、社会と情報とのかかわりについて学ぶとともに、情報活用における倫理について習得する。

〔到達目標〕

パソコンやインターネットとの関わり方を学び、情報に対して客観的に考える力を養う。また、大学生や社会人として必要とされるパソコンの基本的な操作方法を身につける。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 1、DP 2

〔授業計画〕

- 第 1 回 **学内ネットワークの使用方法と大学メールの使い方**
PC室の利用方法、LMS(manaba・respon)の利用方法、メール(Microsoft 365)の利用方法
- 第 2 回 **情報のデジタル化とインターネット**
デジタルとは、インターネットとは、検索エンジンの使用方法
- 第 3 回 **情報セキュリティと情報倫理**
情報セキュリティとは、情報倫理とは、著作権の利用について、止揚の考え方に基づく安全性の見極め方
- 第 4 回 **ワープロソフトを使った文書作成1：文章の入力**
日本語入力について、ファイルとフォルダ、Wordで文章入力
- 第 5 回 **ワープロソフトを使った文書作成2：編集と加工**
文書の加工、印刷・PDF変換などの出力について
- 第 6 回 **ワープロソフトを使った文書作成3：ビジネス文書の作成**
ビジネス文書の構造、ビジネス文書の作成
- 第 7 回 **ワープロソフトを使った文書作成4：表のデザイン**
複雑な表の作成、見やすい表のデザイン
- 第 8 回 **表計算ソフトを使った統計処理1：データ入力**
表計算ソフトとは、Excelでの表デザイン、表計算の基礎
- 第 9 回 **表計算ソフトを使った統計処理2：表計算**
表計算、相対参照と絶対参照、データの並べ替え
- 第 10 回 **表計算ソフトを使った統計処理3：グラフ描画**

なぜグラフを作るのか、グラフ作成、他のソフトへの貼り付け

- 第 11 回 **表計算ソフトを使った統計処理4：オープンデータの活用**
オープンデータとは、e-Statの活用、Excelとの連携
- 第 12 回 **パソコンを使ったプレゼン1：編集とデザイン**
プレゼンテーションとは、スライド型プレゼンテーションの制作
- 第 13 回 **パソコンを使ったプレゼン2：アニメーション**
なぜアニメーションをさせるのか、アニメーションの設定、よいプレゼンテーションとは
- 第 14 回 **パソコンを使ったプレゼン3：オープンキャンパス用プレゼンの制作**
最終課題「オープンキャンパス用プレゼンの制作」について、評価基準について
- 第 15 回 **パソコンを使ったプレゼン4：オープンキャンパス用プレゼンの完成・提出**
最終課題の制作と提出

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：奥村晴彦、森本尚之著『[改訂第4版] 基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社

（コンピュータの基礎技術Ⅰ・Ⅱ・応用技術、共通）

〔成績評価の方法・基準〕

授業終了時に提出するコメントシート[30%]

提出した課題[70%]

〔授業時間外学修〕

予習：次回の講義資料を確認し、何が分からないか明らかにしておくこと。

復習：講義資料を用いて学習したことを整理し、理解を深め、活用できるようにすること。

なお、1回の授業について、1時間程度予習復習を行うこと。

〔オフィスアワー〕

9:00～17:30（ただし会議、出張等で不在あり）。事前予約は不要です。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

PC研修指導・DTP制作の請負を年数回程度、19年継続している。また大学のICT部門職員（システム管理、データ分析担当）を計8年経験している。これらの経験を踏まえ、情報機器を十分に活用し短時間で仕上げる方法を解説する。

〔その他履修上の留意事項等〕

とにかく質問する学生ほど良好な成績を修める傾向があります。何でも良いので声をかけてみましょう。

コンピュータの基礎技術Ⅱ

K123a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 教養科目

1 年

1 単位 後期

金曜 2 限 水曜 3 限

演習

必修

科目ナンバリング132

三池 克明

〔授業の概要〕

大学生や社会人として必要とされる情報活用能力を身につけ、パソコンの基本的な活用方法を学ぶ。またパソコンを活用した表現とデータ分析を学び、情報機器を活用した問題解決能力の習得を図る。

〔到達目標〕

自作、あるいは素材をインターネットから集めることで図解を作成する能力を身に付ける。また表計算ソフトによるデータ分析能力を身に付ける。そしてそれらを活用して作成した資料をレポートなどにまとめる能力を身につける。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 1、DP 2

〔授業計画〕

第 1 回 DTP1：DTPとは何か

本科目について、DTPとは、地図を作ってみる

第 2 回 DTP2：オートシェイプを用いた図解作成

マジカルナンバー、Zの法則、色の配分

第 3 回 DTP3：画像の活用

画像素材の検索、画像の活用

第 4 回 DTP4：レイアウトの工夫

スクリーンショット、画像の加工、箇条書きと字下げ

第 5 回 ポスター制作1：OCポスターの企画

制作するポスターの要件について、参考資料の検索

第 6 回 ポスター制作2：OCポスターの制作

オープンキャンパスポスターの制作

第 7 回 ポスター制作3：OCポスターの完成と提出

オープンキャンパスポスターの仕上げ、提出

第 8 回 データ分析1：度数分布表とヒストグラム

平均値の限界、度数分布表とは、ヒストグラムとは

第 9 回 データ分析2：クロス集計表

クロス集計とは、相関とは、ピボットテーブル

第 10 回 レポート作成1：学生生活を改善するための仮説検討

最終課題「学生生活満足度を向上するには何に取り組むべきか」について、仮説の検討

第 11 回 レポート作成2：仮説検証のためのアンケート調査

アンケート調査データの取得、データの加工、データの傾向を探る

第 12 回 レポート作成3：回答データの分析

データの分析、分析結果の考察

第 13 回 レポート作成4：レポート執筆のためのデータ整理

レポートの執筆、図表の貼り付け、文章の組み立て方

第 14 回 レポート作成4：レポートの執筆

レポート執筆、校正

第 15 回 レポート作成5 レポートの完成と提出

レポートの仕上げ、提出

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：奥村晴彦, 森本尚之著『[改訂第4版] 基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社

(コンピュータの基礎技術Ⅰ・Ⅱ・応用技術、共通)

〔成績評価の方法・基準〕

授業終了時に提出するコメントシート[30%]

提出した課題[70%]

〔授業時間外学修〕

予習：次の講義資料を確認し、何が分からないか明らかにしておくこと。

復習：講義資料を用いて学習したことを整理し、理解を深め、活用できるようにすること。

なお、1回の授業について、1時間程度予習復習を行うこと。

〔オフィスアワー〕

9:00～17:30（ただし会議、出張等で不在あり）。事前予約は不要です。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

PC研修指導・DTP制作の請負を年数回程度、19年継続している。また大学のICT部門職員（システム管理、データ分析担当）を計8年経験している。これらの経験を踏まえ、訴求力のある広告のデザインや、分析データを示すことで上司や顧客に対する説得力のある資料・報告書作成の方法を解説する。

〔その他履修上の留意事項等〕

とにかく質問する学生ほど良好な成績を修める傾向があります。何でも良いので声を掛けてみましょう。

福祉工学

K201a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 教養科目

1 年

1単位 後期

水曜 1限

講義・演習

選択

科目ナンバリング151

佐久総合病院 リハビリテーション科

〔授業の概要〕

福祉機器・用具の特性、適切な選択や正しい使用方法、関連する法規等についての基礎知識を習得する。

〔到達目標〕

(1)福祉用具に興味を持ち、実際に体験することで『安全で快適なケア』とは何かを考える

(2)福祉用具が持つ能力を最大限に発揮できるよう、用具の特性の理解・正しい使用方法を学び、人力介助での限界についても理解する

(3)事例でのグループワークを行い、福祉用具も含めたケアプラン作成を通して、実際の環境設定や福祉用具の活用について理解を深める

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 1、DP 2

〔授業計画〕

- 第 1 回 福祉工学・テクノエイドとは 福祉用具供給の流れ
福祉工学・テクノエイドとは（定義、歴史、工学的評価、リスクマネジメント、プランニング等）／福祉用具供給の流れ（介護保険・障害者総合支援法を中心に）について
- 第 2 回 起居・移乗・移動動作① ベッド周辺機器
ベッド・ベッドマット・ベッド周囲手すり・スライディングシート・介護用グローブそれぞれの特徴について
- 第 3 回 起居・移乗・移動動作② ベッド上ケア
ベッド上ケアにおけるスライディングシートの使用方法について
- 第 4 回 起居・移乗・移動動作③ ベッド上ケア
ベッド上ケアにおける介護用グローブの正しい使用方法／ベッドのヘッドアップ・ダウンの正しい方法について
- 第 5 回 起居・移乗・移動動作④ ベッド上ケア
ベッド上ケアにおける寝返り～起き上がり／ポジショニングについて／褥瘡について
- 第 6 回 起居・移乗・移動動作⑤ 座位保持装置・車椅子
座位保持装置・車椅子の種類と機能について／車椅子用クッションについて
- 第 7 回 起居・移乗・移動動作⑥ 移乗動作
スライディングボード・スライディングシートを用いた移乗について／介護用リフト・スリングの種類と特徴について
- 第 8 回 起居・移乗・移動動作⑦ 移乗動作

介護用リフトの正しい使用方法について

- 第 9 回 起居・移乗・移動動作⑧ 移動動作
立ち上がり～歩行動作／杖・歩行器／その他の歩行支援機器について
- 第 10 回 身の回り動作① 食事と補助具・支援機器
食事動作評価／食事動作における補助具・支援機器について
- 第 11 回 身の回り動作② 排泄動作・入浴動作と補助具・支援機器
排泄動作・入浴動作評価／排泄動作・入浴動作における補助具・支援機器について
- 第 12 回 身の回り動作③ 整容・更衣と補助具
整容・更衣動作評価／整容・更衣動作と補助具について
自助具作成
- 第 13 回 身の回り動作④ コミュニケーション機器
コミュニケーション機器について
- 第 14 回 グループワーク
事例での環境調整や福祉用具プランニング
- 第 15 回 障害・疾患特性からみたテクノエイド／住宅改修について／まとめ
障害・疾患特性からみたテクノエイド／テクノエイド支援の取り組み紹介
住宅改修について
まとめ

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「H.C.Rセミナー はじめての福祉機器 選び方・使い方セミナー副読本①基本動作編 ②住宅改修編 ③自立支援編」国際福祉機器展 参考文献：「テクニカルエイド～生活の視点で役立つ選び方・使い方」三輪書店

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[80%]、授業態度（積極度等）[20%]

※フィードバックについては授業時に説明する。

〔授業時間外学修〕

福祉用具に興味を持つ

〔オフィスアワー〕

授業日の授業前後15分

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

理学・作業・言語療法士、介護福祉士として佐久総合病院に勤務。医療・介護領域での実務経験をもとに福祉工学について講義を行う。

〔その他履修上の留意事項等〕

地域と文化

K202a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 教養科目
1 年
2単位 前期
水曜 2限
講義・演習
選択
科目ナンバリング152

田澤 直人

〔授業の概要〕

長野県の地理、歴史、民俗、産業等について、講義を受講し知識を蓄えるとともに、受講したこと等に関して、長野県に関する関心のあるテーマについて自ら調べ、それを発表する。発表された内容を評価する。

〔到達目標〕

講義と調べ学習で習得した知識と技術を活用し、発表する力、実践力、コミュニケーション能力、他者との協調性を身につける。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 1

〔授業計画〕

- 第 1 回 「地域と文化」－授業の全体概要説明[講義]
- 第 2 回 県歌『信濃国』の現代語訳をし、レポート提出
[講義・演習]
- 第 3 回 県歌『信濃国』の解説及び教科書のプレゼン発表
の割り振り [講義]
- 第 4 回 長野県の地理講義 [講義]
- 第 5 回 長野県の歴史講義及び教科書に関するプレゼン発表
[講義・演習]
- 第 6 回 長野県の歴史講義及び教科書に関するプレゼン発表
[講義・演習]
- 第 7 回 長野県の産業講義及び教科書に関するプレゼン発表
[講義・演習]
- 第 8 回 長野県の民俗講義及び教科書に関するプレゼン発表
[講義・演習]
- 第 9 回 最終プレゼンに向けてのテーマとグループぎめ
[演習]
- 第 10 回 最終プレゼンに向けてのグループ別の調べ学習
[演習]
- 第 11 回 最終プレゼンに向けてのグループ別の調べ学習
[演習]
- 第 12 回 最終プレゼンに向けてのグループ別の調べ学習
[演習]
- 第 13 回 最終プレゼンに向けてのグループ別の調べ学習
[演習]
- 第 14 回 プレゼン実施 [演習]
- 第 15 回 プレゼン実施 [演習]

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：『新たな時代にはばたく信州』長野県立歴史館
信濃毎日新聞社

〔成績評価の方法・基準〕

課題提出[30%] 信濃国現代語訳と最終レポート
プレゼンテーション[70%] 2回のプレゼン評価

※フィードバック方法については授業時に説明する。

〔授業時間外学修〕

プレゼンに向けてのグループでの調べ学習が必要となります。
場合によっては、現地調査も必要になります。

〔オフィスアワー〕

授業終了後、希望者に実施

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

長野県立高校で、社会科・地歴公民科を教えてきた。県立高校退職後、長野県立大学、長野保健医療大学にて、「信州学」の講座を受け持つ。

〔その他履修上の留意事項等〕

この授業は、担当者も講義を行いますが、基本的には、学生が自ら関心のあるテーマについて、グループで調べ学習を行い、最終的に調べた内容についてパワーポイントを使い発表することになります。

健康と生涯スポーツⅠ/1年

K205a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 教養科目

1 年

1単位 前期

木曜 4限 木曜 5限

演習

選択

科目ナンバリング162

朴 相俊

〔授業の概要〕

子どもや中高年者における健康と運動との関連を多面的に理解し、健康の保持増進、疾病や障害の予防と回復に関する運動実践方法の基本を理解する。さらに、実技・演習を通して運動を日常生活に楽しく実践するためのプログラムについて学ぶ。

〔到達目標〕

1.心と身体の健康と生涯スポーツの関係を説明できる 2.運動の基本的な知識や理論を説明できる 3.自らの健康づくりのために、楽しく安全な運動習慣を身につける

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 1

〔授業計画〕

第 1 回 前期オリエンテーション

競技スポーツ体験（バドミントン）

第 2 回 競技スポーツ体験（バレーボール）

第 3 回 競技スポーツ体験（バスケットボール）

第 4 回 競技スポーツ体験（卓球）

第 5 回 ニューススポーツ体験（スポンジテニス）

第 6 回 ニューススポーツ体験（ドッチボール）

第 7 回 ニューススポーツ体験

（マレットゴルフ・ソフトボール）

第 8 回 競技スポーツ体験（バドミントン）

第 9 回 競技スポーツ体験（バレーボール）

第 10 回 競技スポーツ体験（バスケットボール）

第 11 回 競技スポーツ体験（卓球）

第 12 回 ニューススポーツ体験（スポンジテニス）

第 13 回 競技スポーツ体験

（バドミントン・バスケットボール）

第 14 回 競技スポーツ体験

（バレーボール・スポンジテニス）

第 15 回 自由種目・前期まとめ

〔テキスト・参考書・参考文献〕

必要時に担当教員が準備する

〔成績評価の方法・基準〕

課題提出[50%]、授業態度（積極度等）[50%]

※フィードバック方法については授業時に説明する。

〔授業時間外学修〕

〔オフィスアワー〕

常時

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

体育館用シューズ、運動服共に高校時のものも可、授業内容について講義時に積極的に質問し、参加する。

健康と生涯スポーツⅡ/1年

K206a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 教養科目

1 年

1単位 後期

木曜 4限 木曜 5限

演習

選択

科目ナンバリング163

朴 相俊

〔授業の概要〕

ライフサイクルにおける健康と運動との関連を多面的に理解し、健康の保持増進、疾病や障害の予防と回復に貢献するスポーツの実践方法の基本を理解する。また、実技・演習を通して運動を日常的に楽しく実践し、運動習慣を身につける。

〔到達目標〕

1. 健康（心と身体）と運動に関する知識を養い、運動が健康に与える影響について理解できるようになる 2. 運動の基本的な知識や理論を説明できるようになる 3. 自らの健康づくりのために、楽しく安全な運動習慣を身につけるようになる

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 1

〔授業計画〕

第 1 回 後期オリエンテーション

競技スポーツ体験（バドミントン）

第 2 回 競技スポーツ体験（バレーボール）

第 3 回 競技スポーツ体験（バスケットボール）

第 4 回 競技スポーツ体験（卓球）

第 5 回 ニューススポーツ体験（スポンジテニス）

第 6 回 ニューススポーツ体験（ドッチボール）

第 7 回 ニューススポーツ体験

（マレットゴルフ・ソフトボール）

第 8 回 競技スポーツ体験（バドミントン）

第 9 回 競技スポーツ体験（バレーボール）

第 10 回 競技スポーツ体験（バスケットボール）

第 11 回 競技スポーツ体験（卓球）

第 12 回 ニューススポーツ体験（スポンジテニス）

第 13 回 競技スポーツ体験

（バドミントン・バスケットボール）

第 14 回 競技スポーツ体験

（バレーボール・スポンジテニス）

第 15 回 自由種目・後期まとめ

〔テキスト・参考書・参考文献〕

必要時に担当教員が準備する

〔成績評価の方法・基準〕

課題提出[50%]、授業態度（積極度等）[50%]

※フィードバック方法については授業時に説明する。

〔授業時間外学修〕

〔オフィスアワー〕

常時

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

体育館用シューズ、運動服共に高校時のものも可、授業内容について講義時に積極的に質問し、参加する。

人間の理解Ⅰ

S801a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 専門科目

1 年

2単位 前期

金曜 4限

講義・演習

科目ナンバリング301

倉田 郁也

〔授業の概要〕

この授業では、人間の多面性、生活の営みを理解し、人間の尊厳や人権を学ぶ。また、自立・自律の支援、自立について理解し、自立支援を学ぶ。人権と尊厳、介護における権利擁護、人権侵害について理解し、尊厳のある生活の支援を学ぶことを目指す。

〔到達目標〕

学生が、

- ①状況と環境の中に生きる全体としての人間存在を理解し、論述することができる。
- ②憲法・社会福祉諸法・世界人権宣言・障害者の権利宣言などの人権に関する基本理念を理解し、論述できる。
- ③権利擁護諸法の基本理念と自立支援、自己決定及び個別援助について理解を深め、説明できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2、DP 3

〔授業計画〕

全て講義

- 1 回：「人間の尊厳と自立の概念①」―人権―
- 2 回：「人間の尊厳と自立の概念②」―法律と尊厳―
- 3 回：「人間の尊厳と自立の概念③」―自立と自律―
- 4 回：尊厳を守る理念「世界人権宣言・障害者の権利宣言」
- 5 回：「人間の尊厳と自立の概念④」―福祉理念―
- 6 回：「人間の尊厳と自立の概念⑤」―様々な自立のあり方―
- 7 回：「人間の尊厳と自立の概念⑥」人間理解①―社会福祉関係法規定―
- 8 回：小テスト（人間の尊厳と自立の概念・尊厳を守る理念）
- 9 回：「福祉と人間理解①」―支援と専門職―
- 10 回：「福祉と人間理解②」―人間の多面的理解―
- 11 回：「福祉と人間理解③」―利用者・保護者―
- 12 回：「援助における尊厳の保持・自立支援①」―人権尊重―
- 13 回：「援助における尊厳の保持・自立支援②」―自立支援―
- 14 回：「援助における尊厳の保持・自立支援③」―権利擁護―
- 15 回：「援助における尊厳の保持・自立支援④」―人権侵害―

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：『人間の理解』中央法規（人間の理解Ⅰ・Ⅱ 共通）

参考文献：『人間の理解』メヂカルフレンド社

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[50%]，小テスト[50%]

〔授業時間外学修〕

次回の授業のテーマをテキスト等で調べ、概要を理解しておくこと。予習時間は、30分以上確保すること。

〔オフィスアワー〕

火曜日14:00～18:00。カウンセリングルームにて。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

専門用語などは、図書館にある参考文献を読むなどして理解しておくこと。

人間の理解Ⅱ

S802a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 専門科目

1 年

2単位 前期

水曜 3限

講義・演習

科目ナンバリング302

根本 貴子

〔授業の概要〕

尊厳を傷つけないケアをするために、対人援助の基本となる他者理解について学び、望ましいコミュニケーションのあり方や、専門職に求められる利用者との関係形成に必要な知識と技術を学習する。

〔到達目標〕

1. 利用者との信頼関係を構築するためのコミュニケーションのあり方を理解する
2. 傾聴や共感の態度をもって人に接することができる
3. 介護実践におけるチームマネジメントの基本となる考え方を理解する

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP2、DP3

〔授業計画〕

- 第 1 回 人間の尊厳と自立Ⅰ
人間の尊厳と利用者主体について
- 第 2 回 人間の尊厳と自立Ⅱ
自立と自立支援について
- 第 3 回 関係づくりのための人間の理解
自分と他者の理解
- 第 4 回 対人関係とストレス
ストレスとコーピング
- 第 5 回 人間関係の形成とコミュニケーションの基礎
コミュニケーションの基本構造
- 第 6 回 言語的コミュニケーション
支援者としての言葉遣い 敬語
- 第 7 回 非言語的コミュニケーション
非言語的表現の種類 特徴
- 第 8 回 対人関係とコミュニケーションⅠ
人間関係の発展とコミュニケーション
- 第 9 回 対人関係とコミュニケーションⅡ
人間関係とコミュニケーション上の配慮
- 第 10 回 援助関係の形成Ⅰ
傾聴と共感
- 第 11 回 援助関係の形成Ⅱ
バイステックの7原則①
- 第 12 回 援助関係の形成Ⅲ
バイステックの7原則②
- 第 13 回 集団の中の人間関係Ⅰ
組織に求められるコミュニケーション
- 第 14 回 集団の中の人間関係Ⅱ
ケアの実践現場におけるチームマネジメント
- 第 15 回 今期のまとめと振り返り

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「人間の理解」中央法規

（人間の理解Ⅰ・Ⅱ 共通）

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[50%]，授業への参加状況[50%]

〔授業時間外学修〕

次の授業で扱うテキストの箇所を読んで疑問点を整理しておく。(30分)

授業で学んだ内容をノートに整理し確認しておく。(30分)

〔オフィスアワー〕

授業内で指示する。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

医療ソーシャルワーカーとして総合病院での勤務経験をもとに、主に社会福祉の専門職に求められる援助関係の形成に関することについて講義する。

〔その他履修上の留意事項等〕

社会福祉概論

S804a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 専門科目

1 年

1 単位 前期

金曜 3 限

講義・演習

必修

科目ナンバリング311

内藤 博幸

〔授業の概要〕

個人の生活と社会との関わりの中で、社会福祉の視点から自助から公助に至る過程について理解する。また、人々の生活を地域の中で支えていくという観点から、地域における相互支援について基礎的な知識を習得する。

〔到達目標〕

この授業を通して、「共助・公助」が個人の自立を実現する上で、どのようにその役割を果たしているかを理解する。さらに、地域共生社会や地域包括システムの基本的な考えと仕組み、その実現のための制度や施策を理解し説明できるようになる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 1、DP 2

〔授業計画〕

- 第 1 回 人の一生と福祉 ―社会と生活のしくみを学ぶ―
ライフコースとそれぞれのステージに必要な支援を考える
- 第 2 回 家族の役割 ―家族と福祉支援の在り方を考える―
家族の機能の縮小、世帯の変容と福祉政策の在り方
- 第 3 回 子どもと家庭福祉 ―児童に関する福祉制度を学ぶ―
児童福祉、児童手当、保育制度、社会的養護など
- 第 4 回 高齢者福祉 ―介護実践に関連する諸制度を学ぶ―
介護保険、後期高齢者医療制度など
- 第 5 回 地域福祉 地域共生社会の実現に向けた制度や施策を学ぶ
社会的包摂、「我が事・丸ごと」地域共生社会
- 第 6 回 公的扶助 ―第 3 のセーフティネットとは―
生活保護法、生活困窮者自立支援法など
- 第 7 回 社会福祉の理念とその変遷
生存権とナショナルミニマム、ノーマライゼーション、
ソーシャルインクルージョンなど
- 第 8 回 まとめと復習
自助・互助・共助・公助の連携と地域共生社会

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：

「最新・介護福祉士養成講座2 社会の理解」中央法規

「新・基本保育シリーズ4 社会福祉」中央法規

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[60%]、小テスト[40%]

※小テストで多く見られた誤答を分析し、フィードバックする。

〔授業時間外学修〕

予習：次の章を必ず読んで、不明な点を明らかにしておくこと。復習：20分程度、ノートをもう一度見直して確認しておくこと。

〔オフィスアワー〕

金曜日。講師控室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

高齢者福祉概論

S805a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 専門科目
1 年

1 単位 前期

金曜 3 限

講義・演習

必修

科目ナンバリング312

内藤 博幸

〔授業の概要〕

この授業では、高齢化社会の現状と課題を認識させ、その上で介護保険制度の内容を理解させる。さらに高齢者の尊厳の保持、権利擁護のための制度が非常に重要だという認識をすべての学生が持つことを目指す。

〔到達目標〕

この授業を通して、介護保険制度を中心に高齢者福祉制度を学び、介護実践に必要な観点から、保険制度の概要を理解・習得し説明できるようになる。さらに権利擁護に関する基礎的な制度を学習し説明できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 1、DP 2

〔授業計画〕

第 1 回 高齢者福祉の動向

戦後の高齢者福祉・医療保健制度・年金に関する歴史を学ぶ。

第 2 回 高齢者福祉との関連政策 1

現在の年金保険制度のありようについて学ぶ。

第 3 回 高齢者福祉との関連政策 2

国民健康保険制度と後期高齢者制度について学ぶ。

第 4 回 高齢者福祉との関連政策 3

高齢者の各種入所施設やサ高住等の高齢者向け住宅政策を学ぶ。

第 5 回 高齢者福祉と介護保険制度 1

介護保険制度の創設の背景とその後の改正について学ぶ。

第 6 回 高齢者福祉と介護保険制度 2

介護保険制度の仕組みと保険給付までの手順を理解する。

第 7 回 高齢者福祉と介護保険制度 3

介護保険制度における専門職の役割および組織、団体の機能について学ぶ。

第 8 回 高齢者の権利擁護に関する諸制度

成年後見制度・苦情解決の仕組み・日常生活自立支援事業等の概要を学ぶ。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：

「最新・介護福祉士養成講座2 社会の理解」中央法規

「新・基本保育シリーズ4 社会福祉」中央法規

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[60%]、小テスト[40%]

※小テストで多く見られた誤答を分析し、フィードバックする。

〔授業時間外学修〕

予習：次の章を必ず読んで、不明な点を明らかにしておくこと。

復習：20分程度、ノートをもう一度見直して確認しておくこと。

〔オフィスアワー〕

金曜日。講師控室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

社会保障概論

S806a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 専門科目
1 年

1単位 後期

金曜 3限

講義・演習

必修

科目ナンバリング313

内藤 博幸

〔授業の概要〕

この授業では、日本における社会保障制度の概念と範囲・種類、歴史的変遷、目的・役割などについて学ぶ。その上で、少子高齢・人口減少社会のなかにある現代的生活課題を見極め、福祉実践に必要な社会保障を考察する基礎力を習得する。

〔到達目標〕

1. わが国の社会保障制度を体系的に理解し、特に高齢者福祉の現状と介護保険制度の課題について自分の言葉で説明できる。
2. 社会的な関係性のなかでの対象者である地域生活者としての高齢者や子どもなどが安心・安全に暮らすための制度・施策を理解することができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 1、DP 2

〔授業計画〕

- 第 1 回 社会保障制度（セーフティネット）とは
私たちの生活を国はどのような仕組みで守っているのかを理解する
- 第 2 回 わが国の社会保障制度の発達
社会保険制度が整備されてきた沿革を学ことで、国家のための制度から国民のための制度への変遷を理解する
- 第 3 回 「第二のセーフティネット」社会保険制度とは
わが国の社会保険制度の概要を把握する
- 第 4 回 医療制度
日本の医療制度の概要を理解する
- 第 5 回 年金制度
日本の年金制度の概要を理解する
- 第 6 回 労働保険制度
日本の雇用保険制度と労災保険制度を理解する
- 第 7 回 介護保険制度
日本の介護保険制度の概要を理解する
- 第 8 回 「第三のセーフティネット」公的扶助とは
生活保護制度と社会手当の概要を理解する

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：

「最新・介護福祉士養成講座2 社会の理解」中央法規

「新・基本保育シリーズ4 社会福祉」中央法規

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[60%]，小テスト[40%]

※小テストで多く見られた誤答を分析し、フィードバックする。

〔授業時間外学修〕

・授業中に取り組んだ練習問題を必ず復習すること。

〔オフィスアワー〕

金曜日。講師控室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

障害者福祉概論

S807a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 専門科目
1 年

1 単位 後期

金曜 3 限

講義・演習

必修

科目ナンバリング314

佐藤 園美

〔授業の概要〕

障害者保健福祉制度を概観し、基本的な考え方、その歴史の変遷、現状と課題、障害者関連法を学び、実践に必要とされる視点及び基礎的知識を習得させることを目指す。

〔到達目標〕

- ①障害とは何かと障害者の現状について説明できる。
- ②障害者福祉の理念と仕組みについて説明できる。
- ②障害者総合支援制度の概要を説明できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 1、DP 2

〔授業計画〕

第 1 回 障害者福祉の現状

授業のオリエンテーションで本講義の目的と内容について説明する。

障害の捉え方の変化と障害者を取り巻く現状について学ぶ。

（講義）

第 2 回 障害者福祉の動向

障害者を排除する思想と障害者を包摂する理念について考える。

（講義・演習）

第 3 回 障害者保健福祉制度 1

障害者保健福祉制度の歴史の変遷と各法律における障害者の定義を学ぶ。

（講義）

第 4 回 障害者保健福祉制度 2

障害者保健福祉制度について、障害者の権利擁護の視点から考える。

（講義・演習）

第 5 回 障害者総合支援制度 1

障害者総合支援法成立までの経緯と法の目的を学ぶ。

（講義・演習）

第 6 回 障害者総合支援制度 2

障害者総合支援法の概要を学ぶ。

（講義）

第 7 回 障害者総合支援制度 3

障害者総合支援法における障害児支援について学ぶ。

（講義・演習）

第 8 回 障害者福祉と障害者保健福祉制度

障害者の地域生活を支えるための仕組みについてまとめる。

（講義・演習）

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「介護福祉士養成講座 2 社会の理解」中央法規

参考書：授業で紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕

試験(小テスト、定期試験)[60%]，グループ発表[20%]，リアクションペーパー[20%]

※小テスト、グループ発表、リアクションペーパーは授業の中でフィードバックを行う。

〔授業時間外学修〕

授業の復習（リアクションペーパーに書いた質問事項を調べる）と小テストの勉強、次回授業の予習（テキストを読むなど）を行う。1時間程度。

〔オフィスアワー〕

授業終了後に教室または研究室で質問を受け付ける。

また、メール< s-sato(at)saku.ac.jp >では随時質問を受け付ける。

※メールアドレスの (at) は @ に置き換えて下さい。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

障害者の社会復帰施設に勤務し地域生活支援を行った経験を活かして、障害者福祉の理念や障害者保健福祉制度について具体的に講義する。

〔その他履修上の留意事項等〕

この授業では、障害者保健福祉制度に関する新しい知識の習得と共に、学生自身がどのように学び考えたかを大切にします。興味を待った課題について考えを深め、その内容を授業で共有していきましょう。

保育原理

S808a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 専門科目

1 年

2単位 前期

月曜 4限

講義・演習

科目ナンバリング321

平野 忠男

〔授業の概要〕

保育の基本的な仕組み、原理原則について考える。具体的には、保育の意義、思想や歴史の変遷、法令や制度、保育所保育指針、保育の現状について学習する。

〔到達目標〕

- 1 保育の意義及び目的について理解する。
- 2 保育に関する法令及び制度を理解する。
- 3 保育所保育指針における保育の基本について理解する。
- 4 保育の思想と歴史の変遷について理解する。
- 5 保育の現状と課題について理解する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

全て講義と演習

- 1 回：オリエンテーション（保育原理とは？保育原理で学ぶこと）
- 2 回：保育の基本①（保育とはなにか）
- 3 回：保育の基本②（保育の基盤としての子ども観）
- 4 回：保育の基本③（子ども理解から出発する保育）
- 5 回：保育所保育指針における保育の基本①（『保育所保育指針』）
- 6 回：保育所保育指針における保育の基本②（保育内容・方法の原理）
- 7 回：保育所保育指針における保育の基本③（子どもが育つ環境の理解）
- 8 回：保育所保育指針における保育の基本④（保育の計画と実践の原理）
- 9 回：子どもと遊び
- 10 回：保育に関する法令及び制度
- 11 回：保育の歴史に何を学ぶか①
- 12 回：保育の歴史に何を学ぶか②
- 13 回：保育者に求められるもの
- 14 回：現代の子育てと子育て支援
- 15 回：保育の現状と課題・まとめ

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「新しい保育講座①保育原理」ミネルヴァ書房
：「保育所保育指針解説」フレーベル館
：「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

：「保育学用語辞典」中央法規

参考文献：授業内で適宜紹介する。

その他：資料を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[40%]、小テスト[30%]、授業態度・リアクションペーパー等[30%]

・リアクションペーパーはフィードバックを行う。

〔授業時間外学修〕

子ども・福祉に関するニュースを新聞等で確認しておく。事前にテキストを熟読しておく。

1 回の授業あたり予習・復習・課題などを含めて、30～60分程度が望ましい。

〔オフィスアワー〕

研究室前に在室表示をしているとき。原則、事前予約はいらないが、確実に利用したい場合等は予約をすることを推奨する。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

保育士（6年勤務）、保育士養成校教員（9年勤務）の実務経験あり。実務経験を活かし、理論と実践の往還性を重視した授業を展開する。

〔その他履修上の留意事項等〕

- ・意欲的、積極的な取り組みを期待します。
- ・授業の進捗状況、受講生の状況等によって講義内容、順番を変更することがある。
- ・授業の進捗状況により、授業内容や方法が一部変更されることがある。
- ・状況に応じて、manaba、オクレンジャー、学生メール等で連絡事項を発信するため、各ツールのチェックを確実に行う。

子ども家庭福祉

S809a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 専門科目

1 年

2単位 前期

火曜 4限

講義・演習

科目ナンバリング322

尾島 万里

〔授業の概要〕

子ども家庭福祉の意義と役割、支援体制、施策の変遷、子ども家庭福祉の現状と課題などを学ぶ。

〔到達目標〕

歴史的な展開から子ども家庭福祉の問題と対策について考える。また子ども家庭福祉や子育て支援の体系を学び、保育士として必要な知識習得を目指す。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

講義と演習形式で行う。

- 1 回 子どもとその家庭をとりまく社会状況
- 2 回 日本における子ども家庭福祉の歴史1
- 3 回 日本における子ども家庭福祉の歴史2
- 4 回 子ども家庭福祉の法体系
- 5 回 子ども家庭福祉の仕組みと実施体系
- 6 回 児童福祉施設
- 7 回 子ども家庭福祉の問題（1）児童虐待
- 8 回 子ども家庭福祉の問題（2）養護問題
- 9 回 子ども家庭福祉の問題（3）子どもの貧困
- 10回 子ども家庭福祉の問題（4）非行問題
- 11回 子ども家庭福祉の問題（5）障がいを持つ子どもの問題
- 12回 地域における子育て支援
- 13回 子ども家庭福祉分野の専門職
- 14回 子どもの権利擁護について
- 15回 まとめ

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉」直島正樹・河野清志編 萌文書林

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[60%]，課題提出[20%]，授業へ取り組む姿勢[20%]

課題提出に対して、授業内でコメントを行う。

〔授業時間外学修〕

次の授業のテーマを必ず読んで理解しておくこと。毎回30分は確保すること

新聞やインターネットを通して子どもや家庭に関するニュースを読むこと

〔オフィスアワー〕

研究室ドアに在室表示をしているとき

事前予約も可

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

心理相談員として保健所（母子保健事業・非常勤）に5年勤務。コンサルタント（臨床心理士）として地域子育て支援

拠点事業に8年勤務。その経験と11年の保育士養成校の教員として学生とともに学んだことをもとに講義する。

〔その他履修上の留意事項等〕

授業の進捗状況により、授業内容や方法が一部変更される場合があります。

ヒューマンケア概論

S815a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 専門科目

1 年

2単位 前期

水曜 1限

講義・演習

必修

科目ナンバリング401

上西 一貴

〔授業の概要〕

ケアは、特定の人への特別な働きかけにとどまらず、すべての人の生活のなかにさまざまなかたちで当たり前に存在しています。この科目では、人と人との間で展開されるケアや、政策や制度などさまざまな仕組みを介して展開されるケアの関連を学びながら、ケアを多面的に捉えていきます。

〔到達目標〕

①これまでの日常生活における言葉や考え、行為、仕組みなどを振り返り、それをケアとして解釈しなおすことができる。

②ヒューマンケアの専門職として根本的に重要である、他者への向き合い方の基本を学び、反省的に実践できるようになる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 1

〔授業計画〕

- | | |
|--------|--|
| 第 1 回 | ケアを捉える視点
ケアや援助などの概念を整理し、ケアを捉える視点を理解する。 |
| 第 2 回 | 社会的なケアの構築過程
集団生活の歴史から、社会保障や社会福祉の出現経緯について理解する。 |
| 第 3 回 | 利他行動としてのケア
利他行動の機構と機能を理解する。 |
| 第 4 回 | ケアにおける自立観
自立と依存の関係を理解する。 |
| 第 5 回 | ケアのニーズと資源配分
ニーズ把握と資源配分の問題を理解する。 |
| 第 6 回 | 市場ルールによるケア
市場ルールに基づくケアとその問題について理解する。 |
| 第 7 回 | 福祉ルールによるケア
福祉ルールに基づくケアとその問題について理解する。 |
| 第 8 回 | ケアにおける他者の尊厳
他者の存在から他者や自分自身の尊厳を理解する。 |
| 第 9 回 | ケアの必要条件
ケアを要素に分解することでケアの必要条件を理解する。 |
| 第 10 回 | ケアの対象把握 |

ケアにおける対象把握の4つのモデルを理解する。

- | | |
|--------|--|
| 第 11 回 | ケアにおける二者関係
ケアの最小単位である二者の関係の4つのモデルを理解する。 |
| 第 12 回 | ケアにおける自己決定
自己決定とパターナリズムの問題について理解する。 |
| 第 13 回 | ケアの共有
複数のアクターでケアを共有する問題や方法を理解する。 |
| 第 14 回 | ケアの限界
ケアにおける限界と無力について理解する。 |
| 第 15 回 | ケアの理屈
これまでの講義を振り返り、ケアを機構的・機能的・歴史的・臨床的に理解する。 |

〔テキスト・参考書・参考文献〕

◆テキスト

使用しません。

◆参考文献

授業内で提示します。

〔成績評価の方法・基準〕

各回の振り返り票 [50%], レポート課題 [50%]

※各評価の詳細な基準については講義内で提示します。

〔授業時間外学修〕

【予習】(1時程度) 講義内で提示する次回のお題について自分なりの考えをまとめておく。

【復習】(1時程度) manaba振り返りの提出、講義内で提示する参考文献を読む。

【その他】レポート課題の提出、そのほか講義内で特に指示すること。

〔オフィスアワー〕

個別に対応します。お声がけいただくかE-mailで連絡してください。k-jonishi(at)saku.ac.jp

※メールアドレスの(at)は@に置き換えて下さい。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

この科目はケアの基本的な知識を提供しつつ、受講者がケアについての決まった答えのない問いを考えていく材料と機会を提供するものです。基本は講義形式ですが、授業中に受講者の考えをきいていきますので、主体的に参加することを期待します。

福祉経営学

S817a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 専門科目
1 年
2単位 後期
水曜 1限
講義・演習
選択
科目ナンバリング402

廣橋 雅子

〔授業の概要〕

この授業は介護・保育に関わらず、一般的な経営学の原理原則を理解し、組織運営に関わる基本的な知識を講義や演習を通じて専門知識を身につけることができる。

〔到達目標〕

15回の授業を通して、お店を作ることを最終目標としている。グループ内の結束力、協同作業などの質を高めるワークショップを体験しながら、ヒト・モノ・カネの動かし方を学び、新しいビジネスの動かし方を理解することを目標とする。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 1、DP 3

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス：経営学で何を学べるのか
ヒト・モノ・カネ・情報と組織がどのようにかわるのかをまずは理解しよう
- 第 2 回 新規事業立ち上げ「お店をつくろう！」
福祉マインドを持ちながらも、持続可能なサービスを提供できる新しいビジネスとは何だろうか
- 第 3 回 経営戦略①
どんな戦略があり、組織が生き残るために何をすべきか
- 第 4 回 経営戦略②
市場において競合相手に勝つために必要な戦略とは何だろうか
- 第 5 回 組織文化と経営理念
どうして企業や組織によって雰囲気が変わるのか。なぜ社員が同じ目標をもてるのかを考えてみよう
- 第 6 回 事業計画書の作り方 演習
各グループで決めた「お店」について基本設計図をつくる
- 第 7 回 人的資源管理とリーダーシップ
ビジネスを行うときに欠かせない「ヒト」。採用から管理、そして育成までの一連の基本的人的資源管理プロセスを理解する
- 第 8 回 アイデア・コンセプトの考え方 演習
提供するサービスと顧客・市場のニーズをどのように見つけ出し、商品化するのかをグループで考える
- 第 9 回 4P戦略：商品・サービスの具体化
4つのPを利用して店で提供する商品やサービスについて分析をし、具体化する方法を学ぶ

第 10 回 地域に優しいビジネスプランの枠組み設計 演習
遂に事業計画の設計をグループで担当分野を決めて作業開始

第 11 回 ビジネスモデルとマーケティング 演習
前回の事業計画設計図を基に、コンセプトやお店の大枠をまとめ上げる

第 12 回 組織基本内容の策定 演習
商品・メニュー・募集などお店やビジネスを始めるための必要な組織の情報と内容をまとめる

第 13 回 集客方法と宣伝方法 演習
ターゲット顧客に適した集客方法と宣伝方法は何なのかを考える

第 14 回 収支の仕組みと収益化 演習
ビジネスには必ずお金が必要となる、収入に対しての支出、時には損をすることもあるだろう。その場合のリスクヘッジについても対処法を学ぶ

第 15 回 事業計画書発表 演習

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：渡辺政之「マンガでわかる事業計画書の作り方」西東社

〔成績評価の方法・基準〕

グループ発表[50%]，課題提出[30%]，リアクションペーパーやグループワークレポート[20%]

〔授業時間外学修〕

1. 授業で講義をした内容についてテキストの該当ページの復習を毎回30分すること
2. 期末の課題提出のために授業時間外の時間を利用して情報を集め作成すること

〔オフィスアワー〕

会議及び授業時を除く「在室」時間は基本オフィスアワーとする。

但し、時間を要する場合は事前の予約が望ましい。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

会社経営の実績及び国際ビジネスを手掛けてきた経験を活かし、学生へ持続可能な組織の存続とは何なのかを経営学のコンセプトを基に、学生個々の個性を生かしたアイデアを引き出せるような指導を行う。

〔その他履修上の留意事項等〕

積極的なグループワーク参加を求める。

相手のアイデアを尊重し、誰かと何かを作ってみたいという気持ちを持続することを期待する。

科目別シラバス

福祉学科

1年次生科目

介護福祉専攻

専門科目

発展科目

資格科目

介護の基本Ⅰ

S831a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 介護福祉専攻 > 専門科目
1 年
4単位 前期
木曜 1限 木曜 2限
講義・演習
必修
科目ナンバリング501

関口 昌利

〔授業の概要〕

この授業では、介護福祉の基本となる理念や地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職である介護福祉士に求められる役割と機能、倫理に関する知識技術を身につける。

〔到達目標〕

1) 社会と地域における介護ニーズの変化について述べる
ことができる。2) 介護福祉の基本理念について説明できる。
3) 介護福祉の実践場面における介護福祉士の専門性
について説明できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

- | | |
|--------|--|
| 第 1 回 | 社会の変化と介護福祉の歴史
介護福祉士誕生以前の介護 【講義】 |
| 第 2 回 | 社会の変化と介護福祉の歴史
家族機能の変化 【講義】 |
| 第 3 回 | 社会の変化と介護福祉の歴史
地域社会の変化と介護需要の増加 【講義】 |
| 第 4 回 | 社会の変化と介護福祉の歴史
介護福祉の発展 【講義】 |
| 第 5 回 | 介護の社会化
介護問題の複雑化・多様化と介護従事者の多様
化 【講義】 |
| 第 6 回 | 介護の社会化
地域社会を支える介護 【講義】 |
| 第 7 回 | 介護福祉の基本となる理念
尊厳と自立の支援：ノーマライゼーション 【講
義】 |
| 第 8 回 | 介護福祉の基本となる理念
尊厳と自立の支援：QOL（クオリティオブライ
フ）【演習】 |
| 第 9 回 | 介護福祉の基本となる理念
尊厳と自立の支援：自立支援・利用者本位 【講
義】 |
| 第 10 回 | 介護福祉の基本となる理念
自立支援の実践方法について 【演習】 |
| 第 11 回 | 介護福祉士の定義
社会福祉士及び介護福祉士法 【講義】 |
| 第 12 回 | 介護福祉士の役割と機能
実践現場のリーダーとしての役割 【講義】 |
| 第 13 回 | 介護福祉士の役割と機能
キャリアパス、教育研修体制・生涯研修 【講義】 |

- | | |
|--------|--|
| 第 14 回 | 地域社会における介護福祉士の役割
地域包括ケアシステムと多職種連携 【講義】 |
| 第 15 回 | 地域社会における介護福祉士の役割
地域共生社会について 【演習】 |
| 第 16 回 | 介護予防における介護福祉士の役割
介護予防と多職種連携協働 【講義】 |
| 第 17 回 | 介護予防における介護福祉士の役割
介護予防の実践について 【演習】 |
| 第 18 回 | 災害活動における介護福祉士の役割
災害時の地域と施設における役割 【講義】 |
| 第 19 回 | 災害活動における介護福祉士の役割
災害派遣福祉チーム（DCAT）【演習】 |
| 第 20 回 | 災害活動における介護福祉士の役割
事例に基づいた災害時での実践 【演習】 |
| 第 21 回 | 災害活動における介護福祉士の役割
事例に基づいた災害時での実践 【演習】 |
| 第 22 回 | 災害活動における介護福祉士の役割
災害時の介護福祉実践について 【演習】 |
| 第 23 回 | 終末期における介護福祉士の役割
在宅での終末期ケアと多職種連携協働 【講義】 |
| 第 24 回 | 終末期における介護福祉士の役割
施設での終末期ケアと多職種連携協働 【演習】 |
| 第 25 回 | 終末期における介護福祉士の役割
人生の最終段階における介護福祉士の役割 【演
習】 |
| 第 26 回 | 医療的ケアと介護福祉士の役割
医療的ケアと多職種連携協働 【講義】 |
| 第 27 回 | 介護福祉士を支える団体
日本介護福祉士会 日本介護福祉士養成施設協
会 日本介護学会【講義】 |
| 第 28 回 | 介護福祉士の倫理
職業倫理の意義 日本介護福祉士会倫理綱領
法令遵守 【講義】 |
| 第 29 回 | 介護福祉士の倫理
介護実践と倫理 【演習】 |
| 第 30 回 | 社会と地域が求める介護福祉
介護福祉士の役割のまとめ 【講義】 |

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：最新介護福祉士養成講座 3・4「介護の基本Ⅰ・Ⅱ」 中央法規

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[90%]、授業参加度・理解度・毎回のリアクション
ペーパーの提出[10%]

〔授業時間外学修〕

予習と復習は毎回30分程度を確保する。

〔オフィスアワー〕

昼休みは可能。その他については研究室ドアに明示。予約
は不要。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

介護老人保健施設（介護福祉士）6年、デイサービス（介護
福祉士）4年、居宅介護支援事業所（介護支援専門員）3年。
実務経験をもとに「介護の基本」科目を担当。

〔その他履修上の留意事項等〕

授業で配布した資料はファイルに保管して毎回持参する。

介護の基本Ⅱ

S833a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 介護福祉専攻 > 専門科目
1 年
4単位 後期
木曜 1限 木曜 2限
講義・演習
必修
科目ナンバリング502

菊池 小百合

〔授業の概要〕

生活の個別性と多様性を理解し、介護を必要とする人の自立支援の意義と、専門職としての役割と具体的な支援方法との関連性について認識する。多様な利用者についての理解を深めるために、講義と演習を踏まえて授業を行う。

〔到達目標〕

1 自立支援の意義と専門職の役割について説明できる。2 多様な自立支援の方法について述べる事ができる。3 介護を必要とする人と家族の生活上の課題と解決方法について説明できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

- | | |
|--------|---|
| 第 1 回 | 自立に向けた介護
介護福祉における自立支援の考え方と意義 |
| 第 2 回 | 自立に向けた介護
介護福祉における自立支援の考え方と意義 ライフサイクルに関する自己決定支援 |
| 第 3 回 | 自立支援と利用者理解
利用者理解の視点 |
| 第 4 回 | 自立支援と利用者理解
利用者理解の視点(ICF) |
| 第 5 回 | 自立支援と利用者理解
自立支援とエンパワメント |
| 第 6 回 | 自立支援と利用者理解
ストレングスとエンパワメント |
| 第 7 回 | 意思決定と支援方法
意思決定支援の意義と目的 介護者による支援 |
| 第 8 回 | 意思決定と支援方法
障がい者・認知症の人の意思決定支援 |
| 第 9 回 | 意思決定と支援方法
認知症の人に対する支援 |
| 第 10 回 | 意思決定と支援方法
障がいを持つ人に対する支援 |
| 第 11 回 | 社会参加の意義と活動
社会参加の意義と方法・生活意欲の向上 |
| 第 12 回 | 社会参加の意義と活動
「社会参加を阻むもの」についての理解 |
| 第 13 回 | 介護予防とその方法
介護予防の意義と支援方法(栄養、運動、口腔ケア) |
| 第 14 回 | 介護福祉と隣接領域との関係
協働する多職種の役割と機能 リハビリテーションと介護福祉 |

- | | |
|--------|---|
| 第 15 回 | 就労支援
就労支援の意義 介護福祉と就労支援との関係 |
| 第 16 回 | 地域社会との関わり方
自立と生活支援のための家族・地域との関わり |
| 第 17 回 | 自立のための生活環境
生活環境の整備と福祉のまちづくり |
| 第 18 回 | 自立のための生活環境
バリアフリー探検(街づくり) |
| 第 19 回 | 自立のための生活環境
バリアフリー探検(住環境) |
| 第 20 回 | 自立のための生活環境
ユニバーサルデザイン・グッズ |
| 第 21 回 | 介護を必要とする人の理解
生活の個別性と多様性への着目の意義 |
| 第 22 回 | 高齢者の生活支援
生活の個別性と多様性の把握 家族・地域との関わり |
| 第 23 回 | 高齢者の生活支援
生活の個性性と多様性の把握 生活支援の福祉サービス等 |
| 第 24 回 | 高齢者の生活支援
働くことの意味と地域活動 |
| 第 25 回 | 障がい者の生活支援
生活の個性性と多様性の把握 生活支援の福祉サービス等 |
| 第 26 回 | 障がい者の生活支援
家族・地域との関わり 働くことの意味と地域活動 |
| 第 27 回 | 家族介護者への支援
家族介護とは 家族介護の多様性 |
| 第 28 回 | 家族介護者への支援
家族介護者を支える意義 介護者家族の会の活動 |
| 第 29 回 | 家族介護者への支援
家族介護者を支える介護福祉士の役割 |
| 第 30 回 | 自立支援と利用者理解
介護を支える専門職と倫理 意思決定支援 |

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：

「介護の基本Ⅰ」「介護の基本Ⅱ」中央法規
「福祉小六法(2023年版)」(株)みらい

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[60%]，課題提出[40%]

〔授業時間外学修〕

予習15分程度：テキストの章を読む。復習30分程度：配布した資料・テキストの対象ページの整理等

〔オフィスアワー〕

ドアにオフィスアワーの表示がある時

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

総合病院看護師・介護老人保健施設看護師・介護支援専門員として30年以上の実務経験

〔その他履修上の留意事項等〕

リファレンスカードに感想・質問等を書いて提出してください。

コミュニケーション技術Ⅰ

S839a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 介護福祉専攻 > 専門科目
1 年
1 単位 前期
月曜 3 限
講義・演習
必修
科目ナンバリング 511

佐藤 志穂

〔授業の概要〕

この授業では、本人、家族等との関係性の構築やチームケアを実践するための、コミュニケーションの基礎的な知識・技術を習得する。要介護者の心理と環境を理解し、それに基づいて介護者として求められるコミュニケーションのあり方を体得する。さらに、利用者の家族とのコミュニケーション、同僚や他職種との協同におけるコミュニケーション能力を高めること等を目的とする

〔到達目標〕

コミュニケーションの意義と目的、基本的な技法を学ぶとともに、要介護者本人が置かれている状況を理解しながら支援者との関係性の構築や、意思決定に基づく支援の在り方を学ぶ。要介護者の家族が置かれている状況・場面を理解し、家族への支援やパートナーシップを構築するためのコミュニケーションの基本的な技法を習得する

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP1、DP2、DP3

〔授業計画〕

- 第 1 回 介護を必要とする人とのコミュニケーション 1
コミュニケーションの意義と目的 [講義・演習]
- 第 2 回 介護を必要とする人とのコミュニケーション 2
コミュニケーションの基本、ジョハリの窓
信頼関係の構築 [講義・演習]
- 第 3 回 介護を必要とする人とのコミュニケーション 3
介護におけるコミュニケーションの役割
ラポール利用者理解
介護実践の基盤
共感的理解と意思決定支援
[講義・演習]
- 第 4 回 コミュニケーションの実際 1
介護福祉士に求められるコミュニケーション技術
[講義・演習]
- 第 5 回 コミュニケーションの実際 2
傾聴と共感 話を聞く技術 [講義・演習]
- 第 6 回 コミュニケーションの実際 3
感情を察する技術 共感から応答へ
意欲を引き出す技術 [講義・演習]
- 第 7 回 コミュニケーションの実際 4
要約、リフレーミング 意向の表出を支援する技術
納得と同意を得る技術 [講義・演習]
- 第 8 回 コミュニケーションの実際 5
質疑の技法オープンクエスションとクローズドク
エスション [講義・演習]

- 第 9 回 コミュニケーションの実際 6
相談・助言・指導の技法
①利用者から相談を受けるとき [講義・演習]
- 第 10 回 コミュニケーションの実際 7
相談・助言・指導の技法
②バイステックの 7 原則 [講義・演習]
- 第 11 回 介護における家族とのコミュニケーション 1
家族とのコミュニケーション①
信頼に基づく協力関係の構築 / 介護実践の基盤 /
介護実践の基盤 [講義・演習]
- 第 12 回 介護における家族とのコミュニケーション 2
家族の意向の表出と気持ちの理解
本人と家族の意向を調整する技法
①異なる意向の背景を考える [講義・演習]
- 第 13 回 家族とのコミュニケーションの実際 1
情報共有 2) 話を聞く技法 [講義・演習]
- 第 14 回 家族とのコミュニケーションの実際 2
複数の利用者がある場面でのコミュニケーション
技法
①施設などの場合に注意すべきこと [講義・演習]
- 第 15 回 グループワークとコミュニケーション
グループダイナミックスを知る [講義・演習]

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「コミュニケーション技術」中央法規（コミュニケーション技術Ⅰ・Ⅱ 共通）

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[60%]，課題提出[40%]

レポートや課題には、採点とコメントを付して返却する

〔授業時間外学修〕

毎回30分は確保すること。

〔オフィスアワー〕

講師控室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

世代を問わず、国内外延べ5万人以上へ講演会実績。コミュニケーションスキルや自己肯定感を持ち、人間力を高め
てゆける介護士を育てたい。レクリエーションインストラ
クター/グループワークトレーニング協会所属/幼児教育歴24
年。

〔その他履修上の留意事項等〕

コミュニケーション技術Ⅱ

S841a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 介護福祉専攻 > 専門科目

1 年

1単位 後期

火曜 4限

講義・演習

必修

科目ナンバリング512

唐澤 千登勢

〔授業の概要〕

この授業では、コミュニケーション障害がある人の特性と支援の基本およびコミュニケーションによる支援関係の構築やチームケアを実践するための意義や技法をロールプレイやペアワークの体験から学びます。

〔到達目標〕

1. 障害をもつ対象者のコミュニケーション状態をアセスメントできる。
2. 障害の特性に応じた介護コミュニケーションの方法が説明できる。
3. チームにおけるコミュニケーション技法が理解できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2、DP 3

〔授業計画〕

- 第 1 回 障害の特性に応じたコミュニケーション
介護実践の基礎としてのコミュニケーション
介護コミュニケーションの過程
- 第 2 回 視覚障害がある人とのコミュニケーション
アセスメントと支援【ペアワーク】
クロックポジション
- 第 3 回 聴覚障害がある人とのコミュニケーション
アセスメントと支援【ペアワーク、個人ワーク】
文字盤作成、文字盤使ったコミュニケーションの
体験、介護コミュニケーション
- 第 4 回 構音、失語症がある人とのコミュニケーション
DVD鑑賞、事例の情報収集、観察記録。【GWー
①】
- 第 5 回 構音、失語症がある人とのコミュニケーション
コミュニケーション過程のアセスメント【GWー
②】
- 第 6 回 構音、失語症がある人とのコミュニケーション
コミュニケーション支援のロールプレイ
リフレーミング・アサーション
- 第 7 回 認知症がある人とのコミュニケーション (1)
認知症の種類・重症度別コミュニケーションの特
徴
- 第 8 回 認知症がある人とのコミュニケーション (2)
認知症ケアの理念とコミュニケーション支援技術
パーソンセンタードケア。ヴァリデーション。
- 第 9 回 認知症がある人とのコミュニケーション (3)
コミュニケーション支援のロールプレイ
リフレーミング・アサーション
- 第 10 回 高次脳機能障害とコミュニケーション支援

半側空間無視、遂行機能、社会的行動障害と生活
支援コミュニケーション

- 第 11 回 発達障害がある人とのコミュニケーション
DVD鑑賞：生活支援コミュニケーション
コミュニケーションボードブックの製作（演習）
- 第 12 回 介護におけるチームのコミュニケーション (1)
「連絡・報告・相談」技術と促進する環境づくり
- 第 13 回 介護におけるチームのコミュニケーション (2)
介護記録の意義、目的、種類、方法と書き方
- 第 14 回 介護におけるチームのコミュニケーション (3)
情報共有の意義、目的、説明技法
グループワーク資料作成・プレゼンテーション
- 第 15 回 介護におけるチームのコミュニケーション (4)
ICTの活用、まとめ

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「コミュニケーション技術」中央法規（コミュ
ニケーション技術Ⅰ・Ⅱ 共通）

参考図書：「アサーションの心。自分も相手も大切にするコ
ミュニケーション」朝日選書

「介護記録の書き方&文例集」西東社

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[50%]、ペアワークへの取り組み[20%]、リアクシ
ョンペーパー[30%]

〔授業時間外学修〕

教科書や配布資料、学修支援システムを活用し予習復習を
してください。（30分）

〔オフィスアワー〕

授業日の16：30～17：30、その他研究室在室時。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

老人専門病院（6年）、介護老人福祉施設（3年）における看
護の実務経験をもとに加齢や疾患・障害によるコミュニケ
ーションの不自由やその支援について講義する。

〔その他履修上の留意事項等〕

この授業では、自由で安心な学び場を作りつつ、コミュニ
ケーションを通じてお互いを知り、お互いから学びあうこ
とを期待しています。

発達と老化の理解 I

S881a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 介護福祉専攻 > 専門科目
1 年
2 単位 前期
月曜 4 限
講義・演習
必修
科目ナンバリング 513

倉田 郁也

〔授業の概要〕

この授業では、ライフサイクルの各期における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題、各期における特徴的な疾病を理解する。命の誕生から老年期に至るまでの心身の発達や成長・成熟・生理的变化を自己の生活体験や高齢者体験と重ね合わせイメージすることにより介護サービスの対象者理解につなげることを目指す。

〔到達目標〕

学生が、

1. ライフサイクル各期の特徴や発達課題が説明できる。
2. 発達段階別の特徴的な疾病や障害が理解できる。
3. 老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化と日常生活に及ぼす影響が理解できる。
4. 健康の維持・増進を含めた老年期をめぐる今日的課題への対応について自分の考えを説明できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

全て講義

第1回：「人間の成長と発達の基礎的理解①」人間の成長と発達

第2回：「人間の成長と発達の基礎的理解②」臨界期

第3回：「人間の成長と発達の基礎的理解③」内的・外的要因

第4回：「高齢期の発達課題①」―特性・喪失体験―

第5回：「高齢期の発達課題②」―セクシュアリティ―

第6回：「社会からみた老年期①」超高齢社会

第7回：「社会から見た老年期②」老いの態度・自覚

第8回：小テスト（人間の成長発達・高齢期の発達課題、社会からみた老年期）

第9回：「高齢者の心理①」死に方

第10回：「高齢者の心理②」死への態度

第11回：「老化に伴う心と身体の変化と日常生活①」

第12回：「老化に伴う心と身体の変化と日常生活②」「心の老化」

第13回：「老化に伴う心と身体の変化と日常生活③」「鬱病・統合失調症」

第14回：「老化に伴う日常生活」防衛機制

第15回：「発達理論」

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「発達と老化の理解」中央法規（発達と老化の理解Ⅰ・Ⅱ 共通）

参考文献：「発達と老化の理解」メヂカルフレンド社

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[50%]、小テスト[50%]

〔授業時間外学修〕

次回の授業のテーマをテキスト等で調べ、概要を理解しておくこと。予習時間は、30分以上確保すること。

〔オフィスアワー〕

火曜日14：00～18：00。カウンセリングルームにて。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

専門用語などは、図書館にある参考文献を読むなどして理解しておくこと。

発達と老化の理解Ⅱ

S882a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 介護福祉専攻 > 専門科目
1 年
2単位 前期
金曜 1限
講義・演習
必修
科目ナンバリング514

唐澤 千登勢

〔授業の概要〕

人間の一生の中での老年期を成長発達（加齢）の観点から学びます。授業では加齢に伴う心身の変化や高齢者に多い症状・疾患の特徴、健康の維持・増進を含めた生活を支援するための基礎的知識の習得を目指します。

〔到達目標〕

1. 老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化が説明できる。
2. 高齢者に多い症状や疾患の特徴と生活上の留意点が理解できる。
3. 高齢者の介護予防に関する課題と支援について自分の考えを述べることができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2、DP 3

〔授業計画〕

- 第 1 回 老化に伴うところとからだの変化と生活（1）
長寿化の背景と健康。
高齢者の健康課題、健康施策、エイジング。
- 第 2 回 老化に伴うところとからだの変化と生活（2）
心身機能の変化と生活の不自由。【演習】
高齢者模擬体験（目と耳）。ポスター作製。
- 第 3 回 老化に伴うところとからだの変化と生活（3）
老化に伴う変化、社会参加、閉じこもり。【演習】
疾病予防と管理、ポリファーマシーの問題。
- 第 4 回 高齢者に多い病気の特徴と生活上の留意点（1）
高齢者に特有な病気の現われ方。【演習】
老年症候群、廃用症候群、フレイル。
- 第 5 回 高齢者に多い病気の特徴と生活上の留意点（2）
骨粗鬆症の症状と治療。
骨折の症状と治療、転倒評価。
- 第 6 回 高齢者に多い病気の特徴と生活上の留意点（3）
変形性関節症、関節の変形、痛み、治療。
関節リウマチ、こわばり・痛みと腫れ、治療。
- 第 7 回 高齢者に多い病気の特徴と生活上の留意点（4）
糖尿病、低血糖・高血糖症状、治療。
- 第 8 回 高齢者に多い病気の特徴と生活上の留意点（5）
パーキンソン病の概要、原因、4つの症状。
ホーエンヤールの重症度分類、薬物療法。
- 第 9 回 高齢者に多い病気の特徴と生活上の留意点（6）
高血圧症、狭心症、不整脈の原因、症状、治療。
心筋梗塞、心不全の症状と治療、生活の工夫。
- 第 10 回 高齢者に多い病気の特徴と生活上の留意点（7）
肺炎、慢性閉塞性肺疾患の症状、治療。
息苦しさや生活場面に応じた呼吸の仕方・工夫

- 第 11 回 高齢者に多い病気の特徴と生活上の留意点（8）
前立腺肥大症、慢性腎不全の概要、症状、治療。
尿路感染症の症状、治療、生活の工夫。
- 第 12 回 高齢者に多い病気の特徴と生活上の留意点（9）
高齢者のうつ、統合失調症
- 第 13 回 高齢者に多い病気の特徴と生活上の留意点（10）
消化性潰瘍、ピロリ菌、治療、生活の工夫。
悪性腫瘍の概要、検査と治療。
- 第 14 回 高齢者の感染症とその予防
疥癬、インフルエンザ、感染性胃腸炎。
- 第 15 回 高齢者の生活機能評価と介護予防
ワクチンの目的と種類、接種の判断、IC
生活機能評価、介護予防。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「発達と老化の理解」中央法規

（発達と老化の理解Ⅰ・Ⅱ 共通）

参考図書：①「生涯現役社会のつくり方」ソフトバンク新書。②「老年症候群」の診察室超高齢社会を生きる」朝日選書。
※適宜、理解を深めるためにPP資料を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[70%]、レポート課題[15%]、リアクションペーパー[15%]

※課題やプレゼンテーション資料にはコメントを加えて返却する。

〔授業時間外学修〕

テキストや配布資料、学修支援システムを活用して予習復習をして下さい。（30分）

〔オフィスアワー〕

月曜日・火曜日（16：00～17：00）

その他（研究室在室時）

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

老人専門病院（6年）や介護老人福祉施設等（3年）での看護実務経験をもとに、発達と老化の特徴、高齢者に多い病気・症状について講義する。

〔その他履修上の留意事項等〕

・高齢者を取り巻く社会状況は急速に変化しています。新聞や電子媒体などで高齢者の保健・医療に関するニュースに目を通す習慣をつけましょう。

認知症の理解 I

S883a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 介護福祉専攻 > 専門科目
1 年
2単位 前期
火曜 4限
講義・演習
必修
科目ナンバリング515

菊池 小百合

〔授業の概要〕

認知症を取り巻く状況、認知症ケアの歴史や理念、利用者本位のケアの視点や関り等について学ぶ。また認知症の原因となる主な疾患や症状の特徴を学び、それらによって引き起こされる脳の機能の変化や、日常生活への影響とケアのあり方について理解する。さらに認知症の人が抱える生活障害を的確に評価し、判断する力を養う。

〔到達目標〕

この授業を通して 1. 認知症に対する基礎的な知識と利用者本位のケアのあり方・ケアの理念について理解できる。 2. 認知症ケアの歴史、現状と今後の課題について理解できる。 3. 認知症の人の生活を支える専門職の視点と家族支援のあり方、地域サポート体制について理解できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 3

〔授業計画〕

- 第 1 回 認知症を取り巻く状況
認知症とは 認知症を取り巻く社会的環境 人口動向と認知症の人の将来推計
- 第 2 回 認知症ケアの歴史と理念
認知症ケアの歴史と理念 諸外国とわが国の歴史的背景「痴呆症」から「認知症」へと名称が変更した経緯
- 第 3 回 認知症ケアの歴史と理念
認知症ケアの理念・倫理・権利擁護 「パーソン・センタード・ケア」の理念・概念
- 第 4 回 認知症に関する行政の方針と施策
認知症のある人への支援対策（認知症施策総合戦略、権利擁護対策等）
- 第 5 回 認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解
認知症の特徴 ささまざまな症状（中核症状・BPSD の理解） 認知症の定義・診断基準
- 第 6 回 認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解
脳のしくみ 脳と認知症との関係 老化との関係
- 第 7 回 認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解
認知症の検査・診断（HDS-R、MMSE、FAST、DASC21など）
- 第 8 回 認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解
認知症と区別されるべき精神症状・うつ病、せん妄等
- 第 9 回 認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解
認知症の原因疾患と症状 アルツハイマー型認知症

- 第 10 回 認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解
血管性認知症 血管性認知症とアルツハイマー型認知症 混合型認知症
- 第 11 回 認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解
レビー小体型認知症
- 第 12 回 認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解
前頭側頭型認知症 その他（慢性硬膜下血腫、正常圧水頭症、アルコール性認知症等）
- 第 13 回 認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解
若年性認知症の理解 定義と現状 生活上の課題と必要な支援 家族への支援
- 第 14 回 認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解
認知症の治療 薬物療法（薬の作用・副作用）と非薬物療法
- 第 15 回 認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解
非薬物療法 認知症の人へのさまざまな関わり リアリティ・オリエンテーション（RO）回想法 音楽療法 バリデーション療法 聞き書き等

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「認知症の理解」中央法規（認知症の理解 I・II 共通）

参考文献：必要時に都度提示する。

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[60%]、小テスト[20%]、課題提出[20%]

〔授業時間外学修〕

予習15分程度：授業内容に沿ったテキストの章・説を読んで下さい。 復習30分程度：各回の授業で配布した資料及び対象のテキストページを確認し、ポイントの整理を行ってください。

〔オフィスアワー〕

研究室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

総合病院看護師・介護老人保健施設看護師・介護支援専門員として30年以上の実務経験。医療・介護の場での実務経験を基に、認知症について講義を行う。

〔その他履修上の留意事項等〕

各回の授業終了後、リファレンスカードに感想・質問等を書いて提出してください。

認知症の理解 II

S884a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 介護福祉専攻 > 専門科目
1 年
2 単位 後期
月曜 3 限
講義・演習
必修
科目ナンバリング 516

菊池 小百合

〔授業の概要〕

利用者個々の特性を踏まえた適切なケアを提供するための知識や支援方法、地域で生活する認知症の人とその家族の支援体制、多職種連携・協働のあり方について学ぶ。

〔到達目標〕

この授業を通して 1. 認知症の人を中心にとらえ、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解できる。2. 認知症の人の生活を支える家族支援のあり方、地域サポート体制のあり方について理解できる。3. 認知症の人の終末期とケアについて理解できる。4. 認知症予防に対する取り組みについて理解できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 3

〔授業計画〕

- 第 1 回 認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解
認知症の人の心理 認知症のある人の特徴的なこころの理解
- 第 2 回 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア
認知症ケアの実際 本人主体のケア（意思決定支援） パーソン・センタード・ケアに基づいた実践
- 第 3 回 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア
認知症に伴う生活への影響 認知症の人の生活上の障害 認知症の人の社会との関わりとの障害
- 第 4 回 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア
認知症の人のコミュニケーションの障害 コミュニケーション方法
- 第 5 回 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア
認知症の特性を踏まえたアセスメント 認知症の特性を踏まえたアセスメントツール（センター方式、ひもときシート等）
- 第 6 回 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア
認知症の人への生活支援（食事、排泄、入浴、清潔の保持）
- 第 7 回 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア
認知症の人への生活支援（休息と睡眠、活動など） 環境への配慮
- 第 8 回 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア
認知症の人の人生の最終段階のケア
- 第 9 回 認知症に関連する倫理的課題
認知症に関連する倫理的課題と尊厳の保持（虐待）

第 10 回 家族への支援

認知症の人を介護する家族の状況と実態 家族の認知症の受容過程での支援 家族の身体的、心理的、社会的負担

第 11 回 家族への支援

専門職の支援とレスパイトケア 家族会（認知症の人と家族の会等） 認知症の人を中心とした今後の課題

第 12 回 連携と協働

地域におけるサポート体制 地域包括ケアシステムにおける認知症ケア

第 13 回 連携と協働

まちづくり ボランティアや認知症サポーターの役割 認知症カフェ

第 14 回 連携と協働

多職種連携と協働 認知症の人が安心して暮らせるためのチームとは 地域包括ケアシステムからみた多職種連携と協働

第 15 回 認知症の予防と取り組み

認知症予防に対する考え方 認知症の危険因子 軽度認知障害（MCI）に対する取り組み

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「認知症の理解」中央法規（認知症の理解 I・II 共通）

参考文献：必要時に都度提示する。

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[60%]、小テスト[20%]、課題提出[20%]

〔授業時間外学修〕

予習15分程度：授業内容に沿ったテキストの章・説を読んで下さい。復習30分程度：各回の授業で配布した資料・テキスト対象ページを読み、ポイントを整理してください。

〔オフィスアワー〕

研究室ドアに「オフィスアワー」の表示をしている時。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

総合病院看護師・介護老人保健施設看護師・介護支援専門員として30年以上の実務経験。医療・介護の場での実務経験を基に、認知症について講義を行う。

〔その他履修上の留意事項等〕

各回の授業終了後、リファレンスカードに感想・質問等を書いて提出してください。

こころとからだのしくみ I

S887a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 介護福祉専攻 > 専門科目
1 年

4単位 前期

火曜 1限 火曜 2限

講義・演習

必修

科目ナンバリング517

唐澤 千登勢、倉田 郁也

〔授業の概要〕

この授業では生命や生活の営みを支えるこころとからだの成り立ちとしくみを学修する。からだをつくる諸器官の名前、形態と構造を系統的に学習するとともに、臓器や器官の主な働きと位置関係、連携を理解する。授業は、講義と演習（人体骨格模型やスケッチ演習、身体計測実技）で進め、介護実践の根拠となる基礎知識と技術の習得を目指します。

〔到達目標〕

1. 人体の構造・機能、器官の名称、位置関係が理解できる。
2. 消化器系、呼吸器系、循環器系の形態・機能、位置関係、臓器間連携を図示・説明できる。
3. 生命や生活の営みにこころとからだがどのように働くか理解できる。
4. 命の営みに触れる（生命徴候の観察・測定）体験と記録ができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2、DP 3

〔授業計画〕

- 第 1 回 健康とは何か [唐澤]
健康の定義、健康観、健康づくり、病気と介護
- 第 2 回 こころのしくみの理解 (3) [倉田]
人間の欲求とは何か
- 第 3 回 こころのしくみの理解 (2) [倉田]
自己概念と尊厳
- 第 4 回 こころのしくみの理解 (3) [倉田]
こころとは何か、こころを働かせる脳との関係
- 第 5 回 こころのしくみの理解 (4) [倉田]
こころのはたらき：学習・記憶・思考・夢
- 第 6 回 こころのしくみの理解 (5) [倉田]
感情：生活に占める喜び、怒り、哀しみ、恐れ。
- 第 7 回 こころのしくみの理解 (6) [倉田]
どのように意欲・動機づけられるのか
- 第 8 回 こころのしくみの理解 (7) [倉田]
適応と適応機制
- 第 9 回 こころのしくみの理解 (8) [倉田]
社会性を引き出すこころ：こころの発達
- 第 10 回 こころのしくみの理解 (9) [倉田]
社会性を引き出すこころ：いきることと死
- 第 11 回 からだのしくみの理解 (1) [唐澤]
細胞から臓器、そして個体（からだ）へ
細胞のしくみ、組織、皮膚と膜。
- 第 12 回 からだのしくみの理解 (2) [演習] [唐澤]

生命の証としてのバイタルサイン①

- 第 13 回 からだのしくみの理解 (3) [演習] [唐澤]
生命の証としてのバイタルサイン②
- 第 14 回 からだのしくみの理解 (4) [演習] [唐澤]
生命の証としてのバイタルサイン③
- 第 15 回 からだのしくみの理解 (5) [唐澤]
こころとからだの司令塔、脳・神経系
- 第 16 回 からだのしくみの理解 (6) [演習] [唐澤]
からだの形をつくる骨格系、骨格模型の作製
- 第 17 回 からだのしくみの理解 (7) [唐澤]
安全・安心・効率よく動かす関節・筋肉
- 第 18 回 からだのしくみの理解 (8) [唐澤]
外部刺激の出入システム管理を担う感覚器系
- 第 19 回 からだのしくみの理解 (9) [唐澤]
外部刺激の出入システム管理を担う感覚器系
- 第 20 回 からだのしくみの理解 (10) [唐澤]
暮らしと命の営みを保つ呼吸器系
- 第 21 回 からだのしくみの理解 (11) [唐澤]
暮らしと命の営みを保つ心血管系
- 第 22 回 からだのしくみの理解 (12) [唐澤]
暮らしと命の営みを保つ消化器系
- 第 23 回 からだのしくみの理解 (13) [演習] [唐澤]
暮らしと命の営み：器官系の連携と協働
- 第 24 回 からだのしくみの理解 (14) [演習] [唐澤]
暮らしと命の営み：器官系の連携と協働
- 第 25 回 からだのしくみの理解 (15) [演習] [唐澤]
暮らしと命の営み：器官系の連携と協働
- 第 26 回 からだのしくみの理解 (16) [唐澤]
命と種の保持に関わる腎・泌尿器系、生殖系
- 第 27 回 からだのしくみの理解 (17) [唐澤]
成長発達とこころとからだを整えるホルモン
- 第 28 回 からだのしくみの理解 (18) [唐澤]
活動と休息に係る自律神経
- 第 29 回 からだのしくみの理解 (19) [唐澤]
からだを病気から衛る免疫系
- 第 30 回 からだのしくみの理解 (20) [唐澤]
からだの自然治癒力を助ける薬について

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「こころとからだのしくみ」中央法規
（こころとからだのしくみ I・II 共通）

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[50%]、小テスト[30%]、課題提出[20%]

〔授業時間外学修〕

配布資料やテキスト、学習支援システムマナバコース（小テストを随時アップロードします）を活用して予習復習をして下さい。（30分）

〔オフィスアワー〕

唐澤：火曜日・水曜日（16：00～18：00）

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

（唐澤）医療機関での5年以上の看護の実務経験をもとにこころとからだのしくみについて講義する。

〔その他履修上の留意事項等〕

日々の生活の中にある自分の「こころとからだ」に触れ、この科目の理解を深めていきましょう。

こころとからだのしくみⅡ

S888a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 介護福祉専攻 > 専門科目
1 年

4単位 後期

火曜 1限 火曜 2限

講義・演習

必修

科目ナンバリング518

唐澤 千登勢

〔授業の概要〕

生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ、心身の機能低下や障害が日常生活に及ぼす影響を理解し、介護実践に必要とされる基礎的知識を修得します。

〔到達目標〕

ライフサイクルや生活場面で生じる不自由や障害の成り立ち、アセスメントの視点、多職種との連携が説明できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2、DP 3

〔授業計画〕

- | | |
|--|---|
| <p>第 1 回 移動に関連したこころとからだのしくみ (1)
科目ガイダンス
ポジショニング、ボディメカニクス、歩行。</p> <p>第 2 回 移動に関連したこころとからだのしくみ (2)
重心線、良肢位、体圧、身体計測・記録【演習】</p> <p>第 3 回 移動に関連したこころとからだのしくみ (3)
寝たきり、廃用症候群、褥創予防の計画【演習】</p> <p>第 4 回 移動に関連したこころとからだのしくみ (4)
移動の自立と意欲。プレゼンテーション【演習】</p> <p>第 5 回 移動に関連したこころとからだのしくみ (5)
移動の観察点、転倒の緊急対応。医療職と連携</p> <p>第 6 回 食事に関連するこころとからだのしくみ (1)
食事の意義。食事のしくみ。5大栄養素と水分。</p> <p>第 7 回 食事に関連するこころとからだのしくみ (2)
摂食・嚥下運動のしくみ。</p> <p>第 8 回 食事に関連するこころとからだのしくみ (3)
食欲不振、脱水・低栄養。治療食の種類と適用。</p> <p>第 9 回 食事に関連するこころとからだのしくみ (4)
食事の観察点、誤嚥窒息の緊急対応。医療連携。</p> <p>第 10 回 食事に関連するこころとからだのしくみ (5)
VHS「梅さんの1日」鑑賞。アセスメント【演習】</p> <p>第 11 回 排泄に関連するこころとからだのしくみ (1)
欲求。尊厳と羞恥。文化人類学的考察【演習】</p> <p>第 12 回 排泄に関連するこころとからだのしくみ (2)
尿便をつくる・ためる・排出するしくみ。</p> <p>第 13 回 排泄に関連するこころとからだのしくみ (3)
排泄障害の種類と特徴。失禁、便秘、下痢。</p> <p>第 14 回 排泄に関連するこころとからだのしくみ (4)
排泄障害の観察と支援。介護・医療職との連携。</p> <p>第 15 回 身じたくのこころとからだのしくみ (1)
口臭・洗顔のしくみ。</p> <p>第 16 回 身じたくのこころとからだのしくみ (2)</p> | <p>老化による身じたくの変化と観察点、予測と対応。</p> <p>第 17 回 身じたくのこころとからだのしくみ (3)
医療職と連携：鼻出血、義歯飲み込みの緊急対応</p> <p>第 18 回 入浴・清潔のこころとからだのしくみ (1)
入浴の作用、清潔保持の効果</p> <p>第 19 回 入浴・清潔のこころとからだのしくみ (2)
かゆみ、かぶれ、発疹のメカニズムと予防</p> <p>第 20 回 入浴・清潔のこころとからだのしくみ (3)
病気・症状や入浴行動に対応したケア</p> <p>第 21 回 入浴・清潔のこころとからだのしくみ (4)
医療職と連携：褥瘡、入浴事故の対応</p> <p>第 22 回 休息・睡眠のこころとからだのしくみ (1)
概日リズム。良い睡眠と睡眠負債のしくみ</p> <p>第 23 回 休息・睡眠のこころとからだのしくみ (2)
睡眠の質と生活習慣・睡眠環境。加齢と睡眠</p> <p>第 24 回 休息・睡眠のこころとからだのしくみ (3)
不眠・睡眠障害の種類と支援。睡眠日誌</p> <p>第 25 回 休息・睡眠のこころとからだのしくみ (4)
睡眠薬の種類。介護・医療職連携</p> <p>第 26 回 人生の最終段階にあるこころとからだ
死の捉え方、尊厳死、ACP、インフォームドコンセント、家族支援。</p> <p>第 27 回 死に対するこころの理解
死生観。「死」の受容プロセス。悲嘆とグリーフケア。</p> <p>第 28 回 死に向かうからだと全体的痛みの理解
トータルペインとその緩和。</p> <p>第 29 回 終末期から危篤状態、死後のからだの理解
バイタルサインの変化。死後のからだ。死亡診断。</p> <p>第 30 回 終末期における介護の役割と医療との連携</p> |
|--|---|

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「こころとからだのしくみ」中央法規（こころとからだのしくみⅠ・Ⅱ 共通）※適宜、理解を深めるためにPP資料を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[60%]、課題提出[25%]、リファレンスカード等[15%]

※課題(事例)・リファレンスカードにはコメントを加えて返却する。

〔授業時間外学修〕

テキストや配布資料、学修支援システムを活用して予習復習をしてください。(30分)

〔オフィスアワー〕

火曜日・金曜日(16:00~18:00)研究室在室時。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

老人専門病院や訪問看護での5年以上の実務経験を反映し、講義する。

〔その他履修上の留意事項等〕

・随時に学修支援システムマナバコースにドリル問題をアップロードします。指定期間内であれば、いつでもどこでも回答が可能です。自己学習に利用して下さい。

生活支援技術Ⅰ

S843a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 介護福祉専攻 > 専門科目

1 年

1 単位 前期

月曜 1 限 月曜 2 限

演習

選択

科目ナンバリング521

関口 昌利、工藤 かすみ

〔授業の概要〕

この授業では、I C F の視点を生活支援に活かし、自立に向けた休息・睡眠・ベッドメイキング、移動・移乗、食事・口腔ケアの介護についての基礎的な知識と技術を習得し、実践の根拠について説明できる能力を身につける。

〔到達目標〕

1) I C F の視点をもって根拠に基づいた生活支援技術を実践できる。 2) 心身ともに負担が少ない移動・移乗介護の知識と技術を習得できる。 3) 介護の原則に則り自立に向けた食事介護の知識と技術を習得できる。 4) 自立に向けた休息・睡眠の介護の知識と技術を習得できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

- | | |
|--------|--|
| 第 1 回 | 生活支援の理解
生活支援の意義と目的、I C F を活用した根拠に基づく生活支援技術 【講義】 |
| 第 2 回 | 生活支援の理解
自己決定、観察・準備・評価 多職種連携協働 【講義】 |
| 第 3 回 | 休息・睡眠の介護
休息・睡眠の意義と目的 【講義】 |
| 第 4 回 | 休息・睡眠の介護
安眠を促す介護、睡眠障害の対応 【講義】 |
| 第 5 回 | 休息・睡眠の介護の基本となる知識と技術
事故への対応、睡眠環境の整備 【演習】 |
| 第 6 回 | 休息・睡眠の介護の基本となる知識と技術
安眠を促す方法、寝具の選択、リネン類のたたみ方 【演習】 |
| 第 7 回 | 休息・睡眠の介護の基本となる知識と技術
ベッドメイキング：三角コーナー 【演習】 |
| 第 8 回 | 休息・睡眠の介護の基本となる知識と技術
ベッドメイキング：シーツ交換 【演習】 |
| 第 9 回 | 自立に向けた移動の介護
移動の意義と目的、ボディメカニクス 【演習】 |
| 第 10 回 | 自立に向けた移動の介護
高齢者疑似体験、福祉用具の活用 【演習】 |
| 第 11 回 | 移動介護の基本となる知識と技術
事故の対応、環境整備、起居動作の基本 【演習】 |
| 第 12 回 | 体位変換の介護の基本となる知識と技術
寝返り・上方移動・水平移動、スライディングシートの活用 【演習】 |
| 第 13 回 | 体位変換の介護の基本となる知識と技術 |

起き上がり・座位保持・立ち上がり・立位保持の介助 【演習】

- | | |
|--------|---|
| 第 14 回 | 体位変換の介護の基本となる知識と技術
ポジショニングとシーティングの基本 【演習】 |
| 第 15 回 | 車いすの介護の基本となる知識と技術
ベッド⇄車いすの移乗介助の基本 【演習】 |
| 第 16 回 | 車いすの介護の基本となる知識と技術
ベッド⇄車いすの移乗介助 【演習】 |
| 第 17 回 | 車いすの介護の基本となる知識と技術
段差昇降、坂道・スロープの上り下り、障害物の越え方 【演習】 |
| 第 18 回 | 車いすの介護の基本となる知識と技術
屋外移動、エレベーターの乗降介助 【演習】 |
| 第 19 回 | 歩行の介護の基本となる知識と技術
歩行介助、杖歩行の基本 【演習】 |
| 第 20 回 | 歩行の介護の基本となる知識と技術
階段昇降、杖歩行の障害物の越え方 【演習】 |
| 第 21 回 | 自立に向けた食事の介護
食事の意義と目的、介護の視点 【演習】 |
| 第 22 回 | 自立に向けた食事の介護
咀嚼と嚥下の仕組みの理解 【演習】 |
| 第 23 回 | 食事の介護の基本となる知識と技術
自助具の活用と環境の整備、感染予防 【演習】 |
| 第 24 回 | 食事の介護の基本となる知識と技術
適切な姿勢、誤嚥・窒息・脱水の予防 【演習】 |
| 第 25 回 | 食事の介護の基本となる知識と技術
嚥下困難食とトロミづけ 【演習】 |
| 第 26 回 | 食事の介護の基本となる知識と技術
嚥下困難利用者の自助具の活用 【演習】 |
| 第 27 回 | 食事の介護の基本となる知識と技術
椅座位・車いす座位の食事・水分摂取 【演習】 |
| 第 28 回 | 食事の介護の基本となる知識と技術
ベッド臥位・半座位での食事・水分摂取 【演習】 |
| 第 29 回 | 食後の介護の基本となる知識と技術
口腔ケアの介助方法 【演習】 |
| 第 30 回 | 自立に向けた食事の介護
基本となる知識と技術のまとめ 【演習】 |

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：最新介護福祉士養成講座 6・7 「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」 中央法規

〔成績評価の方法・基準〕

筆記試験[50%]、実技試験[40%]、演習参加度・理解度・毎回のリアクションペーパーの提出[10%]

〔授業時間外学修〕

予習と復習は、毎回30分程度を確保する。

〔オフィスアワー〕

昼休みは可能。その他研究室に明示。事前予約は不要。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

（関口）介護老人保健施設（介護福祉士）6年、デイサービス（介護福祉士）4年、居宅介護支援事業所（介護支援専門員）3年。実務経験をもとに「生活支援技術」科目を担当する。

〔その他履修上の留意事項等〕

授業で配布した資料をファイルに保管して毎回持参する。

生活支援技術Ⅱ

S845a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 介護福祉専攻 > 専門科目
1 年
1 単位 後期
月曜 1 限 月曜 2 限
演習
選択
科目ナンバリング522

関口 昌利、工藤 かすみ

〔授業の概要〕

この授業では、自立に向けた身じたく・整容・衣服着脱の介護と自立に向けた入浴・清潔保持の介護の基本的な知識・技術を習得し、実践の根拠について説明できる能力を身につける。

〔到達目標〕

1) 身じたくに関する自立に向けた生活支援の知識と技術を理解し実践できる。 2) 入浴清潔に関する自立に向けた生活支援の知識と技術を理解し実践できる。 3) 介護の基本原則に則り安全で個別性に配慮した生活支援技術を実践できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP 2

〔授業計画〕

- | | |
|--------|--|
| 第 1 回 | 自立に向けた身じたくの介護
身じたくの介護の意義と目的 【講義】 |
| 第 2 回 | 自立に向けた身じたくの介護
その人らしさ・社会性・生活習慣・装いの楽しみを支える視点 【講義】 |
| 第 3 回 | 身じたくの介護の基本となる知識と技術
福祉用具の活用、環境の整備 【講義・演習】 |
| 第 4 回 | 身じたくの介護の基本となる知識と技術
観察と状態把握、多職種連携協働 【講義・演習】 |
| 第 5 回 | 整容の介護の基本となる知識と技術
洗顔、整髪、ひげ・爪・耳の手入れ 【演習】 |
| 第 6 回 | 口腔内清潔の介護の基本となる知識と技術
歯みがき・ブラッシング、口腔内清拭 【演習】 |
| 第 7 回 | 口腔内清潔の介護の基本となる知識と技術
義歯の手入れと保管方法 【演習】 |
| 第 8 回 | 衣服着脱の介護の基本となる知識と技術
更衣の目的、アセスメントの視点 【講義・演習】 |
| 第 9 回 | 衣服着脱の介助
前開き上衣・ズボンの介助(椅座位・端座位) 【演習】 |
| 第 10 回 | 衣服着脱の介助
かぶり上衣・ズボンの介助(椅座位・端座位) 【演習】 |
| 第 11 回 | 衣服着脱の介助
かぶり上衣・ズボンの着脱(半座位) 【演習】 |
| 第 12 回 | 衣類着脱の介助
かぶり上衣・ズボンの介助(臥位) 【演習】 |
| 第 13 回 | 衣類着脱の介助
前開き上衣・ズボンの介助(臥位) 【演習】 |

- | | |
|--------|---|
| 第 14 回 | 衣類着脱の介助
前開き上衣・ズボンの介助(全介助) 【演習】 |
| 第 15 回 | 衣服着脱の介助
和式寝衣の着脱介助 【演習】 |
| 第 16 回 | 自立に向けた入浴・清潔保持の介護
入浴・清潔保持の意義と目的 【講義・演習】 |
| 第 17 回 | 自立に向けた入浴・清潔保持の介護
入浴・清潔保持の介護の視点、環境整備 【講義・演習】 |
| 第 18 回 | 入浴・清潔保持の介護の基本となる知識と技術
事故への対応、感染症の対応 【演習】 |
| 第 19 回 | 入浴・清潔保持の介護の基本となる知識と技術
入浴可否の判断、方法の選択、多職種連携協働 【演習】 |
| 第 20 回 | 個浴介護の基本となる知識と技術
個浴の出入浴動作・洗身・シャワーの基本 【演習】 |
| 第 21 回 | 個浴介護の基本となる知識と技術
片麻痺利用者の出入浴動作・洗身・洗髪 【演習】 |
| 第 22 回 | 機械浴介護の基本となる知識と技術
ストレッチャー式特殊浴槽の操作と手順 【演習】 |
| 第 23 回 | 機械浴介護の基本となる知識と技術
ストレッチャー式特殊浴槽の入浴体験 【演習】 |
| 第 24 回 | 機械浴介護の基本となる知識と技術
ストレッチャー式特殊浴槽の入浴体験 【演習】 |
| 第 25 回 | 入浴介護の基本となる知識と技術
入浴まとめ、全身清拭・陰部洗浄・陰部清拭 【演習】 |
| 第 26 回 | 清潔保持の介護の基本となる知識と技術
部分浴：手浴の介助 【演習】 |
| 第 27 回 | 清潔保持の介護の基本となる知識と技術
部分浴：足浴の介助 【演習】 |
| 第 28 回 | 清潔保持の介護の基本となる知識と技術
洗髪の介助の基本 【演習】 |
| 第 29 回 | 清潔保持の介護の基本となる知識と技術
洗髪介助の体験 【演習】 |
| 第 30 回 | 清潔保持の介護の基本となる知識と技術
洗髪体験・ドライヤーで髪を乾かす介助 【演習】 |

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：最新介護福祉士養成講座 6・7「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」 中央法規

〔成績評価の方法・基準〕

筆記試験[50%]、実技試験[40%]、演習参加度・理解度・毎回のリアクションペーパーの提出[10%]

〔授業時間外学修〕

予習と復習は、毎回30分程度を確保する。

〔オフィスアワー〕

昼休みは可能。その他については研究室に明示。事前予約は不要。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

(関口) 介護老人保健施設(介護福祉士)6年、デイサービス(介護福祉士)4年、居宅介護支援事業所(介護支援専門員)3年。実務経験をもとに「生活支援技術」科目を担当する。

〔その他履修上の留意事項等〕

授業で配布した資料をファイルに保管して毎回持参する。

生活支援技術Ⅲ

S847a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 介護福祉専攻 > 専門科目
1 年

1単位 後期

金曜 4限

演習

選択

科目ナンバリング523

関口 昌利、工藤 かすみ

〔授業の概要〕

この授業では、自立に向けた排泄に関する生活支援の基礎的な知識と技術を習得し、実践の根拠について説明できる能力を身につけることを目指す。

〔到達目標〕

1) 排泄に関する生活支援の知識と技術を理解し、実習に対応した演習ができる。 2) 利用者の心身の状況に応じた適切な排泄介助の方法を理解し実践できる。 3) 根拠に基づいた介護実践について説明できる。 4) 利用者の尊厳を重視した排泄介助の方法を理解し実践できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

- 第 1 回 自立に向けた排泄の介護
排泄の心理的・身体的・社会文化的意義と目的【講義】
- 第 2 回 自立に向けた排泄の介護
気がねない排泄を支える介護の視点、福祉用具の活用と安全安楽な環境の整備【講義】
- 第 3 回 排泄介護の基本となる知識と技術
変化の兆しに対する気づきと対応、事故と感染症予防への対応【講義・演習】
- 第 4 回 排泄介護の基本となる知識と技術
頻尿、尿失禁、便秘、下痢、便失禁に対する対応【講義・演習】
- 第 5 回 トイレでの排泄介護の基本となる知識と技術
歩行できる利用者のトイレへの誘導と排泄介助【演習】
- 第 6 回 トイレでの介護の基本となる知識と技術
歩行・立位保持が困難な人、車いすを利用している人の排泄介助【演習】
- 第 7 回 ポータブルトイレ使用の介護の基本となる知識と技術
残存機能を活用する介助方法、片麻痺利用者の介助方法【演習】
- 第 8 回 ポータブルトイレ使用の介護の基本となる知識と技術
ベッド上臥位から全介助で移乗・衣類着脱・排泄の介助をする方法【演習】
- 第 9 回 尿器を使用する介護の基本となる知識と技術
ベッド上臥位での排泄介助（男性用・女性用・受尿畜尿部別体型収尿器使用）【演習】

第 10 回 差し込み便器を使用する介護の基本となる知識と技術

ベッド上臥位での排泄介助【演習】

第 11 回 おむつを使用する介護の基本となる知識と技術
パンツ型紙おむつの介助方法【演習】

第 12 回 おむつを使用する介護の基本となる知識と技術
尿取りパッドの交換の方法（立位・臥位）【演習】

第 13 回 おむつを使用する介護の基本となる知識と技術
テープ式紙おむつの当て方（ベッド上臥位での介助）【演習】

第 14 回 おむつを使用する介護の基本となる知識と技術
テープ式紙おむつの交換（ベッド上臥位での介助）【演習】

第 15 回 おむつを使用する介護の基本となる知識と技術
布おむつの当て方と交換の方法、排泄介護のまとめ【演習】

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：最新介護福祉士養成講座 6・7 「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」 中央法規

〔成績評価の方法・基準〕

筆記試験[50%]、実技試験[40%]、演習参加度・理解度・毎回のリアクションペーパーの提出[10%]

〔授業時間外学修〕

予習と復習は、毎回30分程度は確保する。

〔オフィスアワー〕

昼休みは可能。その他については研究室に明示する。事前予約は不要とする。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

（関口）介護福祉士として老人保健施設に6年、デイサービスセンターに4年勤務。介護支援専門員として居宅介護支援事業所に3年勤務。実務経験をもとに生活支援技術について講義する。

〔その他履修上の留意事項等〕

授業で配布した資料をファイルに保管して毎回持参する。

障害の理解 I

S885a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 介護福祉専攻 > 専門科目
1 年
2単位 後期
金曜 1限
講義・演習
選択
科目ナンバリング525

菊池 小百合、唐澤 千登勢、林 宏二

〔授業の概要〕

障害のある人の生活を支援するという観点から、障害の概念や障害の心理的・医学的側面等、障害の特性に応じた基礎的知識を学ぶ。また、障害と地域との関りや、障害のある人の尊厳をもった生き方・人生・生活とは何かを考え、QOLを高める支援の有り様を検討する。授業は、医療・介護・福祉の場で先進的に活動する実務家教員によりオムニバスで進める。

〔到達目標〕

1. 障害の概念や障害の特性に応じた制度が説明できる。 2. 障害の医学的・心理的側面の基礎的知識が理解できる。 3. 障害のある人と家族の生活を地域で支えるための、多職種連携協働について自分の考えを説明できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP 2

〔授業計画〕

- | | |
|-------|--|
| 第 1 回 | 障害の基礎的理解
障害の捉え方、障害者とは、ICIDHからICFへの変遷、障害の統計的輪郭（担当：林） |
| 第 2 回 | 障害の基礎的理解
障害者福祉の基本理念 福祉理念の発展、思想（ノーマライゼーションなど）（担当：林） |
| 第 3 回 | 障害の基礎的理解
障害者福祉の現状と施策 障害者総合支援法、権威擁護、障害者の差別・虐待（担当：林） |
| 第 4 回 | 障害の基礎的理解
障害者の就労支援(ジョブコーチ、リワークプログラム、就労支援関連法律と制度)（担当：林） |
| 第 5 回 | 障害の医学的・心理的側面の基礎的理解
障害の心理的影響、受容過程、適応と適応機制、こどもと障害（担当：林） |
| 第 6 回 | 障害の医学的・心理的側面の基礎的理解
身体障害の定義・障害者の心理社会的特徴と支援 障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援 視覚・聴覚・言語障害の種類と原因（担当：菊池） |
| 第 7 回 | 障害の医学的・心理的側面の基礎的理解
肢体不自由の種類・原因、障害の特性に応じた支援（担当：菊池） |
| 第 8 回 | 障害の医学的・心理的側面の基礎的理解
内部障害の種類と原因、障害の特性に応じた支援（担当：菊池） |
| 第 9 回 | 障害の医学的・心理的側面の基礎的理解 |

内部障害の種類と原因、障害の特性に応じた支援（担当：菊池）

- | | |
|--------|--|
| 第 10 回 | 障害の医学的・心理的側面の基礎的理解
高次脳機能障害の種類・原因、障害の特性に応じた支援（担当：菊池） |
| 第 11 回 | 障害の医学的・心理的側面の基礎的理解
精神障害の種類・原因、心理的特徴と支援（担当：菊池） |
| 第 12 回 | 障害の医学的・心理的側面の基礎的理解
知的・発達障害の基本的理解、心理社会的特徴と支援（担当：菊池） |
| 第 13 回 | 障害の医学的・心理的側面の基礎的理解
難病の定義、種類と特性（担当：唐澤） |
| 第 14 回 | 障害を持つ人の介護における連携と協働
難病を持つ人と家族の生活を地域で支える（担当：唐澤） |
| 第 15 回 | 障害を持つ人の介護における連携と協働
難病を持つ人と家族の生活を地域で支える（担当：唐澤） |

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「障害の理解」中央法規

参考文献：「ここからだのしくみ」中央法規 「発達と老化の理解」中央法規 「最新介護福祉全書別巻1医学一般」メダカルフレンド社 「認知症になった私が伝えたいこと」大月書店 「チャレンジ多職種連携（在宅・地域版）」

※適宜、理解を深めるためにPP等の資料を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[50%]，小テスト[10%]，課題提出[20%]，プレゼンテーション[10%]，リファレンスカード提出[10%]

〔授業時間外学修〕

予習30分程度：授業内容に沿ったテキストの章・節を読んでください。

復習30分程度：各回の授業で配布した資料・テキスト対象ページを読み返してください。

〔オフィスアワー〕

菊池：研究室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。 唐澤：木曜日。研究室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

（菊池）総合病院看護師・介護老人保健施設看護師・介護支援専門員として30年以上の実務経験（唐澤）老人の医療・介護施設において5年以上の実務経験医療・介護の場での実務経験を基に、障害について講義を行う。

〔その他履修上の留意事項等〕

各回の授業終了後、リファレンスカードを提出してください。

介護過程Ⅰ

S857a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 介護福祉専攻 > 専門科目
1 年
2単位 後期
水曜 3限 水曜 4限
講義・演習
選択
科目ナンバリング601

永野 淳子

〔授業の概要〕

本授業は、介護過程を展開する意義と介護過程を展開するうえで必要な知識と技術を修得することを目指す。介護過程の各項目についての理解と情報分析の方法、介護過程を展開するうえで必要なチームアプローチやケアマネジメントとの関連など、介護過程の基礎の全般について講義・演習を行う。

〔到達目標〕

1. 介護過程の意義と目的について説明できる。
2. 収集すべき情報について列挙できる。
3. 情報分析の方法について説明できる。
4. 介護計画の立案における留意事項を列挙できる。
5. 評価の目的と方法について説明できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP2、DP3

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、介護過程の意義と目的
- 第 2 回 介護過程の意義と基礎的理解
- 第 3 回 情報収集の方法 介護過程を展開する上で必要な情報
- 第 4 回 情報収集の方法 情報収集の方法理解
- 第 5 回 情報の解釈・分析 情報分析の視点・方法
- 第 6 回 情報の解釈・分析 ICFを用いた分析
- 第 7 回 情報の関連づけ・統合
- 第 8 回 生活課題の明確化
- 第 9 回 介護計画の立案 介護計画の目標、支援内容と方法
- 第 10 回 介護計画の立案 支援内容と支援方法、留意点
- 第 11 回 利用者理解図作成の意義と目的
- 第 12 回 利用者理解図の書き方、情報収集の実施
- 第 13 回 情報収集の実施、収集する情報の理解
- 第 14 回 利用者の全体像の把握と生活上の課題
- 第 15 回 情報収集の方法、利用者理解図の作成方法についてのまとめ
- 第 16 回 実習（利用者理解図）の振り返り
- 第 17 回 利用者理解図の内容に基づいたアセスメント表の作成
- 第 18 回 利用者理解図の内容に基づく介護計画の立案1
- 第 19 回 利用者理解図の内容に基づく介護計画の立案2
- 第 20 回 利用者理解図の内容に基づく介護計画の立案3
- 第 21 回 介護計画の実施 留意点他
- 第 22 回 事例研究発表会の聴講
- 第 23 回 介護計画の評価 目的、方法

- 第 24 回 介護過程とチームアプローチ
- 第 25 回 多職種連携、ケアカンファレンス
- 第 26 回 自立に向けた介護過程の展開1 事例の分析
- 第 27 回 自立に向けた介護過程の展開2 事例の分析事例の情報分析と生活課題の明確化。
- 第 28 回 自立に向けた介護過程の展開3 事例の介護計画の立案
- 第 29 回 自立に向けた介護過程の展開4 事例の介護計画の立案
- 第 30 回 介護過程の基礎的理解のまとめ

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：介護福祉士養成講座編集委員会編集（2022）『最新介護福祉士養成講座9 介護過程 第2版』中央法規出版。
参考文献：障害者福祉研究会（編集）（2002）『ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改定版』中央法規出版。

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[70%]，課題提出[30%]

※提出された課題は、次回以降の授業においてコメントをつけて返却します。

〔授業時間外学修〕

予習：授業のテーマに沿ったテキストの章・節を読んでください（15分程）。

復習：各回の授業で配布した資料を読み返してください（15分程）。

〔オフィスアワー〕

水曜日（12：10-12：50）。ただし、会議等により対応ができない場合があります。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

介護福祉士として訪問介護、施設介護に5年間従事していた実務経験を踏まえ、介護過程の具体的な展開方法について指導を行います。

〔その他履修上の留意事項等〕

授業の進捗状況により、各回の授業内容が一部変更される場合があります。

介護総合演習Ⅰ

S863a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 介護福祉専攻 > 専門科目
1 年
1 単位 前期
水曜 4 限
演習
選択
科目ナンバリング611

唐澤 千登勢、関口 昌利、菊池 小百合、永野 淳子、
宮入 ひさ枝、工藤 かすみ

【授業の概要】

この授業は実習前・中・後を通じて開講されます。調べ学修やペアワーク、意見交換など多様な学修方法を使って、他科目で学んできた知識・技術と実習体験を関連づけて整理し、利用者や介護についての理解、考えを深めます。

【到達目標】

1. 実習における学修目標・行程・具体的行動が設計できる。
2. 佐久地域の特徴や住民(高齢者)の健康・介護・福祉に関する現状と課題が説明できる。
3. ペアワークを再構成し、介護コミュニケーションの価値、技術の考察ができる。
4. 地区調査や実習施設の取り組み、学びを関連づけて整理し、プレゼンテーションできる。
- 5.. 実習中の出来事やコミュニケーションの展開を振り返り学びと課題を記述できる。

【学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連】

DP2、DP3

【授業計画】

- 第 1 回 介護総合演習Ⅰの授業概要 [唐澤] [菊池]
1)介護総合演習の意義・目的、授業概要、課題の提出、実習との関連、2)介護福祉養成教育における介護実習の全体像、意義、区分、単位、学び方。
- 第 2 回 演習・実習での学びを設計する [唐澤]
実習で何を、どこで、だれと、どう学ぶのか、「学習計画」「実習記録」「カンファレンス」の設計と自己学修への役立てかた
- 第 3 回 知識と技術の統合(2) 地区調査1 [唐澤]
演習(PC室)：地域および住民の暮らしの理解(「佐久市の人口・高齢化率・世帯」「気候、土地、産業」「生活暦」等調査)とMAP作成
- 第 4 回 知識と技術の統合(3)：地区調査2 [唐澤]
演習(PC室)：地域および住民の健康・介護についての理解(「佐久市高齢者実態」「元気高齢者、要支援・要介護認定者」「高齢者の閉じこもりと介護予防」など調査)とMAP作成
- 第 5 回 知識と技術の統合(4)：地区調査3 [唐澤]
演習(PC・教室)：調べ学修の統合「MAP」作成、佐久地域在住高齢者の暮らしと介護
- 第 6 回 知識と技術の統合(5)：地区調査4 [唐澤]
演習(PC室)：地域の介護・福祉資源の理解(実習施設におけるサービス内容や利用者像、居宅介護や訪問介護の支援の視点、実習で学ぶ視点)

- 第 7 回 知識と技術の統合(6)：ゲストスピーカー
訪問介護事業所の特徴と役割：施設種別、概要、特色、サービス種類、働く人など
- 第 8 回 知識と技術の統合(7) ゲストスピーカー
演習：ロールプレイング(訪問時マナー、対話の留意点など)、場面の再構成と振り返り
- 第 9 回 知識と技術の統合(8)：実習施設の特徴 [唐澤]
通所介護事業所の施設種別、概要、特色、サービスの種類、働く人、地域貢献。
- 第 10 回 知識と技術の統合(9)：人間関係づくり [唐澤]
演習(6号館演習室) 介護コミュニケーションのロールプレイング、場面の再構成と振り返り
- 第 11 回 知識と技術の統合(10)：実習の学修設計 [唐澤]
学修目標・工程・具体的行動目標の立案
- 第 12 回 知識と技術の統合(11)：帰校日 [各担当]
1クールの実習内容の振り返り、学修到達状況の確認、2クールにむけての学修設計と相談
- 第 13 回 知識と技術の統合・介護の探求(1) [唐澤]
個人ワーク：実習内容の振り返り、学びと課題の確認と記述、プレゼンテーション資料の作成
- 第 14 回 知識と技術の統合・介護の探求(2) [唐澤]
GW：実習内容・学びと課題の確認と記述、プレゼンテーション資料の作成
- 第 15 回 実習報告会(3) [各担当]
プレゼンテーション：介護に関する学びと課題の共有、意見交換、まとめ、実習施設の特徴、地域・地区の特徴のMAP、学修内容と学び。

【テキスト・参考書・参考文献】

テキスト：「介護総合演習・介護実習」中央法規 「介護福祉実習要項(介護実習Ⅰ)」(介護実習Ⅰ 共通)
参考文献：「発達と老化の理解」「こころとからだのしくみ」「コミュニケーションの基礎」「介護の基本ⅠⅡ」中央法規
「最新介護福祉全書別巻1医学一般」メヂカルフレンド社
【成績評価の方法・基準】

①チームとしての活動と成果を評価[30%]：地区調査、報告会資料、発表。

②個人の活動と成果を評価：課題提出[30%]、レポート[20%]、小テスト[20%]

【授業時間外学修】

予習：指定授業回の学習計画を予め作成し、当該回に持参する。(30分程度) 復習：計画した個人ワーク実施の有無、授業での学びや気づき、課題を指定用紙に記録する。各回の授業で配布した資料を読み返す。(30分程度)

【オフィスアワー】

唐澤：火曜日・水曜日(16:00～18:00) その他(研究室在室時)

【実務経験のある教員等による授業科目】

(唐澤) 病院・福祉施設・訪問看護ステーションにおいて5年以上の実務経験をもとに演習・講義を行う。

【その他履修上の留意事項等】

この科目は少人数のグループ学習を基本とします。お互いをしり、お互いから学ぶことを大切にしてください。

介護総合演習Ⅱ

S865a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 介護福祉専攻 > 専門科目
1 年
1 単位 後期
月曜 4 限
演習
選択
科目ナンバリング 612

永野 淳子、関口 昌利、菊池 小百合、唐澤 千登勢、
宮入 ひさ枝、工藤 かすみ

【授業の概要】

本授業は、介護実習Ⅱを履修するにあたっての実習前後の指導を行う。介護実習Ⅱに取り組むにあたり必要とされる介護を必要とする人と生活を支援する上で必要な知識・技術・態度について学習する。実習後は、介護実習Ⅱでの学びの振り返り及び学びの共有を行い、自己の実習目標の達成状況と課題について明確にする。

【到達目標】

1. 実習施設（事業所）の機能と役割について説明できる。
2. 利用者の個性を踏まえた支援の必要性について述べるができる。
3. 介護実習での経験から、要介護者を支援するにあたり必要な知識・技術・態度について、具体的に述べるができる。
4. 介護実習での経験から、支援を行うにあたっての自己の課題を述べるができる。

【学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連】

DP2、DP3

【授業計画】

- 第 1 回 知識と技術の統合に向けて
オリエンテーション（介護総合演習Ⅱの概要・目標、スケジュール確認他）、介護実習Ⅱの目的。【講義／永野】
- 第 2 回 障がい者支援施設の理解 1
様々な障害と障害者支援施設等についての理解。【講義／永野】
- 第 3 回 障がい者支援施設の理解 2
実習目標と障害者支援施設等での実習との関係。【講義／永野】
- 第 4 回 認知症対応型共同生活介護 1
認知症の人と認知症高齢者グループホームについての理解。【講義／永野】
- 第 5 回 認知症対応型共同生活介護 2
実習目標とグループホーム実習との関係。【講義／永野】
- 第 6 回 介護実習Ⅱの準備 1
実習記録の書き方。【演習／永野】
- 第 7 回 介護実習Ⅱの準備 2
実習記録の書き方、利用者理解図の作成。【演習／永野】
- 第 8 回 介護実習Ⅱの準備 3
実習先施設の情報収集：実習施設の概要を把握する。【演習／永野】
- 第 9 回 介護実習Ⅱの準備 4

実習担当教員との打ち合わせ：実習施設の概要、施設指導者との連絡の取り方、実習先でのマナーなど。【演習／全員】

- 第 10 回 介護実習Ⅱの振り返り
介護実習Ⅱで体験した内容の分かち合い。【演習／全員】
- 第 11 回 認知症対応型共同生活介護のまとめ
認知症対応型共同生活介護での実習体験をレポートにまとめる。【演習／永野】
- 第 12 回 障害者支援施設等のまとめ
障害者支援施設等での実習体験をレポートにまとめる。【演習／永野】
- 第 13 回 発表準備
認知症対応型共同生活介護及び障害者支援施設、日中活動支援についての実習報告会の準備。【演習／永野】
- 第 14 回 発表1：認知症対応型共同生活介護
認知症対応型共同生活介護についての実習報告会の実施。【演習／全員】
- 第 15 回 発表2：障害者支援施設等
障害者支援施設、日中活動支援についての実習報告会の実施。【演習／全員】

【テキスト・参考書・参考文献】

テキスト：介護福祉士養成講座編集委員会（2022）『最新介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 第2版』中央法規。

「介護福祉実習要項（介護実習Ⅱ）」介護福祉実習要項（共通）」佐久大学信州短期大学部福祉学科介護福祉専攻。
参考文献：適宜紹介する。

【成績評価の方法・基準】

毎回のリアクションペーパー（manaba）の提出[20%]
課題提出[80%]

【授業時間外学修】

実習前：実習要項の精読をしてください。各回の授業内で配布された資料の見直しを行ってください。（20分程度）

実習後：実習記録の見直し、実習と関連する知識を他科目のテキストで確認してください。各回の授業内で振り返る実習内容について事前にまとめておいてください。（40分程度）

【オフィスアワー】

永野：水曜日（12：10-12：50）。ただし、会議等により対応できない場合があります。

【実務経験のある教員等による授業科目】

永野：介護福祉士として訪問介護、施設介護に5年間従事していた実務経験を踏まえ、介護実践の場（実習）での学び方について指導を行います。

【その他履修上の留意事項等】

本授業は、介護実習Ⅱの実習前後の指導を行います。そのため、介護実習Ⅱを履修する学生は、必ず本科目を履修してください。

授業の進捗状況により、各回の授業内容が一部変更になる場合があります。

介護実習Ⅰ

S871a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 介護福祉専攻 > 専門科目
1年

1単位 前期集中

実習

選択

科目ナンバリング613

唐澤 千登勢、関口 昌利、菊池 小百合、永野 淳子、
宮入 ひさ枝、工藤 かすみ

〔授業の概要〕

地域にある訪問介護・通所介護事業所で各3日間実習を行います。介護職員へのシャドー・ラーニング、本人・家族との関わりを通じたコミュニケーションや生活場面の一部に触れ、介護を利用する高齢者等の思いや願い、暮らしや住まいを理解する。

〔到達目標〕

- 1) 対象者や家族と積極的にコミュニケーションをとることができる。
- 2) 生活環境及び福祉用具など、住まいの安全性と快適さの配慮ができる。
- 3) 対象者個々のこころとからだの状況に応じた生活援助の必要性を理解できる。
- 4) 訪問介護・通所介護の場における介護職の役割を理解する。
- 5) 介護を学ぶ学生として責任ある行動をとることができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP2、DP3

〔授業計画〕

第1回 訪問介護事業所実習（1）

午前：施設内オリエンテーション（施設の概要、構造、実習上の注意点、利用者の背景、訪問介護の内容、介護保険サービスの種類など）、訪問先の情報収集

午後：介護職と同行訪問、実習日誌の記録、翌日の学習計画の打合せ

第2回 訪問介護事業所実習（2）

午前：介護職員と同行訪問、午前のまとめと午後の予定確認

午後：介護職員と同行訪問、実習日誌の記録、翌日の学習計画の打合せ

第3回 訪問介護事業所実習（3）

午前：介護職と同行訪問、午前のまとめと午後の予定確認

午後：介護職と同行訪問、実習日誌の記録、カンファレンス（実習のまとめ）

第4回 通所介護事業所実習（1）

午前：施設内オリエンテーション（施設の概要、地域の特徴、施設の構造・しつらえ、実習上の注意点、部門紹介、防災、感染対策、利用者背景など）

午後：利用者とのコミュニケーション、送迎、ミニカンファレンス

第5回 通所介護事業所実習（2）

午前：介護職とシャドーイング実習

午後：利用者とのコミュニケーション、日常生活支援の見学、利用者とともにアク

ティビティプログラムへの参加、送迎、実

習日誌、ミニカンファレンス

第6回 通所介護事業所実習（3）

午前・午後：送迎、利用者とのコミュニケーション、日常生活支援の見学・一部実施、利用者とともにアクティビティプログラムへの参加、最終カンファレンス

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「介護福祉実習要項（介護実習Ⅰ）」（介護総合演習Ⅰ 共通）

〔成績評価の方法・基準〕

介護福祉実習要項に記載する方法・基準により評価する。

〔授業時間外学修〕

実習中：カンファレンス資料（目安：1時間）

実習内容の振り返りと翌日の学習計画を作成する（目

安：30分）

〔オフィスアワー〕

介護実習期間中に1回以上の巡回指導を行います。

巡回指導以外に学修支援システムマナバコースを利用した相談・指導も可能です。

その他、実習担当指導教員のアナウンスを通じて利用ください。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

唐澤）老人専門病院、訪問看護において5年以上の看護実務経験をもとに実習指導に携わります。

〔その他履修上の留意事項等〕

実習要項をよく読み、日々の学習計画や記録を準備しましょう。

介護実習Ⅱ

S873a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 介護福祉専攻 > 専門科目
1年

2単位 後期集中

実習

選択

科目ナンバリング614

永野 淳子、関口 昌利、菊池 小百合、唐澤 千登勢、
宮入 ひさ枝、工藤 かすみ

〔授業の概要〕

本授業では、認知症対応型共同生活介護（5日）、障害者支援施設（5日）、就労支援事業所（2日）での合計90時間の実習を行う。本実習を通して、介護を必要とする人の心身の状態が生活に与える影響と生活上の課題について理解し、介護を行う上で必要な知識・技術・態度について学ぶ。

〔到達目標〕

1. 利用者の個別性について理解できる。
2. 利用者とのよりよいコミュニケーションの方法を理解し実践できる。
3. 介護実践を通して、利用者の心身の状態が生活に与える影響及び生活支援の影響について理解できる。
4. 施設職員の構成と業務内容及びその役割について理解できる。
5. 日々行った実習内容、指導内容及び学びを記録することができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP2、DP3

〔授業計画〕

〔認知症対応型共同生活介護（グループホーム）40時間（5日）〕

<1日目>

初日オリエンテーション、施設見学、利用者とのコミュニケーション。

<2日目>

日課にかかる支援の把握、利用者とのコミュニケーション、利用者理解図の作成（情報収集）。

<3日目>

地域における生活支援の実践と見学、利用者とのコミュニケーション、利用者理解図の作成（情報収集、シート作成）。

<4日目>

多職種協働の実践の見学、地域における生活支援の実践と見学、利用者理解図の作成（シート作成）。

<5日目>

地域における生活支援の実践の見学、最終カンファレンス。

〔障害者支援施設（入所）40時間（5日）〕

<1日目>

初日オリエンテーション、施設見学、利用者とのコミュニケーション。

<2日目>

日課にかかる支援の把握、利用者とのコミュニケーション。

<3日目>

地域における生活支援の実践と見学、多職種協働の実践の見学、利用者とのコミュニケーション。

<4日目>

多職種協働の実践の見学、利用者とのコミュニケーション。

<5日目>

多職種協働の実践の見学、利用者とのコミュニケーション、最終カンファレンス。

〔障害者支援施設（通所）10時間（2日）〕

<1日目>

初日オリエンテーション、事業所の見学、地域における生活支援の実践と見学、利用者とのコミュニケーション。

<2日目>

日課にかかる支援の見学、地域における生活支援の実践と見学、利用者とのコミュニケーション、最終カンファレンス。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「介護福祉実習要項（介護実習Ⅱ）」「介護福祉実習要項（共通）」佐久大学信州短期大学部介護福祉専攻
参考文献：適宜紹介します。

〔成績評価の方法・基準〕

実習施設による評価と実習担当教員が実習巡回指導等の状況を踏まえて総合的に評価する。

〔授業時間外学修〕

毎日の振り返りと翌日の目標・日課の確認を行ってください。

〔オフィスアワー〕

実習担当教員の指示に従ってください。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

永野：介護福祉士として訪問介護、施設介護に5年間従事していた実務経験を踏まえて実習指導を行います。

〔その他履修上の留意事項等〕

本科目（介護実習Ⅱ）を履修する学生は、介護総合演習Ⅱを必ず履修してください。

実習前後の期間並びに実習期間中は、実習担当教員との報告・連絡・相談を十分に行ってください。

医療的ケア I

S891a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 介護福祉専攻 > 専門科目
1 年
1 単位 後期
水曜 2 限
講義・演習
選択
科目ナンバリング621

宮入 ひさ枝

〔授業の概要〕

医療的ケア実施における、倫理上の原則および法律・制度等基本的知識を学び、介護福祉士の役割と他職種連携の必要性について理解する。安全な療養生活を継続するうえでのリスクマネジメントと救急蘇生法について学ぶ。

〔到達目標〕

この授業では医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得することが出来る。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

- 第 1 回 医療的ケア実施の基礎
(人間と社会) 介護職の専門的役割と医療的ケア、介護福祉士の倫理と医療の倫理
- 第 2 回 医療的ケア実施の基礎
(保健医療制度とチーム医療) 保健医療に関する法律・医療制度とその変遷、チーム医療
- 第 3 回 医療的ケア実施の基礎
(保健医療制度とチーム医療) 介護福祉士などが喀痰吸引等を行うに関わる制度・医行為の範囲と医療的ケアを実施できる条件・社会福祉士及び介護福祉士法以外の法制度・医療的行為に係る法律
- 第 4 回 医療的ケア実施の基礎
(安全な療養生活) 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施、リスクマネジメントと安全管理
- 第 5 回 医療的ケア実施の基礎
(安全な療養生活) リスクマネジメントとの考え方と枠組み、ヒヤリハット・アクシデント、救急蘇生
- 第 6 回 医療的ケア実施の基礎
(安全な療養生活) 救急蘇生法の実際・AED
(清潔保持と感染予防) 感染予防の基礎知識、感染とは、感染の予防策
- 第 7 回 医療的ケア実施の基礎
(清潔保持と感染予防) 手洗い方法、介護福祉職の感染予防
- 第 8 回 医療的ケア実施の基礎
(清潔保持と感染予防) 療養環境の清潔、消毒法、消毒と滅菌
(健康状態の把握) 身体・精神の健康、健康状態把握の必要性

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「医療的ケア」中央法規

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[60%]，小テスト[20%]，授業参加態度[20%]

〔授業時間外学修〕

予習：15分程度 対象となるテキストページを事前に読んでおくこと。復習：15分程度 学んだ内容について整理する事。その他メディア等から発信される医療的ケアを必要とする人々に対し関心を持つ事。

〔オフィスアワー〕

随時

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

看護師として39年間の実務経験をもとに、医療実践の場における医療的ケアについて講義する。

〔その他履修上の留意事項等〕

体調管理を行い遅刻・欠席しない様留意する事。

科目別シラバス

福祉学科

1年次生科目

子ども福祉専攻

専門科目

発展科目

資格科目

教育原理

S631a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 子ども福祉専攻 > 専門科目
1 年
2単位 後期
月曜 1限
講義・演習
選択
科目ナンバリング541

平野 忠男

〔授業の概要〕

本講義では、教育を原理的な視点で捉えることの必要性を説明しつつ、教育思想、教育史、教育に関する法制度および生涯学習体系の中での幼児教育の在り方について説明する。

〔到達目標〕

- ①教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わりについて理解する。
- ②教育の思想と歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する。
- ③教育の制度について理解する。
- ④教育実践の様々な取り組みについて理解する。
- ⑤生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

全て講義と演習

- 1 回：オリエンテーション（教育の意義）
- 2 回：教育の目的・教育の法律と行政
- 3 回：乳幼児期の教育の特性
- 4 回：教育と子ども家庭福祉の関連性
- 5 回：人間形成と家庭・地域社会
- 6 回：教育思想・歴史について①
- 7 回：教育思想・歴史について②
- 8 回：教育制度の基本
- 9 回：諸外国の教育制度①
- 10回：諸外国の教育制度②
- 11回：教育実践の基礎
- 12回：教育実践について②
- 13回：教育実践について③
- 14回：遊びを学ぶ
- 15回：生涯学習社会における教育の現状と課題

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「新基本保育シリーズ②教育原理」中央法規

参考文献：「保育学用語辞典」中央法規

：「保育所保育指針解説」フレーベル館

：「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

フレーベル館

：「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

〔成績評価の方法・基準〕

レポート[30%]、小テスト[30%]、授業態度・グループ発表等[40%]

・レポートはコメント等を付して返却する。

〔授業時間外学修〕

・子ども・福祉に関するニュースを新聞等で確認しておく。
事前にテキストを熟読しておく。

・グループワーク等の資料収集、パワーポイント作成等の時間に充てる。

・1回の授業あたり予習・復習・課題などを含めて、30～60分程度が望ましい。

〔オフィスアワー〕

研究室前に在室表示をしているとき。原則、事前予約はいらないが、確実に利用したい場合等は予約をすることを推奨する。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

保育士（6年勤務）、保育士養成校教員（9年勤務）の実務経験あり。実務経験を活かし、理論と実践の往還性を重視した授業を展開する。

〔その他履修上の留意事項等〕

・意欲的、積極的な取り組みを期待します。

・授業の進捗状況、受講生の状況等によって講義内容、順番を変更することがある。

・授業の進捗状況により、授業内容や方法が一部変更されることがある。

・状況に応じて、manaba、オクレンジャー、学生メール等で連絡事項を発信するため、各ツールのチェックを確実に行う。

子どもの保健Ⅰ

S632a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 子ども福祉専攻 > 専門科目
1 年
2単位 前期
金曜 2限
講義・演習
必修
科目ナンバリング531

小林 睦

【授業の概要】

子どもが健やかに成長し、快適に安全な状態で経験を積み重ね発達していくことができるような環境や養護について、根拠をもって検討できる力をつける。

【到達目標】

①子どもの健康のとらえ方が説明できる。②子どもの生活リズムを整える必要性が理解できる。③子どもの基本的生活行動自立へのかかわりを説明できる。④子どもの健康状態を知る方法が理解できる。⑤子どもへの健康教育を考える基礎知識を身に着ける。

【学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連】

DP2

【授業計画】

- 第 1 回 コースオリエンテーション 講義
子どもの健康とは 子どもの健康のとらえ方 子ども期の定義 子どもの健康を表す指標
- 第 2 回 子どもの成長発達 講義
成長発達の原則 子どもの成長発達に影響を及ぼす因子について 子どもの発育を評価する方法と乳幼児健診
- 第 3 回 現代社会の子どもの健康に関する現状と課題 講義
我が国の子どもの保健水準 母子保健 子どもの健康の課題
- 第 4 回 子ども（乳幼児）の身体発育と保健 講義
形態的成長 生理的機能発達 運動・感覚器機能の発達
- 第 5 回 乳幼児の生活習慣と健康① 生活リズム・睡眠 講義【橋本】
生活リズムの確立 子どもの睡眠 睡眠覚醒リズムの発達 睡眠に対する保健的対応 ＊小テスト①（授業1～4回）
- 第 6 回 乳幼児の生活習慣と健康② 衣類・清潔 講義【橋本】
体温調節機能 清潔の意義 環境・衣服の着脱の自立 清潔の自立
- 第 7 回 乳幼児の生活習慣と健康③ 食生活 講義
食事にかかわる消化機能 子どもにとっての栄養の意義 発達段階別の栄養・食生活の特徴
- 第 8 回 乳幼児の生活習慣と健康④ 食生活 講義
子どもにとって食事行動の意味 子どもの食事回数や食事の形態の変化 乳児の食事 幼児の食事 子どもの食事を取り巻く現状と課題

- 第 9 回 乳幼児の生活習慣と健康⑤ 排泄 講義【鈴木】
子どもの排泄機能と排泄の意味 子どもの水分代謝の特徴 子どもの排泄行動の自立と世話
- 第 10 回 子どもの健康支援①健康状態の観察 講義
子どもの健康状態の観察の方法 体温、呼吸、循環、体液調節、排泄 一般状態の観察のポイント 体調不良時の対応 ＊小テスト②（授業5～9回）
- 第 11 回 子どもの健康支援② 感染症 講義・演習
子どもの免疫と感染症の特徴 感染症発生時と罹患後の対応 予防接種 衛生管理 手洗い演習
- 第 12 回 子どもの健康支援③ アレルギー 講義・演習【鈴木】
アレルギー疾患の特徴 主なアレルギー疾患について（食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、気管支喘息）アトピー性皮膚炎の子どもの対応 気管支喘息の子どもの対応 アナフィラキシーショック時の対応 アドレナリンの自己注射製剤（エピペン）演習
- 第 13 回 子どもの事故 講義
我が国における事故の現状 子どもの行動や事故の特徴 虐待の現状 子どもの虐待への対応 子どもへの虐待防止への取り組み ＊小テスト③（授業10～12回）
- 第 14 回 子どもの健康についての検討① 演習
「子どもの健康について」小グループで検討しまとめ発表する
- 第 15 回 子どもの健康についての検討② 演習
「子どもの健康について」小グループで検討しまとめ発表する

【テキスト・参考書・参考文献】

テキスト：子どもの保健テキスト 診断と治療社

参考書：子どもの健康と安全演習ノート 診断と治療社

保育内容「健康」 ミネルヴァ

【成績評価の方法・基準】

定期試験[50%]，小テスト[30%]，最終課題提出[10%]，グループワーク参加度自己採点[10%]

提出課題には、教員がコメントをして返却します。

【授業時間外学修】

学習の手引き・ワークブック(教員作成)を活用し、授業前後1時間予習復習しましょう。

【オフィスアワー】

授業日の昼休み 質問などは下記にメールをください。

小林 m-kobayashi@ 鈴木 c-suzuki@

※@saku.ac.jp

【実務経験のある教員等による授業科目】

病院小児科での実務経験をもとに子どもの健康や発達について講義する。

【その他履修上の留意事項等】

わからないこと、疑問に思ったことは授業時質問してください。またはメールであらかじめアポイントメントをとって研究室を訪問してください。

保育者論

S633a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 子ども福祉専攻 > 専門科目
1 年
2単位 前期
月曜 2限
講義・演習
選択
科目ナンバリング532

鷹野 禮子

〔授業の概要〕

保育者の役割と倫理、保育者の制度的位置づけ、専門性、保育者の連携と協働、資質向上とキャリアアップ

〔到達目標〕

保育者としての資質形成に向けて、自ら学ぶ意欲を身に付ける。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

- 第 1 回 保育者の役割と職務内容 [講義]
- 第 2 回 保育者の倫理 [講義]
- 第 3 回 児童福祉法における保育士の定義 [講義]
- 第 4 回 保育士の専門性① [野外活動]
(資格・能力)
- 第 5 回 保育士の専門性② [講義]
(養護及び教育の一体的展開)
- 第 6 回 保育士の専門性③ [講義]
(保護者支援)
- 第 7 回 保育士の専門性④ [講義]
(保育の計画と評価)
- 第 8 回 保育士の専門性⑤ [講義]
(保育の質の向上)
- 第 9 回 保育士の専門性⑥ [保育園見学]
(子どもの表現活動を支える役割)
- 第 10 回 保育者の連携と協働① [演習・実習]
(保育における職員関係)
- 第 11 回 保育者の連携と協働② [講義]
(他の専門職及び専門機関)
- 第 12 回 保育者の連携と協働③ [講義]
(地域における自治体と関係機関)
- 第 13 回 保育者の専門性の向上とキャリア形成 [演習・実習]
- 第 14 回 保育者の資質向上に関する組織的な取り組み
[演習・実習]
- 第 15 回 まとめ [講義]

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「保育者論」萌文書林

テキスト：「スマホ社会の落とし穴」少年写真新聞社

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[50%]，小テスト[20%]，課題提出[20%]，その他（適正）[10%]

※課題等にはコメントをして返却します。

〔授業時間外学修〕

春の七草、大学キャンパスの草木、植物の種類など観察すること。

乳幼児期の言葉の獲得のために「絵本」の学ぶこと。

〔オフィスアワー〕

質問、疑問、その他適宜相談に応じます。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

保育に携わって50年。人格の基礎基本である乳幼児期の保育の重要性について具体的な事例、実習をしながらわかりやすい講義をしたい。

〔その他履修上の留意事項等〕

小雀保育園にて3歳児、4歳児、5歳児の表現活動を見学する。

絵本、昔ばなし、わらべ歌、伝承遊びなどの実践と理論を身に付けさせたい。

学生の感性を豊かに磨くため、自身の日常生活を整えるよう指導する。

笑顔で挨拶、豊かなコミュニケーション能力を身に付けた学生を育てたい。

保育の心理学

S634a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 子ども福祉専攻 > 専門科目
1 年
2単位 前期
月曜 3限
講義・演習
必修
科目ナンバリング533

倉田 郁也

〔授業の概要〕

この授業では、発達心理学の定義および発達心理学にかかわる基本的な用語の解説、および生涯にわたる発達について学ぶことを目指す。特に乳幼児期については、発達の知見に加え、学習の意義や実践的な保育への活用法について併せて学ぶ。

〔到達目標〕

学生が、

①発達心理学の定義、発達心理学を学ぶ意義、発達心理学の具体的知見、および発達心理学の実践的活用方法を示すことができる。

②発達心理学にかかわる基本的な用語を理解し、説明できる。特に乳幼児期の発達段階それぞれの時期の特徴について説明できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

全て講義

第1回：発達とは？：発達理論の理解、発達の意味について学ぶ。

第2回：胎児期・乳児期の発達①：生まれてくるまで、0～1歳の発達について

第3回：乳児期の発達②：1歳から2歳の期間について学ぶ。

第4回：幼児期の発達①：幼児期の身体的、認知機能の発達について学ぶ。

第5回：幼児期の発達②：幼児期の対人関係、社会性などについて学ぶ。

第6回：児童期の発達①：児童期の認知機能と社会性の発達について学ぶ。

第7回：児童期の発達②：学校への適応の問題や学習意欲について学ぶ。

第8回：小テスト（発達・胎児期・乳児期・幼児期・児童期）

第9回：思春期の発達：親との関係や思春期特有の問題について学ぶ。

第10回：青年期の発達：アイデンティティ、キャリア等の発達課題について。

第11回：成人期の発達①：仕事に就くこと、仕事上のストレス等を理解する。

第12回：成人期の発達②：親になること、子育て、児童虐待等について。

第13回：中年期の発達①：中年期の危機、アイデンティティ等、を理解する。

第14回：中年期の発達②：中年期の夫婦関係、老いること

について理解する。

第15回：老年期の発達：生きがいや認知症など含めて包括的に学ぶ。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

使用テキスト：指定せず。適宜プリントを配布する。

参考文献：岡本祐子（編集）、深瀬裕子（編集）『エピソードでつかむ生涯発達心理学（シリーズ生涯発達心理学1）』ミネルヴァ書房、2013。

水野 里恵『公認心理師ベーシック講座 発達心理学』講談社、2021。

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[50%]，小テスト[50%]

〔授業時間外学修〕

次の授業のテーマを参考文献等で調べ、概要を理解しておくこと。予習時間は、30分以上確保すること。

〔オフィスアワー〕

火曜日14：00～18：00。カウンセリングルームにて。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

専門用語などは、図書館にある参考文献を読むなどして理解しておくこと。

子ども家庭支援の心理学

S635a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 子ども福祉専攻 > 専門科目
1 年
2単位 後期
水曜 2限
講義・演習
必修
科目ナンバリング542

尾島 万里

〔授業の概要〕

子育て支援は、子どもとその家庭を支援することである。そのために乳幼児期のみならず成人期の心身の発達（生涯発達）について理解することを目指す。さらに保育所や地域における子育て支援事業を利用する子どもとその保護者に対する支援についても学習する。

〔到達目標〕

- ①生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、発達課題等について理解する。
- ②子どもの精神保健とその課題について理解する。
- ③家族・家庭の意義や機能を理解するとともに保護者の抱える問題や支援の在り方について理解する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

講義と演習形式で行う。

- 1 回 オリエンテーション
- 2 回 家族システムと家族発達
- 3 回 子どもの心の発達（認知能力を中心に）
- 4 回 子どもの心の発達（非認知能力を中心に）
- 5 回 生涯発達について（乳児期～青年期）
- 6 回 子どもの心の健康に関わる問題
- 7 回 生涯発達について（青年期以降）
- 8 回 保護者支援の必要性（その1）
- 9 回 保護者支援の必要性（その2）
- 10 回 子育て支援の現場における相談
- 11 回 子育て支援の現場における支援方法（その1）
- 12 回 子育て支援の現場における支援方法（その2）
- 13 回 特別な配慮を要する子どもの支援
- 14 回 子どもの心の健康に関わる保育者の役割
- 15 回 まとめ

〔テキスト・参考書・参考文献〕

適宜資料を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

レポート[50%]，課題提出[30%]，授業へ取り組む姿勢[20%]
課題には授業内でコメントする。

〔授業時間外学修〕

子育て支援演習や日常生活の中で子どもをよく観察すること。

予習時間は30分以上確保すること。

〔オフィスアワー〕

研究室前に在室表示をしているとき

事前予約も可

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

コンサルタント（臨床心理士）として地域子育て支援拠点事業に8年勤務。実務経験をもとに講義する。

〔その他履修上の留意事項等〕

専門用語などは、図書館にある参考文献を読むなどして理解しておくこと。

授業の進捗状況により、授業内容や方法が一部変更される場合があります。

子どもの理解と援助

S636a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 子ども福祉専攻 > 専門科目
1 年
1 単位 後期
月曜 2 限
講義・演習
必修
科目ナンバリング 543

倉田 郁也

〔授業の概要〕

子どもは一人一人に発達の過程があり、保育現場では子ども一人一人の心身の発達を把握することが必要である。この授業では、子ども一人一人を理解するために必要な観察の視点や職員・保護者との連携について、また、子どもの育ちにかかわる環境について考え、子どもの援助について学ぶ。本授業は、保育者としての援助や態度の基本について学ぶことを目指す。

〔到達目標〕

学生が、

1. 保育実践において、実際に応じた子ども一人一人の心身発達や学びを把握する。
2. 子どもの体験や学びの過程を理解する。
3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 3

〔授業計画〕

全て講義・演習

- 第1回：保育における子ども理解の意義
- 第2回：子どもの理解に基づく養護と教育の一体的展開
- 第3回：子どもに対する共感的理解と保育
- 第4回：子どもの生活と遊び
- 第5回：保育の人的環境としての保育者と子どもの発達
- 第6回：子どもの集団での育ち
- 第7回：葛藤やつまずき
- 第8回：小テスト（子ども理解・教育展開・共感的理解・生活と遊び・集団・葛藤やつまずき）
- 第9回：保育の環境の理解と構成
- 第10回：環境の変化や移行
- 第11回：子どもを理解するための観察・記録・省察・評価
- 第12回：職員間の対話
- 第13回：保護者との情報共有
- 第14回：発達の課題に応じた援助と関わり
- 第15回：特別な配慮を要する子どもの理解と援助

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：松本峰雄『子どもの理解と援助 演習ブック』
2021、ミネルヴァ書房

参考文献：小田豊・秋田喜代美『子どもの理解と保育・教育相談』2008（株）みらい。塚本美知子『子ども理解と保育実践—子どもを知る・自分を知る』2018 萌文書林

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[50%]，小テスト[50%]

〔授業時間外学修〕

今回の授業のテーマをテキスト等で調べ、概要を理解しておくこと。予習時間は、30分以上確保すること。

〔オフィスアワー〕

火曜日14：00～18：00。カウンセリングルームにて。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

専門用語などは、図書館にある参考書等を読むなどして理解しておくこと。

社会的養護Ⅰ

S638a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 子ども福祉専攻 > 専門科目
1 年
2 単位 後期
月曜 4 限
講義・演習
必修
科目ナンバリング544

倉田 郁也

〔授業の概要〕

この授業では、生活型児童福祉施設や里親等の「家庭外の場合」における子どもの養護のあり方について基礎的な理解を深める。「生活の場合」でどのように子どもの権利を尊重しながら支援を展開するか、「子どもの最善の利益」「虐待」「権利擁護」等をキーワードにしながら、施設や里親家庭における実際の支援あり方を学ぶことを目指す。

〔到達目標〕

学生が、

- ①社会的養護における子ども理解と支援を理解し、保育士の専門性を身に付ける。
- ②社会的養護の体系を学び、児童福祉施設や里親について事例を通して理解する。
- ③社会的養護に必要な知識・技術を学び、保育の専門性と実践について理解する。
- ④施設養護における「子どもの権利擁護」及び「自立支援」の考え方を理解する。
- ⑤社会的養護の課題と展望について考察する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

全て講義

- 第1回：現代社会における社会的養護の意義と変遷
第2回：子どもの人権擁護と社会的養護
第3回：家庭の機能と社会的養護
第4回：社会的養護の基本原則Ⅰ：施設における養育
第5回：社会的養護の基本原則Ⅱ：保護
第6回：社会的養護の基本原則Ⅲ：虐待された子どもの理解と対応
第7回：社会的養護の基本原則Ⅳ：施設で生活文化を伝える意味
第8回：小テスト（意義と変遷・子どもの人権・家庭機能・基本原則）
第9回：社会的養護の基本原則Ⅴ：生活文化と生活力の習得
第10回：社会的養護の基本原則Ⅵ：入所児童の生活環境と生命倫理観
第11回：社会的養護の制度と実施体系
第12回：施設養護の対象・形態・専門職Ⅰ：障害児の入所諸説
第13回：施設養護の対象・形態・専門職Ⅱ：社会に適応しづらい子どもの入所施設
第14回：家庭養護とは
第15回：社会的養護と地域福祉

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：吉田眞理『児童の福祉を支える社会的養護Ⅰ』萌文書林、2019。

参考文献：増沢高『事例で学ぶ社会的養護児童のアセスメント』明石書店、2011。

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[50%]，小テスト[50%]

〔授業時間外学修〕

次の授業のテーマをテキスト等で調べ、概要を理解しておくこと。予習時間は、30分以上確保すること。

〔オフィスアワー〕

火曜日14：00～18：00。カウンセリングルームにて。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

専門用語などは、図書館にある参考文献を読むなどして理解しておくこと。

子どもの健康と安全

S639a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 子ども福祉専攻 > 専門科目
1 年
1 単位 後期
金曜 2 限
講義・演習
必修
科目ナンバリング534

松木 貴子、石坂 俊也

〔授業の概要〕

保健的視点を踏まえ、保育に関する疾病や事故への対応について学び、事故予防の能力を高め、演習を通して問題解決能力と実践能力の修得を目指す。

〔到達目標〕

1. 保育における保健的環境や援助について理解できる。
2. 関連するガイドラインや近年のデータなどを踏まえ理解できる。
3. 保育における事故を理解し、事故予防が理解できる。
4. 子どもの事故発生時の対応が理解でき、実施できる。
5. 子どものアレルギー、災害対策が理解できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2、DP 3

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
・子どもの健康と安全
・子どもの健康と保育の環境
- 第 2 回 保健的観点をふまえた援助
・子どもの保健に関する個別的対応
・子どもの集団全体の健康と安全管理
- 第 3 回 保育における健康と安全管理①
・子どもの衛生管理
屋内、屋外の衛生管理
ヒアリハットについて
- 第 4 回 保育における健康と安全管理②
・子どもの事故防止と安全対策
保育における事故の特徴
事故防止の取り組み
安全対策と安全教育
- 第 5 回 保育における健康と安全管理③
・子どもの危機管理と災害への備え
不審者対策、災害における危機管理対策
- 第 6 回 子どもの体調不良・けがと応急手当
・緊急時の観察
・創傷の手当て（止血法・感染予防）
・包帯／三角巾の使い方
- 第 7 回 救急処置と救急蘇生法【石坂】
・子どもに対する救命処置の手順
・気道異物の除去
- 第 8 回 子どもの保健と感染症対策ガイドライン
・「保育所における感染症対策ガイドライン」に基づく予防

・「保育所における感染症対策ガイドライン」に基づく対応

第 9 回 個別な配慮を要する子どもへの対応①

- ・保育における保健的対応
- ・3歳未満への対応

第 10 回 特別な配慮を要する子どもへの対応②【石坂】

- ・アレルギー性疾患への対応
- ・アナフィラキシーショックへの対応（エビペン）

第 11 回 個別な配慮を要する子どもへの対応③

- ・その他の慢性疾患への対応
- ・障害のある子ども、医療的ケア児への対応

第 12 回 子どもと保健指導

- ・子どもへの保健指導の意義
- ・手洗いうがいの指導、消毒の方法など

第 13 回 事故予防演習①

グループごとに事故予防の安全教育の計画を立案・作成する

第 14 回 事故予防演習②

グループごとに事故予防の安全教育の計画を作成・行動する

第 15 回 事故予防演習発表会

グループごとに事故予防の安全教育の計画の発表と意見交換

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「子どもの保健と安全 第3版」 教育情報出版
「やさしく学ぶ子どもの保健ハンドブック」 萌文書林

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[70%]，課題提出[20%]，授業態度[10%]

※レポート課題には、コメントを付して返却する。

〔授業時間外学修〕

- ・事前に「子どもの健康と安全 第3版」を学習しておく。
- ・一日30分以上が望ましい

〔オフィスアワー〕

松木：研究室前に在室表示をしているとき 事前予約も可
石坂：授業終了後から放課後、教室あるいは研究室で受ける。オフィスアワー以外の面談は、事前にメールで予約をする。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

松木：保育士・保育教諭・幼稚園教諭としての実務経験を基に、現場で活かすことのできる専門知識・技能を講義・演習する。

石坂：小児看護の臨床経験をもとに、医療・看護的視点を取り入れた講義を行う。

〔その他履修上の留意事項等〕

- ・自主的・積極的に行動し、理解を深めてください。
- ・「事故予防演習」では、グループで課題学修に取り組みます。グループでの学修が充実できるように、各自が努力をしてください。
- ・授業の進捗状況により、授業内容が一部変更される場合があります。

保育内容総論

S640a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 子ども福祉専攻 > 専門科目
1 年
1 単位 前期
月曜 1 限
講義・演習
選択
科目ナンバリング535

平野 忠男

〔授業の概要〕

保育所保育指針における保育・教育の目的・目標「育みたい資質・能力」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と保育内容の関連を理解する。5 領域の学びと共に、それらを総合的にとらえる視点を養い、保育の全体構造の理解に基づいて、子どもの理解や保育方法について学ぶ。また、子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び歴史の変遷等を踏まえ、保育の過程を学び、保育の多様な展開について具体的に理解する。

〔到達目標〕

- 1 保育の全体構造と保育内容を理解する。
- 2 保育の基本を踏まえた保育内容の展開を理解する。
- 3 保育の多様な展開について具体的に理解する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

全て講義と演習

- 1 回：オリエンテーション・保育内容総論を学ぶにあたって
- 2 回：保育所保育指針に基づく保育内容の理解（保育・教育）
- 3 回：子どもと健康
- 4 回：子どもと人間関係
- 5 回：子どもと環境
- 6 回：子どもと言葉
- 7 回：子どもと表現①
- 8 回：子どもと表現②
- 9 回：保育内容の歴史の変遷とその社会的背景/
子どもの発達や生活に即した保育内容の基本的な考え方
- 10 回：養護と教育が一体的に展開される保育/
子どもの主体性を尊重する保育
- 11 回：環境を通して行う保育/
生活や遊びによる総合的な保育①
- 12 回：生活や遊びによる総合的な保育②/
個と集団の発達を踏まえた保育
- 13 回：家庭や地域等との連携を踏まえた保育/
小学校との連携・接続をふまえた保育
- 14 回：長時間の保育/人権保育
- 15 回：保育内容の今日的課題とこれからの保育のあり方を考える

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「新 基本保育シリーズ④保育内容総論」中央法規

参考文献：「保育所保育指針解説」フレーベル館

その他、授業内で適宜紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕

レポート[40%]、授業態度、積極性、グループワーク参加度など[30%]、小テスト[30%]

・レポートはコメント等を付して返却する。

〔授業時間外学修〕

子ども・福祉に関するニュースを新聞等で確認しておく。事前にテキストを熟読しておく。

1 回の授業あたり予習・復習・課題などを含めて、30～60 分程度が望ましい。

〔オフィスアワー〕

研究室前に在室表示をしているとき。原則、事前予約はいらないが、確実に利用したい場合等は予約することを推奨する。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

保育士（6 年勤務）、保育士養成校教員（9 年勤務）の実務経験あり。実務経験を活かし、理論と実践の往還性を重視した授業を展開する。

〔その他履修上の留意事項等〕

- ・意欲的、積極的な取り組みを期待します。
- ・授業の進捗状況、受講生の状況等によって講義内容、順番を変更することがある。
- ・授業の進捗状況により、授業内容や方法が一部変更されることがある。
- ・状況に応じて、manaba、オクレンジャー、学生メール等で連絡事項を発信するため、各ツールのチェックを確実にを行う。

子どもの食と栄養Ⅰ/1年

S645a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 子ども福祉専攻 > 専門科目
1 年
1 単位 後期
月曜 3 限
講義・演習
必修
科目ナンバリング545

宮本 由香

〔授業の概要〕

この授業では、子どもの食生活と心身の発育、発達に関連性について、妊娠期(胎児)を経て誕生から学童・思春期までの成長段階に応じて、健全な成長を目指す食事展開について、講義、演習を通して身に付けることを目指す。

〔到達目標〕

この授業を通して、栄養と食生活に関する基礎知識と技術を身に付け、小児各期に対応した食事展開や栄養状態の評価ができることを目標とする。また、自身の健全な食生活の実践と健康維持増進ができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2、DP 3

〔授業計画〕

- 第 1 回 子どもの心身の健康と食生活の意義①
子どもの健康における食生活の意義と、発育、発達に対しての保育と食の関連性、および、各健康栄養調査結果から、食生活の現状と問題点、課題を抽出する。
- 第 2 回 栄養・食に関する基礎知識①
人の身体の新陳代謝の仕組みについて、成人と子どもとのちがいや特徴を理解する。
- 第 3 回 栄養・食に関する基礎知識②
主にエネルギー産生栄養素について種類と働きを理解し、給源となる食品を学ぶ。
- 第 4 回 栄養・食に関する基礎知識③
主に欠乏症、過剰症を呈する栄養素の種類と働きについて理解し、給源となる食品を学び、自身の食事のバランスを診断する。
- 第 5 回 栄養・食に関する基礎知識④
日本人の食事摂取基準の概要を理解し、保育における活用を学ぶ。食事摂取基準を活用し、栄養バランスに配慮した献立作成をする。
- 第 6 回 食の安全
児童福祉施設の給食や食事の提供における注意すべき点。感染症と食中毒の違い。安全な調理や食事のために、調理の基本と食中毒予防、衛生管理の手段や方法、技術を学ぶ。
- 第 7 回 妊娠期（および胎児）と授乳期の食生活
妊娠期の各ステージおよび授乳期の食生活について、アセスメントの方法、栄養の特徴、課題、問題点を学ぶ。
- 第 8 回 乳児期の食生活①

乳汁栄養の種類と特徴、離乳食の意義と各ステージの特徴や課題、問題点を学ぶ。

- 第 9 回 乳児期の食生活②
乳児用調整粉乳を用いた調乳演習および液体ミルクや冷凍母乳パックを用いた保育場面での授乳演習。
- 第 10 回 乳児期の食生活③
ごっくん期、もぐもぐ期、かみかみ期の離乳食の調理実習ならびに試食。
- 第 11 回 幼児期の食生活①
幼児期の栄養と食生活の特徴(間食の意義)、課題、問題点について学ぶ。食事のマナーについては食具を使っでの演習。
- 第 12 回 幼児期の食生活②
幼児期の食事と間食について、献立作成演習と調理実習準備。
- 第 13 回 幼児期の食生活④
幼児期に適した間食と食事の調理実習と試食。
- 第 14 回 学童・思春期の食生活
学童期・思春期の発育、発達の特徴と栄養の関わり、学校給食の現状、課題や問題点について学ぶ。
- 第 15 回 まとめ
誕生から思春期までの食生活の特徴と、自身の食生活の振り返り、問題点、課題の抽出と改善策を検討する。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「子どもの食と栄養 改訂第3版」中山書店
参考文献：必要に応じて紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[70%]，小テスト[10%]，レポート課題提出[10%]，演習時の参加状況や意欲[10%]

〔授業時間外学修〕

テキスト該当箇所を読んでくこと。授業後は自身の食生活の振り返りをし、学修したことを日常生活で実践すること。(毎回、概ね30分程度は確保すること)

〔オフィスアワー〕

授業前後の休み時間ならびに講師控室に「オフィスアワー」の表示をしているとき。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

管理栄養士として公衆衛生乳幼児検診業務に約10年携わり、乳幼児の食生活指導、相談ならび妊婦に対する食生活指導、相談業務、調理実習に携わった経験を基に、子どものための栄養や調理の講義、演習をする。

〔その他履修上の留意事項等〕

家政実習室での授業時には、指示に従った服装（実習着、実習靴など）で参加すること。調理実習では火器を扱うため、ケガや事故のないよう安全に実習できるよう、十分に予習をして臨んでください。

子育て支援

S647a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 子ども福祉専攻 > 専門科目
1 年
1 単位 後期
水曜 4 限
講義・演習
必修
科目ナンバリング 546

尾島 万里、松木 貴子

〔授業の概要〕

地域子育て支援センターを中心に地域における子育て支援活動について子育て支援施設における演習と学内の演習を通して学ぶ。

〔到達目標〕

子育て支援の実践現場における支援内容と方法及び保育者の役割を理解する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2、DP 3

〔授業計画〕

約2日間の子育て支援施設における見学と学内演習を行う。

第1回：オリエンテーション・子育て支援のイメージ

第2回：子育て支援施設における演習の意義と内容

第3回：地域における子育て支援の実施主体と社会資源

第4回：子育て支援施設における見学の準備（課題設定など）

第5回：子育て支援施設における見学の直前指導

第6回～第9回：

子育て支援施設における見学と演習

（次の内容を中心に行う）

- ・子育て支援施設の活動内容
- ・利用家庭への理解
- ・保育士及び子育て支援員の職務と役割
- ・保育士及び子育て支援員の活動内容

第10回：見学後の振り返り

第11回：子育て支援施設における演習内容の発表準備（その1）

第12回：子育て支援施設における演習内容の発表準備（その2）

第13回：子育て支援施設における演習内容の発表会（その1）

第14回：子育て支援施設における演習内容の発表会（その2）

第15回：まとめ

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「新・子育て支援 子どもの姿を喜びに変えるために」松井剛太編

〔成績評価の方法・基準〕

課題提出[50%]、プレゼンテーション[30%]、授業に取り組む姿勢[20%]

提出された課題は授業内にコメントをする。

〔授業時間外学修〕

見学先の情報を調べること。

予習：復習の時間を30分確保すること。

〔オフィスアワー〕

研究室前に在室表示をしているとき

事前予約も可

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

尾島：コンサルタント（臨床心理士）として地域子育て支援拠点事業に8年間勤務。

松木：保育士として保育所・子育て広場、保育教諭・幼稚園教諭として幼保連携型認定こども園に勤務。

〔その他履修上の留意事項等〕

11月上旬に約2日間の施設見学を実施する。その関係上、授業時間が変更になることがあるので、掲示を必ず見てください。授業の進捗状況により、授業内容が一部変更される場合があります。

保育の計画と評価

S651a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 子ども福祉専攻 > 専門科目
1 年
2単位 前期
火曜 2限
講義・演習
選択
科目ナンバリング631

松木 貴子

〔授業の概要〕

- ・ 保育所保育の内容、方法を「保育計画」という視点から理解することを目指す。
- ・ 保育所保育指針を踏まえて、保育の目標と計画の基本的な考え方や長期的・短期的な指導計画の作成、自己評価を身に付けることを目指す。

〔到達目標〕

- ・ 保育所保育の多様なニーズを考え、保育所保育の内容、方法について理解出できる。
- ・ 保育の全体的な計画と指導計画を作成し、評価することができる。
- ・ 全体的な計画と指導計画のつながり、そして保育実践がどのように計画されるのか考えることが出来る。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP2、DP3

〔授業計画〕

全て講義と演習

- 1 回：オリエンテーション・カリキュラムの基礎理論
- 2 回：保育の基本
- 3 回：保育所の理解
- 4 回：保育所の歴史と保育所保育指針の変遷
- 5 回：全体的な計画と指導計画
- 6 回：保育の質の向上
- 7 回：子どもの発達過程と指導計画①
- 8 回：子どもの発達過程と指導計画②
- 9 回：子どもの発達過程と指導計画③
- 10 回：保育所における保育の計画の作成と展開
- 11 回：保育所における保育の評価
- 12 回：模擬保育の部分指導計画作成①
- 13 回：模擬保育の部分指導計画作成・行動
- 14 回：模擬保育の実践
- 15 回：模擬保育の評価・まとめ

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト

「保育の計画と評価を学ぶ」 萌文書林

「フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画」 萌文書林

参考文献

「保育所保育指針解説」 フレーベル館

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[60%]，課題提出[20%]，授業態度[20%]

※レポート課題には、コメントを付して返却する。

〔授業時間外学修〕

- ・ 講義内で予習・復習個所を提示。
- ・ 一日30分以上の予習・復習が望ましい。

〔オフィスアワー〕

研究室の在室表示がなされている時には可能。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

保育士として保育園・子育てひろば・保育教諭・幼稚園教諭として認定こども園の実務経験をもとに実践的な指導計画の作成・自己評価を行える講義をする。

〔その他履修上の留意事項等〕

授業の進捗状況により、授業内容が一部変更される場合があります。

保育内容演習（健康）/1年

S652a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 子ども福祉専攻 > 専門科目
1 年
1 単位 後期
金曜 1 限
講義・演習
選択
科目ナンバリング641

平野 忠男

〔授業の概要〕

保育現場においては、子どもの「健康」と「安全」は極めて重要な事項である。保育者は子ども一人ひとりに応じた健康・安全に留意するとともに、全体の子どもの健康を保持し、安全を守ることが求められている。また、子どもたちが自身が自分の体を大切にすることや、遊びを通し、怪我や病気などを予防していくことも重要である。そのためには、子どもの心身の状態や発育・発達状態を理解する必要がある。また、子どもの健康には与えられる環境が大きく影響している。特に乳幼児期は子どもの心身の発達について保育者が十分に理解し「遊び」を展開することが重要であるため、その知識や技術を中心に保育者の役割について学習を進める。

〔到達目標〕

1. 子どもの発育・発達および具体的な活動について知る
2. 子どもが健康な生活を送るために望ましい環境について考えることができる
3. 子どもの環境および遊びや活動における安全、健康について考えることができる
4. 保育・幼児教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を理解することができる
5. 子どもの発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定しながら、環境構成、教材や遊具の活用と工夫、保育の過程の実際について理解することができる

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

全て講義と演習

- 第1回：授業展開の説明／「健康」とはなにか／子どもたちを取り巻く環境からみる「健康」
- 第2回：乳幼児期の身体の発達と健康
- 第3回：乳幼児期の生活リズムと生活習慣①
- 第4回：乳幼児期の生活リズムと生活習慣②
- 第5回：乳幼児期の食生活・食育に関わる指導
- 第6回：『保育所保育指針』と「健康」
- 第7回：乳幼児期の運動発達①
- 第8回：乳幼児期の運動発達②
- 第9回：遊びと「健康」
- 第10回：運動遊びに関わる指導
- 第11回：乳幼児期の安全①
- 第12回：乳幼児期の安全②
- 第13回：安全への配慮と子どもへの安全教育

第14回：領域「健康」と保育方法・領域「健康」の変遷

第15回：これからの保育と領域「健康」について考える

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「新しい保育講座⑦保育内容「健康」 ミネルヴァ書房

参考文献：「保育所保育指針解説」 フレーベル館

授業中に適宜資料を配布する

〔成績評価の方法・基準〕

授業に対する取り組み[20%]，課題に対する取り組み[20%]，小テスト[30%]，レポート[30%]

・レポート、課題はコメント等を付して返却を行う。

〔授業時間外学修〕

基本的な生活習慣や健康に繋がる振る舞いの中で自分が大切にすべきことを見だし、日々意識して行うこと。また、小テストに向け各自復習を行うこと。

〔オフィスアワー〕

研究室前に在室表示をしているとき。原則、事前予約はしないが、確実に利用したい場合等は予約をすることを推奨する。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

保育士（6年勤務）、保育士養成校教員（9年勤務）の実務経験あり。実務経験を活かし、理論と実践の往還性を重視した授業を展開する。

〔その他履修上の留意事項等〕

- ・意欲的、積極的な取り組みを期待します。
- ・授業の進捗状況、受講生の状況等によって講義内容、順番を変更することがある。
- ・授業の進捗状況により、授業内容や方法が一部変更されることがある。
- ・状況に応じて、manaba、オクレンジャー、学生メール等で連絡事項を発信するため、各ツールのチェックを確実に行う。

保育内容の理解と方法（音楽表現Ⅰ）

S657a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 子ども福祉専攻 > 専門科目
1 年
1 単位 前期
木曜 1 限 木曜 2 限
演習
選択
科目ナンバリング632

原 晴子

〔授業の概要〕

- ・ 保育実践で必要とされる音楽に関する基礎的な知識を学び、子どもの表現活動を援助するための知識や技術を習得する。
- ・ 弾き歌いやアンサンブルなどの基本的な技術を習得し、保育の場で音楽活動を展開する力を身につける。

〔到達目標〕

- ・ 保育所保育指針に示される保育内容「表現」のねらいと内容を理解する。
- ・ 楽典の基礎を習得し読譜ができる。
- ・ 歌唱技術、伴奏技術を身につけ、童謡や幼児の歌を豊かな感性で楽しんで表現活動できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2、DP 3

〔授業計画〕

- 1 回：・オリエンテーション ・ピアノ・歌唱習熟度等のアンケート・保育所保育指針における領域「表現」のねらい及び内容
- 2 回：楽典 ①（45分） 歌唱の基礎と季節の歌 （45分）
- 3 回：ピアノ・弾き歌い個人レッスン
- 4 回：楽典 ②（45分） 歌唱の練習 生活習慣の歌他
- 5 回：ピアノ・弾き歌い個人レッスン
- 6 回：楽典 ③（45分） リズム練習 季節の歌
- 7 回：ピアノ・弾き歌い個人レッスン
- 8・9 回：（合同）表現活動
- 10 回：ピアノ・弾き歌い個人レッスン
- 11 回：楽典 ④（45分） 歌唱・合唱 生活習慣の歌
- 12 回：ピアノ・弾き歌い個人レッスン
- 13 回：ピアノ・弾き歌い個人レッスン
- 14・15 回：ピアノ個人課題発表 弾き歌い発表

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：

「これだけは知ってほしい楽典はじめの一步」カワイ出版
「簡易伴奏による こどもの歌ベストテン改訂新版」ドレミ楽譜出版

「あそびうた大全集 200」永岡書店

参考文献：

「保育所保育指針解説 平成30年 3 月」フレーベル館

〔成績評価の方法・基準〕

授業への取り組み[30%]、弾き歌い実技試験[40%]、音楽発表会への参加[20%]、授業時間内の課題等[10%]

〔授業時間外学修〕

音楽に関わる基本的な技術の向上は毎日の練習（予習・復習）の積み重ねです。最低でも1日30分から1時間程度の練習時間を確保しましょう。

〔オフィスアワー〕

講師控室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

保育園にて音楽表現や歌唱を指導。児童合唱団、声楽教室での指導経験を活かして実践的な演習を行う。

〔その他履修上の留意事項等〕

進捗状況により授業内容が一部変更される場合があります。授業内で理解しきれなかった場合は、次の授業までに質問にきてください。

悩み、不安、苦手意識は個人的に相談して解決方法を明確にしましょう。

保育内容の理解と方法（音楽表現Ⅱ）

S658a

信州短期大学部＞福祉学科＞子ども福祉専攻＞専門科目
1年
1単位 後期
木曜1限 木曜2限
演習
選択
科目ナンバリング642

原 晴子

〔授業の概要〕

- ・保育実践で必要とされる音楽に関する基礎的な知識を学び、子どもの表現活動を援助するための知識や技術を習得する。
- ・弾き歌いやアンサンブルなどの基本的な技術を習得し、保育の場で音楽活動を展開する力を身につける。

〔到達目標〕

- ・保育所保育指針に示される保育内容「表現」のねらいと内容を理解する。
- ・楽典の基礎を習得し読譜ができる。
- ・歌唱技術、伴奏技術を身につけ、童謡や幼児の歌を豊かな感性で楽しんで表現活動できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP2、DP3

〔授業計画〕

- 1回：ピアノ・弾き歌い個人レッスン
- 2回：わらべうた 遊び歌
- 3回：ピアノ・弾き歌い個人レッスン
- 4回：わらべうた 遊び歌 展開
- 5回：ピアノ・弾き歌い個人レッスン
- 6回：生活の歌、季節の歌の振り返り グループによる模擬授業制作①
- 7回：ピアノ・弾き歌い個人レッスン
- 8回：グループによる模擬授業制作② クリスマス発表作品の制作
- 9回：グループによる模擬授業制作③ クリスマス発表作品の仕上げ
- 10回：保育園見学 クリスマス劇を観る
- 11回：ピアノ・弾き歌い個人レッスン
- 12回：模擬授業発表
- 13回：ピアノ・弾き歌い個人レッスン
- 14・15回：（合同）弾き歌い個人課題試験 歌唱発表

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：

「これだけは知ってほしい楽典はじめての一步」カワイ出版
「簡易伴奏による こどもの歌ベストテン改訂新版」ドレミ楽譜出版
「あそびうた大全集200」永岡書店

参考文献：

「保育所保育指針解説 平成30年3月」フレーベル館

〔成績評価の方法・基準〕

授業への取り組み[20%]、弾き歌い実技試験[40%]、模擬授業への参加[30%]、授業時間内の課題等[10%]

〔授業時間外学修〕

音楽に関わる基本的な技術の向上は毎日の練習（予習・復習）の積み重ねです。最低でも1日30分から1時間程度の練習時間を確保しましょう。

〔オフィスアワー〕

講師控室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

保育園にて音楽表現や歌唱を指導。児童合唱団、声楽教室での指導経験を活かして実践的な演習を行う。

〔その他履修上の留意事項等〕

進捗状況により授業内容が一部変更になる場合があります。授業内で理解しきれなかった場合は、次の授業までに質問にきてください。

悩み、不安、苦手意識は個人的に相談して解決方法を明確にしましょう。

保育内容の理解と方法（児童文化Ⅰ）

S659a

信州短期大学部＞福祉学科＞子ども福祉専攻＞専門科目
1年
1単位 前期
木曜1限 木曜2限
演習
選択
科目ナンバリング633

松木 貴子

〔授業の概要〕

- ・感じたこと、考えたことなど演習を通して自ら工夫し、実践に生かす力を養う。
- ・保育者として、子どもに対してどのような援助を行えばよいのか授業を通して身に付けることを目指す。

〔到達目標〕

- ・感じたこと、考えたことを表現できるようになる。
- ・豊かな感性を持ち、多様な価値に気づくことができるようになる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

全て演習

1回：オリエンテーション

素材を知る

2回：表現技法・平面の活動①

様々な紙

3回：表現技法・平面の活動②

キットパス

4回：表現技法・平面の活動③

スタンプ

5回：導入方法

絵本・紙芝居・手遊び・わらべうた

6回：自然体験企画①

そり作り

7回：自然体験実践②

土手滑り

8・9回：感触表現①（合同）

絵具

10回：感触表現②

小麦粉粘土

11～13回：生活素材の変身

身近な物を利用したの製作

14・15回：グループ製作

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト

「保育のなかのアート」小学館

「保育をひらく造形表現」萌文書林

参考書

「ワークシートで学ぶ子どもの造形表現 第2版」開成出版

〔成績評価の方法・基準〕

課題提出[60%]、製作態度[40%]

※レポート課題には、コメントを付して返却する。

〔授業時間外学修〕

- ・身近に存在する物を素直に感受する心を大切にする。
- ・創作したものに興味を持つ生活を心がけて欲しい。

上記について1日30分心掛けて下さい。

〔オフィスアワー〕

研究室の在室表示がなされている時には可能。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

保育士として保育園・子育てひろば、保育教諭・幼稚園教諭として認定こども園の実務経験をもとに現場で活かす事の出来る専門知識・技能を講義する。

〔その他履修上の留意事項等〕

授業の進捗状況により、授業内容が一部変更される場合があります。

保育内容の理解と方法（児童文化Ⅱ）

S660a

信州短期大学部＞福祉学科＞子ども福祉専攻＞専門科目
1年
1単位 後期
木曜1限 木曜2限
演習
選択
科目ナンバリング643

松木 貴子

〔授業の概要〕

- ・感じたこと、考えたことなど演習を通して自ら工夫し、実践に生かす力を養う。
- ・保育者として、子どもに対してどのような援助を行えばよいか授業を通して身に付けることを目指す。

〔到達目標〕

- ・言語表現・造形表現に関わる技術・知識を実施の場面で生かし、活用できるようになる。
- ・発案、計画、行動、実践ができるようになる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

全て演習

- 1回：オリエンテーション
- 2回：表現技法・立体活動①
立体カード
- 3回：表現技法・立体活動②
立体アニマル
- 4～6回：保育室の装飾
子どもの視点にたつ部屋作りの工夫
- 7回：衣装製作
- 8回：模擬保育の発案・計画・行動
- 9回：模擬保育の実践
- 10回：保育園見学（クリスマスの劇を見る）
- 11～13回：様々な表現方法による製作
オリジナル絵本・紙芝居
- 14・15回：製作発表

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト

「保育のなかのアート」小学館

「保育をひらく造形表現」萌文書林

参考書

「ワークシートで学ぶ子どもの造形表現 第2版」開成出版

〔成績評価の方法・基準〕

課題提出[60%]，製作態度[40%]

※レポート課題には、コメントを付して返却する。

〔授業時間外学修〕

- ・身近に存在する物を素直に感受する心を大切にする。
 - ・創作したものに興味を持つ生活を心がけて欲しい。
- 上記について1日30分心掛けて下さい。

〔オフィスアワー〕

研究室の在室表示がなされている時には可能。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

保育士として保育園・子育てひろば、保育教諭・幼稚園教諭として認定こども園の実務経験をもとに現場で活かす事の出来る専門知識・技能を講義する。

〔その他履修上の留意事項等〕

授業の進捗状況により、授業内容が一部変更される場合があります。

乳児保育Ⅰ

S661a

信州短期大学部＞福祉学科＞子ども福祉専攻＞専門科目
1年
2単位 後期
火曜 2限
講義・演習
選択
科目ナンバリング644

清水 香代子

〔授業の概要〕

乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割、保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容、実践に必要な知識の習得をめざす。

〔到達目標〕

保育現場での事例などを通して、「乳児保育」の課題を検討し、保育者として身近な領域としてとらえていくことができるようにする。併せて「子育て」について学ぶ。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

- 1回：オリエンテーション
- 2回：乳児保育の意義・目的と歴史の変遷
- 3回：乳児保育の役割と機能
- 4回：乳児保育の養護と教育
- 5回：保育所における乳児保育
- 6回：保育所以外の児童福祉施設における乳児保育
- 7回：家庭的保育等における乳児保育
- 8回：3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育
- 9回：3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育
- 10回：3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮
- 11回：乳児保育における計画・記録・評価とその意義
- 12回：乳児保育における連携・協働（職員間）
- 13回：乳児保育における連携・協働（保護者）
- 14回：乳児保育における他機関との連携
- 15回：まとめ

〔授業方法〕講義・グループワークを行い、学習テーマについて具体的事例を通して考える。実践に必要な基本的な技術の実習を適宜行う。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「改訂 乳児保育の基本」萌文書林

〔成績評価の方法・基準〕

課題提出[60%]、授業態度（参加度等）[40%]

※課題等にはコメントを付して返却する

〔授業時間外学修〕

準備学習として、次の学習テーマについてテキストを読んで理解しておくこと。（30分程度）

〔オフィスアワー〕

講師控室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

保育士として乳児院に8年勤務。子育て支援拠点に勤務。実務経験をもとに乳児保育について講義する。

〔その他履修上の留意事項等〕

保育所実習Ⅰ

S667a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 子ども福祉専攻 > 専門科目
1 年
2単位 後期集中
実習
選択
科目ナンバリング691
平野 忠男、尾島 万里、斎藤 和幸、倉田 郁也、松木 貴子

〔授業の概要〕

保育所等で11日間にわたり、保育所実習Ⅰを行う。保育の現場に従事する職員に指導を受けながら、保育所の役割、職務、生活の流れを経験し、子どもの発達・特性、子どもへの援助・配慮、保護者との関わり、安全配慮、職員間の連携、地域における多職種・他機関への連携など保育の基本や保育内容の理解を深める。

〔到達目標〕

- ①保育所等の役割や機能を具体的に理解する。
- ②観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。
- ③既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。
- ④保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に学習する。
- ⑤5 保育士の業務内容や職業倫理について理解する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP 3

〔授業計画〕

《実習開始前》

1・事前学習・オリエンテーション

- (1) 保育所や認定こども園の役割や現状についての知識を深める
 - (2) 保育所や認定こども園の意義や動機・目的を明確化する
- ①実習先（オリエンテーションの日程を含め）の確認
 - ②マナーなどの実習に関する基本的な事項の確認
 - ③実習課題の設定、実習に関する準備等を行う

《実習期間中》

1. 実施時期：1 年次 2 月

2. 内容

(1) 見学・観察により、以下のことを理解する

- ①施設概要 ②役割と機能 ③組織 ④環境構成 ⑤業務内容 ⑥子どもの生活や遊び ⑦乳幼児の発達の姿 ⑧実習日誌の作成 ⑨省察と自己評価の方法 等

(2) 参加・部分実習により、以下のことを理解する

- ①指導計画の立案 ②保育の方法と技術 ③乳児保育 ④統合保育

- ⑤安全及び疾病予防 ⑥家庭や地域との連携 等

3. 2（内容）を通して

(1) 保育士の職務内容と職業倫理を理解する

- (2) 自らの学びについて専門職として働く際の検証の機会とともに、自己の学習・資質能力を検証・点検することでさらに今後の学修に役立てるようにする

《実習終了後》

- (1) 実習の実施後、保育士としての資質（知識、態度、技能等）の修得の可否について確認する

- (2) 実習体験の振り返り、報告会等を通して、実習で得た事項について確認する

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：

「幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド」わかば社

「実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド」わかば社

「保育所実習の手引き」佐久大学信州短期大学部

参考文献：

「保育所保育指針解説」フレーベル館

「フोटランゲージで学ぶ 子どもの育ちと実習日誌・指導計画」萌文書林

〔成績評価の方法・基準〕

実習先の評価[70%]，実習日誌[20%]，実習の総括点[10%]

〔授業時間外学修〕

予習：

実習施設の概要・サービス内容等をホームページで調べしておく。

保育実践に役立つ手遊び・歌・遊びや年齢に応じた教材研究をしておく。

「保育所実習の手引き」を繰り返し読むこと。

復習：

実習日誌の記入、指導者の助言から自己を振り返り、日々の実習目標を立てる。

〔オフィスアワー〕

研究室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

保育士として保育現場で勤務経験のある教員を中心に指導を行う。

〔その他履修上の留意事項等〕

「保育所実習指導Ⅰ」を履修していくこと。

実習開始前に、巡回指導教員からオリエンテーションを受けること。

保育所実習指導 I

S669a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 子ども福祉専攻 > 専門科目
1 年
1 単位 後期
金曜 4 限
講義・演習
選択
科目ナンバリング692

平野 忠男、松木 貴子

〔授業の概要〕

保育所実習 I に行く前の事前指導と実習後の事後指導を行う。

事前指導では、①実習の目的や意義・概要を確認する。②実習計画や実習記録の書き方を学ぶ。③実習後は、自己評価や保育所からの評価を参考にしながら振り返りをする。

〔到達目標〕

- ①保育実習の意義・目的を理解する。
- ②実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。
- ③実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務などについて理解する。
- ④実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。
- ⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

全て講義と演習

〔事前指導〕

- 1 回：保育所実習指導 I オリエンテーション（保育所実習 I の意義・目的・概要）
- 2 回：実習の心構え／実習課題の立て方・設定
- 3 回：実習日誌の説明／実習日誌の書き方①
- 4 回：実習日誌の書き方②
- 5 回：実習日誌の書き方③／個人票、誓約書①
- 6 回：個人票、誓約書②／部分実習指導案①
- 7 回：部分実習指導案②
- 8 回：部分実習指導案③
- 9 回：部分実習指導案④／オリエンテーション時の準備と留意事項
- 10 回：守秘義務、実習直前準備と留意事項
- 11 回：実習前全体指導
- 12 回：実習後の流れと事後指導

〔事後指導〕

- 13 回：実習後の振り返り（総括）と自己評価
- 14 回：実習体験報告①
- 15 回：実習体験報告② まとめ

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：

「幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド」

わかば社

「実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド」わかば社
「保育所実習の手引き」佐久大学信州短期大学部

参考文献：

「保育所保育指針解説」フレーベル館

「フォトランゲージで学ぶ 子どもの育ちと実習日誌・指導計画」萌文書林

〔成績評価の方法・基準〕

課題提出[60%]、授業態度・積極性・グループワーク参加度等[40%]

・課題等はフィードバックをし返却する。

〔授業時間外学修〕

※1回の授業あたり、予習・復習・課題等を含めて、30～60 程度が望ましい。

事前：指導案の作成、実際に実習で使える教材の作成、保育技術の練習、実習施設研究、オリエンテーション報告書作成等

事後：事後報告書作成等

- ・保育者として、子ども、保護者の前に立つことを想定し、日常から態度や言動、身だしなみに対して意識すること。
- ・課題等授業内で完成しなかった場合は各自授業外の時間を使って作成し、提出すること。

〔オフィスアワー〕

研究室ドアに在室表示をしているとき。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

保育士として保育現場で勤務経験のある教員が2名指導する。

〔その他履修上の留意事項等〕

- ・意欲的、積極的な取り組みを期待します。
- ・授業の進捗状況、受講生の状況等によって講義内容、順番を変更することがある。
- ・授業の進捗状況により、授業内容や方法が一部変更されることがある。
- ・状況に応じて、manaba、オクレンジャー、学生メール等で連絡事項を発信するため、各ツールのチェックを確実に行う。

科目別シラバス

福祉学科 2年次生科目

介護福祉専攻・子ども福祉専攻

共通科目

教養科目

基礎教養科目

一般教養科目

資格教養科目

専門科目

基幹科目

展開科目

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 教養科目

2 年

1 単位 前期

木曜 2 限

演習

選択

科目ナンバリング113

Mark Cox

〔授業の概要〕

英会話の自身と実力を身につけて、外国の方との会話だけではなく、海外のニュース番組と世界中のインターネット情報も分かるようになる。

〔到達目標〕

1. 英会話で困っているときに、上手く会話が続けられる対策を勉強する。 2. これまで勉強してきた文法をより理解し、対話で使えるようになる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 1、DP 2

〔授業計画〕

第 1 回 Unit 1: Responding

第 2 回 Unit 2: Follow Up Questions

第 3 回 ” (English pronunciation, conjunctions)

第 4 回 Unit 3: Keeping the Conversation

第 5 回 ” (‘have’vs. ‘There is ...’)

第 6 回 Unit 4: Getting a Response

第 7 回 ” (can/can’t , have to)

第 8 回 Unit 5: Describing an item

第 9 回 ” (‘of’)

第10回 Unit 6: Responding with Details

第11回 ” (infinitives)

第12回 Unit 7: Story Building

第13回 ” (use of adverbs and adjectives)

第14回 Speaking Challenge

第15回 Summary

・各Unitは2回の授業で学習します。

・一つのUnitで英会話対策、文法の復習、単語を勉強する。

授業の最後で話を伝えられるようになる。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：なし

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[40%], 授業参加[30%], Speaking Challenge[30%]

※フィードバック方法については授業時に説明する。

〔授業時間外学修〕

授業で学んだことをくりかえし、1 時間程度、練習をしましょう。

単語を使えるように勉強しましょう。

〔オフィスアワー〕

講師控室ドアに「オフィスアワー」の表示の時は、いつでも来て下さい。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

英語Ⅳ

K111a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 教養科目

2 年

1単位 後期

木曜 2限

演習

選択

科目ナンバリング114

Mark Cox

〔授業の概要〕

英語Ⅲの続き、英会話の自身と実力を身につけて、外国の方との会話だけではなく、海外のニュース番組と世界中のインターネット情報も分かるようになる。

〔到達目標〕

1. 英会話で困っているときに、上手く会話が続けられる対策を勉強する。 2. これまで勉強してきた文法をより理解し、対話で使えるようになる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 1、DP 2

〔授業計画〕

- 第 1 回 Unit 8: Soliciting Details
- 第 2 回 " (passive tense)
- 第 3 回 Unit 9: Story Building (part 2)
- 第 4 回 " (perfect tense)
- 第 5 回 "
- 第 6 回 Unit 10: Clarifying with Questions
- 第 7 回 " (relative clauses)
- 第 8 回 Unit 11: Reported Speech
- 第 9 回 " (relative clauses)
- 第10回 Unit 12: Making a group Decision
- 第11回 " (infinitives)
- 第12回 Unit 13: Discussion Connectors
- 第13回 " (conditionals)
- 第14回 Speaking Challenge
- 第15回 Summary

- ・各Unitは2回の授業で学習します。
 - ・一つのUnitで英会話対策、文法の復習、単語を勉強する。
- 授業の最後で話を伝えられるようになる。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：なし

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[40%], 授業参加[30%], Speaking Challenge[30%]

※フィードバック方法については授業時に説明する。

〔授業時間外学修〕

授業で学んだことをくりかえし、1 時間程度、練習をしましょう。

単語を使えるように勉強しましょう。

〔オフィスアワー〕

講師控室ドアに「オフィスアワー」の表示の時は、いつでも来て下さい。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

中国語Ⅲ

K117a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 教養科目
2 年

1 単位 前期

木曜 2 限

演習

選択

科目ナンバリング123

朱 芸虹

〔授業の概要〕

中国語の発音や、四声に慣れ、基礎的な文法や日常的な表現等を学び、中国語の「読む、聴く、書く、話す」をバランスよく学習します。語学の学習とともに、中国文化についても触れるようにする予定。

〔到達目標〕

発音を重視しながら、簡単な日常会話を中心に反復練習することによって、聴力、簡単な話す力を身につける。単語の読み方（ピンイン）を補助なく読むことができ、簡単な会話ができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 1、DP 2

〔授業計画〕

第 1 回 第9課（出来事を尋ねる①）

（テキストP. 48～51）

第 2 回 会話演習

第 3 回 第10課（出来事を尋ねる②）

（テキストP. 52～55）

第 4 回 会話演習

第 5 回 第11課（希望を尋ねる）

（テキストP. 56～59）

第 6 回 会話演習

第 7 回 ゲーム（自由会話）

第 8 回 第12課（行き方を尋ねる）

（テキストP. 60～63）

第 9 回 会話演習

第 10 回 映画鑑賞（中国文化を知ろう）

第 11 回 第13課（経験を尋ねる）

（テキストP. 64～67）

第 12 回 会話演習

時間外自習指導：復習 3（テキストP. 68～69）

第 13 回 復習 3

第 14 回 作文

第 15 回 総合復習

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「できる・つたわるコミュニケーション中国語」
白水社

※テキストは必ず購入すること

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[40%]，課題提出[30%]，小テスト[10%]，授業態度[20%]

・「テキスト」練習A・B、本文の暗記を「小テスト」としてみなす。

・課題は、必要な時に訂正文、コメントをつけて返却する。

〔授業時間外学修〕

毎回の授業内容に合わせた課題に加え、課ごとに記載している単語帳の単語をマスターするためにひたすら読み書き音読を繰り返すこと。そのために毎日5～10分、一週間で合計1時間程は確保すること。

〔オフィスアワー〕

講師控室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

- ・授業内容は必要に応じて変更することがあります。
- ・クラスの規模、学生のレベルによって授業内容を変更することがあります。
- ・授業中は積極的に参加、発言をしてください。

中国語Ⅳ

K119a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 教養科目
2 年

1単位 後期

木曜 2限

演習

選択

科目ナンバリング124

朱 芸虹

〔授業の概要〕

中国語の発音や、四声に慣れ、基礎的な文法や日常的な表現等を学び、中国語の「読む、聴く、書く、話す」をバランスよく学習します。語学の学習とともに、中国文化についても触れるようにする予定。

〔到達目標〕

発音を重視しながら、簡単な日常会話を中心に反復練習することによって、聴力、簡単な話す力を身につける。単語の読み方（ピンイン）を補助なく読むことができ、簡単な日常会話ができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 1、DP 2

〔授業計画〕

第 1 回 第14課（相手の都合を尋ねる）

（テキストP. 70～73）

第 2 回 会話演習

第 3 回 第15課（比較する）

（テキストP. 74～77）

第 4 回 会話演習

第 5 回 ゲーム（自由会話）

第 6 回 第16課（条件・情報を尋ねる）

（テキストP. 78～81）

第 7 回 会話演習

第 8 回 第17課（進行状況を尋ねる）

（テキストP. 82～85）

第 9 回 会話演習

第 10 回 映画鑑賞（中国文化を知ろう）

第 11 回 第18課（別れを告げる）

（テキストP. 86～89）

第 12 回 会話演習

時間外自習指導：復習 4（テキストP. 90～91）

第 13 回 復習 4

第 14 回 作文

第 15 回 総合復習

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「できる・つたわるコミュニケーション中国語」
白水社

※テキストは必ず購入すること

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[40%]，課題提出[30%]，小テスト[10%]，授業態度[20%]

・「テキスト」練習A・B、本文の暗記を「小テスト」としてみなす。

・課題は、必要な時に訂正文・コメントをつけて返却する。

〔授業時間外学修〕

・毎回の授業内容に合わせた課題に加え、課ごとに記載している単語帳の単語をマスターするためにひたすら読み書き音読を繰り返すこと。そのために毎日5～10分、一週間で合計1時間程は確保すること。

〔オフィスアワー〕

講師控室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

- ・授業内容は必要に応じて変更することがあります。
- ・クラスの規模、学生のレベルによって授業内容を変更することがあります。
- ・授業中は積極的に参加、発言をしてください。

コンピュータの応用技術

K125a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 教養科目

2 年

1単位 前期

月曜 2限

演習

選択

科目ナンバリング133

三池 克明

〔授業の概要〕

今日ではパソコンなどのICT機器があらゆる業務において利用されている。本科目ではパソコンなどのICT機器を「業務遂行の道具」として捉え、卒業後に就く職業で実践できる情報活用能力の習得を図る。

〔到達目標〕

論文などフォーマルな文書執筆や編集を通して、大規模な文書の読み方だけでなく構造の捉え方を身につける。またプログラミングの基礎としてExcelVBAを学ぶことで作業の手順や階層構造を論理的に考える力を身につける。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2、DP 3

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

本科目について

第 2 回 パソコン操作の復習

ビジネス文書の作成

第 3 回 フォーマルな文書の作成1：大規模な文書の作成

目次・ページ番号・章/節/項構造の文書、文書の階層構造

第 4 回 フォーマルな文書の作成2：文書構造を踏まえた文書作成

スタイル、セクション区切りの活用

第 5 回 フォーマルな文書の作成3：目次の自動作成

目次の挿入、目次のデザインと更新

第 6 回 フォーマルな文書の作成4：図表の挿入

図解の作成、図表の挿入

第 7 回 フォーマルな文書の作成5：大規模文書の仕上げ

大規模文書の仕上げ、提出

第 8 回 プログラミング基礎1：マクロ機能

Excelの操作を自動化させるには、マクロとは

第 9 回 プログラミング基礎2：VBAとオブジェクト指向

Excel VBAとは、オブジェクト指向とは

第 10 回 プログラミング基礎3：分岐構造

操作に応じて処理を切り替える

第 11 回 プログラミング基礎4：繰返し構造

処理の繰返し、繰返しと分岐の活用

第 12 回 プログラミング活用1：ユーザー定義関数

Excel関数の自作、処理の抽象化とは

第 13 回 プログラミング活用2：ユーザーフォームの活用

ウィンドウを自作する、ボタンなどの配置、クリック時の動作の記述

第 14 回 プログラミング活用3：フォームとユーザーインタフェース

Excelワークシートからフォームを開けるようにする

第 15 回 プログラミング活用4：入力システムの完成

より使いやすくするには、処理の抽象化、システムの拡張

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：奥村晴彦, 森本尚之著『[改訂第4版] 基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社

（コンピュータの基礎技術Ⅰ・Ⅱ・応用技術、共通）

〔成績評価の方法・基準〕

授業終了時に提出するコメントシート[30%]

提出した課題[70%]

〔授業時間外学修〕

予習：次の講義資料を確認し、何が分からないか明らかにしておくこと。

復習：講義資料を用いて学習したことを整理し、理解を深め、活用できるようにすること。

なお、1回の授業について、1時間程度予習復習を行うこと。

〔オフィスアワー〕

9:00～17:30（ただし会議、出張等で不在あり）。事前予約は不要です。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

PC研修指導・DTP制作の請負を年数回程度、19年継続している。また大学のICT部門職員（システム管理、データ分析担当）を計8年経験している。これらの経験を踏まえ、ドキュメント作成やExcel VBAを活用したツール開発の方法を解説する。

〔その他履修上の留意事項等〕

とにかく質問する学生ほど良好な成績を修める傾向があります。何でも良いので声を掛けてみましょう。

ビジネスマナー

K129a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 教養科目

2年

1単位 前期

金曜1限

講義・演習

必修

科目ナンバリング141

斎藤 和幸

〔授業の概要〕

社会人として、また職場で業務を遂行していくために必要なコミュニケーション・スキルとしてのビジネスマナーを習得し、良好な人間関係の構築と仕事への能力を高める。また、就職活動の方法、自己分析、面接対策を図る。

〔到達目標〕

社会人にとってビジネスマナーがなぜ必要なのかを理解し、コミュニケーション・スキルとして重要な挨拶や話し方、正しい文書の書き方、接遇マナーを身に付ける。知識だけではなく、演習や実践（実習）を通して思いやりの心を表現できるようになる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP1、DP3

〔授業計画〕

第1回 授業概要と到達目標を理解する

①シラバス内容の説明と授業の概要、到達目標説明 ②ビジネスマナーの必要性と自らの進路を踏まえた自己分析 ③アセスメントテスト

第2回 テキスト第1章 新社会人としての心得①

(1)テキスト構成の理解、第1章-1会社人としての自覚、-2「働く」とは、-3会社の社会的役割、-4社会人としての正しい行動
(2)就職・進学活動の進め方

第3回 テキスト第1章 新社会人としての心得②

(1)第1章-5組織のタイプ、-6組織の中の役割、-7顧客満足
(2)自己分析から履歴書を作成①

第4回 テキスト第2章 職場でのコミュニケーション

(1)職場での正しいコミュニケーションの取り方
(2)自己分析から履歴書を作成②

第5回 テキスト第3章 職場でのビジネスマナー

(1)職場でのマナーの基本から身だしなみ、挨拶、動作、態度
(2)求人票の見方、自己紹介書

第6回 テキスト第4章 報告・連絡・相談

(1)仕事の指示の受け方、報告・連絡・相談の仕方、問題の対処法
(2)小テスト1：第1章から第3章

第7回 テキスト第5章 話し方と敬語の基本

(1)第5章 話し方の印象、ビジネスの場での言葉づかい、敬語の意義
(2)小テスト1の振り返り（第1章から3章の復習）

第8回 テキスト第6章 電話の受け方・かけ方①

(1)第6章-1電話応対、-2電話の受け方・かけ方、-3取り次ぎ、-4伝言メモ
(2)第6回授業までの復習 (3)就職・進学活動のこれからの進め方

第9回 テキスト第6章 電話の受け方・かけ方②

(1)第6章-5携帯電話のマナー、-6クレーム電話の対応、-7英語の電話の対応
(2)第4章～第6章の復習 (3)説明会参加の仕方、就職試験・面接の受け方

第10回 テキスト第7章 来客の対応の仕方①

(1)第7章-1受付応対、-2接客の基本、-3案内の仕方、-4エレベーターでのマナー
(2)小テスト2：第4章から第6章

第11回 テキスト第7章 来客の対応の仕方②

(1)第7章-5応接室でのマナー、-6お茶の出し方、-7お見送りのマナー
(2)小テスト2の振り返り (3)就職・進学活動指導

第12回 テキスト第8章 訪問の仕方

(1)第8章 訪問の基本マナー、名刺交換のマナー、紹介のマナー、面談、出張
(2)就職・進学活動指導

第13回 テキスト第9章 ビジネス文書の基本

(1)第9章 ビジネス文書の種類、社内文書・社外文書、封書・はがき、メール
(2)就職・進学活動指導

第14回 テキスト第10章 接待・会食・冠婚葬祭

(1)第10章 接待・会食・冠婚葬祭（慶事・弔事）のマナー / 第7章から第10章の復習

第15回 第7章から第10章復習

(1)小テスト3：第7章から第10章
(2)就職・進学活動指導

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「新社会人のための仕事の基本ービジネスマナー編」（最新版）日本能率協会マネジメントセンター

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[20%]、小テスト[60%]、自己分析書等[20%]

※小テストや課題にはコメント付けて返却する。

〔授業時間外学修〕

事前にテキストを読むことと、各章の確認テストは必ず復習すること。そのために毎回少なくとも1時間程度の自学時間を確保すること。

〔オフィスアワー〕

平日の昼休憩時は原則可能。その他「オフィスアワー」表示のある時は可能。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

大学事務局管理職を5年。その経験やSD活動を通して得た知見を基に、社会人としてのスキル、マナーについて講義と実務を教授する。

〔その他履修上の留意事項等〕

各章ごとに「確認テスト」があるので、予習・復習をし内容をよく理解すること。小テストを行い、修得状況をチェックする。また、関連する検定「ビジネス実務マナー」や「秘書検定」等を学内で受験することもできる。

アクティビティ・ケア

K204a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 教養科目
2 年

1単位 前期

月曜 1限

講義・演習

選択

科目ナンバリング161

齊藤 日出雄

〔授業の概要〕

もし、当事者の立場であったら、どういう生きがいを持って人生を過ごしたいか？「生きる喜び」をアクティビティという手法を用いて、障がいがあっても無くても、老若男女問わず同じ時間を共有出来る支援の理論と技術を学ぶ。

〔到達目標〕

支援をする対象者に応じたアクティビティ・ケアの知識（理論）と技術を習得し、暮らしている地域の文化や対象者の状況を理解して、アクティビティ・ケアの計画から評価まで出来る。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2、DP 3

〔授業計画〕

- 第 1 回 アクティビティ・ケアの基礎理論
アクティビティ・ケアとは何か？
[講義・演習]
- 第 2 回 アクティビティ・ケアの基礎理論
対象者への導入の意義
[講義・演習]
- 第 3 回 アクティビティ・ケアの現状
どんなアクティビティ・ケアがあるのか？
[講義・演習]
- 第 4 回 アクティビティ・ケアの効果と自立支援
[講義・演習]
- 第 5 回 アクティビティ・ケアの計画から実施・評価まで
[講義・演習]
- 第 6 回 アクティビティ・ケア実技Ⅰ
コミュニケーション手法
[演習]
- 第 7 回 アクティビティ・ケア実技Ⅱ
グループでの演習（アクティビティ・ケアの実践）①
[演習]
- 第 8 回 アクティビティ・ケア実技Ⅲ
グループでの演習（アクティビティ・ケアの実践）②
[演習]
- 第 9 回 アクティビティ・ケア実技Ⅳ
ボッチャの実践「障害者スポーツ」とは
[演習]
- 第 10 回 アクティビティ・ケア実技Ⅴ
日常生活で活かされるアクティビティ・ケアとは
[演習]

- 第 11 回 アクティビティ・ケア実技Ⅵ
「手工芸を取り入れた機能訓練」作品作り①
[演習]（集中講座）

- 第 12 回 アクティビティ・ケア実技Ⅶ
「手工芸を取り入れた機能訓練」作品作り②
[演習]（集中講座）

- 第 13 回 アクティビティ・ケアの計画作成
[演習]

- 第 14 回 アクティビティ・ケアの計画作成
[演習]

- 第 15 回 アクティビティ・ケア 計画発表 総括 学生の
発表からの講評として
[講義・演習]

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキストなし。必要に応じ資料を配布

〔成績評価の方法・基準〕

課題提出[50%]，授業態度[50%]

※フィードバック方法については授業時に説明する。

〔授業時間外学修〕

〔オフィスアワー〕

講師控室に「オフィスアワー」の表示があるとき。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

演習時には、準備品等が必要(授業内で周知)

健康と生涯スポーツ/2年

K205b

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 教養科目

2年

2単位 通年

木曜4限 木曜5限

演習

選択

科目ナンバリング162

朴 相俊

〔授業の概要〕

〔前期〕子どもや中高年者における健康と運動との関連を多面的に理解し、健康の保持増進、疾病や障害の予防と回復に関する運動実践方法の基本を理解する。さらに、実技・演習を通して運動を日常生活に楽しく実践するためのプログラムについて学ぶ。

〔後期〕ライフサイクルにおける健康と運動との関連を多面的に理解し、健康の保持増進、疾病や障害の予防と回復に貢献するスポーツの実践方法の基本を理解する。また、実技・演習を通して運動を日常的に楽しく実践し、運動習慣を身につける。

〔到達目標〕

〔前期〕1.心と身体の健康と生涯スポーツの関係を説明できる 2.運動の基本的な知識や理論を説明できる 3.自らの健康づくりのために、楽しく安全な運動習慣を身につける

〔後期〕1. 健康（心と身体）と運動に関する知識を養い、運動が健康に与える影響について理解できるようになる 2. 運動の基本的な知識や理論を説明できるようになる 3. 自らの健康づくりのために、楽しく安全な運動習慣を身につけるようになる

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP1

〔授業計画〕

- 第 1 回 前期オリエンテーション
競技スポーツ体験（バドミントン）
- 第 2 回 競技スポーツ体験（バレーボール）
- 第 3 回 競技スポーツ体験（バスケットボール）
- 第 4 回 競技スポーツ体験（卓球）
- 第 5 回 ニュースポーツ体験（スポンジテニス）
- 第 6 回 ニュースポーツ体験（ドッチボール）
- 第 7 回 ニュースポーツ体験
（マレットゴルフ・ソフトボール）
- 第 8 回 競技スポーツ体験（バドミントン）
- 第 9 回 競技スポーツ体験（バレーボール）
- 第 10 回 競技スポーツ体験（バスケットボール）
- 第 11 回 競技スポーツ体験（卓球）
- 第 12 回 ニュースポーツ体験（スポンジテニス）
- 第 13 回 競技スポーツ体験
（バドミントン・バスケットボール）
- 第 14 回 競技スポーツ体験
（バレーボール・スポンジテニス）
- 第 15 回 自由種目・前期まとめ
- 第 16 回 後期オリエンテーション

競技スポーツ体験（バドミントン）

- 第 17 回 競技スポーツ体験（バレーボール）
- 第 18 回 競技スポーツ体験（バスケットボール）
- 第 19 回 競技スポーツ体験（卓球）
- 第 20 回 ニュースポーツ体験（スポンジテニス）
- 第 21 回 ニュースポーツ体験（ドッチボール）
- 第 22 回 ニュースポーツ体験
（マレットゴルフ・ソフトボール）
- 第 23 回 競技スポーツ体験（バドミントン）
- 第 24 回 競技スポーツ体験（バレーボール）
- 第 25 回 競技スポーツ体験（バスケットボール）
- 第 26 回 競技スポーツ体験（卓球）
- 第 27 回 ニュースポーツ体験（スポンジテニス）
- 第 28 回 競技スポーツ体験
（バドミントン・バスケットボール）
- 第 29 回 競技スポーツ体験
（バレーボール・スポンジテニス）
- 第 30 回 自由種目・後期まとめ

〔テキスト・参考書・参考文献〕

必要時に担当教員が準備する

〔成績評価の方法・基準〕

課題提出[50%]、授業態度（積極度等）[50%]

※フィードバック方法については授業時に説明する。

〔授業時間外学修〕

〔オフィスアワー〕

常時

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

体育館用シューズ、運動服共に高校時のものも可、授業内容について講義時に積極的に質問し、参加する。

心理学

K207a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 教養科目
2年
2単位 後期
木曜1限
講義・演習
選択
科目ナンバリング163

倉田 郁也

〔授業の概要〕

この授業では、人の精神的側面を理解するいくつかの考え方について学び、その中で心理学の役割を理解し、人への支援の仕方について理解を深めることを目指す。

〔到達目標〕

学生が、人を“みる”とはどういうことか、述べることができる。人の心の働きを理解する方法について、述べることができる。心理学的人間理解の有力な知見について述べることができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP1、DP2

〔授業計画〕

全て講義

第1回：「心」とは？「行動」とは？

第2回：「ストレスとコーピング」とは？

第3回：「性格」とは？「類型論」・「特性論」とは？

第4回：発達と発達課題（ピアジェ、フロイト、エリクソン等）とは？

第5回：来談者中心療法（カール・ロジャーズ）とは？

第6回：精神分析療法（ジグムンド・フロイト）とは？

第7回：アドラー心理学（アルフレッド・アドラー）とは？

第8回：小テスト（心行動、ストレス、性格、発達、来談者中心療法、精神分析、アドラー）

第9回：ユング心理学（カール・グスタフ・ユング）とは？

第10回：交流分析（エリック・バーン）とは？ エニアグラムとは？

第11回：行動療法（ジョン・ワトソン）とは？

第12回：認知療法・論理療法（ベック、エリス）とは？

第13回：ブリーフセラピー（ミルトン・エリクソン）とは？

第14回：アサーティブネス（アサーション）とは？

第15回：傾聴とは？ 心理療法とは？

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：指定しない。必要に応じ、印刷資料を配布する。

参考書：山蔦圭輔『メディカルスタッフのための基礎からわかるカウンセリングと心理療法』2022、南山堂

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[50%]、小テスト[50%]

※フィードバック方法については授業時に説明する。

〔授業時間外学修〕

次の授業のテーマを参考書等で調べ、概要を理解しておくこと。予習時間は、30分以上確保すること。

〔オフィスアワー〕

火曜日14：00～18：00。カウンセリングルームにて。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

専門用語などは、図書館にある参考文献を読むなどして理解しておくこと。

日本語表現法

K208a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 教養科目
2年

2単位 後期

木曜1限

講義・演習

選択

科目ナンバリング164

斎藤 和幸

〔授業の概要〕

「修学基礎」で習得した読み・書きや文章表現力を継続的に発展させ、社会人基礎力としてさらに実践的な日本語力の習得を目的とする。また、さまざまなコミュニケーション・シーンに対応できるように日本語問題を解きながら応用力をつける。

〔到達目標〕

基本的な書く力と話す力を中心に、社会人として相手や場面に応じた適切な日本語表現力を習得する。また間違いやすい言葉や慣用句などの理解を深め、適切な言葉づかいや語彙力を身につけ豊かな表現できるようになる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP2、DP3

〔授業計画〕

第1回 授業オリエンテーション

- (1) 授業概要、到達目標、授業内容と計画の解説
- (2) アセスメントテスト：現在修得している言葉、表現力を自己評価する

第2回 書く力編 Work1・2 漢字と句読点の働き

- (1) 読みやすく漢字を交える－漢字の働きを知る
- (2) 句読点の働きを理解する－適切で効果的な句読点の使い方

第3回 書く力編 Work3・4 和語・漢語・外来語

- (1) 和語・漢語・外来語を使いわけ
- (2) 語彙という考え方を理解する－理解語彙と使用語彙

第4回 書く力編 Work5・6 文の推敲と言いまわし

- (1) 書いた文を見直す－推敲の観点を持つ
- (2) 別の言い方を考える－誤変換を正し適切な言葉づかい、豊かな表現を考える

第5回 書く力編 Work7・8・9 書き言葉と手紙

- (1) 改まった表現で書く－書き言葉の特徴
- (2) 手紙の基本をマスターする－手紙の書き方

第6回 話す力編 Work10・11 挨拶と自己紹介

- 小テスト1 － 書く力編 (Work1からWork9)
- (1) コミュニケーションシーンの基本：あいさつと自己紹介の方法
 - (2) 語彙問題1 短文作成

第7回 話す力編 Work12 改まった話し方・敬語

- (1) 小テスト1の振り返り
- (2) 改まった話し方で円滑なコミュニケーションをはかる
- (3) 語彙問題2 短文作成

第8回 話す力編 Work13 敬語の役割

- (1) 敬語の役割を理解し、向かう対象を考える
- (2) 語彙問題3 短文作成

第9回 話す力編 Work14・15 敬語で書く・話す

- (1) 書き言葉特有の敬語を理解し、敬語を使って書く・話す
- (2) 語彙問題4 短文作成

第10回 伝える力編 Work16・17 話を聞く・伝える

- 小テスト2 － 話す力編 (Work10～15)
- (1) 人の話を正確に聞く・分かり易く伝える
 - (2) 語彙問題5 短文作成

第11回 伝える力編 Work18 キーワードを考える

- 小テスト2の振り返り
- (1) 重要なキーワードをあげ、自分のことばで説明できる
 - (2) 主張や議論の根拠や出典を示し説得する

第12回 伝える力編 Work19 根拠をあげる

- (1) Work 説得－意見や主張に根拠を示す
- (2) 間違いやすい日本語表現1

第13回 伝える力編 Work20 表・グラフを読む

- (1) 表や図、グラフを使って分かり易く示す方法
- (2) 間違いやすい日本語表現2

第14回 文章設計図から文章を作成する

- 小テスト3 伝える力編 (Work16～20)
- (1) 文章設計図を基に文章を作成する技法
 - (2) 間違いやすい日本語表現3 総合編

第15回 日本語表技法のまとめ

- 小テスト3の振り返り
- (1) 間違いやすい日本語表現－短文作成
 - (2) 書く力、話す力、伝える力を使って総合的な日本語表現を考える

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「日本語表現&コミュニケーション」最新版 実教出版 他にプリントを配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[20%]、小テスト[30%]、作文・課題提出[50%]

※小テスト、課題はコメント付けて返却するので必ず復習すること

〔授業時間外学修〕

事前にテキストを読むことと、各章の課題を通じて復習に当てること。そのために毎回少なくとも1時間程度の自学時間を確保すること。

〔オフィスアワー〕

平日の昼休憩時は原則可能。その他「オフィスアワー」表示のある時は可能。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

大学事務局管理職として5年経験。実務を通して得た知見を基に日本語表現を考えていく。

〔その他履修上の留意事項等〕

授業中に小テストを行うので、常に復習することをすすめる。また、関連する検定「漢字能力検定」や「日本語検定」等に挑戦することもすすめる。

福祉情報技術

K301a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 教養科目

2 年

2単位 後期

木曜 2限

講義・演習

自由

科目ナンバリング201

三池 克明

〔授業の概要〕

福祉分野におけるICT・IoTの状況を俯瞰し、ICT・IoTの捉え方、どのような活用が期待できるかを解説する。

〔到達目標〕

現在はIoT(Internet of Things)時代と呼ばれるように、あらゆる機器にコンピュータが内蔵されネットワークに組み込まれている。本科目では福祉と情報技術の関係を俯瞰し、どのように情報技術を活用すべきかを考える力を習得する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2、DP 3

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

本科目について

第 2 回 情報とは

情報とは何か

第 3 回 コンピュータとは

コンピュータの仕組み、スマホ・タブレット・パソコンの違い

第 4 回 データとは

文章、数量、音声、動画などをコンピュータで扱う仕組み

第 5 回 情報処理とは

コンピュータが計算をする仕組み、計算・演算・情報処理

第 6 回 OSとは

OSとは、多様化したOSとその課題

第 7 回 コミュニケーションとICT

コミュニケーションとは、コミュニケーションを支援するICTとその課題

第 8 回 メディアとICT

メディアとは、メディアとしてのICTとその課題

第 9 回 ネットワークとICT

家族・地域・社会とネットワーク、ネットワークとは、ICTによるネットワーク化とその課題

第 10 回 拡張されたネットワーク

拡張した情報ネットワークとその課題

第 11 回 ヒューマンインタフェース

情報機器を“使いにくい”と感じる理由。使いやすさとは。使いやすさとICT

第 12 回 IoT(Internet of Things：モノのインターネット)

IoTとは、IoTで福祉はどう変わるか

第 13 回 AI(Artificial Intelligence：人工知能)

AIとは、身近なAI、AIをどう活かすか

第 14 回 情報セキュリティ

情報セキュリティとは、止揚(Aufheben)を踏まえた情報セキュリティ

第 15 回 まとめ

これまでのまとめ、期末試験に向けての諸注意

〔テキスト・参考書・参考文献〕

必要に応じて提示します。

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[40%]、課題提出[30%]、

授業終了時に提出するコメントシート[30%]

※フィードバック方法については授業時に説明する。

〔授業時間外学修〕

予習：次回の講義資料を確認し、何が分からないか明らかにしておくこと。

復習：講義資料を用いて学習したことを整理し、理解を深め、活用できるようにすること。

なお、1回の授業について、1時間程度予習復習を行うこと。

〔オフィスアワー〕

9:00～17:30（ただし会議、出張等で不在あり）。事前予約は不要です。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

PC研修指導・DTP制作の請負を年数回程度、19年継続している。また大学のICT部門職員（システム管理、データ分析担当）を計8年経験している。これらの経験を踏まえ、ソフト・ハード・ネットワークを俯瞰し、担当教員が遭遇した事例も交えて情報機器とユーザーにまつわる諸問題を解説する。

〔その他履修上の留意事項等〕

とにかく質問する学生ほど良好な成績を修める傾向があります。何でも良いので声を掛けてみましょう。

簿記会計

K302a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 教養科目
2 年
2 単位 後期
火曜 2 限
講義・演習
自由
科目ナンバリング202

土屋 武夫

〔授業の概要〕

基礎的な「会計言語力」をしっかり身に付け、企業活動を会計面から理解できるように、日常的に発生する商取引を正確に記録し、計算、整理する複式簿記の基礎的な一連の仕組みを身に付けることを目指す。

〔到達目標〕

企業活動を会計面から理解するために、日商簿記検定の基礎的な内容から知識と技術を習得するとともに、「日商簿記検定 3 級」の資格取得を目標とする。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

- 第 1 回 簿記の基礎・商品売買・現金・現金出納帳
- 第 2 回 普通預金・定期預金・当座預金・当座預金出納帳・小口現金・小口現金出納帳
- 第 3 回 手形と電子記録債権（債務）・受取手形記入帳・支払手形記入帳・貸付金・借入金等
- 第 4 回 その他の債権債務
- 第 5 回 貸倒れと貸倒引当金
- 第 6 回 有形固定資産と減価償却・法人税等と消費税
- 第 7 回 費用・収益の前払い・前受けと未払い・未収①
- 第 8 回 費用・収益の前払い・前受けと未払い・未収②
- 第 9 回 帳簿への記入、仕訳帳・総勘定元帳・仕入帳・買掛金元帳・商品有高帳等
- 第 10 回 試算表・伝票と仕訳日計表・証ひょう
- 第 11 回 精算表と財務諸表①
- 第 12 回 精算表と財務諸表②
- 第 13 回 精算表と財務諸表③
- 第 14 回 帳簿の締切り・株式の発行・剰余金の配当と処分
- 第 15 回 検定問題演習

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「スッキリわかる日商簿記 3 級」TAC 出版

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[40%]，課題提出[40%]，
授業に取組姿勢（簿記の仕訳等を一緒に考える授業態度）[20%]

※課題提出には毎回コメントをして返却する。

〔授業時間外学修〕

毎時学習した内容をしっかりと30分は復習（予習より）して授業に臨んでください。

〔オフィスアワー〕

授業の前後。解らない所を、解るまで共に勉強しましょう。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

「日商簿記検定 3 級」の検定問題にも取り組んでほしい。

秘書概論

K303a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 教養科目
2 年
2 単位 前期
月曜 3 限
講義・演習
自由
科目ナンバリング211

斎藤 和幸

〔授業の概要〕

①秘書として必要なビジネスの知識・技術を総合的に習得し、職務を理解する。②秘書としての職務を正確・迅速に遂行する知識を習得する。③秘書としての望ましい態度を習得する。

〔到達目標〕

秘書の役割とは何か、その職務の位置づけから業務を理解し、秘書に求められる資質や能力は何かがわかる。また、高度情報化、グローバル化する社会における秘書の仕事の基本と変化について説明できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業ガイダンス・資格情報
(1) 講義概要、到達目標と授業の進め方について
(2) 秘書関連資格「上級秘書士（メディカル）」取得のための履修規定
- 第 2 回 秘書概論の課題研究
(1) 秘書に求められる資質やスキルについて、関連する検定問題を解く
(2) 秘書に関する一般知識と専門知識に関する理論と技能を理解する
- 第 3 回 テキスト第1章 必要とされる資質①
第1節 職業人としての心構え：社会人として求められる資質と心構えや基本的マナー、秘書としての心構えの理解
- 第 4 回 テキスト第1章 必要とされる資質②
第2節 求められる能力：処理力と行動力・判断力・記憶力・表現力、理解力・対人関係能力
- 第 5 回 テキスト第2章 職務知識①
(1) 第1章の復習 演習問題で確認
(2) 第2章 第1節 秘書の機能：秘書の役割・分類・業務・上司の補佐的業務の理解
- 第 6 回 テキスト第2章 職務知識②と第2章の復習
(1) 第1節 秘書の機能について振り返り
(2) 第2節 仕事の進め方：効率的な進め方、指示の受け方、失敗への対処の理解
- 第 7 回 テキスト第3章 一般知識①
(1) 第1章及び第2章の学習の確認 小テスト1
(2) 第3章 第1節 社会常識：社会常識・政治・経済・国際関係・生活の知識を理解する
- 第 8 回 テキスト第3章 一般知識②と第3章の復習

第2節 経営知識：企業の組織と機能、経営管理、生産管理・マーケティング、労務・人事、会計・税務を理解する

- 第 9 回 テキスト第4章 マナー・接遇①
(1) 第1節 挨拶と話し方、聞き方：挨拶とお辞儀、話し方・聞き方を理解する
(2) 第2節 電話応対：電話のマナーと特性、電話の受け方・かけ方を理解する
- 第 10 回 テキスト第4章 マナー・接遇②と第4章の復習
(1) 第3節 来客応対：受付と案内、接待、見送りのマナー
(2) 第4節 交際業務：慶事、弔事、贈答
- 第 11 回 テキスト第5章 技能①
(1) 第3章及び第4章の学習の確認 小テスト2
(2) 第5章 第1節会議：介護の目的・種類、介護に関する秘書の業務を理解する
- 第 12 回 テキスト第5章 技能②
(1) 第2節 ビジネス文書の作成：社内文書と社外文書の作成の仕方を理解する
(2) 第3節 ビジネス文書の取扱い：受信・発信業務の理解、郵便の知識
- 第 13 回 テキスト第5章 技能③
(1) 第4節 資料管理：名刺管理、資料の整理
(2) 第5節 スケジュール管理：上司のスケジュール管理の仕方
(3) 第6節 環境整備：オフィス環境整備
- 第 14 回 テキスト第5章 技能の復習
(1) 第5章の復習 演習問題の確認、秘書検定の過去問題から理解する
(2) 第5章の学習の確認
- 第 15 回 秘書概論の復習
(1) 秘書概論のまとめと第5章の確認小テスト3
(2) 課題研究レポート

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「新秘書特講」最新版 早稲田教育出版

〔成績評価の方法・基準〕

小テスト[50%]，課題提出[20%]，課題研究レポート[30%]

※小テスト、課題提出には毎回コメントをして返却する。（指定する検定に合格した場合は期末レポートに替える。）

〔授業時間外学修〕

小テストを行う際には復習時間を確保し、また課題提出などに際しては自学時間を1時間程度確保すること。

〔オフィスアワー〕

平日の昼休憩時は原則可能とする。その他「オフィスアワー」表示のあるとき可。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

大学事務局管理職として5年勤務。経験と知見を基に、秘書として必要な素養を教授する。

〔その他履修上の留意事項等〕

質問があるときはオフィスアワーを利用して研究室を訪ねてほしい。また関連する検定「秘書検定」「ビジネス実務マナー検定」に挑戦してほしい。

秘書実務

K304a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 教養科目
2 年

2単位 後期

月曜 2限

講義・演習

自由

科目ナンバリング212

斎藤 和幸

〔授業の概要〕

実社会における秘書として必要な知識と技能を総合的に習得するために、秘書概論において理解した実務の基本・専門知識を踏まえ、より実践的な職務知識と技能を習得して秘書業務を理解していく。

〔到達目標〕

秘書の役割に対応した職務を果たすために、実務の基本から求められる能力として、話し方、接遇実務、文書作成など実際の技術を習得する。また、いろいろな実務を駆使してプレゼンテーションすることができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

第 1 回 授業ガイダンス

(1)授業概要、到達目標、授業内容と計画及び授業の進め方を説明する

(2)「秘書概論」の復習から、秘書に求められる基本的能力、役割、仕事を確認

第 2 回 テキスト第1章 秘書の役割①

(1)秘書の役割 1.秘書と管理者 2.専門秘書 3.秘書の形態 4.秘書の仕事

(2)復習：演習問題1～3／秘書検定問題を解く

第 3 回 テキスト第1章 秘書の役割②

(1)秘書の役割 5.秘書の資格要件 6.秘書の心得

(2)第1章の復習 演習問題4／検定問題を解く

第 4 回 テキスト第2章 秘書のコミュニケーション

(1)1.秘書のコミュニケーション 2.身だしなみと立ち居振る舞い 3.話し方、聞き方 4.指示の受け方と報告のしかた 5.敬語の使い方 6.接遇の基本

(2)第2章の復習 演習問題の確認／復習ワーク

第 5 回 テキスト第3章 接遇

(1)1.接遇の基本 2.来客応対 3.電話応対

(2)第3章の復習 演習問題の確認 / 別資料－来客応対・お茶の接待

第 6 回 テキスト第4章 慶弔と贈答

(1)小テスト1 第1章から第3章

(2)第4章 1.慶弔 2.贈答 / 第4章の復習 演習問題の確認

第 7 回 テキスト第5章 スケジュール確認

(1)小テスト振り返り

(2)第5章 スケジュール確認 1.予定表 2.予定

表の作成 3.アポイントメント

演習問題：週間予定表を作成する

第 8 回 テキスト第6章 出張－PC室

第6章 出張 1.国内出張 2.海外出張

演習問題：出張旅程表を作成する

第 9 回 テキスト第7章 環境整備

(1)小テスト2 第4章から第6章

(2)第7章 環境整備 1.環境の管理 2.環境の整備 / 第7章の復習 練習問題

第 10 回 テキスト第8章 会議のコーディネート

(1)小テスト2の振り返り

(2)第8章 会議 1.会議の目的と種類 2.会議の運営 3.議事録 / 復習問題

第 11 回 テキスト第8章復習・第9章 文書作成

(1)第8章の復習 練習問題／会議録を作る

(2)第9章 文書作成 秘書と文書作成、社外文書、社交文書、社内文書 / 課題

第 12 回 テキスト第10章 文書の受発信とファイリング

1.文書の受信 2.文書の発信 3.「秘」扱い文書

4.郵便の知識 5.ファイリング 6.バーティカルファイリング 7.資料の整理 / 練習問題

第 13 回 秘書技能を使ったプレゼンテーション①

(1)小テスト3 第7章から第10章

(2)秘書実務で習得した知識と技術を応用して商品プレゼンテーションする。

テーマ：自社製品・商品をPRする（キャッチコピーを考える）

第 14 回 秘書技能を使ったプレゼンテーション②

(1)プレゼンテーション構成表からPowerPoint資料作成

(2)発表要領と相互評価方法説明

第 15 回 プレゼンテーション

指定された時間内に自社製品・商品をPRする

(1)発表時間 (2)質疑応答 (3)評価・採点

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「新秘書実務」最新版 早稲田教育出版

〔成績評価の方法・基準〕

小テスト[30%]、課題提出[30%]、プレゼンテーション・検定試験[40%]

※小テスト、課題提出には毎回コメントをして返却する。発表は相互評価する。

〔授業時間外学修〕

小テストを行う際には復習時間を確保し、また課題提出などに際しては自学時間を1時間程度確保すること。

〔オフィスアワー〕

平日の昼休憩時は原則可能とする。その他「オフィスアワー」表示のあるとき可。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

大学事務局管理職として5年勤務。経験と知見を基に、秘書として必要な素養を教授する。

〔その他履修上の留意事項等〕

授業時間に問題が解決できないときは、オフィスアワーを利用して研究室を訪ねてほしい。また積極的に関連する検定「秘書検定」「ビジネス実務マナー検定」に挑戦してほしい。

メディカル秘書概論

K305a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 教養科目

2年

2単位 前期

木曜 2限

講義・演習

自由

科目ナンバリング221

油井 博一

〔授業の概要〕

大きく変動している医療現場で質のよいサービスを提供できる医療スタッフ、即ちメディカル秘書になるための知識を習得する。

〔到達目標〕

わが国の医療の沿革や現状を学習した上で、メディカル秘書の役割や基本的な心がまえ等身につけ、メディカル秘書に関する専門知識習得を目標とする。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス

第 2 回 我が国（特に医療）を取り巻く環境の変化

第 3 回 医療機関（病院）の組織

第 4 回 医療機関（病院）を支える職員

第 5 回 医療機関（病院）の管理

第 6 回 医療界の現状

第 7 回 メディカル秘書の概念・必要性

第 8 回 米国の医療の現状

第 9 回 我が国のメディカル秘書

第 10 回 メディカル秘書の業務

第 11 回 メディカル秘書の役割

第 12 回 医療従事者に関する法律

第 13 回 社会保険・医療保険制度 模擬試験

第 14 回 病院医療の実際

第 15 回 病院医療の実際

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：別途指示する

参考文献：

「新 医療秘書実務シリーズ 1三訂 医療秘書」建帛社

「病院事務のための医療事務総論/医療秘書実務」建帛社

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[60%]，授業態度（積極度等）[40%]

※フィードバック方法については授業時に説明する。

〔授業時間外学修〕

毎回復習を30分程度確保すること。興味関心を持ち、自己学習に励むこと。

〔オフィスアワー〕

講師控室ドアに「オフィスアワー」の表示がしてあるとき。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

メディカル秘書実務Ⅰ

K306a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 教養科目
2年

2単位 後期

火曜 2限

講義・演習

自由

科目ナンバリング222

厚生連

〔授業の概要〕

医療秘書の実務を理解するとともに、患者様との接遇、メディカルスタッフとのコミュニケーションについて学習する。また、近年、医療機関において電子カルテやオーダーリングシステムの導入が進んでいるため、メディカル秘書の業務に必要なスキルを習得することを目的とする。

〔到達目標〕

医療現場での接遇やコミュニケーションの重要性を理解し、医療情報システム、診療情報管理、保険請求など、医療事務に関する幅広い知識を身につけ、メディカル秘書としての基礎を習得する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス、医療機関におけるコミュニケーション

〔担当：土屋〕

第 2 回 受付業務の基本、メディカルスタッフとのコミュニケーション

〔担当：山寺〕

第 3 回 接遇の基本、電話対応の基本

〔担当：山寺〕

第 4 回 メディカル秘書の実際

〔担当：竹内〕

第 5 回 メディカル秘書の実際（医局秘書など）

〔担当：油井〕

第 6 回 医療情報システムの現状

〔担当：山崎〕

第 7 回 病院情報システムの今後の展開

〔担当：山崎〕

第 8 回 医学基礎用語・医学略語、診療記録の読み方

〔担当：細井〕

第 9 回 診療記録の管理・活用

〔担当：細井〕

第 10 回 外来医療・会計業務

〔担当：中島〕

第 11 回 入院医療業務

〔担当：中島〕

第 12 回 保険請求業務

〔担当：赤羽〕

第 13 回 ビジネス文書、模擬試験

〔担当：土屋〕

第 14 回 診療情報管理業務の実際

（佐久医療センター実習）〔担当：細井〕

第 15 回 診療情報管理業務の実際

（佐久医療センター実習）〔担当：細井〕

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「カルテの読み方と基本知識」じほう

参考文献：「病院事務のための医療事務総論/医療秘書実務」建帛社

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[60%]，授業態度（参加度）[40%]

※小テストや模擬試験等を実施した場合は、当日解説をし、フィードバックする。

〔授業時間外学修〕

毎回復習を30分程度確保すること。興味関心を持ち、自己学習に励むこと。

〔オフィスアワー〕

講師控室ドアに「オフィスアワー」の表示がしてあるとき。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

（細井）診療情報管理士として医療機関に長年勤務。医療機関での実務経験をもとに診療情報の管理・活用等について講義する。

〔その他履修上の留意事項等〕

この科目は、「上級秘書士（メディカル秘書）」資格取得のための必修科目である。

ソーシャルワーク論

S810a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 専門科目

2年

2単位 後期

火曜1限

講義・演習

科目ナンバリング351

尾島 万里

〔授業の概要〕

ソーシャルワークとは社会福祉の援助や実践及びその方法のことである。本授業では、ソーシャルワークとは何か、その理念、歴史、価値、倫理、原則、援助プロセス、専門性や記録の書き方、利用者の権利擁護について学習する。

〔到達目標〕

本授業で学んだことを卒業後に保育や社会福祉の現場で活用することができるようにすることである。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

講義と演習形式で行う。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ソーシャルワークの意味と種類
- 第3回 ソーシャル・ケースワークの原則
- 第4回 ソーシャル・ケースワークの面接技法
- 第5回 ソーシャル・ケースワークの支援過程（その1）
- 第6回 ソーシャル・ケースワークの支援過程（その2）
- 第7回 ソーシャル・ケースワークの記録法
- 第8回 ソーシャル・ケースワークの形成過程
- 第9回 ソーシャル・グループワークの原則
- 第10回 ソーシャル・グループワークの支援過程
- 第11回 コミュニティ・ワークの原則
- 第12回 コミュニティ・ワークの支援過程と技法
- 第13回 コミュニティ・ワークを活用した事例（その1）
- 第14回 コミュニティ・ワークを活用した事例（その2）
- 第15回 ソーシャルワークの専門性と倫理

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「保育士をめざす人のソーシャルワーク」相澤譲治編（株）みらい

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[60%]，課題提出[20%]，授業に取り組む姿勢[20%]

〔授業時間外学修〕

新聞やインターネットを通じて社会福祉に関するニュースを読むこと

予習：授業のテーマに沿ったテキストの章・節を読んでおいてください。（15分程度）

復習：各回の授業で配布した資料を読み返してください。（15分程度）

〔オフィスアワー〕

研究室前に在室表示をしているとき

事前予約も可

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

授業の進捗状況により、授業内容や方法が一部変更される場合があります。

多職種連携論

S816a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 専門科目

2 年

2単位 後期

水曜 3限

講義・演習

必修

科目ナンバリング451

菊池 小百合、廣橋 雅子

〔授業の概要〕

ケアの質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的知識を理解し、多職種チームで働くための能力を養う学習とする。障害児・者への支援において、地域を含めた福祉の場における多職種との連携の実践について学び、チームマネジメントの課題と方法を検討する。

〔到達目標〕

ケア実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用などの人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップなど、多職種チーム運営の基本を理解し、説明できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 3

〔授業計画〕

- 第 1 回 福祉サービスの特性と求められるマネジメント
福祉系（介護・保育）サービスと他サービスとの相違点を学ぶ（菊池）
- 第 2 回 チームマネジメントの基本
組織に必要なチームマネジメントとはなにか。チームマネジメントが求められる理由（廣橋）
- 第 3 回 ケアを展開するために必要なチーム
チームを形成する専門職種の特徴について理解する。多様なチームを知り、チームでケアを展開するために必要な実践力を学ぶ（菊池）
- 第 4 回 実践力を高めるためのチームマネジメント
チームワークとは何か。必要となるリーダーとフォロワーの役割を学ぶ（菊池）
- 第 5 回 チームワークに必要なリーダーとフォロワー
事例を活用し、リーダーシップ・フォロワーシップについて学ぶ（菊池）
- 第 6 回 福祉系職種（介護・保育）のキャリアデザイン
国家資格取得後のキャリアステップの構築について（菊池）
- 第 7 回 人材キャリア開発のしくみ
各社員のキャリアに応じた実践力と、開発・支援するためのしくみ（OJT,OFF-JT）について学ぶ（廣橋）
- 第 8 回 キャリア開発と自己研鑽
自己研鑽を高めるためのモチベーション向上と、福祉におけるスーパービジョンについて（廣橋）
- 第 9 回 福祉系サービスと事業所組織
福祉系サービス（介護・保育）を支える組織の構造について学ぶ（廣橋）

第 10 回 事業所組織の機能と役割

福祉系サービス（介護・保育）に関係する機能・役割として、勤務表・委員会について学ぶ（菊池）

第 11 回 事業所組織の機能と役割

サービスに影響を与える設備・備品、人材確保、安全衛生、ハラスメント防止について学ぶ（菊池）

第 12 回 事業所組織の経営

経営基盤の安定に向けた、必要な法令、理念、運営方針、事業計画の作成など（廣橋）

第 13 回 地域におけるチームマネジメント

福祉系（介護・保育）事業所が行っている、様々な地域連携・社会貢献活動の実践を知る（菊池）

第 14 回 業務課題の発見と解決の方法

ケア（介護・保育）の方針や、目標設定につながる情報共有について考える（菊池）

第 15 回 業務課題の発見と解決の方法

課題解決に向けた実践方法と、評価・修正の視点を学ぶ（菊池）

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：後日指示する

資料：適宜配布する

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[60%]，課題提出[40%]

〔授業時間外学修〕

予習15分程度：事前に指定された資料を読んでおいて下さい。復習30分程度：各回の授業で配布した資料等を確認し、ポイントの整理を行ってください。

〔オフィスアワー〕

菊池・廣橋：研究室のドアにオフィスアワーの表示のある時。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

菊池：総合病院看護師・介護老人保健施設看護師・介護支援専門員として30年以上の実務経験。医療・介護の場での実務経験を基に講義を行う。

〔その他履修上の留意事項等〕

毎回授業終了後、リファレンスカードに感想・質問等を書いて提出してください。

福祉ビジネス概論

S818a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 専門科目
2 年

2単位 前期

月曜 2限

講義・演習

選択

科目ナンバリング452

廣橋 雅子

〔授業の概要〕

福祉に特化したビジネスの最新情報や企業事例について情報を集め、一般企業が求める営利とは異なる組織の持続可能な運営について学ぶ。

〔到達目標〕

どのような福祉ビジネスニーズが存在するのか、授業を通じて福祉産業に特化した営利と非営利組織の動きを理解し、学生個々の将来性と照らし合わせながら持続可能な社会の形成に必要な福祉アイデアを探索する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 1、DP 2

〔授業計画〕

- 第 1 回 福祉ビジネスとは
営利を目的とする企業と福祉（社会貢献）を目的とする事業は異なる！
- 第 2 回 組織形態と運営方法
そもそもの組織とは？福祉ビジネスを運営するのは誰だ？
- 第 3 回 高齢者を対象にしたビジネス戦略
介護施設だけがビジネスじゃない！
- 第 4 回 福祉ビジネスにおけるイノベーション
革新する福祉ビジネスはどんなものがあるのか調べてみよう
- 第 5 回 福祉ビジネスチャンスとビジネス発想
これからの未来に必要なビジネスを考えてみる
- 第 6 回 事例を読み解く
- 第 7 回 組織分析：実習先を対象に
実習にお世話になった施設や保育所の運営について経営の視点から感想をまとめる
- 第 8 回 組織分析発表演習
前回でまとめた内容をそれぞれが発表する
- 第 9 回 SDGsの視点を持った福祉ビジネス
2030年までの持続可能な社会の実現に向けたSDGs、17の目標を理解し、各々が考える新しい福祉ビジネスとの関連性を明確にする。
- 第 10 回 演習 顧客の困りごとを解決する
困っていることがなにか？社会の課題にアンテナを張り巡らせられるように何をしなければいけないのかを考える。
- 第 11 回 高齢者ビジネスの事例
最新のビジネス事例を学ぼう
- 第 12 回 子どもビジネスの事例

これまでのビジネス事例についてディスカッションをしよう

第 13 回 事例演習：困りごと解決ビジネスの立ち上げ
各グループによる斬新な福祉ビジネスを考えてもらう

第 14 回 事例演習：社会ニーズとサービス供給バランス
提案する福祉ビジネスをまとめ上げる

第 15 回 演習 これから必要とされる福祉サービス

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：授業中に配布する。

参考資料として、日経ビジネス、東洋経済、地域介護経営(旧：介護ビジョン)、新聞などを利用する。

〔成績評価の方法・基準〕

課題提出[40%]，課題発表[50%]，リアクションペーパー[10%]

〔授業時間外学修〕

図書館にある経済雑誌や白書などを利用し、事例発表までにより多くの情報を集めること。

また2回の課題提出と期末の発表のための自学時間を週1時間ほど確保する。

〔オフィスアワー〕

会議や授業時間以外の在室中はオフィスアワーとする。

相談事やまとめた時間が必要な場合は、事前の予約をお願いしたい。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

20年以上の一般企業経験と会社経営の経験を持ち合わせている。また、近年の福祉ビジネスの動向にも常に注目している。

〔その他履修上の留意事項等〕

2回の課題及び発表があるので、課題内容を理解し提出期限を厳守すること。

社会学

S819a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 専門科目
2 年
2単位 前期
金曜 4限
講義・演習
選択
科目ナンバリング453

内藤 博幸

〔授業の概要〕

この授業では、福祉専門職として働く上で必要な現代社会の課題を多角的な視点から見る目を養い、専門職として地域の多様な福祉ニーズに応える能力を身につけることを目指す。

〔到達目標〕

この授業を通して、家族の在り方や人口動態、働き方の変化など社会学の基礎となる範囲の語句を正しく理解したうえで、説明できるようになる。また、地域の中で障害者や高齢者が抱える課題を理解し、解決策を考察することを目指す。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP1、DP3

〔授業計画〕

- 第 1 回 わが国の人口動態
わが国の人口動態が人口ボーナス期から人口オーナス期へと移行する過程で、特にその変化が年金制度に及ぼした影響を学習する。
- 第 2 回 家族形態の変化
拡大家族の激減と単身世帯急増の原因と社会保障制度への影響を考察する。
- 第 3 回 家族周期とライフコース
昭和のモデル世帯と現在の非婚化・晩婚化そして少子化社会への変化を学び、ライフスタイルの変化を理解する。
- 第 4 回 ジェンダーと労働問題
女性のライフコースの変化と非正規雇用の増加、さらに格差問題にまで学びを広げる。
- 第 5 回 男女共同参画社会
なぜ男女共同参画社会が求められるのか、多角的な視野を持って考察する。さらに女性活躍推進法の成立の背景を学ぶ。
- 第 6 回 集団と組織
コミュニティとアソシエーションの違いを理解し、今の東信地域でどのような市民団体、地域活動（NPO法人等）が活動しているのかを学ぶ。
- 第 7 回 地域福祉を担う団体Ⅰ
社会福祉協議会と共同募金会について学ぶ。
- 第 8 回 地域福祉を担う団体Ⅱ
社会福祉法人が担う第1種社会福祉事業、NPO法人や企業が担う第2種社会福祉事業について学ぶ。
- 第 9 回 災害と地域福祉

民生委員、生活支援相談員、DCAT等の役割について学ぶ。

- 第 10 回 貧困問題Ⅰ
高齢者の生活保護世帯急増や母子家庭と子どもの貧困について、その原因を明らかにし、対策を考察する。
- 第 11 回 貧困問題Ⅱ
生活保護制度と生活困窮者自立支援制度について学ぶ。
- 第 12 回 高齢者の施設と住宅
国の高齢者住宅政策を学び、さらに空き家問題に関して考察する。
- 第 13 回 高齢化社会と医療・保健
健康増進法制定の背景や健康日本21運動について学ぶ。
- 第 14 回 地域包括ケアシステムの目指すもの
「我が事・丸ごと」地域共生社会の実現へ大きく舵をきった我が国の地域福祉政策を学ぶ。さらに「ニッポン一億総活躍プラン」を概観する。
- 第 15 回 まとめと復習
試験に向けて重要ポイントを振り返る。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「見て覚える！介護福祉士国試ナビ2022」中央法規

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[60%]、小テスト[40%]

※小テストで多く見られた誤答を分析し、フィードバックする。

〔授業時間外学修〕

授業中に取り組んだ練習問題を必ず復習すること。

〔オフィスアワー〕

金曜日。講師控室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 専門科目
2 年

2単位 後期

金曜 4限

講義・演習

選択

科目ナンバリング454

内藤 博幸

〔授業の概要〕

この授業では、社会保障の意義、仕組み、歴史的変遷などを講義し、学生に公民としての責任と権利を自覚させることを目指す。また、介護職を目指す学生に向け、介護保険制度に関して詳細な解説を行う。

〔到達目標〕

この授業を通して、学生が「若者がなぜ高齢者の年金を負担するのか」を理解し、自助・互助・共助・公助の精神を身に付けることを目標とする。さらに現在の我が国の社会保障制度を持続可能なものにしていくには何が必要かを考えていく態度を養うことを目標とする。また、介護保険制度の概要を高齢者に正しく伝えることができるようにする。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP1、DP3

〔授業計画〕

- 第 1 回 社会保障制度と社会保険の概要
ドイツ・イギリスで社会保険制度が成立した歴史的背景を学ぶ。わが国の5つの社会保険に関してその内容を把握する。
- 第 2 回 社会保障費の内容と年度推移
戦後の社会保障費（年金・医療・福祉）の内訳の推移を学ぶ。また国の財政に占める社会保障費の大きさを把握し、その財源について学ぶ。さらに他の先進国との比較を行い我が国の社会保障費の特徴を確認する。
- 第 3 回 社会福祉制度の歴史
わが国の社会保険制度の沿革や福祉六法、さらには2000年の社会福祉法改正までの福祉基礎構造改革の流れを学習する。
- 第 4 回 高齢者福祉と障害者福祉の変遷
身体障害者福祉法・老人福祉法・知的障害者福祉法の制定から、介護保険法、障害者総合支援法制定までの流れを学習する。
- 第 5 回 医療保険制度・健康保険と国民健康保険
我が国の医療保険制度の中核をなす健康保険と国民健康保険の制度上の違いを学ぶ。特に健康保険制度独自のサービスや保険料負担などについて理解する。
- 第 6 回 年金制度 国民年金と厚生年金
わが国の現在の年金制度と将来の見通しについて学習する。また学生が、基礎年金制度と国民年金・厚生年金の関係を説明できるようにする。
- 第 7 回 雇用保険

失業の意味を正しく理解し、雇用保険の保険料と需給の仕組みについて学ぶ。求職者給付のみでなく、育児休業給付等についても雇用保険が財源であることを学ぶ。さらに求職者支援制度についても学ぶ。

- 第 8 回 労働者災害補償保険
労災保険は労働者の生活保障とともに事業者がその責任を負うべき労務災害の補償でもあることを認識する。また自身のためにも労災の適用範囲を正確に把握し、労災保険による各種の給付内容を学ぶ。
- 第 9 回 介護保険制度①
要介護認定までの流れ、そこに関わる役所や委員会、専門職そして被保険者の申し立てるべきことなどの詳細を理解する。
- 第 10 回 介護保険制度②
介護保険制度の全体像を把握し、保険者はどこか、財源はどうなっているのか、費用負担はどうなっているか、お金はどのように流れているのかなどを学ぶ。
- 第 11 回 介護保険制度③
介護給付（施設サービス、居宅サービス、地域密着型サービス）、地域支援事業など介護保険制度の下で提供されるサービスについて詳細を把握する。
- 第 12 回 介護保険制度④
地域包括支援センターの役割や地域包括ケアシステムにおける地域会議などの役割について学ぶ。
- 第 13 回 介護保険制度⑤
介護保険制度の2005年の改正、2011年の改正、2015年の改正、2017年の改正の具体的内容について理解する。
- 第 14 回 高齢者の権利擁護
日常生活自立支援事業の概要を学ぶ。また成年後見制度を説明できるようにする。さらに不服申立制度に関わる機関や専門職を把握し、その手順を学習する。
- 第 15 回 災害時の社会福祉活動と支援制度
阪神淡路大震災や東日本大震災の経験が福祉の支援活動（生活支援相談員、福祉避難所、DCAT）にどのように反映してきたかを学ぶ。また平時の避難行動要支援者登録制度を学ぶ。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「見て覚える！介護福祉士国試ナビ2022」中央法規（社会学と同じ）

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[60%]、小テスト[40%] ※小テストで多く見られた誤答を分析し、フィードバックする。

〔授業時間外学習〕

授業中に取り組んだ模擬問題を必ず復習すること。

〔オフィスアワー〕

金曜日。講師控室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

生活文化

S821a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 専門科目
2 年
2 単位 後期
金曜 2 限
講義・演習
選択
科目ナンバリング455

宮本 由香

〔授業の概要〕

生活は、社会背景や個人の取り巻く環境等により、人それぞれ異なる文化を持っている。この授業では、時代背景に合わせて衣食住生活の変遷を学ぶことで、実際の援助場面で対象者の生活背景を理解する手がかりとなるとともに、自分自身の生活を振り返り健全な生活の実践を目的として授業を展開する。

〔到達目標〕

この授業を通して、高齢者や障がい者をはじめとする支援を必要とする他者とコミュニケーションをとる際のツールとなる。また、自分自身のライフサイクルに対し、プランが立てられる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP1、DP3

〔授業計画〕

- 第 1 回 自分の生活について考える
家族、衣食住、遊びやコミュニケーションツールについて振り返り、他者との違いや多様性を理解する。
- 第 2 回 「家族」について考える①
日本における「家族の形態」の時代的変遷や法律における「家族の定義」を学ぶ。
- 第 3 回 「家族」について考える②
「アニメの中の家族」から構成員や生活における時代の特徴を調べ、これからの時代の家族を考える。
- 第 4 回 住生活の変遷とその背景
時代における生活様式の変化と住まいの特徴について学ぶ。
- 第 5 回 衣生活の変化とその背景①
気候風土や生活様式の変化と衣服の特徴を学ぶ。
- 第 6 回 衣生活の変化とその背景②
介護における衣服の意義や機能、援助を学び、これからの介護服やユニバーサルファッションについて考える。
- 第 7 回 食生活の変遷とその背景①
日本や海外の食文化において、何を食べてきたか食事内容について、国や地域での違いや特徴を学ぶ。
- 第 8 回 食生活の変遷とその背景②
日本や海外の食文化において、どのように食べてきたか食事様式について、国や地域での違いや特徴を学ぶ。

- 第 9 回 食生活の変遷とその背景③
年中行事や個人の通過儀礼における行事食や郷土に伝わる食を理解する。
- 第 10 回 食生活の変遷とその背景④
行事食や郷土食について献立の立案、調理実習の計画をする。
- 第 11 回 食生活の変遷とその背景⑤
行事食または郷土食の調理実習。
- 第 12 回 食生活の変遷とその背景⑥
介護における食生活における配慮を実習を通して理解する。
- 第 13 回 子供の遊びの変遷とその背景①
時代による遊びの変遷とその効果について理解する。
- 第 14 回 子供の遊びとその背景②
遊びのツールを製作する。
- 第 15 回 まとめ
支援を要する者の生活背景を理解した上での関わり方について意見交換し、モデルプレイを通して演習する。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：必要に応じて資料を配布する。

参考文献：「生活支援技術Ⅰ」中央法規，必要に応じて紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[40%]，課題提出[40%]，

演習時の授業参加状況や意欲[20%]

課題は毎回コメントを付けて返却する。

製作物について授業内で対話型鑑賞をする。

〔授業時間外学修〕

単元ごとの課題に対して、聞き取り調査や行政の施策を調べておくこと(概ね毎回30分程度は確保すること)。また、地域の行事に関心をもって情報を収集する。

〔オフィスアワー〕

授業前後の休み時間または講師控室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

行政高齢者担当管理栄養士として5年間勤務。介護予防教室の運営実施ならびに要介護者の在宅訪問指導の実務経験をもとに、高齢者の生活背景の理解と関わり方について講義演習する。

〔その他履修上の留意事項等〕

家政実習室での実習では指示に応じた着装ならびに安全な実習ができるように配慮すること。

足と健康

S822a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 専門科目
2 年
2 単位 後期
金曜 2 限
講義・演習
選択
科目ナンバリング456

坂江 千寿子

【授業の概要】

「歩く」という行為は人間の基本動作であり、足部のクッション機能とポンプ機能は心身の健康に大きく影響している。日本における足と靴の課題と足育の取り組みを知り、「歩く」を支える「足」と「靴」との関係、姿勢や歩行分析の基礎を理解する。

子どもの成長発達を理解し、健康な足をつくるために必要な生活習慣と環境調整について学び、あらゆる年代の人の足爪トラブルの予防、健やかに歩くことを支えるためのケアの能力を身につける。(オムニバス方式)

【到達目標】

1. 足と心身の健康の関係性、足育の観点から足の構造と機能を理解し観察できる。
2. 「歩く」を支える身体メカニズムと歩行の観察ポイントが理解できる。
3. 足部の観察や計測を基に、成長および加齢に伴う変化を理解できる。
4. フットプリントを採取し足部状態の基本的な分析ができる。
5. 靴の構造と機能を基に、足の健康器具としての靴選択の基準が理解できる。
6. 乳児から高齢者の歩行に応じた靴の必要性和選択について理解できる。
7. 足部トラブル予防の知識、技術を基に、足部や爪のセルフケアが実施できる。
8. 小児から高齢者までのフットケアの必要性和基本的な方法が理解できる。
9. 受講前後で、心身の健康と足の健康、靴と歩行の重要性を理解し、自身の認識や行動が変化する。

【学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連】

DP2、DP3

【授業計画】

第1回 ガイダンス

足の状態と心身の健康の関係性を理解する

自分の足を知ろう！

足育の必要性、足の計測と観察、職業と靴【講義】

第2回、第3回、第4回【演習】ベーレルッツほか

足の状態と心身の健康の関係性の理解（集中）

ドイツと日本の足と靴事情 足部解剖学の基礎

歩行状態と足部の観察 外反偏平足とインソール

歩行状態、立位(脚軸)、足部状態の観察と判断

フットプリント採取と分析(基本)子どもの靴選び

フットプリント採寸と分析(基本)靴の適合・不適合

第5回 足の構造と機能 歩行のメカニズム

子ども靴の目的と機能、靴選びと靴適合の判断

【リモート講義】ベーレルッツ

第6回 見学実習（日程は個別に調整予定）

第7回 子どもの成長発達と足部にかかわる代表的な疾患の理解

成人・高齢者の代表的な足病変

【講義】外部講師：医師

第8回 足部の観察と計測【演習】

第9回 小テスト①

足部足趾のトラブル 靴の構造と機能

こどもの靴の観察と靴選び【講義】

第10回 足部を守る観察とケア1【演習】

足部トラブルと靴、歩行、靴の履き方、

足部の運動、足の清潔

第11回 足部を守る観察とケア2【講義】

爪の構造と機能、爪の観察とセルフでの爪切り①

第12回 足部を守る観察とケア3【演習】

皮膚の構造と機能、皮膚の観察と基本的な角質ケア

感染予防対策

第13回 足部を守る観察とケア4【講義】

足部トラブルと予防 足趾のトラブルと対処

小テスト②

第14回 足部を守る観察とケア5

爪トラブル ニップによる爪切り②

感染予防と器具の取り扱い【実技試験】坂江他

第15回 心身の健康と足の健康、靴と歩行の重要性を

理解し、自身の認識や行動が変化する

足の健康を守る靴の適合性、生活習慣と遊び、

大人の果たす役割【講義】

【テキスト・参考書・参考文献】

テキスト：図書館内のDVD等をご紹介します

参考文献：随時紹介します

【成績評価の方法・基準】

小テスト[70%]，課題提出[20%]，その他（見学レポート）[10%]

【授業時間外学修】

解剖生理学など、基本的な知識の自己学習が必要です。フットケアの事前視聴は必須とします。演習後にはご家族の爪を正しく切ることを復習して技術を身につけてください。(30分～1時間程度)

【オフィスアワー】

授業後にmanabaで質問を受け付けます。直接の質問や相談も歓迎します。

【実務経験のある教員等による授業科目】

【その他履修上の留意事項等】

介護福祉専攻の学生さんは足浴などの基本的ケアも復習しておきましょう。子ども福祉専攻の学生には授業中に個別に説明します。足の爪切りように、ストレート(直刃)の爪切りを用意してください。8回目以降(6週間程度)は、実技試験に備えて、足の爪は切らずに伸ばしておいてください。

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 専門科目
2年

2単位 後期

火曜 3限

講義・演習

選択

科目ナンバリング457

廣橋 雅子、脇山 園恵

〔授業の概要〕

人類にとって福祉とはどのように形成されたのか、福祉レ
ジームをまず理解する。デンマーク福祉先進国の福祉政策
や福祉サービスを提供するうえで重要視されるポイントを
学び、更にはアジア（中国・台湾）の歴史的・文化的背景
から福祉の形成について深く理解する。

〔到達目標〕

他国の福祉に関し理解を示し、国際的な視野を持つことで、
日本の福祉サービスについて分析・考察する能力を身につ
けることを目標にする。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP2、DP3

〔授業計画〕

- 第 1 回 ①オリエンテーション、②福祉国家としてのデン
マーク（以下、DK）と日本（以下、JP）[脇山]
①本科目の進め方等の理解、②世界の福祉レ
ジームの多様性を確認し、DKとJPの福祉国家の特徴
を理解する。
- 第 2 回 DKとJPの「暮らし」[脇山]
福祉国家としてのDKとJPについて「暮らし」の
側面から考える。
- 第 3 回 DKとJPにおける高齢者・児童福祉施策（理念と
実践等）[脇山]
DKとJPの高齢者・児童福祉施策に共通する理念
と理念を形にする実践の相違点からDKの特徴を
考える。
- 第 4 回 DKとJPにおける学校教育システムと介護士・保
育士養成[脇山]
DKとJPにおける学校教育システムと介護士・保
育士養成の共通点と相違点からDKの特徴を考え
る。
- 第 5 回 DKとJPにおける介護・保育専門職（カリキュラ
ムなど）[脇山]
DKとJPにおけるカリキュラム等の共通点と相違
点からDKにおける介護・保育専門職の業務内容
の特徴を考える。
- 第 6 回 DKとJPにおける福祉テクノロジー（実際と倫理
的課題など）[脇山]
DKとJPにおける福祉テクノロジーの共通点と相
違点からDKの介護・保育領域における福祉テク
ノロジーの特徴を考える。
- 第 7 回 DKとJPにおける①認知症ケア、②地域包括ケア
システム[脇山]

①DKとJPの認知症ケアに共通する理念と理念を
形にする制度あるいは実践の相違点からDKの特
徴を考える。②DKとJPにおける自助、互助、共
助、公助の共通点と相違点からDKにおける地域
包括ケアシステムの特徴を考える。

- 第 8 回 アジア諸国の福祉状況
高齢化が進む中国・台湾はどのような課題に面し
ているのか。国の特徴と制度を理解する。
- 第 9 回 アジアの福祉マインドと宗教の関係[廣橋]
国外において親の世話、高齢者の世話についても
宗教が大きく影響していることを学ぶ。
- 第 10 回 中国の高齢者ケアの課題[廣橋]
少子高齢化に直面する中国の高齢者介護の課題
について考える。
- 第 11 回 台湾の医療と介護の課題[廣橋]
介護保険がない台湾の高齢者サービスがどのよう
に提供されているのかを学ぶ。
- 第 12 回 国際社会への貢献と政府の動き[廣橋]
国連をはじめ、日本がどのような国際組織に加入
し、活動をしているかを理解する。
- 第 13 回 【映画鑑賞】湾生回家①[廣橋]
生まれ育った台湾が故郷だと思い込んでいた人々
は、終戦後日本へ強制的に帰国を余儀なくされ
る。「その人のアイデンティティ」とは何か。
- 第 14 回 【映画鑑賞】湾生回家② 異文化間介護とコミュ
ニケーション[廣橋]
映画を見終わり、その後異文化接触・異文化理
解、さらには異文化の受容までのプロセスを理解
する。
- 第 15 回 【演習】日本と外国の福祉・介護環境比較[廣橋・
脇山]
日本と海外一国の福祉サービスや福祉環境につい
て互いに発表し、議論を行う。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

教員自作の講義資料を配布する。参考書・参考文献は各担
当教員から授業内に提示する。

〔成績評価の方法・基準〕

課題提出[50%]、期末発表[50%]

〔授業時間外学修〕

授業内容の予習復習については各担当教員からの指示があ
るので、それに従うこと。

また、課題の提出及び発表の準備のために週1時間程度の自
学時間を確保することが望ましい。

〔オフィスアワー〕

会議や授業以外の在室時は原則オフィスアワーとする。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

国際活動推進事業を多く手掛ける教員による授業である。
海外の現状を知ることにも留まらず、日本と異なる介護環境
の背景理由がなんであるのかを理解し、自国の介護環境に
についても考察する機会を提供する。

〔その他履修上の留意事項等〕

毎年行われる「海外スタディツアー」に参加希望する学生
は、この授業を履修することが望ましい。但し、渡航がで
きる状況かどうかは、学園判断に準ずる。

インターンシップ

S824a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 専門科目
2 年
1 単位 前期集中
その他
講義・演習
選択
科目ナンバリング461

斎藤 和幸

〔授業の概要〕

自らの専門性やキャリアに関連した福祉ビジネスをはじめとする企業等において、実際に就業体験をすることで職業観を確立することを目的とする。福祉関連機関をはじめ企業等でのインターンシップとする。

〔到達目標〕

自らの専門性やキャリア教育で得た知識や技術を活かすことができ、将来の職業選択に役立てることができる。社会における良好な人間関係を築くために、ビジネスマナーやコミュニケーション力を応用することができ、働くことの意味を見出す機会となる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP1、DP3

〔授業計画〕

第 1 回 インターシップの概要

- (1) 授業ガイダンス：インターンシップの流れとエントリー方法
- (2) インターンシップのための履歴書作成

第 2 回 事前講義①

- (1) 希望職種及び希望企業等の調査
- (2) 自己分析及び目標設定シート作成、履歴書作成

第 3 回 事前学習②

- (1) コミュニケーションスキルとビジネスマナー学習
- (2) インターンシップ先への事前訪問の仕方と実習中の注意事項

第 4 回 インターンシップ（企業等での実施）1

企業等においてインターンシップ（実習）を行う
1日8時間の実働を10日間実施する（以下、第13回まで同様）

第 5 回 インターンシップ（企業等での実施）2

第 6 回 インターンシップ（企業等での実施）3

第 7 回 インターンシップ（企業等での実施）4

第 8 回 インターンシップ（企業等での実施）5

第 9 回 インターンシップ（企業等での実施）6

第 10 回 インターンシップ（企業等での実施）7

第 11 回 インターンシップ（企業等での実施）8

第 12 回 インターンシップ（企業等での実施）9

第 13 回 インターンシップ（企業等での実施）10

第 14 回 事後学習①

インターンシップ事後報告書作成
自己評価及び振り返りシート作成

第 15 回 事後学習②

インターンシップ報告

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：プリント資料を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

課題・レポート[50%]，実習評価・実習報告書評価[50%]

〔授業時間外学修〕

企業実習が主体であるので、日々実習終了後に1時間程度記録に当てること。

〔オフィスアワー〕

研究室に「オフィスアワー」の表示があるときは可能。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

大学事務管理職として5年の経験を基に、就業体験における目的・意義や臨む態度などについて教授する。

〔その他履修上の留意事項等〕

インターンシップは、事前講義を終了し受け入れ許可が得られた場合にのみ実施できる。

実施期間は授業期間に関わらず設定されることがあるので、承知しておくこと。

福祉ボランティア

S825a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 専門科目
2年

1単位 前期集中

木曜 4限 その他

講義・演習

選択

科目ナンバリング462

三池 克明、倉田 郁也、唐澤 千登勢、松木 貴子

〔授業の概要〕

曜日・時限にとらわれずボランティア活動に参加することで自己発見や成長を促し、相互扶助精神の修養を図る。

〔到達目標〕

ボランティア活動の参加を通じて他の授業では気づけない自己を発見し、相互扶助精神を身に付ける。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 1、DP 3

〔授業計画〕

第1回目 ガイダンス

本科目の目的や取り組み方。コース選択。

※「参加型コース」「企画型コース」を選択し、担当教員に申告して下さい

【参加型コース】（担当：三池・倉田）

第2回目～ ボランティア活動

以降は以下のステップで進める

(1)参加するボランティアの選択

- ・受講生は学生課が発信するボランティア活動を選択
- ・必要に応じてボランティア担当者との打ち合わせを行う

(2)ボランティア活動の参加（土日祝日になる可能性があります）

- ・ボランティア活動に参加する

(3)活動報告書の提出

- ・参加したボランティア活動についてのレポートを提出する

上記(1)～(3)をボランティア活動の実働時間が合計30時間以上になるまで取り組む

なお実働時間は教員との相談、担当者との事前打合せ、反省会などの時間を含めてよい

【企画型コース（サービス・ラーニング（地域貢献型活動））

（担当：唐澤・松木）

第2回目～ ボランティア活動の企画・運営・評価

以降は以下のステップで進める

(1)ボランティア活動の企画

- ・担当教員の指導を受けてボランティア活動を企画
（蔦屋書店佐久平店、佐久大学さくカフェ、他、いずれかで実践する内容を企画）

(2)ボランティア活動の運営（土日祝日になる可能性があります）

- ・現地担当者との打合せ
- ・（必要なら）スタッフ配置

- ・ボランティア活動の運営

(3)ボランティア活動の評価・報告書の提出

- ・企画・運営したボランティア活動について評価
- ・企画・運営・評価をまとめた実績報告書を提出する

上記(1)～(3)を定められた回数だけ取り組む

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：なし

〔成績評価の方法・基準〕

提出したレポート[100%]

〔授業時間外学修〕

教員やボランティア担当者との打合せ・相談・反省会や、ボランティア活動への参加、レポート作成などの時間を確保してください。

〔オフィスアワー〕

三池：9:00～17:30

倉田：火曜日～金曜日、9:00～18:00

唐澤：火曜・水曜の16:00～18:00、研究室（1215）在室時。

松木：研究室前に在室表示をしているとき 事前予約も可

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

とにかく質問する学生ほど良好な成績を修める傾向があります。何でも良いので声をかけてみましょう。

科目別シラバス

福祉学科 2年次生科目

介護福祉専攻

専門科目

発展科目

資格科目

介護の基本Ⅲ

S835a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 介護福祉専攻 > 専門科目

2年

2単位 前期

木曜 3限

講義・演習

必修

科目ナンバリング551

永野 淳子

〔授業の概要〕

本授業では、地域包括ケアシステムが推進されている中で、介護を必要とする高齢者や障がい者の生活を支えるフォーマル及びインフォーマルな支援について理解すること、支援における多職種連携の重要性を理解するために授業を展開する。

〔到達目標〕

1. 介護サービスの種類とサービス内容について具体的に述べることができる。
2. サービス提供の場とその特性について説明することができる。
3. 介護を必要とする人の生活支援におけるケアマネジメントの必要性について説明することができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP2、DP3

〔授業計画〕

- 第 1 回 介護を必要とする人の生活を支えるしくみ
オリエンテーション、高齢者のためのフォーマルサービスの概要。
- 第 2 回 生活を支えるフォーマルサービス 1
介護保険制度におけるサービスの種類。
- 第 3 回 生活を支えるフォーマルサービス 2
介護保険制度におけるサービスの種類、介護福祉士に求められる支援の視点。
- 第 4 回 生活を支えるフォーマルサービス 3
介護保険制度におけるサービスのまとめ（ミニテスト①）、障がい者のためのフォーマルサービスの概要。
- 第 5 回 生活を支えるフォーマルサービス 4
障害者総合支援法によるサービス。
- 第 6 回 生活を支えるフォーマルサービス 5
障害者総合支援法によるサービス、介護福祉士に求められる支援の視点。
- 第 7 回 生活を支えるインフォーマルサービス 1
障害者総合支援法におけるサービスのまとめ（ミニテスト②）、生活を支えるインフォーマルサービス（費用負担による区分、フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係）。
- 第 8 回 生活を支えるインフォーマルサービス 2
インフォーマルサービスの種類とその提供者、介護福祉士に求められる支援の視点。
- 第 9 回 地域連携1

地域連携の意義と目的、地域連携にかかわる機関。

- 第 10 回 地域連携 2，協働する多職種の役割と機能 1
地域福祉の担い手。連携・協働とは、多職種連携・協働を要請する社会の動き。
- 第 11 回 協働する多職種の役割と機能 2
多職種連携・協働が必要なのか、多職種連携・協働を阻むもの、多職種連携・協働の効果。
- 第 12 回 多職種連携・協働に求められる基本的な能力 1
介護実践の場で多職種連携・協働が必要とされる意味とその方法。
- 第 13 回 多職種連携・協働に求められる基本的な能力 2
多職種協働を成功させるための介護技術と知識。
- 第 14 回 保健・医療・福祉職の役割と機能
多職種連携・協働のまとめ（ミニテスト③）、保健・医療・福祉職の役割と機能について理解する。
- 第 15 回 介護を必要とする人の地域生活を支えることのまとめ
地域包括ケアと生活支援、まとめ。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：介護福祉士養成講座編集委員会編集（2022）『最新介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ 第2版』中央法規出版。

参考文献：厚生労働統計協会編（2021）『国民の福祉と介護の動向2021/2022年』一般財団法人厚生労働統計協会。

〔成績評価の方法・基準〕

ミニテスト[30%]，定期試験[70%]

〔授業時間外学修〕

予習：授業のテーマに沿ったテキストの章・節を読んでおいてください（15分程）。

復習：各回の授業で配布した資料とテキストの章・節を読み返してください（30分程）。

〔オフィスアワー〕

水曜日（12：10-12：50）。ただし、会議等により対応ができない場合があります。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

介護福祉士として訪問介護、施設介護に5年間従事していた実務経験をもとに、介護サービスの概要と利用方法等について講義します。

〔その他履修上の留意事項等〕

授業の進捗状況により、各回の授業内容が一部変更される場合があります。

介護の基本Ⅳ

S837a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 介護福祉専攻 > 専門科目
2 年
2 単位 後期
金曜 3 限
講義・演習
必修
科目ナンバリング552

永野 淳子

〔授業の概要〕

安全な介護実践を行なうための知識と技術を身につけるために、介護実践の場におけるリスクマネジメントの意義や事故防止、介護従事者の健康管理の方法等について講義と演習をととして理解する。

〔到達目標〕

1. 安全を確保するためのリスクマネジメントの必要性とその方法を説明することができる。
2. 生活のなかのリスクや、感染症を防ぐ具体的な方法を述べることができる。
3. 介護従事者の心身の健康管理の必要性について述べるることができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2、DP 3

〔授業計画〕

- 第 1 回 介護における安全の確保とリスクマネジメント
オリエンテーション、介護福祉士の責務と安全の確保、介護の場におけるセーフティマネジメント他。
- 第 2 回 リスクマネジメントとは何か 1
尊厳のある暮らしの継続のためのリスクマネジメント、ルールや約束事を守ることの重要性。
- 第 3 回 リスクマネジメントとは何か 2
福祉サービスに求められる安全・安心、ヒヤリ・ハットの防止。
- 第 4 回 リスクマネジメントとは何か 3
事故防止のための対策。
- 第 5 回 感染症対策 1
ミニテスト①、生活の場における感染症対策、標準予防策の重要性。
- 第 6 回 感染症対策 2
感染症対策の適切な考え方とその普及。
- 第 7 回 感染症対策 3
個別の感染症対策。
- 第 8 回 感染症対策 4
薬剤耐性の知識、安全な薬物療法を支える視点・連携。
- 第 9 回 感染症対策のまとめ
- 第 10 回 介護従事者の安全 1
ミニテスト②、健康管理の意義と目的、働く人の健康や生活を守る法制度。
- 第 11 回 介護従事者の安全 2

介護労働の特性と健康問題、介護に従事する人の健康問題、健康に働くための健康管理。

第 12 回 こころの健康管理

ストレスとこころの健康、こころの病気。

第 13 回 身体の健康管理

腰痛や頸骨障害の予防と対策、健康障害の予防と対策。

第 14 回 労働環境の整備。

労働環境の整備、法制度。

第 15 回 介護の基本Ⅳのまとめ

これまでの学習の振り返り。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：介護福祉士養成講座編集委員会編集（2022）『最新介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ 第2版』中央法規出版。

参考文献：三菱総合研究所 ヘルスケア・ウェルネス事業本部（編）（2019）「高齢者介護施設における感染対策マニュアル改訂版」。

〔成績評価の方法・基準〕

ミニテスト[30%]

定期試験[70%]

〔授業時間外学修〕

授業前：授業の該当部分にあたるテキストの章・節を読んでください（15分程度）。

授業後：授業内で配布された資料とテキストの該当部分を読み直してください（30分程度）。

〔オフィスアワー〕

水曜日（12：10-12：50）。ただし、会議等により対応ができない場合があります。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

介護福祉士として訪問介護、施設介護に5年間従事していた実務経験をもとに、介護従事者の安全・安心の確保について講義します。

〔その他履修上の留意事項等〕

授業の進捗状況により、各回の授業内容が一部変更される場合があります。

生活支援技術Ⅳ

S849a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 介護福祉専攻 > 専門科目
2 年
2 単位 前期
火曜 1 限 火曜 2 限
演習
選択
科目ナンバリング 571

関口 昌利、永野 淳子、工藤 かすみ

〔授業の概要〕

この授業では、障害を持つ人の自立（自律）を尊重し、その人の有する力を引き出し活用する介護を実践するうえで必要な知識・技術の修得を目指す。

〔到達目標〕

1. 要介護者の障害について理解されている
2. 障害が生活に与える影響について理解できる
3. 要介護者を支援するうえでの留意点を説明できる
4. 心身の状態に応じた介護の内容と方法について説明できる

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP 2

〔授業計画〕

- | | |
|--------|---------------------------------------|
| 第 1 回 | 生活支援の理解
オリエンテーション、生活支援の理解【講義】 |
| 第 2 回 | 自立に向けた介護・内部障害1
心臓機能障害に応じた介護【講義／永野】 |
| 第 3 回 | 内部障害2
呼吸器機能障害に応じた介護【講義／永野】 |
| 第 4 回 | 内部障害3
腎臓機能障害に応じた介護【講義／永野】 |
| 第 5 回 | 内部障害4
小腸機能障害に応じた介護【講義／永野】 |
| 第 6 回 | 内部障害5
HIVによる免疫機能障害に応じた介護【講義／関口】 |
| 第 7 回 | 内部障害6
肝臓機能障害に応じた介護【講義／永野】 |
| 第 8 回 | 内部障害7
膀胱・直腸機能障害に応じた介護【講義／永野】 |
| 第 9 回 | 内部障害8
膀胱・直腸機能障害に応じた介護（ストマ）【演習／永野】 |
| 第 10 回 | 小テスト1
内部障害【講義／永野】 |
| 第 11 回 | 重症心身障害1
重症心身障害に応じた介護【講義／関口】 |
| 第 12 回 | 重症心身障害2
リフトの操作・体験【演習／関口】 |
| 第 13 回 | 精神障害
精神障害に応じた介護【講義／永野】 |
| 第 14 回 | 高次脳機能障害
高次脳機能障害に応じた介護【講義／永野】 |
| 第 15 回 | 発達障害 |

- | | |
|--------|--|
| | 発達障害に応じた介護【講義／永野】 |
| 第 16 回 | 知的障害
知的障害に応じた介護【講義／関口】 |
| 第 17 回 | 小テスト2
精神障害・発達障害・知的障害・重症心身障害【講義／永野】 |
| 第 18 回 | 視覚障害1
視覚障害に応じた介護【講義／関口】 |
| 第 19 回 | 視覚障害2
視覚障害に応じた介護・白杖体験【演習／関口】 |
| 第 20 回 | 視覚障害3
視覚障害に応じた介護・点字体験【演習／関口】 |
| 第 21 回 | 肢体不自由1
肢体不自由に応じた介護【講義／関口】 |
| 第 22 回 | 肢体不自由2
肢体不自由に応じた介護（プッシュアップ等）【演習／関口】 |
| 第 23 回 | 聴覚・言語障害
聴覚・言語障害に応じた介護【講義／関口】 |
| 第 24 回 | 重複障害
重複障害＜盲ろう＞に応じた介護【講義／関口】 |
| 第 25 回 | 小テスト3
肢体不自由・視覚障害・聴覚障害【講義／関口】 |
| 第 26 回 | 難病1
パーキンソン病に応じた介護【講義／関口】 |
| 第 27 回 | 難病2
筋ジストロフィーに応じた介護【講義／関口】 |
| 第 28 回 | 難病3
筋萎縮性側索硬化症（ALS）に応じた介護【講義／永野】 |
| 第 29 回 | 難病4
悪性関節リウマチに応じた介護【講義／永野】 |
| 第 30 回 | 最終授業
まとめ【講義／永野・関口】 |

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：最新介護福祉士養成講座8「生活支援技術Ⅲ」中央法規。

参考文献：適宜紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕

毎回のリアクションペーパー（manaba）[10%]，小テスト[30%]，定期試験[60%]

〔授業時間外学修〕

授業前：各回の内容についてテキスト該当部分を読んでおく（20分程度）。授業後：授業で配布された資料とテキストを再度読み直す（30分程度）。

〔オフィスアワー〕

初回授業時に連絡する。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

関口)介護老人保健施設6年、通所介護4年、居宅介護支援事業所3年の実務経験をもとに「生活支援技術」科目を担当。

〔その他履修上の留意事項等〕

授業の進捗状況により内容が一部変更になる場合があります。演習の際は、身だしなみを整えて介護実習室に時間どおり集合してください。

障害の理解Ⅱ

S886a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 介護福祉専攻 > 専門科目
2 年
2 単位 前期
木曜 1 限
講義・演習
選択
科目ナンバリング561

佐久総合病院 リハビリテーション科

〔授業の概要〕

障害の基礎的知識習得、心理・身体機能・社会的側面を含めた広い視野で理解を深める。

ライフステージや特性に応じた支援、多職種連携、家族への支援、介護視点から障害のリハビリテーション支援についても学ぶ。

〔到達目標〕

様々な障害の基礎的知識・リハビリテーション内容について学び、介護現場での実践に繋げる。症例を通じて介護福祉士としての対応や介入方法の実際についても議論し共に理解を深める。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

- 第 1 回 障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援
[講義：PT依田]
障害の概念・理念・制度・保険・心理・ハビリテーションについて
- 第 2 回 身体障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援
[講義：PT荻原(将)]
肢体不自由（運動機能障害）の基礎的理解・生活のアセスメント・支援
- 第 3 回 聴覚・言語障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援
[講義：ST荻原(大)]
聴覚・言語障害の基礎的理解・生活のアセスメント・支援
- 第 4 回 視覚障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援
[講義：OT浅川]
視覚障害の基礎的理解・生活のアセスメント・支援
- 第 5 回 重複障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援
[講義：PT岡部]
重複障害の基礎的理解・生活のアセスメント・支援
- 第 6 回 内部障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援①
[講義：PT林]
内部障害の基礎的理解・生活のアセスメント・支援
- 第 7 回 内部障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援②
[講義：PT林]
内部障害のある人の基礎的理解・生活のアセスメント・支援

- 第 8 回 重症心身障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援
[講義：PT大科]
重症心身障害の基礎的理解・生活のアセスメント・支援
- 第 9 回 知的障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援
[講義：OT浅川]
知的障害の基礎的理解・生活のアセスメント・支援
- 第 10 回 精神障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援
[講義：OT柄澤]
精神障害の基礎的理解・生活のアセスメント・支援
- 第 11 回 高次機能障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援
[講義：OT川瀬]
高次機能障害の基礎的理解・生活のアセスメント・支援
- 第 12 回 発達障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援
[講義：OT川瀬]
発達障害の基礎的理解・生活のアセスメント・支援
- 第 13 回 難病のある人の生活と障害の特性に応じた支援
[講義：PT市川]
難病の基礎的理解・生活のアセスメント・支援
- 第 14 回 障害のある人の生活を地域で支えるための連携と協働
[講義・事例演習：PT松本]
地域におけるサポート体制、チームアプローチ
- 第 15 回 障害のある人の家族への支援・障害の理解Ⅱまとめ
[講義・事例演習：PT依田]
家族への支援・介護力の評価と介護負担の軽減

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「障害の理解」中央法規（障害の理解Ⅰ・Ⅱ 共通）

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[80%]，授業態度（参加度）[20%]

※フィードバック方法については授業時に説明する。

〔授業時間外学修〕

テキスト・講義資料を復習。学生間でも障害への対応を議論してみよう。

〔オフィスアワー〕

授業日の授業前後15分

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

理学・作業・言語療法士として佐久総合病院に勤務。医療・介護領域での実務経験をもとに障害の理解について講義する。

〔その他履修上の留意事項等〕

生活支援技術Ⅴ

S851a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 介護福祉専攻 > 専門科目
2 年
1 単位 前期
金曜 3 限
講義・演習
選択
科目ナンバリング672

菊池 小百合、関口 昌利、唐澤 千登勢、工藤 かすみ

〔授業の概要〕

自立・自律に向けた福祉用具活用の意義と目的、リスクについて学び、対象者の障害に合わせた支援の方法について、今後のICTの活用を含め学ぶ内容とする。終末期ケアにおいては、人生の最終段階にある人をケアするために、チームケアの実践や家族支援等について学ぶ内容とする。

〔到達目標〕

1. 尊厳の保持の観点から、その人の自立・自律を尊重し、残存機能を引き出すとともに、福祉用具を活用する知識と技術を身につけ、障害のレベルにあった支援が提供できる能力を養うことができる。
2. 人生の終末期における介護の視点と役割、技術を養うことができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

- | | |
|--------|--|
| 第 1 回 | 福祉用具の意義と活用
福祉用具の意義と活用・目的（社会参加、外出機会の拡大、快適性・効率性、介護者負担の軽減）（菊池） |
| 第 2 回 | 福祉用具の活用と留意点
福祉用具使用時の留意点・リスクマネジメント（菊池） |
| 第 3 回 | 自立に向けた福祉用具活用の視点
福祉用具が活用できるための環境整備（関口・工藤） |
| 第 4 回 | 自立に向けた福祉用具活用の視点
起居・移動支援機器の活用と介護（関口・工藤） |
| 第 5 回 | 自立に向けた福祉用具活用の視点
入浴・清潔支援機器の活用と介護（関口・工藤） |
| 第 6 回 | 自立に向けた福祉用具活用の視点
排泄支援機器の活用と介護（関口・工藤） |
| 第 7 回 | 自立に向けた福祉用具活用の視点
安全な食事摂取に向けた介護（重症心身障害）（関口・工藤） |
| 第 8 回 | 自立に向けた福祉用具活用の視点
ロボット・ICTの活用（菊池・外部講師予定） |
| 第 9 回 | 自立に向けた福祉用具活用の視点
コミュニケーション支援機器の活用と介護（視覚障害・聴覚障害）（菊池・外部講師予定） |
| 第 10 回 | 自立に向けた福祉用具活用の視点
コミュニケーション支援機器の活用と介護（視覚障害・聴覚障害）（菊池・関口・工藤） |

- | | |
|--------|--|
| 第 11 回 | 今後のICTの活用及びロボットの活用等
コミュニケーション支援機器の活用と介護（重複障害）（菊池・関口・工藤） |
| 第 12 回 | 人生の最終段階における介護
人生の最終段階とは 死の準備教育（唐澤） |
| 第 13 回 | 人生の最終段階における介護
人生の最終段階にある人の介護の視点 意思決定支援（ACP）（唐澤） |
| 第 14 回 | 人生の最終段階における介護
終末期を支えるための基本となる知識と技術 介護における多職種との連携（唐澤） |
| 第 15 回 | 人生の最終段階における介護
死を迎えた人の介護、家族・介護職が死を受けとめる過程 家族支援（唐澤） |

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「生活支援技術Ⅱ・Ⅲ」（中央法規）

資料：必要に応じて配布する

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[60%]，レポート提出[30%]，リファレンスカード提出[10%]

〔授業時間外学修〕

予習15分程度：授業内容に沿ったテキストの章・節を読んでください。復習30分程度：各回の授業で配布した資料・テキスト対象ページを整理してください。

〔オフィスアワー〕

研究室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

（菊池）総合病院看護師、介護老人保健施設看護師・介護支援専門員として30年以上の経験。

〔その他履修上の留意事項等〕

演習授業も含みますので、各回の使用教室・内容については、必ず学生掲示板で確認してください。

生活支援技術Ⅵ

S853a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 介護福祉専攻 > 専門科目
2 年

1単位 前期

水曜 4限

講義・演習

選択

科目ナンバリング673

宮本 由香

〔授業の概要〕

この授業では、健康維持の上で家事の重要性を理解し、自立に向けた家事の基本的な知識と、対象者の個々の状態に合わせた介護における家事の知識と技術を習得できることを目指す。

〔到達目標〕

この授業を通して、介護における家事支援、特に、健康な食生活の支援、衣服や住まいの管理に対する適切な支援、さらには自身の健全な衣食住の生活の管理や家計管理が実践できることを目標とする。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

- 第 1 回 自立に向けた家事の介護 1
家事の意義と目的、家事の社会的・文化的・身体的意義と目的を理解する。
- 第 2 回 自立に向けた家事の介護 2
高齢者や障がい者の自立に向けた家事支援の視点、用具の活用と環境整備、多職種との連携による重要性を理解する。
- 第 3 回 自立に向けた家事の介護 3
家事支援の基本となる知識と技術。介護と食生活、調理の基本。
- 第 4 回 自立に向けた家事の介護 4
家事支援の基本となる知識と技術。献立、食品保存、衛生管理。
- 第 5 回 自立に向けた家事の介護 5
対象者に応じた留意点。高齢者のための献立作成と調理実習。
- 第 6 回 自立に向けた家事の介護 6
対象者に応じた留意点。障がい者に応じた献立作成と調理実習。
- 第 7 回 自立に向けた家事の介護 7
家事支援の基本となる知識と技術。洗濯① 繊維や衣類、寝具の性質と衛生管理。
- 第 8 回 自立に向けた家事の介護 8
家事支援の基本となる知識と技術。洗濯② 洗濯、染み抜き演習。
- 第 9 回 自立に向けた家事の介護 9
家事支援の基本となる知識と技術。裁縫① 繕いと製作演習(ミシン)
- 第 10 回 自立に向けた家事の介護 10

家事支援の基本となる知識と技術。裁縫② 繕いと製作演習（手縫い）

- 第 11 回 自立に向けた家事の介護 11
家事支援の基本となる知識と技術。生活の変化（ごみのため込み）への気づきと対応。
- 第 12 回 自立に向けた家事の介護 12
家事支援の基本となる知識と技術。ごみ捨て、掃除演習。
- 第 13 回 自立に向けた家事の介護 13
家事支援の基本となる知識と技術。買い物支援。
- 第 14 回 自立に向けた家事の介護 14
家事支援の基本となる知識と技術。家庭経営と家計管理。
- 第 15 回 自立に向けた家事の介護 15
対象者の状態に応じた留意点。生活の変化（消費者被害など）への気づきと対応。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「生活支援技術Ⅰ」中央法規

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[60%]，小テスト[10%]，レポートや課題提出[20%]，実習時の授業参加意欲や態度[10%]

レポートや課題等には、採点、コメントをつけて返却する。

〔授業時間外学修〕

準備学習としてテキスト該当部を読み、終了後は復習すること。調理、裁縫、洗濯、掃除等では、事故が起きないように事前に内容を確認し、グループ作業の場合は互いに作業工程の確認をしておくこと。（毎回事前事後、各30分程度は確保すること）

〔オフィスアワー〕

授業前後の休み時間または講師控室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

行政高齢者担当管理栄養士として5年間勤務。介護予防教室の運営実施ならびに要介護者の在宅訪問指導の実務経験をもとに家事支援の講義演習する。

〔その他履修上の留意事項等〕

家政実習室使用時には、指示に応じて、実習靴、実習着を着用し、安全な実習ができるよう、十分に予習をして臨むこと。

生活支援技術Ⅶ

S855a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 介護福祉専攻 > 専門科目
2 年
1 単位 前期
金曜 2 限
講義・演習
選択
科目ナンバリング 674

菊池 小百合、関口 昌利

〔授業の概要〕

介護サービスを提供する対象、場所によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な生活支援の知識・技術を養う。自立支援の観点から介護実践できる能力を養う。

〔到達目標〕

利用者の自立と尊厳を支えるため、居住環境に関する基本的な知識と作図手法を身につけ、利用者の身体状況や生活状況などに合わせた新しい住まいの形態を提案し、居住環境整備の具体的な進め方について理解することを目標とする。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

- 第 1 回 自立に向けた居住環境の整備
居住環境整備の意義と目的 住まいの役割と機能 居住環境整備の社会・文化的、心理的、身体的意義と目的（担当：関口）
- 第 2 回 自立に向けた居住環境の整備
居住環境整備の意義と目的 住み慣れた地域での生活の継続 安全で住み心地の良い生活の場（担当：関口）
- 第 3 回 自立に向けた居住環境の整備
居住環境整備の意義と目的 生活空間 加齢と生活空間 快適な室内環境の整備（担当：関口）
- 第 4 回 自立に向けた居住環境の整備
居住環境整備の意義と目的 住まいの維持管理 健康と住まいの環境（担当：関口）
- 第 5 回 自立に向けた居住環境の整備
居住環境整備の基本となる知識 安全に暮らすための生活環境 住宅のバリアフリー、ユニバーサルデザイン 福祉用具活用の意義と目的、配慮点（担当：関口）
- 第 6 回 自立に向けた居住環境の整備
居住環境整備の基本となる知識 住宅改修 火災や地震その他の災害に対する備え（担当：関口）
- 第 7 回 自立に向けた居住環境の整備
対象者の状態・状況に応じた留意点 運動機能障害のある人の住まい（担当：関口）
- 第 8 回 自立に向けた居住環境の整備
対象者の状態・状況に応じた留意点 感覚機能に障害がある人の住まい 聴覚・視覚障害（担当：菊池）

- 第 9 回 自立に向けた居住環境の整備
対象者の状態・状況に応じた留意点 内部障害のある人の住まい 排泄機能の障害（担当：菊池）
- 第 10 回 自立に向けた居住環境の整備
対象者の状態・状況に応じた留意点 内部障害のある人の住まい 心臓・呼吸器疾患、免疫機能の障害（担当：菊池）
- 第 11 回 自立に向けた居住環境の整備
自立に向けた居住環境整備の視点 認知症の人に対する環境支援 認知症高齢者のための環境支援の指針（PEAP）（担当：菊池）
- 第 12 回 自立に向けた居住環境の整備
自立に向けた居住環境整備の視点 認知症の人に対する環境支援（担当：菊池）
- 第 13 回 自立に向けた居住環境の整備
認知症高齢者のための環境支援の指針（PEAP） 自立に向けた居住環境整備の視点 認知症の人に対する環境支援 3 認知症高齢者のための環境支援の指針（PEAP）（担当：菊池）
- 第 14 回 自立に向けた居住環境の整備
居住環境の整備における多職種との連携 居住環境と認知症ケアの実践 多職種の役割と連携の必要性（担当：菊池）
- 第 15 回 自立に向けた居住環境の整備
居住環境の整備における多職種との連携 居住環境整備における多職種連携の実践（担当：菊池）

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「生活支援技術Ⅰ」中央法規

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[60%]，課題提出[40%]

〔授業時間外学修〕

授業で配布するテキスト・プリント等をノートにまとめ、いつでも取り出せるように整理することを心掛けて下さい。予習15分程度：授業対象となるテキストページを読んでください。復習約30分程度：授業内容を見直し、ポイントを整理してください。

〔オフィスアワー〕

菊池・関口：研究室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

菊池：総合病院看護師、介護老人保健施設看護師・介護支援専門員として、30年以上勤務。障害のある人に対する環境支援について、実務経験を基に講義を行う。

〔その他履修上の留意事項等〕

各回授業終了後、リファレンスカードに感想・質問等を書いて提出してください。

介護過程Ⅱ

S859a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 介護福祉専攻 > 専門科目

2 年

1単位 前期

水曜1限 水曜2限

講義・演習

選択

科目ナンバリング651

永野 淳子

〔授業の概要〕

本授業では、根拠に基づいた介護過程の展開が行えるために、介護を必要とする人の心身状態、活動・社会参加の状況、社会環境等の相互作用を理解することから、利用者の生活課題を明確にすることができるようになることを目指す。また、介護実習において介護過程の展開を行える知識・技術が養われるために授業を展開する。

〔到達目標〕

- 1.収集した情報を論理的な思考のもとに分析・解釈・判断することができる。
- 2.介護過程を展開するための知識と技術を統合できる。
- 3.利用者の状態に適った介護計画を立案することができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2、DP 3

〔授業計画〕

- | | |
|--------|--|
| 第 1 回 | オリエンテーション、1 年次の振り返り 1 |
| 第 2 回 | 1 年次の振り返り 2 |
| 第 3 回 | 情報収集の方法 |
| 第 4 回 | 収集した情報からアセスメント表を作成する |
| 第 5 回 | 情報の分析、分析の視点、情報分析の実際 |
| 第 6 回 | 情報分析シートの作成 |
| 第 7 回 | 情報分析シートの作成、生活課題の明確化 |
| 第 8 回 | 生活課題の明確化 |
| 第 9 回 | 介護計画の各項目の確認、介護目標の設定他 |
| 第 10 回 | 介護計画の実施内容と方法の作成 |
| 第 11 回 | 介護計画の実施・支援経過記録を記載する意義、記録の書き方 |
| 第 12 回 | モニタリングと記載方法 |
| 第 13 回 | 支援経過記録の書き方 |
| 第 14 回 | 介護計画の評価の目的と意義、方法 |
| 第 15 回 | 介護計画の評価方法と評価表の書き方 |
| 第 16 回 | 介護過程とチームアプローチ |
| 第 17 回 | 介護実習Ⅲでの留意点 1
情報収集の方法、情報を捉える視点、情報の分析方法 |
| 第 18 回 | 介護実習Ⅲでの留意点 2
介護計画立案の際の留意点、モニタリング、評価 |
| 第 19 回 | 介護実習Ⅲの振り返り 1
作成したアセスメント表、分析シートの点検 |
| 第 20 回 | 介護実習Ⅲの振り返り 2
介護計画の点検 |
| 第 21 回 | 介護実習Ⅲの振り返り 3
支援経過記録、評価の点検 |

第 22 回 介護実習Ⅲの振り返り 4

介護過程の展開のまとめ

第 23 回 利用者の状況・状態に合わせた介護過程の展開 1
事例の情報を分析するうえでの視点、情報の分析。

第 24 回 利用者の状況・状態に合わせた介護過程の展開 2
事例の情報分析、生活課題の明確化

第 25 回 利用者の状況・状態に合わせた介護過程の展開 3
事例の情報分析、生活課題の明確化

第 26 回 利用者の状況・状態に合わせた介護過程の展開 4
事例の介護計画の立案

第 27 回 介護実習Ⅳでの留意点 1
介護過程を展開する際の視点、情報の分析、生活課題の明確化

第 28 回 介護実習Ⅳでの留意点 2
生活課題と介護計画

第 29 回 介護実習Ⅳでの留意点 3
モニタリング、評価

第 30 回 介護過程Ⅱのまとめ

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：介護福祉士養成講座編集委員会編集（2022）『最新介護福祉士養成講座9 介護過程 第2版』中央法規出版。

参考文献：障害者福祉研究会（編集）（2002）『ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改定版』中央法規出版。

〔成績評価の方法・基準〕

授業内課題の提出[30%]

定期試験[70%]

〔授業時間外学修〕

予習：授業のテーマに沿ったテキストの章・節を読んでおいてください（15分程）。復習：各回の授業で配布した資料を読み返してください（15分程）。

〔オフィスアワー〕

水曜日（12：10-12：50）。ただし、会議等により対応ができない場合があります。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

介護福祉士として訪問介護・施設介護に従事していた経験を踏まえ、介護過程の展開方法について講義・演習を行います。

〔その他履修上の留意事項等〕

授業の進捗状況により、授業内容が一部変更される場合があります。

介護過程Ⅲ

S861a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 介護福祉専攻 > 専門科目
2 年
1 単位 後期
水曜 1 限
講義・演習
選択
科目ナンバリング652

永野 淳子

〔授業の概要〕

要介護者に介護過程を展開する意義について理解を深める。また、介護を必要とする人の在宅生活を支援するために、施設介護とは異なる在宅介護の特性を理解し、個別性に着目した介護過程の展開を行えるようになる。

〔到達目標〕

1. 介護実習Ⅳで展開した事例のまとめから、介護を必要とする人への介護過程の展開の意義について述べるができる。
2. 在宅生活の継続と自立支援にむけた介護過程の展開の考え方について説明できる。
3. 介護を必要とする人の個別性を尊重した在宅生活の支援方法について提案できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP2、DP3

〔授業計画〕

- 第 1 回 介護過程の展開の理解
オリエンテーション、介護実習Ⅳ（介護過程の展開）の振り返り。
- 第 2 回 事例検討 1
グループワーク：グループに分かれて自分が行った介護過程の展開について報告する
- 第 3 回 事例検討 2
グループワーク：グループに分かれて自分が行った介護過程の展開について報告する
- 第 4 回 事例検討 3
自分が行った介護過程の展開について、良かった点とさらにこうした方がよいといった内容を明確にする
- 第 5 回 事例検討 4
自分が行った介護過程の展開についてブラッシュアップする。
- 第 6 回 事例検討 5
グループワーク：介護過程を展開することの意義について考える。
- 第 7 回 地域で生活する要介護者
地域の社会資源と訪問介護、介護予防訪問介護
- 第 8 回 生活支援と介護計画 1
訪問介護計画と介護サービスの区分（身体介護、生活援助の区分）、共に行う家事、代行的生活援助
- 第 9 回 生活支援と介護計画 2
介護予防のための支援、認知症高齢者への支援

第 10 回 訪問介護計画の実施 1

訪問介護を実施する中で起こるトラブル（利用者との関わり方）

第 11 回 訪問介護計画の実施 2

訪問介護を実施する中で起こるトラブル（成年後見制度他）

第 12 回 訪問介護計画の実施 3

訪問介護を実施する中で起こるトラブル（消費者問題）

第 13 回 障害者福祉サービスと介護過程

サービス等利用計画と個別支援計画との関係

第 14 回 在宅障がい者の訪問介護

事例を通した障がい者の介護過程の展開

第 15 回 地域における介護過程

在宅生活を支援するための介護過程の展開、まとめ

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：介護福祉士養成講座編集委員会（編集）（2022）『最新介護福祉士養成講座9 介護過程 第2版』中央法規出版。

参考文献：障害者福祉研究会（編集）『ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改定版』中央法規出版。

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[70%]，課題提出[30%]

※提出された課題は、次回以降の授業においてコメントをつけて返却します。

〔授業時間外学修〕

予習：授業のテーマに沿ったテキストの章・節を読んでおいてください。グループワークの際に発表する内容について、事前に発表内容をまとめておいてください（20分程度）。

復習：各回の授業で配布した資料を読み返してください（15分程度）。

〔オフィスアワー〕

水曜日（12：10-12：50）。ただし、会議等により対応できない場合があります。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

介護福祉士として訪問介護、施設介護に5年間従事していた実務経験をもとに、利用者の介護過程の展開について講義・演習を行います。

〔その他履修上の留意事項等〕

授業の進捗状況により、授業内容が一部変更される場合があります。

介護総合演習Ⅲ

S867a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 介護福祉専攻 > 専門科目
2 年
1 単位 前期
水曜 3 限
講義・演習
選択
科目ナンバリング661

菊池 小百合、関口 昌利、唐澤 千登勢、永野 淳子、
宮入 ひさ枝、工藤 かすみ

【授業の概要】

介護保険施設（施設サービス）の役割と、行われているケアの目的を理解し、本人主体の生活を継続するための専門職としての態度を養い、介護観を形成する上での介護の視点の明確化に向けた授業とする。

【到達目標】

1. 実習施設の概要・特徴・行われているケアの目的・根拠について理解することができる。
2. 介護過程の一連の流れを理解し、ニーズに即した個別ケアの意義について理解できる。
3. 多職種連携・協働の重要性と、介護福祉士の役割について理解できる。
4. 実習での学びを記録に残す意義について理解し、記録することができる。

【学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連】

DP 3

【授業計画】

- 第 1 回 知識と技術の統合
介護総合演習Ⅲ・介護実習Ⅲの概要と目的の理解・実習スケジュール、健康管理、実習施設の役割と特徴の理解
- 第 2 回 知識と技術の統合
実習施設の役割と特徴の理解、実習目標の設定、実習計画の作成、実習記録の意義と目的、実習で使用する記録用紙と記載内容の確認
- 第 3 回 知識と技術の統合
実習日誌記載のポイント、個人情報の取り扱い
- 第 4 回 知識と技術の統合
実習日誌記載のポイント（ケアの根拠について）
- 第 5 回 知識と技術の統合
実習施設事前学習（実習施設の理解、実習施設がある地域の理解、社会資源との関わり）
- 第 6 回 知識と技術の統合
実習施設事前学習（発表・学びの共有）
- 第 7 回 知識と技術の統合
実習記録用紙の確認 実習施設学内オリエンテーション（実習担当教員）
- 第 8 回 知識と技術の統合
実習中におけるスーパービジョン 帰校日授業（実習担当教員）
- 第 9 回 知識と技術の統合 介護実践の科学的探究

実習振り返り 実施したケアの目的・意義について考える

- 第 10 回 知識と技術の統合
実習振り返り 実施したケアの目的・意義について考える
- 第 11 回 知識と技術の統合
実習での学びの共有 実習報告会
- 第 12 回 知識と技術の統合
実習での学びの共有 実習報告会
- 第 13 回 介護実践の科学的探究
研究の意義と目的 倫理的配慮 研究方法の理解（質的研究・量的研究・事例研究等）
- 第 14 回 介護実践の科学的探究
研究の意義と目的・研究方法の理解（質的研究・量的研究・事例研究等）
- 第 15 回 介護実践の科学的探究
研究方法の理解（事例研究：認知症ケア事例ジャーナルより）事例をまとめる意義と配慮点

【テキスト・参考書・参考文献】

テキスト：介護総合演習・介護実習（中央法規）

資料：介護福祉実習要項 介護実習Ⅲ（授業時配布）

研究方法（質的研究・量的研究・事例研究）に関する資料を配布

【成績評価の方法・基準】

定期試験[50%]，課題提出[30%]，プレゼンテーション[20%]

【授業時間外学修】

予習：15～30分程度 授業内で行う内容について確認し、自身の考えをまとめておくこと。復習：30分程度 授業で行った内容について整理しておくこと。

【オフィスアワー】

担当教員の研究室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。

【実務経験のある教員等による授業科目】

[菊池]総合病院看護師・介護老人保健施設看護師・介護支援専門員として30年以上の実務経験。医療・介護の場での実務経験を基に講義を行う。

【その他履修上の留意事項等】

実習前と実習終了後の各種提出物の提出期限は厳守すること。

介護総合演習Ⅳ

S869a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 介護福祉専攻 > 専門科目
2 年
1 単位 後期
水曜 2 限
講義・演習
選択
科目ナンバリング662

関口 昌利、菊池 小百合、唐澤 千登勢、永野 淳子、
宮入 ひさ枝、工藤 かすみ

〔授業の概要〕

介護福祉士としての自覚をもち、対人援助専門職としての資質・技能を身につける。自己の課題を明確にし、総合的な対応能力を習得する。多様な生活ニーズをもった利用者に、多様な現場で介護実践できるようにする。

〔到達目標〕

実習中に取り組んだ個別の介護過程の展開を事例として取り上げ、分析して考察を加える。自ら体験した介護実践を振り返り、介護の在り方、技術の工夫について調べまとめる。まとめた研究成果を発表し、自己の課題を明確化し今後に活かす。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2、DP 3

〔授業計画〕

- 第 1 回 実習前ガイダンス・事例研究ガイダンス
介護実習Ⅳの準備 実習目標の確認 担当教員打合せ【演習】
- 第 2 回 帰校日指導
介護過程の進捗状況を確認、中盤以降の実習の進め方について指導【演習】
- 第 3 回 介護実習Ⅳのふりかえり・知識と技術の統合
実習記録類のまとめ・出席表・自己評価の提出、御礼状作成、報告会準備【演習】
- 第 4 回 介護実習Ⅳ終了後の報告会
介護実習Ⅳの学び・今後の課題についての個人発表【演習】
- 第 5 回 介護実践の科学的探究 1
文献検索の方法、事例研究の作成方法【演習】
- 第 6 回 介護実践の科学的探究 2
事例研究の原稿作成指導、研究テーマの設定、事例の情報の整理【演習】
- 第 7 回 介護実践の科学的探究 3
事例研究の原稿作成指導、研究テーマを軸にした分析【演習】
- 第 8 回 介護実践の科学的探究 4
事例研究の原稿作成指導、課題解決・達成に向けた質の高い介護の提案【演習】
- 第 9 回 介護実践の科学的探究 5
事例研究の原稿作成まとめ・完成【演習】
- 第 10 回 事例研究発表会の準備 1
発表用資料の作成と指導：パワーポイントの作成【演習】

- 第 11 回 事例研究発表会の準備 2
発表用資料の作成と指導：パワーポイントの提出【演習】
- 第 12 回 事例研究発表会の準備 3
事例研究発表会の準備・リハーサル【演習】
- 第 13 回 介護実習Ⅳ事例研究発表会 1
- 第 14 回 介護実習Ⅳ事例研究発表会 2
- 第 15 回 介護実習Ⅳ事例研究のまとめ
発表会のふりかえり、事例研究の最終原稿提出【演習】

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：最新介護福祉士養成講座10「介護総合演習・介護実習」中央法規

サブテキスト：「介護福祉実習要項（介護実習Ⅳ）」

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[40%]，事例研究作成・提出[40%]，事例研究パワーポイント[10%]，事例研究発表[10%]

〔授業時間外学修〕

実習事前準備と終了後のまとめ、事例研究作成については担当教員の指示に従う。

〔オフィスアワー〕

担当教員の研究室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

（関口）介護老人保健施設（介護福祉士）6年、デイサービス（介護福祉士）4年、居宅介護支援事業所（介護支援専門員）3年。実務経験をもとに「介護総合演習」を担当する。

〔その他履修上の留意事項等〕

実習前・終了後の提出物、事例研究原稿、発表原稿の作成・提出について期限を厳守する。

介護実習Ⅲ

S875a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 介護福祉専攻 > 専門科目

2年

3単位 前期集中

実習

選択

科目ナンバリング663

菊池 小百合、関口 昌利、唐澤 千登勢、永野 淳子、
宮入 ひさ枝、工藤 かすみ

〔授業の概要〕

学内での学びとこれまでの実習での学びを踏まえて、介護実践に必要な観察力を養うと共に、対象となる人の生活課題を導きだし、尊厳と自立に配慮した個別の介護計画を立案する能力を養う。行われているケアの目的と、その根拠について考え、適切なケアについて考える能力を養う。

〔到達目標〕

1：利用者一人ひとりのニーズに即して生活を支援する「個別ケア」の意義を理解できる。

2：利用者の安全、快適さ、尊厳と自立に配慮した介護が実践できる。

3：実践を通して職員の専門性について知り、多職種連携・協働の重要性を理解できる。

4：情報収集により利用者の生活課題を明確化し介護計画が立案できる。

5：実習内容、指導内容、ケアの根拠及び実習での学びを記録に残すことができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 3

〔授業計画〕

特別養護老人ホーム または 介護老人保健施設（16日と7時間）

目標1：介護過程の実践的展開

利用者一人ひとりのニーズに即して生活を支援する個別ケアの意味を理解できる。

①利用者の現在の状況（身体的・精神的・社会的な状況）や生活歴を的確に把握できる。

②利用者一人ひとりに異なる援助方法・介護技術を習得できる。

③利用者・家族と積極的に関わり、好ましい関係性を築くことができる。

目標2：介護過程の実践的展開

利用者の安全、快適さ、尊厳と自立に配慮した介護が実践できる。

①身体の状態を考慮して、利用者の安全・安楽に十分配慮できる。

②利用者の思いを尊重し、利用者の尊厳に配慮した介護ができる。

③利用者の残存能力を活用して、意欲が向上するように工夫できる。

目標3：多職種協働の実践

実践を通して職員の専門性について知り、多職種連携・協働の重要性を理解できる。

①利用者の生活を支える職員の職種と役割を理解できる。

②カンファレンス等に参加し、関係職種と関わり、連携・協働の方法について理解できる。

目標4：介護過程の実践的展開

情報収集により利用者の生活課題を明確化し介護計画が立案できる。

①観察、コミュニケーション、記録類を通じて必要な情報を収集できる。

②収集した情報の適切な解釈、判断により、利用者の生活課題を明確化できる。

③利用者のもてる力・できることに着眼して介護目標を立てることができる。

④利用者に必要な介護方法を考えて、具体的な介護計画を立案・実施・評価できる。

目標5：実習内容、指導内容及び実習での学びを記録に残すことができる。

①本日の学習目標に対する学習内容を記述できる。

②本日の実習をふりかえり、学んだこと、反省、明日への課題を記述できる。

③記録の提出期限を守り、誤字脱字がなく読みやすく記述できる。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：介護総合演習・介護実習（中央法規）

資料：介護福祉実習要項 介護実習Ⅲ

〔成績評価の方法・基準〕

実習施設による評価と担当教員による評価を5段階

（S・A・B・C・D）で総合的に評価する

〔授業時間外学修〕

予習：30分程度 実習前学習として施設の概要について確認しておくこと。復習：30分程度 毎日の実習の振り返りを行い記録に残すよう努力すること。

〔オフィスアワー〕

担当教員の研究室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

菊池：総合病院看護師、介護老人保健施設看護師・介護支援専門員として30年以上の実務経験。

〔その他履修上の留意事項等〕

1. 実習期間中に欠席することが無いよう、体調管理に注意する事。

2. 実習開始前に実習指導者、巡回指導教員からオリエンテーションを受ける。

3. 実習中は実習指導者、巡回指導教員に対して報告・連絡・相談を密に行う。

介護実習Ⅳ

S877a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 介護福祉専攻 > 専門科目
2年

4単位 後期集中

実習

選択

科目ナンバリング664

関口 昌利、菊池 小百合、唐澤 千登勢、永野 淳子、
宮入 ひさ枝、工藤 かすみ

〔授業の概要〕

介護保険施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、介護医療院）に於いて実習を行う。介護過程の展開を通して、利用者の個性を捉えた支援の重要性や生活支援技術の向上を目指す。習得した専門知識と技術を統合し、より良い介護の実践に結びつくことを体験から学ぶ。

〔到達目標〕

1) 利用者一人ひとりのニーズに即して、生活を支援する個別ケアの意味を理解し実践できる。2) 利用者の安全、快適さ、尊厳と自立に配慮した介護が実践できる。3) 多職種連携協働の重要性を理解し、利用者支援ができる。4) 個別の介護計画を立案実施し、介護過程を展開することができる。5) 実習内容、指導内容及び実習での学びを記録に残すことができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP2、DP3

〔授業計画〕

実習期間中（令和4年8月30日～9月30日の期間内の23日間）は、以下の1～5の実習目標を達成するために実習指導者と巡回指導教員から指導助言を受けながら学習を進める。

1. 利用者一人ひとりのニーズに即して生活を支援する個別ケアの意味を理解し、介護過程を
実践的に展開できる。

〈学習内容〉

1) 利用者の現在の状況や生活歴、ニーズを把握できる。
2) 利用者一人ひとりに異なる援助方法、介護技術を行うことができる。
3) 利用者・家族と積極的に関わり、信頼関係を築くことができる。

2. 利用者の安全、快適さ、尊厳と自立に配慮した介護過程の実践的展開ができる。

〈学習内容〉

1) 身体の状態を考慮して、利用者の安全・安楽に十分配慮できる。
2) 利用者の思いを尊重し、利用者の尊厳に配慮した介護ができる。
3) 利用者の残存能力を活用して、意欲が向上するように工夫できる。

3. 多職種協働の実践の重要性を理解し、利用者支援ができる。

〈学習内容〉

1) カンファレンス等に参加し、関係職種と関わり、連携協働の方法について理解できる。

2) 利用者の支援において、必要時に他の職種からの助言指導を得ることができる。

4. 個別の介護計画を立案・実施するなど、介護過程を実践的に展開することができる。

〈学習内容〉

1) 観察、コミュニケーション、記録類を通じて必要な情報を収集できる。

2) 収集した情報の適切な解釈・判断により、利用者の生活課題を明確化できる。

3) 利用者のもてる力・できることに着眼して介護目標を立てることができる。

4) 利用者に必要な介護方法を考えて、具体的な介護計画を立案・実施・評価できる。

5. 実習内容、指導内容及び実習での学びを記録に残すことができる。

〈学習内容〉

1) 本日の学習目標に対する学習内容を記述できる。

2) 本日の実習をふりかえり、学んだこと、反省、明日への課題を記述できる。

3) 記録の提出期限を守り、誤字脱字がなく、読みやすく記述できる。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：最新介護福祉士養成講座10「介護総合演習・介護実習」中央法規

「介護福祉実習要項（介護実習Ⅳ）」

〔成績評価の方法・基準〕

実習生の自己評価と実習施設による評価と実習担当教員による評価を基に総合的に評価する。

〔授業時間外学修〕

予習と復習については担当教員の指示に従う。

〔オフィスアワー〕

担当教員の研究室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

（関口）介護老人保健施設（介護福祉士）6年、デイサービス（介護福祉士）4年、居宅介護支援事業所（介護支援専門員）3年。実務経験をもとに「介護実習」を担当する。

〔その他履修上の留意事項等〕

実習開始前に実習指導者、巡回指導教員からオリエンテーションを受ける。実習中は実習指導者、巡回指導教員に対して報告・連絡・相談を密に行う。

医療的ケアⅡ

S893a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 介護福祉専攻 > 専門科目
2 年
2 単位 前期
火曜 3限 火曜 4限
講義・演習
選択
科目ナンバリング675

宮入 ひさ枝

〔授業の概要〕

医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。

〔到達目標〕

この授業では医療的ケアに必要な知識・技術を習得し、利用者・家族に対して安心・安全なケアが提供できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

- 第 1 回 医療的ケア実施の基礎
(健康状態の把握) 身体・精神の健康、健康状態の把握の必要性、健康状態を知る項目(バイタルサイン)
- 第 2 回 医療的ケア実施の基礎
(健康状態の把握) 健康状態の把握、体温・脈拍・血圧・パルスオキシメーターの実際、急変状態の把握
- 第 3 回 医療的ケア実施の基礎
(清潔保持と感染予防) 清潔保持と感染予防、療養環境の清潔・消毒法、感染管理と予防
- 第 4 回 医療的ケア実施の基礎
(清潔保持と感染予防) 清潔保持と感染予防、スタンダードプリコーション、消毒と滅菌(手袋・マスク・ガウン・エプロンのテクニック)
(高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論) 呼吸の仕組みとはたらき
- 第 5 回 喀痰吸引(基礎的知識)
(高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論) いつもと違う呼吸状態、喀痰吸引が必要な状態と観察のポイント、喀痰吸引法
- 第 6 回 喀痰吸引(基礎的知識)
(高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論) 人工呼吸器と吸引、子供の喀痰吸引、吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意
- 第 7 回 喀痰吸引(基礎的知識)
(高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論) 人工呼吸器の実際、人工呼吸器について、呼吸器系感染症の予防、喀痰吸引により生じる危険、事故の安全確認、急変・事故発生時の対応と連携(ヒヤリハット・アクシデント)
- 第 8 回 喀痰吸引(基礎的知識)
(高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論) 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施の手順：喀痰吸引

で用いる器具・機材とその仕組み、清潔操作と清潔の保持

- 第 9 回 喀痰吸引(基礎的知識)
(高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論) 吸引の技術と喀痰吸引実施上の留意点、喀痰吸引に伴うケア、家族支援、報告及び記録のポイント
- 第 10 回 喀痰吸引(基礎的知識)
(高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論) 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施の手順：口腔吸引手順の確認と吸引に必要な根拠に基づくケア、鼻腔吸引の手順の確認と吸引に必要な根拠に基づくケア
- 第 11 回 喀痰吸引(基礎的知識)
(高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論) 気管カテーテル内部吸引の確認と吸引に必要な根拠に基づくケア、人工呼吸器装着者の吸引
- 第 12 回 喀痰吸引(実施手順)
(高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説) 口腔吸引手順の確認、鼻腔内吸引手順の確認、気管カニューレ内部吸引手順の確認
- 第 13 回 喀痰吸引(実施手順)
(高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説) 口腔吸引手順の確認、鼻腔吸引手順の確認、気管カニューレ内部吸引手順の確認
- 第 14 回 喀痰吸引(実施手順)
(高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説) 口腔吸引手順の確認 鼻腔内吸引手中の確認 気管カニューレ内部吸引手順の確認
- 第 15 回 喀痰吸引(実施手順)
(高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説) 口腔吸引手順の確認 鼻腔内吸引手順の確認 気管カニューレ内部吸引手順の確認

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「医療的ケア」中央法規 (医療的ケアⅠ～Ⅲ・演習 共通)

参考文献：必要に応じて紹介する

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[60%]、小テスト[20%]、授業参加態度[20%]

〔授業時間外学修〕

予習：15分程度 テキストを読んでおくこと。復習：30分程度 自ら演習手段を身につけること。

〔オフィスアワー〕

研究室ドアに「オフィスアワー」の表示をしている時。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

看護師として39年間の実務経験をもとに、医療実践の場における医療的ケアについて講義する。

〔その他履修上の留意事項等〕

体調管理を行い、欠席をしないよう心がけてください。欠席届を必ず提出のこと。

医療的ケアⅢ

S895a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 介護福祉専攻 > 専門科目
2 年
2 単位 前期
火曜 3 限 火曜 4 限
講義・演習
選択
科目ナンバリング 676

宮入 ひさ枝

〔授業の概要〕

医療的ケア（経管栄養）を安全・適切に実施するために必要な知識技術を習得する。

〔到達目標〕

この授業では医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施するための必要な知識技術を習得できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

- 第 1 回 喀痰吸引(実施手順)
(高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説)
口腔吸引手順の確認、鼻腔吸引手順の確認、気管カニューレ内吸引手順の確認
- 第 2 回 喀痰吸引 (実施手順)
(高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説)
口腔吸引手順の確認、鼻腔吸引手順の確認、気管カニューレ内吸引手順の確認
- 第 3 回 経管栄養(基礎的知識)
(高齢者及び障害児・者の経管栄養概論) 消化器系のしくみとはたらき
- 第 4 回 経管栄養(基礎的知識)
(高齢者及び障害児・者の経管栄養概論) 経管栄養が必要な状態と観察のポイント、経管栄養法、経管栄養実施中の留意点
- 第 5 回 経管栄養(基礎的知識)
(高齢者及び障害児・者の経管栄養概論) 消化・吸収とよくある消化器の症状、注入する栄養剤に関する知識、子供の経管栄養
- 第 6 回 経管栄養(基礎的知識)
(高齢者及び障害児・者の経管栄養概論) 経管栄養により関係する感染と予防
- 第 7 回 経管栄養(基礎的知識)
(高齢者及び障害児・者の経管栄養概論) 経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意
- 第 8 回 経管栄養(基礎的知識)
(高齢者及び障害児・者の経管栄養概論) 経管栄養により生じる危険と安全確認、急変・事故発生時の対応と事前対策
- 第 9 回 経管栄養(基礎的知識)
(高齢者及び障害児・者の経管栄養概論) 経管栄養に伴うケア、家族支援
- 第 10 回 経管栄養(実施手順)

(高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説)
経管栄養の実施手順：経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔操作と清潔の保持、経管栄養と技術と留意点

- 第 11 回 経管栄養(実施手順)
(高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説)
経管栄養に必要な根拠に基づくケア
- 第 12 回 経管栄養(実施手順)
(高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説)
経管栄養実施中の利用者の身体変化の確認と医師・看護職への報告と留意点、経管栄養に必要なケア、報告および記録のポイント
- 第 13 回 経管栄養(実施手順)
(高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説)
経管栄養実施手順(胃ろう又は腸ろうによる経管栄養)
- 第 14 回 経管栄養(実施手順)
(高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説)
経管栄養実施手順(胃ろう又は腸ろうによる経管栄養)
- 第 15 回 経管栄養(実施手順)
(高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説)
経管栄養実施手順(経鼻経管栄養)

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「医療的ケア」中央法規（医療的ケアⅠ～Ⅲ・演習 共通）

参考文献：必要に応じて紹介する

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[60%]，小テスト[20%]，授業参加態度[20%]

〔授業時間外学修〕

予習：15分程度 テキストを読んで予習しておくこと。復習：30分程度 手技を振り返り身に着けておくこと。

〔オフィスアワー〕

研究室ドアに「オフィスアワー」の表示をしている時。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

看護師として39年間の実務経験をもとに、医療実践の場における医療的ケアについて講義する。

〔その他履修上の留意事項等〕

体調管理を行い、欠席をしないよう心がけてください。欠席届を必ず提出のこと。

医療的ケア演習

S897a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 介護福祉専攻 > 専門科目
2 年
1 単位 後期集中
演習
選択
科目ナンバリング677

宮入 ひさ枝、菊池 小百合、唐澤 千登勢

〔授業の概要〕

「医療的ケア」は、医療業務の一部を生活の援助として介護実践の最も基本的な根拠及び技術を学ぶ。これは医療職を中心とした他職種との協働の基盤となり、また、介護を必要とする人々の安全と安心の基盤となる。この授業では次項の達成課題の掲げた項目に関して、適宜状況に応じた説明が出来ることを目標とする。具体的には、介護サービスを実際に必要とする高齢者や障害児・者及び家族にも安心・安全な知識と技術を学ぶ。

〔到達目標〕

医療的ケア（喀痰吸引・経管栄養）を提供するに当たり、他職種との連携のもと、介護福祉士としての役割を理解し、その範囲を超えないことを重視し、利用者の生活支援の中で安全にケアが提供できる知識と技術を身につける。また、筆記試験を合格し演習（評価）を正確かつ確実に実施でき合格を得る。実地研修での演習に活かすことができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 3

〔授業計画〕

- 第 1 回 救急蘇生法①
救急蘇生法
- 第 2 回 救急蘇生法②
救急蘇生法
- 第 3 回 演習【喀痰吸引・経管栄養演習評価】
口腔内の喀痰吸引、鼻腔内の喀痰吸引、気管カニューレ内部の喀痰吸引、胃ろう又は腸瘻による経管栄養、経鼻経管栄養
- 第 4 回 演習【喀痰吸引・経管栄養演習評価】
口腔内の喀痰吸引、鼻腔内の喀痰吸引、気管カニューレ内部の喀痰吸引、胃ろう又は腸瘻による経管栄養、経鼻経管栄養
- 第 5 回 演習【喀痰吸引・経管栄養演習・評価】
口腔内の喀痰吸引、鼻腔内の喀痰吸引、気管カニューレ内部の喀痰吸引、胃ろう又は腸瘻による経管栄養、経鼻経管栄養
- 第 6 回 演習【喀痰吸引・経管栄養演習・評価】
口腔内の喀痰吸引、鼻腔内の喀痰吸引、気管カニューレ内部の喀痰吸引、胃ろう又は腸瘻による経管栄養、経鼻経管栄養
- 第 7 回 演習【喀痰吸引・経管栄養演習・評価】
口腔内の喀痰吸引、鼻腔内の喀痰吸引、気管カニューレ内部の喀痰吸引、胃ろう又は腸瘻による経管栄養、経鼻経管栄養
- 第 8 回 演習【喀痰吸引・経管栄養演習・評価】

口腔内の喀痰吸引、鼻腔内の喀痰吸引、気管カニューレ内部の喀痰吸引、胃ろう又は腸瘻による経管栄養、経鼻経管栄養

第 9 回 演習【喀痰吸引・経管栄養演習・評価】

口腔内の喀痰吸引、鼻腔内の喀痰吸引、気管カニューレ内部の喀痰吸引、胃ろう又は腸瘻による経管栄養、経鼻経管栄養

第 10 回 演習【喀痰吸引・経管栄養演習・評価】

口腔内の喀痰吸引、鼻腔内の喀痰吸引、気管カニューレ内部の喀痰吸引、胃ろう又は腸瘻による経管栄養、経鼻経管栄養

第 11 回 演習【喀痰吸引・経管栄養演習・評価】

口腔内の喀痰吸引、鼻腔内の喀痰吸引、気管カニューレ内部の喀痰吸引、胃ろう又は腸瘻による経管栄養、経鼻経管栄養

第 12 回 演習【喀痰吸引・経管栄養演習・評価】

口腔内の喀痰吸引、鼻腔内の喀痰吸引、気管カニューレ内部の喀痰吸引、胃ろう又は腸瘻による経管栄養、経鼻経管栄養

第 13 回 演習【喀痰吸引・経管栄養演習・評価】

口腔内の喀痰吸引、鼻腔内の喀痰吸引、気管カニューレ内部の喀痰吸引、胃ろう又は腸瘻による経管栄養、経鼻経管栄養

第 14 回 演習【喀痰吸引・経管栄養演習・評価】

口腔内の喀痰吸引、鼻腔内の喀痰吸引、気管カニューレ内部の喀痰吸引、胃ろう又は腸瘻による経管栄養、経鼻経管栄養

第 15 回 演習【喀痰吸引・経管栄養演習・評価】

口腔内の喀痰吸引、鼻腔内の喀痰吸引、気管カニューレ内部の喀痰吸引、胃ろう又は腸瘻による経管栄養、経鼻経管栄養

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「医療的ケア」中央法規（医療的ケアⅠ～Ⅲ・演習 共通）

参考文献：必要に応じて紹介する

〔成績評価の方法・基準〕

実技試験[100%]

〔授業時間外学修〕

最終筆記試験に合格できるよう、自己学習をしっかりと行うこと。余暇時間を利用して、医療的ケア(喀痰吸引・経管栄養)の手技を復習すること。

〔オフィスアワー〕

研究室ドアに「オフィスアワー」の表示をしている時。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

体調管理を行い、欠席をしないよう心がけてください。欠席届を必ず提出のこと。

科目別シラバス

福祉学科 2年次生科目

子ども福祉専攻

専門科目

発展科目

資格科目

生活支援技術

S637a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 子ども福祉専攻 > 専門科目
2 年
1 単位 前期
水曜 3 限
講義・演習
必修
科目ナンバリング581

宮本 由香

〔授業の概要〕

この授業では、あらゆる保育場面や子育て家庭に汎用できる基本的な生活支援の知識・技術について、家事の意義や目的のもとに食生活・掃除・裁縫・衣類や住まいの衛生管理・家計管理の方法を身に着けることを目指す。

〔到達目標〕

この授業を通して、保育場面や子育て家庭に汎用できる基本的な生活支援技術の知識と技術を身に付け、保育や家庭訪問事業において、衣食住生活における適切な支援ならびに自身の生活においても健全な生活と家計管理が実践できることを目標とする。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

- 第 1 回 家事の意義と目的
社会や個人、家族の生活における家事の意義と目的を理解する。自身の家事への参加度や活動内容を振り返る。
- 第 2 回 家事支援における知識と技術
食生活の支援における調理の基本。
- 第 3 回 子どものための食生活と健康 1
子どもを中心としたこれからの安心安全な食生活における課題を理解し、配慮、工夫の知識と技術を学ぶ。
- 第 4 回 子どものための食生活と健康 2
子育て家庭のための献立作成演習。
- 第 5 回 障がいのある子どもや家族の食生活と健康 1
障がいに応じた食生活と特徴とそれに応じた配慮や工夫を学ぶ。
- 第 6 回 障がいのある子どもや家族の食生活と健康 2
障がいのある子どもや家族のいる子育て家庭のための献立作成演習。
- 第 7 回 衣生活と健康 1
繊維や衣類の性質と衛生管理の意義や目的、技術、方法を学ぶ。子どもの成長に合わせた着装や素材について学ぶ。
- 第 8 回 衣生活と健康 2
衣類の衛生管理演習。洗濯と染み抜き実習。
- 第 9 回 衣生活と健康 3
布の構成、縫製の基礎。(手縫い、ミシンの使い方、アイロンの使い方、など)
- 第 10 回 衣生活と健康 4

手縫い、ミシン縫いによる製作ならびに繕い演習。

- 第 11 回 衣類・寝具の衛生管理
季節やライフスタイルに応じた衣類と寝具の衛生管理を学ぶ。
- 第 12 回 住まいの衛生管理 1
住まいの維持管理について間取りや構造から考える。
- 第 13 回 住まいの衛生管理 2
掃除や片付け、住まいの手入れの実際を演習で学ぶ。
- 第 14 回 買い物について
様々な購買方法における特徴や課題を理解する。
- 第 15 回 家庭経営と家計管理
家計管理を理解し、子どもの成長に合わせた健全な生活設計、ライフプランを作成する。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：必要に応じて資料を配布する。

参考文献：必要に応じて紹介する。食生活分野は「子どもの食と栄養」祥土社を参照。

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[60%]、レポート課題提出[20%]、演習授業への参加状況や意欲[20%]

レポートや課題には、採点、コメントをつけて返却する。

〔授業時間外学修〕

家事における技術習得のために自宅で練習や実践（調理、洗濯、裁縫、掃除等）すること。衣食住生活における自身や地域、ライフスタイルにおける課題を抽出するために、聞き取り調査等、情報を収集しておくこと。（概ね毎回30分程度は確保すること）

〔オフィスアワー〕

授業時間前後ならびに講師控室に「オフィスアワー」の表示をしているとき。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

公衆衛生業務の乳幼児健診にて食生活相談や指導（約10年間）をはじめとする子育て家庭への支援の経験を基に講義演習する。

〔その他履修上の留意事項等〕

家政実習室での授業では、指示に従った服装（エプロン、実習着、実習靴等）で参加すること。実習や演習ではケガや事故のないよう安全に実施できるよう、十分な予習をして臨むこと。

子ども家庭支援論

S641a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 子ども福祉専攻 > 専門科目
2年
2単位 前期
火曜 3限
講義・演習
必修
科目ナンバリング582

尾島 万里、清水 香代子

〔授業の概要〕

現代の子どもと保護者をとりまく環境やその人たちに対する子育て支援の意義や体制・歴史の変遷・現状と課題を学ぶ。

〔到達目標〕

子育て支援の体制や現状及び活動内容を理解し、実践現場に応用できるようにする。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

講義と演習形式で行う。

- 1 回：オリエンテーション （尾島・清水）
- 2 回：子ども家庭支援の意義と役割 （尾島）
- 3 回：子育て支援施策の歴史の変遷 （尾島）
- 4 回：子どもの権利擁護について （尾島）
- 5 回：子育て家庭及び子育て支援に関する法体制 （尾島）
- 6 回：子育て家庭の福祉を図るための社会資源 （尾島）
- 7 回：子育て支援に関わる専門職と地域住民 （清水）
- 8 回：子育て支援の活動内容① （清水）
- 9 回：子育て支援の活動内容② （清水）
- 10 回：子育て支援に関わる保育士の役割 （清水）
- 11 回：子育て支援の実践①（事例検討）（尾島・清水）
- 12 回：子育て支援の活動プログラム作成①（尾島・清水）
- 13 回：子育て支援の活動プログラム作成②（尾島・清水）
- 14 回：子育て支援の活動プログラム発表（尾島・清水）
- 15 回：まとめ （尾島・清水）

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「新・子育て支援」松井剛太編著 教育情報出版
参考文献：授業内で紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[50%]，プレゼンテーション[30%]，授業に取り組む姿勢[20%]

〔授業時間外学修〕

新聞やインターネットを通じて子どもや子育て支援に関するニュースを読むこと

予習時間は30分以上確保すること

〔オフィスアワー〕

研究室ドアに在室表示をしているとき

事前予約も可

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

尾島：コンサルタント（臨床心理士）として地域子育て支援拠点事業に8年勤務。

清水：保育士として乳児院に8年間勤務。地域子育て支援拠

点事業（子ども広場・利用者支援事業・家庭訪問事業）に5年間勤務。

〔その他履修上の留意事項等〕

授業の進捗状況により、授業内容や方法が一部変更される場合がある。

社会的養護Ⅱ

S642a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 子ども福祉専攻 > 専門科目
2 年
1 単位 後期
水曜 2 限
講義・演習
必修
科目ナンバリング591

野坂 洋子

〔授業の概要〕

施設養護の内容と実践方法について基本的理解を深める。ビデオ教材の視聴や実務経験を土台に作成された事例の検討により、社会的養護の施設における養護計画・記録・援助の実際・ケース検討等を体験的に学ぶ。また、関連施設との連携についても学ぶ。授業全体を通し児童の援助観と養護観を養い、実践技術の基礎を身につける。

〔到達目標〕

家族との生活ができずに施設で生活をする児童及びその家族の実情を理解した上で、各施設で求められる支援を把握する。家族や児童が抱える問題とこうした家族への支援に必要な様々な援助技術の理解を深める。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2、DP 3

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
本授業のシラバス内容の確認を行う。
〔準備〕シラバスを熟読しておく。
- 第 2 回 社会的養護における子どもの権利擁護
社会的養護における子どもの権利擁護について学ぶ。
〔準備〕テキスト「第1講 子ども権利擁護」を読んでおく。
- 第 3 回 社会的養護における保育士等の倫理
社会的養護における保育士等の倫理について学ぶ。
〔準備〕社会的養護、保育にかかわる倫理綱領を読んでおく。
- 第 4 回 施設養護の特性および実際①
児童福祉施設の種別について網羅的に学ぶ。
〔準備〕養護系施設とは何を指すのかを調べておく。
- 第 5 回 施設養護の特性および実際②
乳児院に焦点を当てて学ぶ。
〔準備〕乳児院に関する情報をインターネットで検索してみる。
- 第 6 回 施設養護の特性および実際③
児童養護施設に焦点を当てて学ぶ。
〔準備〕児童養護施設に関する情報をインターネットで検索してみる。
- 第 7 回 施設養護の特性および実際④

母子生活支援施設に焦点を当てて学ぶ。

〔準備〕母子生活支援施設に関する情報をインターネットで検索してみる。

- 第 8 回 家庭養護の特性および実際
里親養育に焦点を当てて学ぶ。
〔準備〕里親制度とその事例について調べてみる。
- 第 9 回 社会的養護におけるケアマネジメント
児童相談所に焦点を当てて学ぶ。
〔準備〕被虐待児の入所事例について調べておく。
- 第 10 回 個別支援に関する事例分析
事例を通して個別支援におけるアセスメントについて学ぶ。
〔準備〕テキスト「第9講 アセスメントと個別支援計画の作成」を読んでおく。
- 第 11 回 記録及び自己評価
実践現場の記録に焦点を当て、その方法や具体例について学ぶ。
〔準備〕テキスト「第10講 記録および自己評価」を読んでおく。
- 第 12 回 個別支援計画の作成
個別支援計画の具体的な様式とその活用・運用方法について学ぶ。
〔準備〕「個別支援計画」とはどのようなものなのかを調べておく。
- 第 13 回 社会的養護における保育士の専門性
社会的養護における保育士の専門性について、全国保育士会保育士倫理綱領に焦点を当て、他の関係専門職と比較しつつ学ぶ。
〔準備〕保育士に求められる専門性について調べてみる。
- 第 14 回 社会的養護におけるソーシャルワーク
ソーシャルワークとは何かを他の科目とも関連付けつつ学ぶ。
〔準備〕養護系施設におけるソーシャルワークについて調べてみる。
- 第 15 回 まとめ
今までの授業内容の振り返りと確認に取り組む。
〔準備〕今までの内容を振り返り、理解ができなかった部分を確認しておく。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：相澤仁、村井美紀、大竹智(2019)『新・基本保育シリーズ18 社会的養護Ⅱ』中央法規
参考文献：授業内に必要に応じて資料を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[70%]、授業に取り組む姿勢[30%]

〔授業時間外学修〕

各回の〔準備〕内容について毎回30分取り組む。

〔オフィスアワー〕

お昼休み、もしくは水曜日5時限目。

教員が不在の場合は y-nosaka@saku.ac.jp までメールにて相談の上、予約を取るようになしてください。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

障害児保育

S643a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 子ども福祉専攻 > 専門科目
2 年
2 単位 通年
火曜 4 限
講義・演習
必修
科目ナンバリング583

中島 豊

〔授業の概要〕

障害児保育を支えている理念や歴史の変遷を学ぶと共に、現場実践における障害のある子どもの保育についてソーシャルワークの理論も盛り込みつつ具体的に学ぶ。

〔到達目標〕

1. 障害のある子どもの保育の形態や方法及び記録のポイントについて理解する。
2. 個別の指導計画や支援計画の作成方法について理解する。
3. 障害のある子どもの生活や遊びのための援助について具体的に考察できるようにする。
4. 障害のある子どもの保護者支援や各機関との連携について理解する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2、DP 3

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
本授業のシラバス内容の確認を行う
- 第 2 回 「障害」の概念と障害児保育の歴史の変遷
「障害」や障害児を理解するための概念について学ぶ
- 第 3 回 参加・包容および合理的配慮の理解①
特別な配慮が必要な子どもを保育所で受け入れる際の基本的なスタンスを学ぶ
- 第 4 回 参加・包容および合理的配慮の理解②
「社会的障壁」の理解を視覚教材を通して深める
- 第 5 回 肢体不自由児の理解と援助
肢体不自由児の保育について理解を深める
- 第 6 回 知的障害児の理解と援助①
知的障害児の援助について理解を深める
- 第 7 回 知的障害児の理解と援助②
知的障害児の理解を視覚教材を通して深める
- 第 8 回 視覚・聴覚・言語障害児の理解と援助
障害が発達等に及ぼす影響について学ぶ
- 第 9 回 発達障害児の理解と援助
発達障害の特性と援助について理解を深める
- 第 10 回 重症心身障害児等の子どもの理解と援助
障害の重度化における生活上の問題について学ぶ
- 第 11 回 指導計画および個別の支援計画の作成①
個別の支援計画や指導計画について学ぶ
- 第 12 回 指導計画および個別の支援計画の作成②
マッピング技法について学ぶ
- 第 13 回 指導計画および個別の支援計画の作成③
子どもの個別理解について学ぶ

- 第 14 回 発達を促す生活支援と遊び①
障害のある子どもの発達を促すための環境について学ぶ
- 第 15 回 前期授業のまとめ
前期授業の内容の振り返りを行う
- 第 16 回 後期授業オリエンテーション
後期授業内容について確認を行う
- 第 17 回 障害児保育における子どもの健康と安全
障害児保育における健康と安全について理解する
- 第 18 回 職員間の連携・協働①
保育士の連携・協働について学ぶ
- 第 19 回 職員間の連携・協働②
職員間の有機的な連携・協働について学ぶ
- 第 20 回 保護者への支援
障害のある子どもの保護者や家庭への支援について学ぶ
- 第 21 回 地域の専門機関との連携
地域の専門機関との連携について理解を深める
- 第 22 回 小学校との連携
小学校における連携について学ぶ
- 第 23 回 福祉・教育における現状と課題
近年変化している障害児支援のための制度について学ぶ
- 第 24 回 自分が経験した事例①
実習において印象に残っている子どもの事例について取り組む
- 第 25 回 自分が経験した事例②
前回授業の続きを行う
- 第 26 回 自分が経験した事例③
前回授業の続きを行う
- 第 27 回 自分が経験した事例④
前回授業の続きを行う
- 第 28 回 自分が経験した事例⑤
前回授業の続きを行う
- 第 29 回 スーパービジョン
スーパービジョンについて理解を深める
- 第 30 回 まとめ
全30回授業の振り返りを行う

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「新・基本保育シリーズ17 障害児保育」中央法規

参考文献：授業内に必要に応じて資料を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[70%]，小レポート等[30%]

〔授業時間外学修〕

各回の内容について毎回30分取り組む。具体的な内容は初回授業にて説明をします。

〔オフィスアワー〕

火曜日の授業前後。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

子どもの食と栄養/2年

S645b

信州短期大学部 > 福祉学科 > 子ども福祉専攻 > 専門科目
2年
2単位 通年
月曜4限
講義・演習
必修
科目ナンバリング584

宮本 由香

〔授業の概要〕

この授業では、子どもの食生活と発達の関連性、食育の基本、特別な配慮を有する子どもの食と栄養など、あらゆる小児に対応した食事展開について、講義、演習を通してを身に付けることを目指す。

〔到達目標〕

この授業を通して、栄養と食生活に関する基礎知識と技術を身に付け、小児各期に対応した食事展開や栄養状態の評価ができることを目標とする。また、自身の健全な食生活の実践と健康維持増進ができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP2、DP3

〔授業計画〕

- 第1回 子どもの心身の健康と食生活の意義①
子どもの健康における食生活の意義と、発育、発達に対しての保育と食の関連性、および、各健康栄養調査結果から、食生活の現状と問題点、課題を抽出する。
- 第2回 栄養・食に関する基礎知識①
人の身体の消化吸収の仕組みについて、成人と子どもとのちがいや特徴を理解する。
- 第3回 栄養・食に関する基礎知識②
主にエネルギー産生栄養素について種類と働きを理解し、給源となる食品を学ぶ。
- 第4回 栄養・食に関する基礎知識③
主に欠乏症、過剰症を呈する栄養素の種類と働きについて理解し、給源となる食品を学び、自身の食事のバランスを診断する。
- 第5回 栄養・食に関する基礎知識④
日本人の食事摂取基準の概要を理解し、保育における活用を学ぶ。食事摂取基準を活用し、栄養バランスに配慮した献立作成をする。
- 第6回 食の安全
児童福祉施設の給食や食事の提供における注意すべき点。感染症と食中毒の違い。安全な調理や食事のために、調理の基本と食中毒予防、衛生管理の手段や方法、技術を学ぶ。
- 第7回 妊娠期（および胎児）と授乳期の食生活
妊娠期の各ステージおよび授乳期の食生活について、アセスメントの方法、栄養の特徴、課題、問題点を学ぶ。
- 第8回 乳児期の食生活①

乳汁栄養の種類と特徴、離乳食の意義と各ステージの特徴や課題、問題点を学ぶ。

- 第9回 乳児期の食生活②
乳児用調整粉乳を用いた調乳演習および液体ミルクや冷凍母乳パックを用いた保育場面での授乳演習。
- 第10回 乳児期の食生活③
ごっくん期、もぐもぐ期、かみかみ期の離乳食の調理実習ならびに試食。
- 第11回 幼児期の食生活①
幼児期の栄養と食生活の特徴(間食の意義)、課題、問題点について学ぶ。食事のマナーについては食具を使っでの演習。
- 第12回 幼児期の食生活②
幼児期の食事と間食について、献立作成演習と調理実習準備。
- 第13回 幼児期の食生活④
幼児期に適した間食と食事の調理実習と試食。
- 第14回 学童・思春期の食生活
学童期・思春期の発育、発達の特徴と栄養の関わり、学校給食の現状、課題や問題点について学ぶ。
- 第15回 前半まとめ
誕生から思春期までの食生活の特徴と、自身の食生活の振り返り、問題点、課題の抽出と改善策を検討する。
- 第16回 児童福祉施設や家庭における栄養と食生活①
児童福祉施設と給食の役割。児童福祉施設の食事の提供で注意すべき点。
- 第17回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養①
食物アレルギー疾患を持つ子どもへの食の対応について給食を中心に、具体的な方法を学ぶ。
- 第18回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養②
体調不良時（発熱、下痢、便秘）の子どもへの対応。
- 第19回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養③
疾患のある子どもへの対応。疾患別の食事の留意点。肥満と痩せへの対応。
- 第20回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養④
障がいのある子どもへの対応。障がいの種類と特徴、食事形態と用具、環境について学ぶ。
- 第21回 児童福祉施設や家庭における栄養と食生活②
保育所における食に関する保護者の支援について、現代の食の現状と問題点から支援方法、解決策を考える。
- 第22回 児童福祉施設や家庭における栄養と食生活③
食に関する地域との連携について。地域の保健福祉、生産者や商店、食の産業に関わる団体や人材など、活用できる資源を調べ掘り起こす。
- 第23回 食育の基本と実践内容①
食育基本法の概要から食育の意義と理念を学び、食育とは何かを確認する。第4次食育計画の概要

から子どもの食育について、家庭、保育・教育現場、地域での推進方法と連携を確認する。

第 24 回 食育の基本と実践内容②

保育所における食育の推進について、PDCAサイクルに基づいた計画づくりと評価について学ぶ。

第 25 回 食育の基本と実践内容③

保育所での食育実践事例を基に、食育計画の立案演習。

第 26 回 食育の基本と実践内容④

食育計画の実践発表および体験のための製作と準備。

第 27 回 食育の基本と実践内容⑤

各グループによる食育実践発表ならびに体験会の実施。

第 28 回 食育の基本と実践内容⑥

食育計画の実践後の評価と改善策の検討。

第 29 回 生涯発達と栄養・食生活

成人、高齢期の栄養と食生活の特徴、現状からの課題、問題点と日本の栄養対策。

第 30 回 全体のまとめ

心身の健全な発達、発達のため食事と、楽しく食べる子どもを目指す食環境と保育者の役割について。および、保育者として健全な生活のための食生活について。

【テキスト・参考書・参考文献】

テキスト：「子どもの食と栄養 改訂第3版」中山書店

参考文献：必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法・基準】

定期試験[70%]，小テスト[10%]，レポート課題提出[10%]，演習時の参加状況や意欲[10%]

【授業時間外学修】

テキスト該当箇所を読んでくること。授業後は自身の食生活の振り返りをし、学修したことを日常生活で実践すること。(毎回、概ね30分程度は確保すること)

【オフィスアワー】

授業前後の休み時間ならびに講師控室に「オフィスアワー」の表示をしているとき。

【実務経験のある教員等による授業科目】

管理栄養士として公衆衛生乳幼児検診業務に約10年携わり、乳幼児の食生活指導、相談ならび妊婦に対する食生活指導、相談業務、調理実習に携わった経験を基に、子どものための栄養や調理の講義、演習をする。

【その他履修上の留意事項等】

家政実習室での授業時には、指示に従った服装（実習着、実習靴など）で参加すること。調理実習では火器を扱うため、ケガや事故のないよう安全に実習できるよう、十分に予習をして臨んでください。

保育内容演習（健康）/2年

S652b

信州短期大学部 > 福祉学科 > 子ども福祉専攻 > 専門科目
2年
1単位 前期
木曜1限
講義・演習
選択
科目ナンバリング681

平野 忠男

〔授業の概要〕

保育現場においては、子どもの「健康」と「安全」は極めて重要な事項である。保育者は子ども一人ひとりに応じた健康・安全に留意するとともに、全体の子どもの健康を保持し、安全を守ることが求められている。また、子どもたち自身が自分の体を大切にすることや、遊びを通し、怪我や病気などを予防していくことも重要である。そのためには、子どもの心身の状態や発育・発達状態を理解する必要がある。また、子どもの健康には与えられる環境が大きく影響している。特に乳幼児期は子どもの心身の発達について保育者が十分に理解し「遊び」を展開することが重要であるため、その知識や技術を中心に保育者の役割について学習を進める。

〔到達目標〕

- 1.子どもの発育・発達および具体的な活動について知る
- 2.子どもが健康な生活を送るために望ましい環境について考えることができる
- 3.子どもの環境および遊びや活動における安全、健康について考えることができる
- 4.保育・幼児教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を理解することができる
- 5.子どもの発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定しながら、環境構成、教材や遊具の活用と工夫、保育の過程の実践について理解することができる

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

全て講義と演習

- 第1回：授業展開の説明／「健康」とはなにか／子どもたちを取り巻く環境からみる「健康」
- 第2回：乳幼児期の身体の発達と健康
- 第3回：乳幼児期の生活リズムと生活習慣①
- 第4回：乳幼児期の生活リズムと生活習慣②
- 第5回：乳幼児期の食生活
- 第6回：『保育所保育指針』と「健康」
- 第7回：乳幼児期の運動発達①
- 第8回：乳幼児期の運動発達②
- 第9回：遊びと「健康」
- 第10回：運動遊びに関わる指導
- 第11回：乳幼児期の安全①
- 第12回：乳幼児期の安全②
- 第13回：安全への配慮と子どもへの安全教育

第14回：領域「健康」と保育方法・領域「健康」の変遷

第15回：これからの保育と領域「健康」について考える

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「新しい保育講座⑦保育内容「健康」 ミネルヴァ書房

参考文献：「保育所保育指針解説」 フレーベル館

授業中に適宜資料を配布する

〔成績評価の方法・基準〕

授業に対する取り組み[20%]，課題に対する取り組み[20%]，小テスト[30%]，レポート[30%]

・レポート、課題はコメント等を付して返却を行う。

〔授業時間外学修〕

基本的な生活習慣や健康に繋がる振る舞いの中で自分が大切にすべきことを見いだし、日々意識して行うこと。また、小テストに向け各自復習を行うこと。

〔オフィスアワー〕

研究室前に在室表示をしているとき。原則、事前予約はしないが、確実に利用したい場合等は予約をすることを推奨する。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

保育士（6年勤務）、保育士養成校教員（9年勤務）の実務経験あり。実務経験を活かし、理論と実践の往還性を重視した授業を展開する。

〔その他履修上の留意事項等〕

- ・意欲的、積極的な取り組みを期待します。
- ・授業の進捗状況、受講生の状況等によって講義内容、順番を変更することがある。
- ・授業の進捗状況により、授業内容や方法が一部変更されることがある。
- ・状況に応じて、manaba、オクレンジャー、学生メール等で連絡事項を発信するため、各ツールのチェックを確実に行う。

保育内容演習（人間関係）

S653a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 子ども福祉専攻 > 専門科目
2 年
1 単位 後期
月曜 3 限
講義・演習
選択
科目ナンバリング682

平野 忠男

〔授業の概要〕

乳幼児期の人間関係の発達特性や子どもの人間関係にかかわる現代社会の状況について学ぶ。また、集団生活における子ども同士の育ちあいに注目し、幼稚園・保育所における乳幼児期の仲間づくり、集団づくりのあり方について具体的に考え、人とかかわる力を育てる保育内容・方法を理解する。

保育現場の様々な事例を通して、子ども同士の関係、子どもと大人の関係、保育者同士、保護者との関係等、多様な人間関係の特徴を学ぶ。そして、理論的に説明されている発達の姿を、実際の子どもたちの姿と意図的に結び付けるグループディスカッションやグループワークを通して考える。

〔到達目標〕

- ①幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「人間関係」のねらい及び内容について理解する。
- ②子どもを取り巻く現代社会の人間関係に関心をもち、その問題点や改善の方策を考える。
- ③乳幼児の発達を的確にとらえ、保育・教育の中での仲間づくり・集団づくりの具体的な内容・方法について理解する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

全て講義と演習

- 第1回：授業展開の説明/保育内容「人間関係」をめぐる視点
第2回：人とかかわりの育ちの意味
第3回：人とかかわりの原点
第4回：人とかかわりの発達—発達過程を中心に—
第5回：領域「人間関係」にねらいと内容
第6回：領域「人間関係」と小学校とのつながり
第7回：人とかかわる力を考える①
第8回：人とかかわる力を考える②
第9回：人とかかわる力を考える③
第10回：3歳未満児保育における「人とかかわる力」
第11回：幼児保育における「かかわる力」
第12回：保育所保育における「評価」とは/指導案を考える
第13回：「遊び」と人間関係
第14回：家族や地域とかかわりと育ち
第15回：領域「人間関係」の現代的課題を考える

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「アクティベート保育学08 保育内容『人間関係』」
ミネルヴァ書房

参考文献：適宜プリントを配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

レポート[40%]，課題提出[20%]，授業態度・積極性[20%]，
グループワーク発表等[20%]

・レポート、課題はフィードバックをして返却する。

〔授業時間外学修〕

子ども・福祉に関するニュースを新聞等で確認しておく。
事前にテキストを熟読しておく。1回の授業あたり予習・復習・課題などを含めて、30～60分程度が望ましい。

〔オフィスアワー〕

研究室前に在室表示をしているとき。原則、事前予約はいらないが、確実に利用したい場合等は予約をすることを推奨する。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

保育士（6年勤務）、保育士養成校教員（9年勤務）の実務経験あり。実務経験を活かし、理論と実践の往還性を重視した授業を展開する。

〔その他履修上の留意事項等〕

- ・意欲的、積極的な取り組みを期待します。
- ・授業の進捗状況、受講生の状況等によって講義内容、順番を変更することがある。
- ・授業の進捗状況により、授業内容や方法が一部変更されることがある。
- ・状況に応じて、manaba、オクレンジャー、学生メール等で連絡事項を発信するため、各ツールのチェックを確実にを行う。

保育内容演習（環境）

S654a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 子ども福祉専攻 > 専門科目
2 年
1 単位 前期
火曜 1 限 その他
講義・演習
選択
科目ナンバリング683

水野 辰也

〔授業の概要〕

保育所保育指針や幼稚園教育要領で示されている環境を通じた保育を確認し、自然環境や音楽、描画、絵本等を使い、子どもの発達を考慮した環境の重要性を学ぶ。

〔到達目標〕

「環境」が変われば子どもが変わる。保育者も変わる。特に自然環境に焦点を当て、子どもが自ら多くの事に気づき、考え、遊びを見つけることで、将来を生き抜く力を体験として身に付けていくことを知る。そのための保育者としての援助方法について、グループ・ディスカッションやプレゼンテーションを通して自らの言葉で考察できるようになる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

- | | |
|--------|---------------------------------------|
| 第 1 回 | 4/11：オリエンテーション |
| 第 2 回 | 4/25：保育所保育指針・幼稚園教育要領における「環境」とは |
| 第 3 回 | 5/13：環境を生かした保育
（自然活動を通じて・現場実践①） |
| 第 4 回 | 5/13：環境を生かした保育
（自然活動を通じて・現場実践②） |
| 第 5 回 | 5/23：保育における環境
（指針：保育の内容に関する環境） |
| 第 6 回 | 5/27：環境を生かした保育
（自然活動を通じて・現場実践③） |
| 第 7 回 | 5/27：環境を生かした保育
（自然活動を通じて・現場実践④） |
| 第 8 回 | 6/20：環境を生かした保育②
（ジェンダーフリー） |
| 第 9 回 | 6/20：環境を生かした保育②
（少子化はどうか？） |
| 第 10 回 | 6/24：環境を生かした保育③
（観天望気って？） |
| 第 11 回 | 6/24：環境をいかした保育③
（音楽・絵本・描画） |
| 第 12 回 | 7/1：環境を生かした保育④
（環境が変わると人は変わる？製作） |
| 第 13 回 | 7/1：環境を生かした保育④
（環境が変わると人は変わる？現場実践） |
| 第 14 回 | 7/15：環境を生かした保育⑤
（グループワーク） |
| 第 15 回 | 7/15：環境を生かした保育⑤ |

（プレゼンテーション）

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：

「保育所保育指針解説」フレーベル館

「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

参考文献：

「保育所保育指針・解説を読む」全国社会福祉協議会

「センス・オブ・ワンダー」新潮文庫

〔成績評価の方法・基準〕

課題レポート・小テスト等の提出[60%]、授業への取り組み・積極性[40%]

※課題等は採点し、コメントを付けて返却します。

※授業内発表（質問を含む）積極性に対して評価をします。

積極性とは、発言や質問だけでなく、気づき・講師の問いかけへの反応も考慮し、小テストに付随してコメントを返します。

客観的に判断の難しい所ですが、保育とは客観性の困難な仕事です。

学生の皆さんの積極性を見ます。

〔授業時間外学修〕

新聞、雑誌やインターネットを通して子どもや家庭に関するニュースを読み、授業を受けて感じたことと合わせて、ミニレポートとして自分の考えを記述できるようにしてください。現代の保育事情、子育て環境を知り、政治的な関心を持つことも重要です。

〔オフィスアワー〕

授業開始前・開始後30分間程度（講師が大学に滞在している時はいつでもOK）

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

幼稚園・保育園に26年勤務（園長として6年）。幼保の実務経験及び、長野県自然保育普及推進員としての指導経験をもとに、子どもの発達を考慮した環境の重要性について講義演習する。

〔その他履修上の留意事項等〕

授業の進捗状況により、授業内容や方法が一部変更される場合があります。

保育内容演習（言葉）

S655a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 子ども福祉専攻 > 専門科目
2 年
1 単位 後期
金曜 3 限
講義・演習
選択
科目ナンバリング684

斎藤 和幸

〔授業の概要〕

子どもの発達を言葉という視点で捉え、保育にあたっては、単なるコミュニケーションとしてではなく、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、言葉の機能やその実際について学び、保育士が留意、配慮すべきことについて理解する。

〔到達目標〕

- ・ 保育所保育指針に基づき、子どもの言葉の発達に合った援助ができる。
- ・ 子どもが言葉を獲得する過程を理解し、言葉を育てる保育のあり方を構想できる。
- ・ 子どもの言葉に関する問題に関心を持ち、乳幼児との触れ合い方を考えることができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP2、DP3

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業ガイダンス
授業の概要、到達目標、授業内容と計画、授業の進め方について解説
人間にとっての言葉の意義を総合的に考え、授業のガイドラインを理解する
- 第 2 回 第1章 「言葉」って何だろう
1.人間にとっての言葉の意義 2.言葉の美しさや楽しさ 3.言葉遊び 4.子どものことばから読み取る
- 第 3 回 第2章 子どもの言葉の育ちとその道すじ
1.子どもの言葉と道すじを知る意味 2.言葉の誕生以前 3.一語分から二語文へ 4.語彙の発達 5.会話の発達 6.言葉と思考 7.話し言葉から書き言葉へ
- 第 4 回 第3章 領域「言葉」のねらいと内容及び評価
1.保育における「要領」「指針」の構造と領域「言葉」 2.領域「言葉」のねらいと内容と指導上の配慮について
- 第 5 回 第4章 0歳児からの言葉の育ちを支える
(1)小テスト1 第1章から第3章の復習
(2)第4章 1.言葉の前の言葉 2.相互応答的なかわり 3.繰り返すとずらし 4.指さしと三項関係 5.一語発話の時期 6.発話を促す大人のかかわり
- 第 6 回 第5章 1歳から3歳未満児の言葉の育ちを支える
第5章-① 1.1歳から3歳未満児の言葉の実際 2.言葉が生まれるために 3.人のかかわりと言葉

- 第 7 回 第5章 1歳から3歳未満児の言葉の育ちを支える
第5章-② 4.社会的なルールとしての言葉 5.保育文化財の中にある言葉 6.身近な人とのかかわりに支えられて
- 第 8 回 第6章 言葉で伝え合えることの喜びを支える①
第6章-① 1.遊びや生活の中で生まれる「言葉」で表現する喜び 2.言葉で思いや考えを伝え合うこと
- 第 9 回 第6章 言葉で伝え合えることの喜びを支える②
第6章-② 3.遊びの中の協同的体験と伝え合い
- 第 10 回 第7章 遊びから生まれる表現を支える
(1)小テスト2 第4章から第6章の復習
(2)第7章 1.心の動きと言葉 2.自分の気持ちを表現する 3.言葉遊びや劇的表現を支える 4.気持ちが伴う豊かな言葉の育ち
- 第 11 回 第8章 言葉で考える意欲の育ちを支える
1.自分の言葉を育てる 2.身体や体験を通じて自分の言葉を獲得する 3.自分なりのペースで考える 4.一人で考える 5.友人と考える・みんなで考える 6.文字で考える
- 第 12 回 第9章 言葉でのかかわりに配慮を要する子ども
1.ある実習生の姿から 2.外国籍の子ども 3.障害のある子ども 4.専門機関・医療機関との連携から
- 第 13 回 第10章 言葉を育む文化財
(1)小テスト3 第7章から第9章の復習
(2)第10章 1.絵本・物語・言葉遊び・アプリなど 2.文化財との出会いから遊び、そして言葉の育ちへ
- 第 14 回 第11章 指導案作成から保育へ
1.保育へとつながる指導案の作成 2.指導案からつながる保育実践 3.振り返りと評価
- 第 15 回 第12章 言葉をめぐる相談と保護者との連携
(1)1.保育における相談・助言 2.保育者を不安にさせる言葉の問題 3.言葉の遅れ 4.相談への対応
(2)小テスト4 第10章と第12章の復習

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：戸田雅美編著『演習 保育内容 言葉』建帛社
参考文献：内藤知美編著『コンパス 保育内容 言葉』建帛社
〔成績評価の方法・基準〕
小テスト[60%]、課題等提出物[40%]

※小テスト、課題等提出物には毎回コメントをして返却する。

〔授業時間外学修〕

各章に予習課題があるので、事前にその課題を考えるため必ず自学時間を確保して取り組むこと。また、小テストを行う際には復習時間を、課題提出などに際しては自学時間を1時間程度確保すること。

〔オフィスアワー〕

平日の昼休憩時は原則可能とする。その他「オフィスアワー」表示のあるとき可。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

保育内容演習（表現）

S656a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 子ども福祉専攻 > 専門科目
2 年
1 単位 前期
水曜 4 限
講義・演習
選択
科目ナンバリング685

島崎 直也

〔授業の概要〕

学生自身が日常生活の中にある物などで表現する過程を体験することで、表現についての理解を深め、保育者として子どもの表現に対する理解を深める。学生自身が表現活動を体験しながら、「表現することの楽しさ」「表現の多様さ」「他者との相互作用」などについて感じたことをもとに、子ども達との表現活動の立案ができる様にする。

〔到達目標〕

子どもの豊かな表現を導くための知識や技術を習得し、工夫と適切な指導ができる様にする。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

- 1 回：イントロダクション（表現について、見取りについてなど）[講義と演習]
- 2 回：造形活動[演習]
- 3 回：大人数でつくる①[演習]
- 4 回：大人数でつくる②[演習]
- 5 回：表現の環境づくり アフォーダンスなど[講義と演習]
- 6 回：体を使った遊び、劇遊び①[演習]
- 7 回：体を使った遊び、劇遊び②[演習]
- 8 回：音・リズムで遊ぶ①[演習]
- 9 回：音・リズムで遊ぶ②[演習]
- 10 回：造形の材料や道具：廃材の活用など[講義と演習]
- 11 回：表現活動の立案について[講義と演習]
- 12 回：表現活動の立案と準備[演習]
- 13 回：表現活動の立案と準備・実施①[演習]
- 14 回：表現活動の立案と準備・実施②[演習]
- 15 回：まとめ[講義と演習]

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：なし。適宜資料配布。

〔成績評価の方法・基準〕

授業内発表[50%]、授業への取り組み[50%]

〔授業時間外学修〕

表現のヒントは日常生活の中に沢山あります。時々、宿題を出すことがあります。

また、万が一、授業時間内に制作が終わらない場合は、時間外に制作する様にしてください。

普段、自分自身が生活の中で、どんな物事に対して心が動くのか、意識してみてください。また、自分自身が、生活の中で何かをつくったり、表現する際に、どんな感情（楽しい、面白い、辛い、物足りないなど）を抱いたのかも、

意識していくと、子ども達と一緒にやる表現活動に役に立ちます。

〔オフィスアワー〕

質問、疑問、その他、気軽にご相談ください。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

全国各地での、子ども向けワークショップ（体験型学習）やステージショーに携わって、約20年。子ども達、ひとりひとりの創造性を引き出す活動などについて、経験を通してお伝えします。

〔その他履修上の留意事項等〕

まずは、皆さんが表現を楽しむ ことを目的にします。子ども達と一緒に表現を楽しむことができる大人を育てたいと思っています。つくること、体験することがメインですので、動きやすく、汚れても大丈夫な服装でご参加ください。授業の進捗状況により、授業内容などが一部変更になる可能性があります。

乳児保育Ⅱ

S662a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 子ども福祉専攻 > 専門科目
2 年
1 単位 前期
火曜 2 限
講義・演習
選択
科目ナンバリング686

清水 香代子

〔授業の概要〕

乳児保育Ⅰで学んだ乳児保育の基本を復習しながら、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について事例などを通して具体的に理解する。

〔到達目標〕

3歳未満児の子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を保育現場がどのようにしているかを学び、それを踏まえて乳児保育の指導計画が作成できるようにする。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

- 1 回：乳児保育の基本（子どもの主体性の尊重と自己の育ち）
- 2 回：乳児保育の基本（個別的関わりや支援方法）
- 3 回：乳児の1日の生活の流れと保育の環境
- 4 回：乳児の1日の生活の流れと保育の環境
- 5 回：3歳未満児の発達を踏まえた生活と援助の実践
- 6 回：乳幼児における配慮の実践（事例検討①）
- 7 回：乳幼児における配慮の実践（事例検討②）
- 8 回：乳幼児における配慮の実践（事例検討③）
- 9 回：乳幼児における配慮の実践（事例検討④）
- 10回：保護者との連携①
- 11回：保護者との連携②
- 12回：乳幼児における計画の実践(長期的・短期的な指導計画)
- 13回：乳幼児における計画の実践(個別的・集団の指導計画)
- 14回：3歳未満児の発達を踏まえた遊びと援助の実践
- 15回：まとめ

〔授業方法〕講義・グループワークを行い、学習テーマについて具体的事例を通して考える。

実践に必要な基本的な技術の実習を適宜行う。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「乳児保育Ⅱ 一日の流れで考える 発達と個性に応じた保育実践」萌文書林

〔成績評価の方法・基準〕

課題提出[60%]、授業態度（参加度等）[40%]

※課題等にはコメントを付して返却する

〔授業時間外学修〕

準備学習として、次の学習テーマについてテキストを読んで理解しておくこと。（30分程度）

〔オフィスアワー〕

講師控室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

保育士として乳児院に8年勤務。子育て支援拠点に勤務。実務経験をもとに乳児保育について講義する。

〔その他履修上の留意事項等〕

子どもの保健Ⅱ

S663a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 子ども福祉専攻 > 専門科目
2 年
2単位 前期
水曜 2限
講義・演習
選択
科目ナンバリング687

鈴木 千衣

〔授業の概要〕

この授業では、以下について理解を深めることを目指す。

- 1)健康障害を持ちながら、家庭や保育園等で生活する子どもやその家族を理解し、園等での支援の方法が考えられる。
- 2)病院に受診したり、入院する子どもとその家族への医療保育士の役割が考えられる。

〔到達目標〕

- 1) 子どもの病気や小児保健医療の移り変わり現状を理解する。
- 2) 健康障害をもつ子どもや家族の置かれている現状を理解し、保育士として必要な支援が考察できる。
- 3) 医療保育士の役割と活動の実際を理解する。
- 4) 医療的ケア児の現状と支援が理解できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2、DP 3

〔授業計画〕

- 第 1 回 コースオリエンテーション/子どもの病気と小児保健医療の移り変わり現状
小児医療は、昔から子どもの成長発達を視野に入れながら進歩してきました。その歴史をお話します。
- 第 2 回 子どもが病気になるという体験と遊び
子どもが病気になることの意味、子どもが受診・入院することの影響について考えます。
- 第 3 回 健康障害を抱えながら生活する子どもと家族 1
子どもに多く見られる慢性疾患として、腎臓病、川崎病について解説し、保育園等での子どもへの支援について考えます。
- 第 4 回 健康障害を抱えながら生活する子どもと家族 2
子どもに多い慢性疾患として、糖尿病、小児がんについて解説し、保育園等での子どもへの支援について考えます。
- 第 5 回 子どもに多く見られる慢性疾患と支援のポイント 3 (てんかん・医療的ケア)
子どもに多い慢性疾患として神経疾患、医療的ケアを持つ子どもについて解説し、保育園等での子どもへの支援について考えます。
- 第 6 回 子どもに多く見られる慢性疾患と支援のポイント 4 (先天奇形)
子どもに多い慢性疾患として、先天奇形について解説し、保育園等での子どもへの支援について考えます。
- 第 7 回 病児のきょうだい支援

病児をきょうだいに持つ子どもたちにも、病児の発症や入院は、大きく影響します。そうしたきょうだいへの支援を考えます。

- 第 8 回 医療保育士の歴史とプレパレーション
病棟保育士が生まれてきた背景、病棟保育士関連職種等についてお話しします。また、現在、小児医療において重視されているプレパレーションについてお話しします。
- 第 9 回 病棟道化師の活動と遊び
入院中の子どもや家族への支援は広まっており、その活動の 1 つである病棟道化師の活動があります。その活動についてお話しいただきます。
- 第 10 回 医療保育士の活動の実際
病棟保育士に日頃の活動についてお話しいただきます。
- 第 11 回 医療保育士の活動と現状 1 (テーマについて調べ方) 病棟保育士の活動と現状③
病棟保育士についてテーマを決めて調べていきます。まずは、その調べ方について学びます。
- 第 12 回 医療保育士の活動と現状 2 (医療保育士について調べてみよう)病棟保育士の活動の実際 (予定)
前回の授業で学んだ方法で、自分のテーマに沿って文献を探し、自分の問いにしたがって、学んだことを整理します。
- 第 13 回 医療保育士の活動と現状 3 (発表)
前回、自分がまとめたレポート内容について、発表し、意見交換を行います。
- 第 14 回 プレパレーションを考えてみよう
入院中の子どもの事例にあったプレパレーションを考え、必要なツール等の作成をします。
- 第 15 回 プレパレーションを考えてみよう (発表)
プレパレーションの発表を通して、小児医療と保育の連携について考えます。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：特になし。必要事項はレジメとして配付します。

参考文献：後日提示します。

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験[50%]，課題提出30%，平常点[10%]，その他（自己評価）[10 %]

〔授業時間外学修〕

■課題が2つあります。その課題を行うのに、授業時間外にまとまった時間が必要です。

〔オフィスアワー〕

質問は授業直後に受け付けます。それ以外の時間に質問があるときには、メールをください。

鈴木千衣 c-suzuki●saku.ac.jp 小林睦 m-kobayashi●saku.ac.jp

石坂俊也 t-ishizaka●saku.ac.jp

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

授業を担当する教員は、小児看護の臨床の経験があります。

〔その他履修上の留意事項等〕

保育内容の理解と方法Ⅲ

S664a

信州短期大学部＞福祉学科＞子ども福祉専攻＞専門科目
2年
2単位 通年
水曜1限
講義・演習
選択
科目ナンバリング688

原 晴子

〔授業の概要〕

子どもが歌うことや、即興的にリズムに合わせて身体を動かしたりして表現する楽しさを味わい、生活の中で音楽に親しむ態度を育てることができるような技術を習得する。

①伴奏とピアノ演奏のレベルアップ②発声法と歌唱のレベルアップ③合唱・合奏・音楽劇

〔到達目標〕

- ・音楽的な基礎能力を高め、応用した実践ができる
- ・歌唱力と表現力を磨き、豊かに楽しく表現できる
- ・必要に応じて様々な歌や曲が臨機応変に展開できる

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP2、DP3

〔授業計画〕

1回 オリエンテーション 弾き歌いや歌唱についてのアンケート

音楽基礎知識の復習 季節の歌振り返り

2回 ピアノ・弾き歌い個人レッスン

3回 子どもの声の特性 自然な発声法を身につける

歌唱実践① 発声法を意識して話してみよう 練習曲を歌う

4回 ピアノ・弾き歌い個人レッスン

5回 歌唱実践② 発声法を意識して季節の曲を歌い指導してみよう

6回 ピアノ・弾き歌い個人レッスン

7回 リトミックを体験する①

8回 ピアノ・歌・個人レッスン

9回 輪唱や合唱を用いてハーモニーを感じる ボディーパーカッション

10回 ピアノ・歌・個人レッスン

11回 歌唱の表現を高める① 合唱曲 ボディーパーカッション

12回 ピアノ・歌・個人レッスン

13回 歌唱の表現を高める② 合唱曲 個人の課題曲とその伴奏

14回 ピアノ・歌・個人レッスン

15回 表現豊かな弾き歌いや歌唱 合唱を発表する

16回 ピアノ・歌・個人レッスン

17回 前期の振り返り 楽典 コード ハンドベル演奏

18回 リトミックを体験する②

19回 ピアノ・歌・個人レッスン

20回 合唱 合奏 音楽劇 制作①

21回 ピアノ・歌・個人レッスン

22回 合唱 合奏 音楽劇 制作②

23回 ピアノ・歌・個人レッスン

24回 合奏 合奏 音楽劇 制作③

25回 ピアノ・歌・個人レッスン

26回 合唱 合奏 音楽劇 制作④

27回 ピアノ・歌・個人レッスン

28回 合唱 合奏 音楽劇発表

29回 ピアノ・歌・個人レッスン

30回 弾き歌い試験 課題曲発表

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：

「簡易伴奏による こどもの歌ベストテン改定新版」ドレミ楽譜出版

「あそびうた大全集200」永岡書店

〔成績評価の方法・基準〕

授業への取り組み[30%]、合唱・合奏・音楽劇発表[30%]、弾き歌い実践力[40%]

〔授業時間外学修〕

基本的な技能の上達は、毎日の練習が大切となる。予習復習を含めて毎日30分以上の練習時間を確保しましょう。より表現豊かな音楽的能力を身につけ、音楽を楽しめるよう努力しましょう。

〔オフィスアワー〕

講師控室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

保育園にて音楽表現や歌唱を指導。児童合唱団、声楽教室での指導経験を活かして、実践的な演習を行う。

〔その他履修上の留意事項等〕

授業の進捗状況により内容を一部変更することがあります。悩みや不安、苦手分野は相談して解決方法を明確にしましょう。

保育内容の理解と方法Ⅳ

S666a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 子ども福祉専攻 > 専門科目
2 年
1 単位 後期
水曜 4 限
講義・演習
選択
科目ナンバリング689

島崎 直也

〔授業の概要〕

子ども達と一緒に楽しむことができる参加体験型のパフォーマンスあるいは、体験活動を、学生が計画し実施する。実施後に振り返り、改善し、また実施するという試行錯誤をしながら、質などを上げる。参加体験型のパフォーマンスあるいは、体験活動の企画実施を通して、身の回りの物事や自然環境などを、少し違った視点で見つめ、新たな発見をする。子ども達の心の動きなどに合わせ、臨機応変な活動をしていく技術を体験を通して学ぶ。幅広い表現活動を立案できるように、例として、タブレット端末を使用したワークショップなどを体験する。

〔到達目標〕

身の回りのものや自然と、通常と違った視点で楽しむことで、新たな良さを発見する。保育者からの一方的な投げかけではなく、子ども達の心の動きなどに合わせ、臨機応変な活動をしていく技術を身につける。また、子ども達の想像力や創造力などを促す活動をデザインできる様にする。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP2、DP3

〔授業計画〕

- 1 回：オリエンテーション [講義と演習]
- 2 回：子ども達の心をとらえる
(環境やコミュニケーションについて) [講義と演習]
- 3 回：表現体験①[演習]
- 4 回：表現体験②[演習]
- 5 回：表現体験③[演習]
- 6 回：表現体験④[演習]
- 7 回：発表会に向けたガイダンス [講義と演習]
- 8 回：発表会 立案 [演習]
- 9 回：発表会準備① [演習]
- 10 回：発表会準備② [演習]
- 11 回：学内発表会① [演習]
- 12 回：学内発表会② [演習]
- 13 回：学内発表会の振り返りと改善、準備 [演習]
- 14 回：学外発表会（学外で子ども達に向けて） [演習]
- 15 回：まとめ 実践の振り返り [演習]

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：なし。適宜資料配布。

〔成績評価の方法・基準〕

授業内などの発表[50%]、授業への取り組み[50%]

〔授業時間外学修〕

万が一、授業時間内に制作が終わらない場合は、時間外に制作する様にしてください。

普段、自分自身が生活の中で、どんな物事に対して心が動くのか、意識してみてください。また、自分自身が、生活の中で何かをつくったり、表現する際に、どんな感情（楽しい、面白い、辛い、物足りないなど）を抱いたのかも、意識していくと、子ども達と一緒にやる表現活動に役に立ちます。

〔オフィスアワー〕

質問、疑問、その他、気軽にご相談ください。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

全国各地での、子ども向けワークショップ（体験型学習）やステージショーに携わって、約20年。子ども達、ひとりひとりの創造性などを引き出す活動などについて、経験を通してお伝えします。

〔その他履修上の留意事項等〕

最後は、学外で子ども達のために実践をしてもらい、振り返りをしてもらいます。

授業の進捗状況により、授業内容などが一部変更になる可能性があります。

福祉施設実習Ⅰ

S668a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 子ども福祉専攻 > 専門科目
2年
2単位 前期集中
実習
選択

科目ナンバリング691

尾島 万里、斎藤 和幸、倉田 郁也、平野 忠男、松木 貴子、
菊池 小百合

〔授業の概要〕

児童養護施設、障害者支援施設など居住型施設で10泊11日間の実習を行う。

利用者と生活を共にすることで、利用者への理解を深め、施設の機能と福祉専門職及び保育士の職務を学ぶ。

〔到達目標〕

実習を通して、居住型施設の利用者や職員に関する理解を深め、自己の児童観や障がい観を見つめなおし、福祉職の役割の重要性を知る。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 3

〔授業計画〕

居住型福祉施設における10泊11日間の実習内容は以下の10項目である。

1. 実習施設の理解
2. 施設の状況や一日の流れを理解する。
3. 観察及び関わりを通して児童や利用者の実態を理解する。
4. 施設全体としての援助の理解、個別性を尊重した援助の理解
5. 生活の一部を担当し、援助技術を習得する。
6. 職員間の役割を知り、チームワークを理解する。
7. 記録を通して、家庭及び地域社会を理解する。
8. 子どもや利用者の最善の利益を具体化する方法を学ぶ。
9. 保育士の倫理を学ぶ。
10. 安全及び疾病予防について学ぶ。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト・参考文献：福祉施設実習指導Ⅰで配布した「実習の手引き」とプリントなど

〔成績評価の方法・基準〕

実習期間中の施設からの評価、事前・事後指導を含めた評価、自己評価を含めて総合的に評価する。

〔授業時間外学修〕

実習先の事前オリエンテーションを必ず受けること。

実習先の情報を調べておくこと。

〔オフィスアワー〕

研究室前に在室表示をしているとき

事前予約も可

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

「福祉施設実習指導Ⅰ」を履修していること。

実習機関の事情により、実習内容や方法が一部変更される場合がある。

福祉施設実習指導 I

S670a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 子ども福祉専攻 > 専門科目
2 年
1 単位 前期
火曜 1 限
講義・演習
選択
科目ナンバリング692

尾島 万里、清水 香代子、倉田 郁也、菊池 小百合

〔授業の概要〕

福祉施設実習の意義や目的、実習先の福祉施設の種別や内容の理解、実習内容の理解、実習課題及び目標の設定などを通じて、福祉施設で実習するための予備知識や心構えをつくる。実習後は実習先での経験を振り返り、自己評価や発表会を行う。

〔到達目標〕

事前学習を体験することで、実習への意欲を高め、実習課題を設定できるようにする。また、実習後は課題の達成を含めて、実習先での経験を振り返り、福祉施設の利用者や施設及び施設保育士の役割を理解できるようにする。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2

〔授業計画〕

講義と演習形式で行う。

- 1回： 福祉施設実習の意義・目的と福祉施設の予備知識
- 2回： 福祉施設の予備知識（障害者支援施設）
- 3回： 福祉施設の予備知識（児童養護施設）
- 4回： 実習書類準備・オリエンテーションについて
- 5回： 障害児・者施設における実習
- 6回： 実習記録の書き方について
- 7回： 児童養護施設における実習
- 8回： 実習課題の設定
- 9回： 実習直前準備と留意事項
- 10回： 巡回指導教員による指導
- 11回： 実習後の振り返り（自己評価票の記入など）
- 12回： 実習体験発表会①
- 13回： 実習体験発表会②
- 14回： 実習の振り返り（個別指導）
- 15回： 実習の振り返り（個別指導）

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「福祉施設実習の手引き」、実習日誌、適宜プリントを配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

課題提出[60%]、授業に取り組む姿勢[40%]

実習先提出書類や事後の課題は、授業内や個人指導を通してフィードバックする。

〔授業時間外学修〕

実習施設の事前オリエンテーションを必ず受けること。実習先の情報を調べること。

その他に教員が指示したことを行う。※「福祉施設実習の手引き」を繰り返し読むこと。

〔オフィスアワー〕

研究室ドアに在室表示をしているとき。

事前予約も可

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

保育士として乳児院に8年間勤務（清水）。

〔その他履修上の留意事項等〕

実習時期などの関係で授業期間が変則的になるので、manabaやメールを必ず見ること。

授業の進捗状況などで、授業内容が一部変更される場合がある。

保育実践演習

S671a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 子ども福祉専攻 > 専門科目
2 年
2 単位 通年
木曜 3 限
講義・演習
選択
科目ナンバリング693

平野 忠男、佐藤 志穂

〔授業の概要〕

本学で学んだ知識や技術、各実習等で得られた経験や実践力の更なる統合を図り、保育に関する学修の集大成をなす科目である。前期は主に保育・子どもの運動を実践的に学び、後期は保育全般、社会福祉等の学びの確認とこれまでの学修を自分なりに整理し、課題を見だし、到達目標を定め行動に移すといったプロセスを経験する。その経験を通し、現場で直面する問題や自身が成長していくため課題を乗り越えるための土台を築いていく。また、現時点でのめざすべき保育者像を明らかにする。

〔到達目標〕

①保育士として必要な表現や子どもの運動に関する知識や技術等を実践を通して学び、自らその学びを振り返り把握する。

②保育士として必要な専門知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。

③保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として、保育士、保育現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を養う。

④①・②・③を踏まえ、自己課題を明確化し、保育や子育ての実践に際し必要となる基礎的な資質・能力を定着させる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2、DP 3

〔授業計画〕

全て講義と演習

〔担当：第1～15回佐藤、第16～30回平野〕

- 第1回【前半】オリエンテーション/ガイダンス/アイスブレイク
- 第2回 乳幼児期の身体運動が育むもの
- 第3回 発達段階別における運動保育実践演習（未満児）
- 第4回 発達段階別における運動保育実践演習（3歳児）
- 第5回 発達段階別における運動保育実践演習（4歳児）
- 第6回 発達段階別における運動保育実践演習（5歳児）
- 第7回 グループ割/実践演習に向けての指導案の書き方
- 第8回 運動保育の指導案の作成
- 第9回 運動保育実践及びグループワーク（未満児）
- 第10回 運動保育実践及びグループワーク（3歳児）
- 第11回 運動保育実践及びグループワーク（4歳児）
- 第12回 運動保育実践及びグループワーク（5歳児）
- 第13回 これからの保育実践演習で大切なこと
- 第14回 振り返り/運動保育と私
- 第15回 前半のまとめ

第16回【後半】オリエンテーション・自己評価とこれまでの学びを振り返る

第17回 保育の実際と保育実践①特色のある保育実践から学ぶ

第18回 保育の実際と保育実践②様々な保育方法を学ぶ

第19回 保育の実際と保育実践③保育ツールについて考える

第20回 保育実践を振り返る①保育技術編

第21回 保育実践を振り返る②保育士・社会人マナー編

第22回 園内外の環境と地域について

第23回 これからの保育・教育・福祉を考える

第24回 発表準備① 基本情報の決定（園名・園舎・園庭・園の特色など）

第25回 発表準備② 設定園の教育（保育）課程と園長の仕事

第26回 発表準備③プレゼンテーション練習

第27回 プレゼンテーション発表①

第28回 プレゼンテーション発表②

第29回 プレゼンテーション発表振り返りと目指す保育者像の整理

第30回 まとめ・自己課題の整理

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：各教員により適宜示す。

参考文献：各教員により適宜示す。

〔成績評価の方法・基準〕

課題提出[50%]、授業態度・積極性・グループワーク参加度等[50%]

※各教員により課題等が異なる。オリエンテーションや授業での話をよく聞くこと。

※課題に関してはフィードバックをし極力、返却を行う。

〔授業時間外学修〕

普段から保育・幼児教育・福祉のニュース等に関心をもち、情報を自分なりに取り入れること。

個人やグループ発表などの準備をすること。

教員が指示した課題を行うこと。

〔オフィスアワー〕

授業後や研究室前に在室表示をしているとき。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

佐藤：幼児教育歴24年/幼稚園教諭7年半/保育士（臨時）4年/保育園・幼稚園巡回指導歴13年/国内外延べ15万人以上へ講演

音田：保育士（6年勤務）、保育士養成校教員（9年勤務）の実務経験あり。実務経験を活かし、理論と実践の往還性を重視した授業を展開する。

〔その他履修上の留意事項等〕

・授業の進捗状況により、授業内容や方法が一部変更されることがある。

・状況に応じて、manaba、オクレンジャー、学生メール等で連絡事項を発信するため、各ツールのチェックを確実に行うこと。

保育所実習Ⅱ

S673a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 子ども福祉専攻 > 専門科目
2年
2単位 前期集中
実習
選択

科目ナンバリング694

平野 忠男、尾島 万里、斎藤 和幸、倉田 郁也、松木 貴子

〔授業の概要〕

本科目は保育所での2回目の実習を通じて、保育所実習Ⅰにおいて見出された課題をさらに高め、保育現場で求められる実践力を高めることを目的とする。保育所保育士として求められる指導技術や、障害児保育・地域子育て支援などの多様なニーズへの支援方法を学ぶ。責任実習指導案の作成と実践を通して、指導計画や職員間の連携などについても理解する。

〔到達目標〕

- ①保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。
- ②子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。
- ③既習の教科目や保育所実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。
- ④保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。
- ⑤保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結び付けて理解する。
- ⑥実習における自己の課題を明確にする。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP3

〔授業計画〕

《実習開始前》

1. 事前学習・オリエンテーション

- (1) 保育所や認定こども園の役割や現状についての知識を深める
 - (2) 保育所や認定こども園の意義や動機・目的を明確化する
- ①実習先（オリエンテーションの日程を含め）の確認
 - ②マナーなどの実習に関する基本的な事項の確認
 - ③実習課題の設定、実習に関する準備等を行う

《実習期間中》

1. 実施時期：2年次8月下旬～

2. 内容

(1) 見学・観察により、以下のことを理解する

- ①施設概要 ②役割と機能 ③組織 ④環境構成 ⑤業務内容 ⑥子どもの生活や遊び ⑦乳幼児の発達の姿 ⑧実習日誌の作成 ⑨省察と自己評価の方法 等

(2) 参加・責任実習により、以下のことを理解する

- ①指導計画の立案 ②保育の方法と技術 ③乳児保育 ④統合保育
- ⑤安全及び疾病予防 ⑥家庭や地域との連携 等

3. 2（内容）を通して

(1) 保育士の職務や社会的使命について理解を深める

(2) 職業倫理を具体的に学び理解を深める

《実習終了後》

(1) 実習体験を振り返り、意見交換に取り組む

(2) 保育士に求められる資質・能力に照らし合わせて、自己課題を明確化する

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：

「幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド」わかば社

「実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド」わかば社

「保育所実習の手引き」佐久大学信州短期大学部

参考文献：

「保育所保育指針解説」フレーベル館

「フォトランゲージで学ぶ 子どもの育ちと実習日誌・指導計画」萌文書林

〔成績評価の方法・基準〕

実習先の評価[70%]，実習日誌[20%]，実習の総括点[10%]

〔授業時間外学修〕

予習：

実習施設の概要・サービス内容等をホームページで調べておく。

保育実践に役立つ手遊び・歌・遊びや年齢に応じた教材研究をしておく。

「保育所実習の手引き」を繰り返し読むこと。

復習：

実習日誌や指導者の助言から自己を振り返り、日々の実習目標を立てる。

〔オフィスアワー〕

研究室の在室表示がなされている時には可能

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

保育士として保育現場で勤務経験のある教員を中心に指導を行う。

〔その他履修上の留意事項等〕

「保育所実習Ⅰ」を終了していること。

「保育所実習指導Ⅱ」を履修していること。

実習開始前に、巡回指導教員からオリエンテーションを受けること。

福祉施設実習 II

S674a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 子ども福祉専攻 > 専門科目
2 年
2 単位 前期集中
講義・演習
選択

科目ナンバリング695

尾島 万里、斎藤 和幸、倉田 郁也、平野 忠男、松木 貴子

〔授業の概要〕

児童福祉施設または障害者施設（入所・通所を問わない）において、11日間の実習を行う。

福祉施設における養護・支援活動に参加し、必要な資質・能力・技術を身に付ける。

〔到達目標〕

福祉施設実習 I を踏まえて、さらに利用者や施設の職務に対する理解を深め、利用者の置かれている環境や社会、さらに地域における施設の役割や地域連携についても考えられるようになることを目標とする。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 3

〔授業計画〕

障害者施設や児童福祉施設（保育所を除く）で10泊11日間（または11日間）の実習を行う。

実習内容は以下の通りである。

1. 支援、養護全般に参加し、支援の技術を習得。
2. 子どもや利用者の個人差について理解し、多様な福祉ニーズへの対応方法の習得
3. 支援計画の立案、実践、評価といった支援のプロセスへの参加
4. 家族とのコミュニケーションの方法を具体的に学ぶ。
5. 地域社会との連携について具体的に学ぶ。
6. 子どもや利用者の最善の利益への配慮を学ぶ。
7. 施設保育士としての職業倫理について理解する。
8. 自己の課題の明確化

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「実習の手引き」 適宜プリントを配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

実習施設による評価[60%]、実習担当教員による評価[40%]

〔授業時間外学修〕

実習先の事前オリエンテーションに参加すること。

実習先の情報を調べておくこと。

福祉施設実習 I で実践したことを振り返り、まとめること。

〔オフィスアワー〕

研究室ドアに在室表示をしているとき

事前予約も可

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず相談に来ること。
実習先の事情により、実習内容が一部変更される場合があります。

保育所実習指導Ⅱ

S675a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 子ども福祉専攻 > 専門科目
2 年
1 単位 前期
金曜 3 限
講義・演習
選択
科目ナンバリング696

平野 忠男、松木 貴子

【授業の概要】

保育所実習Ⅱの意義、目的、方法などを学ぶとともに、保育所実習Ⅰや福祉施設実習Ⅰ（施設において明確になった課題について、さらに学びを深められるよう実習事前指導を行う。

また、こどもや保育士の役割と職務内容について更なる理解を深め、保育士としての専門性や実践的知識を高めるため、責任実習の実施に向けた指導を行う。事後指導では、実習先の講評や実習日誌、自己評価、実習反省会等を通して、実習のまとめと振り返りを行い、保育士を含めた子どもと関わる者としての新たな目標、自己の課題が明確になるよう指導する。

【到達目標】

- ①保育所実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。
- ②実習の既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。
- ③保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。
- ④保育士の専門性と職業倫理について理解する。
- ⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

【学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連】

DP 2

【授業計画】

全て講義と演習

【事前指導】

- 1 回：ガイダンス（保育所実習Ⅱに向けて）・保育所の整理①
- 2 回：保育所の整理②・実習の目的と課題①
- 3 回：実習の目的と課題②・実習先への提出書類の準備
- 4 回：実習日誌とその活用について①
- 5 回：実習日誌とその活用について②
- 6 回：責任実習指導案の作成について①
- 7 回：責任実習指導案の作成について②
- 8 回：責任実習指導案の作成について③
- 9 回：実習オリエンテーション時の準備と留意事項
- 10 回：実習直前準備と留意事項
- 11 回：事後指導の流れについて

【事後指導】

- 12 回：実習の振り返り（総括と自己評価）
- 13 回：実習報告について
- 14 回：実習報告①
- 15 回：実習報告②・まとめ

【テキスト・参考書・参考文献】

テキスト：

「幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド」わかば社

「実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド」わかば社

「保育所実習の手引き」佐久大学信州短期大学部

参考文献：

「保育所保育指針解説」フレーベル館

「フォトランゲージで学ぶ 子どもの育ちと実習日誌・指導計画」萌文書林

【成績評価の方法・基準】

課題提出[60%]、授業態度・積極性・グループワーク参加度等[40%]

・課題等はフィードバックをし返却する。

【授業時間外学修】

※1回の授業あたり、予習・復習・課題等を含めて、30～60程度が望ましい。

事前：指導案の作成、実際に実習で使える教材の作成、保育技術の練習、実習施設研究、オリエンテーション報告書作成等

事後：事後報告書作成、実習まとめパワーポイント作成等

【オフィスアワー】

研究室の在室表示がなされている時には可能

【実務経験のある教員等による授業科目】

保育士として保育現場で勤務経験のある教員が2名指導する。

【その他履修上の留意事項等】

- ・「保育所実習Ⅰ」を終了していること
- ・意欲的、積極的な取り組みを期待します。
- ・授業の進捗状況、受講生の状況等によって講義内容、順番を変更することがある。
- ・授業の進捗状況により、授業内容や方法が一部変更されることがある。
- ・状況に応じて、manaba、オクレンジャー、学生メール等で連絡事項を発信するため、各ツールのチェックを確実に行う。

福祉施設実習指導Ⅱ

S676a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 子ども福祉専攻 > 専門科目
2年
1単位 前期
その他
講義・演習
選択
科目ナンバリング697

尾島 万里、斎藤 和幸、倉田 郁也、平野 忠男、松木 貴子

〔授業の概要〕

福祉施設実習Ⅰを踏まえて、利用者の置かれている環境や地域についての理解を深め、実習課題を設定する。さらに、実習に向けての必要事項を確認する。実習終了後は体験発表や個別指導による振り返りを行う。

〔到達目標〕

実習園の選定や事前学習を体験することで、実習への意欲を高め、実習課題を設定できるようにする。また、実習後は課題の達成などを振り返り、利用者や施設の職務、さらに地域における施設の役割や地域連携についても理解を深める。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP3

〔授業計画〕

講義と演習形式で行う。

- 1回：福祉施設実習Ⅱの目的
- 2回：実習先の選定・実習スケジュールや書類準備について
- 3回：実習先の施設の利用者についての予備知識
- 4回：実習先の施設の役割や職務についての予備知識
- 5回：実習課題の設定
- 6回：実習記録の書き方
- 7回：実習直前準備と留意事項
- 8回：巡回指導教員による指導
- 9回：実習の振り返り（自己評価票の記入）
- 10回：実習体験報告①
- 11回：実習体験報告②
- 12回：実習の振り返り（個別指導）
- 13回：実習の振り返り（個別指導）
- 14回：実習の振り返り（個別指導）
- 15回：まとめ

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：「福祉施設実習の手引き」

〔成績評価の方法・基準〕

課題提出[60%]，授業に取り組む姿勢[40%]

〔授業時間外学修〕

実習先の事前オリエンテーションを受けること。実習先の情報を調べること。

教員が指示したことを行うこと。

〔オフィスアワー〕

研究室ドアに在室表示をしているとき。

事前予約も可

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

履修を希望する学生は履修登録前に必ず相談に来ること。
実習先の事情により、実習内容が一部変更される場合がある。